

ぼちぼちいこっ！
1998～2000

vol.1 - vol.239



- 目次 -

1998年

1998年11月	9
「ごめんなさい」が言えなくて -1998/11/25(水) 創刊号	9
「ほめてやって下さい.....」 -1998/11/26(木) Vol.2-	10
友だちを呼び捨てにするように -1998/11/27(金) Vol.3-	11
一足早いクリスマスプレゼント -1998/11/29(日) Vol.4-	12
炊いたニック (by ATOK) -1998/11/30(月) Vol.5-	13
1998年12月	14
授業参観.....あぁ、恥ずかしっ -1998/12/01(火) Vol.6-	14
風邪をひいた -1998/12/2(火) Vol.7-	17
お前のままでいいんだよ -1998/12/03(木) Vol.8-	17
ただ見ていることしかできない辛さ -1998/12/04(金) Vol.9-	18
「U-TA」 -1998/12/05(土) Vol.10-	19
ハードディスクがあぁぁぁあぁあっ！ -1998/12/06(日) Vol.11-	21
「死にたい」なんて言ったらダメっ！ -1998/12/07(月) Vol.12-	22
あの頃 -1998/12/08(火) Vol.13-	23
「ウンチい！」(汚くってごめんなさい) -1998/12/09(水) Vol.14-	24
忘年会シーズン -1998/12/10(木) Vol.15-	26
ウンチは続くよ、どこまでも -1998/12/11(木) Vol.16-	26
ランチバイキング -1998/12/12(土) Vol.17-	29
1センチメートル2 -1998/12/13(日) Vol.18-	30
あんなに喜んだのに -1998/12/14(月) Vol.19-	31
どひゃひゃひゃひゃあ~っ (意味不明) -1998/12/18(金) Vol.20-	32
「3周800円かぁ.....」 -1998/12/19(土) Vol.21-	34
イルカの死 -1998/12/20(日) Vol.22-	37
冬休み突入！ -1998/12/21(月) Vol.23-	38
自分で確かめてっ！ -1998/12/22(火) Vol.24-	39
スモールソルジャーズ -1998/12/23(水) Vol.25-	40
クリスマスの風景 -1998/12/24(木) Vol.26-	41
クリスマスの風景2 -1998/12/25(金) Vol.27-	43
通知表 - あゆみ - -1998/12/26(土) Vol.28-	44
年賀状・窓拭き・配水管 -1998/12/27(日) Vol.29-	45
みくろあどべんちゃあ -1998/12/28(月) Vol.30-	47
ゆうたは「がまん」をおぼえた -1998/12/29(火) Vol.31-	49
1998年の終わりに -1998/12/30(水) Vol.32-	50
お墓参り -1998/12/31(木) Vol.33-	52

1999年

1999年1月	54
家族写真 -1999/01/02(土) Vol.35-	54
釣り、そして温泉 -1999/01/03(日) Vol.36-	54
伊豆高原 -1999/01/04(月) Vol.37-	56
家族そろって -1999/01/05(火) Vol.38-	57

いよいよ新学期 -1999/01/06(水) Vol.39-	58
さよなら正月！ -1999/01/07(木) Vol.40-	59
雪だぁ！雪だぁっ！ -1999/01/09(土) Vol.41-	59
パパ、怒ってる？ -1999/01/10(日) Vol.42-	60
僕って一体？ -1999/01/12(日) Vol.43-	61
悪知恵 -1999/01/13(水) Vol.44-	62
号外 -1999/01/14(木)-	63
粗大ゴミ -1999/01/14(木) Vol.45-	65
Be Free! -1999/01/15(木) Vol.46-	66
「インフルエンザ」 -1999/01/16(土) Vol.47-	67
熱、再上昇！ -1999/01/17(日) Vol.48-	68
お墨付き、GET！？ -1999/01/18(月) Vol.49-	69
続・インフルエンザ -1999/01/26(火) Vol.50-	70
続々・インフルエンザ -1999/01/28(木) Vol.51-	71
1999年2月	72
ぼちぼちいけなくて -1999/02/15(月) Vol.52-	72
『...というわけで』 -1999/02/16(火) Vol.53-	73
絶交 -1999/02/17(水) Vol.54-	74
三寒四温 -1999/02/18(木) Vol.55-	76
ダッチオープン教室 -1999/02/20(土) Vol.56-	77
舟釣り計画 -1999/02/21(日) Vol.57-	78
1999年3月	80
卒業 -1999/03/01(月) Vol.58-	80
短縮授業 -1999/03/02(火) Vol.59-	81
どうしてお前ら来るんだぁ？ -1999/03/03(水) Vol.60-	82
我が家を逃げ出す(笑) -1999/03/04(木) Vol.61-	83
国家・国旗 -1999/03/05(金) Vol.62-	84
おやつなし！ -1999/03/06(土) Vol.63-	85
小さな冒険？ -1999/03/07(日) Vol.64-	86
薫製の作り方 -1999/03/09(火) Vol.65-	87
4年生終了 -1999/03/18(木) Vol.66-	87
液晶ディスプレイGETお～！ -1999/03/22(月) Vol.67-	88
結婚記念日 -1999/03/29(月) Vol.68-	89
1999年4月	91
新学期スタート！ -1999/04/07(水) Vol.69-	91
新学期 -1999/04/016(金) Vol.70-	92
いやぁ、なんて書いたら -1999/04/19(月) Vol.71-	93
あぁ、PTA -1999/04/21(水) Vol.72-	93
夜8時 -1999/04/22(木) Vol.73-	94
『少年A』この子を生んで -1999/04/23(金) Vol.74-	96
クレヨンしんちゃん -1999/04/26(月) Vol.75-	96
ゆうたよスマン！～自己嫌悪～ -1999/04/27(火) Vol.76-	97
校外学習出発 -1999/04/28(水) Vol.77-	98
無事帰還！ -1999/04/29(木) Vol.78-	99
ためしてガッテン -1999/04/30(金) Vol.79-	101
1999年5月	101

もう、うるさいったら～	-1999/05/04(火) Vol.80-	102
ピュリッツァー賞写真展	-1999/05/07(金) Vol.81-	102
はちみつしぼり	-1999/05/10(月) Vol.82-	103
生徒憲章	-1999/05/11(火) Vol.83-	104
誰かの意見を聞きたくて	-1999/05/13(木) Vol.84-	105
責任感	-1999/05/19(水) Vol.854-	106
ゆーた君がいると負けるから	-1999/05/20(木) Vol.86-	107
勝ち負けよりもみんなで走ろう！	-1999/05/21(金) Vol.87-	108
バトンをわざと投げ捨てる	-1999/05/26(水) Vol.88-	109
運動会終了！	-1999/05/31(木) Vol.89-	112
1999年6月		114
ズル休み	-1999/06/02(水) Vol.91-	114
京都にて	-1999/06/11(金) Vol.92-	115
今度は金曜日から来よう！	-1999/06/14(月) Vol.93-	116
Happy Birthday U-ta!	-1999/06/16(水) Vol.94-	118
参観会&荒れる学級懇談会	-1999/06/17(木) Vol.95-	119
身体のしくみ～保健の授業～	-1999/06/23(水) Vol.96-	121
最近、楽しそうだねっ	-1999/06/27(日) Vol.97-	122
「見つけたよ」	-1999/06/28(火) Vol.98-	122
算数ドリル	-1999/06/29(水) Vol.99-	123
サッチーも、ヒロスエも君が代も	-1999/06/30(水) Vol.100-	124
1999年7月		125
「最近、疑問に思うんだ」	-1999/07/01(木) Vol.101-	125
教科書って面白い	-1999/07/02(金) Vol.102-	126
ウチのは教えるのが好きだから	-1999/07/05(月) Vol.103-	126
誕生日	-1999/07/06(火) Vol.104-	127
自分のこと、好き？	-1999/07/12(月) Vol.105-	128
不覚っ！	-1999/07/13(火) Vol.106-	130
小児神経	-1999/07/16(金) Vol.107-	130
小さいのち	-1999/07/19(月) Vol.108-	131
夏休みモード	-1999/07/26(月) Vol.109-	132
1999年9月		133
低空飛行	-1999/09/01(水) Vol.110-	133
牛乳	-1999/09/02(木) Vol.111-	134
生命保険	-1999/09/03(金) Vol.112-	134
肥満児	-1999/09/04(土) Vol.113-	135
P T A球技大会	-1999/09/05(日) Vol.114-	136
おばあちゃん	-1999/09/06(月) Vol.115-	136
歩く	-1999/09/08(水) Vol.116-	137
子ども病院	-1999/09/09(木) Vol.117-	139
ナンバーディスプレイ	-1999/09/10(金) Vol.118-	139
飲み会・カラオケ	-1999/09/12(日) Vol.119-	140
調べもの	-1999/09/13(月) Vol.120-	142
拷問？	-1999/09/14(火) Vol.121-	143
笑い声	-1999/09/16(木) Vol.122-	144
スキューバダイビング	-1999/09/17(金) Vol.123-	145

テレビゲームと癒し -1999/09/18(土) Vol.124-	146
ゲーム取り上げ! -1999/09/22(水) Vol.125-	147
乱高下 (;_;) -1999/09/29(水) Vol.126-	149
1999年10月	150
登校拒否 -1999/10/12(火) Vol.127-	150
P T Aの仕事 -1999/10/13(水) Vol.128-	151
体力づくり -1999/10/16(土) Vol.129-	152
1999年11月	153
酸素が吸えない -1999/11/12(金) Vol.130-	153
時速11km -1999/11/22(月) Vol.131-	155
お邪魔女ドレミ -1999/11/29(月) Vol.132-	156
1999年12月	157
田沼意次ファミリーマラソン -1999/12/01(火) Vol.133-	157
子ども達は無条件に可愛い -1999/12/04(土) Vol.134-	158
お買い物...(^^) -1999/12/06(月) Vol.135-	160
「あ、あの家は今晚カレーだね」 -1999/12/13(月) Vol.136-	161
歩いていれば -1999/12/30(木) Vol.137-	162
2000年	
2000年1月	165
梅池スキー場にて -2000/01/03(月) Vol.138-	165
主夫 -2000/01/11(火) Vol.139-	165
お年玉 -2000/01/12(水) Vol.140-	167
魚の小骨 -2000/01/13(木) Vol.141-	167
エントリー -2000/01/14(金) Vol.142-	169
タバコ -2000/01/15(金) Vol.143-	169
些細なことで -2000/01/16(日) Vol.144-	170
5年目 -2000/01/17(月) Vol.145-	172
指名委員会 -2000/01/18(月) Vol.146-	172
走るゾ～っ! -2000/01/19(水) Vol.147-	173
太っていた方が -2000/01/21(金) Vol.149-	175
しがらみ -2000/01/24(月) Vol.150-	176
おはよーっ! -2000/01/25(火) Vol.151-	177
説得力 -2000/01/26(水) Vol.152-	178
ゆーたのため?～キックボード(^^ゞ -2000/01/27(木) Vol.153-	179
ヒット!～キックボードにトライ!～ -2000/01/28(金) Vol.154-	181
意志 -2000/01/30(日) Vol.155-	182
登校刺激 -2000/01/31(月) Vol.156-	182
2000年2月	183
変質者 -2000/02/02(水) Vol.157-	183
公約書(笑)～財布の中には.....(;_;) -2000/02/03(木) Vol.158-	184
久々の学校 -2000/02/05(土) Vol.160-	185
人物像 -2000/02/06(日) Vol.161-	186
Gコード -2000/02/07(月) Vol.162-	187
雪 -2000/02/09(水) Vol.163-	188
「楽しかったねっ!」 -2000/02/12(土) Vol.164-	188

白馬あれこれ -2000/02/14(月) Vol.165-	189
我慢、我慢！ -2000/02/16(水) Vol.166-	191
No.5596 -2000/02/17(木) Vol.167-	191
嗚呼、役員改選 -2000/02/19(土) Vol.168-	191
iモード -2000/02/20(日) Vol.169-	192
家族で陶芸 -2000/02/21(月) Vol.170-	193
オークション -2000/02/22(火) Vol.171-	194
ゆたぼん -2000/02/23(水) Vol.172-	194
それぞれ -2000/02/26(土) Vol.173-	195
いつかは42.195！ -2000/02/27(日) Vol.174-	196
先生が来るぞっ！ -2000/02/28(月) Vol.175-	197
コロ付き自転車 -2000/02/29(火) Vol.176-	198
2000年3月	199
次の手術 -2000/03/02(木) Vol.177-	199
都会 -2000/03/06(月) Vol.178-	199
じゃがいも10kg -2000/03/07(火) Vol.179-	200
何なんだ！ -2000/03/08(水) Vol.180-	201
勉強 -2000/03/09(木) Vol.181-	202
落札!! -2000/03/12(日) Vol.182-	202
どんぶり勘定 -2000/03/13(月) Vol.183-	203
肩書き -2000/03/14(火) Vol.184-	204
旗振り当番表 -2000/03/16(木) Vol.185-	205
卒業式 -2000/03/17(金) Vol.186-	206
不安定 -2000/03/19(日) Vol.187-	206
シブタク -2000/03/20(月) Vol.188-	207
ホットカーペット -2000/03/21(火) Vol.189-	208
送迎 -2000/03/22(水) Vol.190-	209
プリケー -2000/03/23(木) Vol.191-	210
コロ付き自転車 -2000/03/26(日) Vol.192-	211
安心感 -2000/03/27(月) Vol.193-	211
ジグソーパズル -2000/03/28(火) Vol.194-	212
我慢のできない子 -2000/03/29(水) Vol.195-	213
空気のふるえ -2000/03/30(木) Vol.196-	214
2000年4月	215
買い物 -2000/04/02(日) Vol.197-	215
2人で外へ... -2000/04/03(月) Vol.198-	216
無洗米 -2000/04/05(水) Vol.199-	217
モスバーガー -2000/04/06(木) Vol.200-	218
新しい担任 -2000/04/07(金) Vol.201-	219
電話がけ -2000/04/09(日) Vol.202-	220
学級通信 -2000/04/10(月) Vol.203-	220
いよいよ..... -2000/04/14(金) Vol.204-	221
ガッツポーズ -2000/04/16(日) Vol.205-	222
教材販売 -2000/04/17(月) Vol.206-	223
留守番契約 -2000/04/18(火) Vol.207-	224
筍 -2000/04/23(日) Vol.208-	225

観客二人 -2000/04/24(月) Vol.209-	226
たかがゲーム -2000/04/26(水) Vol.210-	227
やっぱりゲーム -2000/04/27(木) Vol.211-	228
2000年5月	229
やっぱりヌメモン(;_;) -2000/05/01(月) Vol.212-	229
喫茶店 -2000/05/03(水) Vol.213-	230
いつかは... -2000/05/04(木) Vol.214-	231
「親は...」 -2000/05/07(日) Vol.215-	232
不安定 -2000/05/09(日) Vol.216-	233
伊豆高原 -2000/05/14(日) Vol.218-	233
エビフライ -2000/05/16(火) Vol.219-	235
ハードディスク -2000/05/22(月) Vol.220-	235
元教員 -2000/05/24(水) Vol.222-	236
友達 -2000/05/23(火) Vol.221-	237
2000年6月	238
背中を押す -2000/06/01(木) Vol.222-	238
へこむ -2000/06/05(月) Vol.223-	240
2000年8月	241
発熱 -2000/08/08(火) Vol.224-	241
ドラクエ7 -2000/08/28(月) Vol.225-	242
2000年10月	243
修学旅行 -2000/10/05(木) Vol.226-	243
不安 -2000/10/06(金) Vol.227-	244
行きたかった -2000/10/07(土) Vol.228-	245
フレッツISDN -2000/10/11(水) Vol.229-	246
立ち話 -2000/10/12(木) Vol.230-	247
親父の入院 -2000/10/28(土) Vol.231-	248
古い -2000/10/30(月) Vol.232-	249
2000年11月	249
ハーフマラソン -2000/11/18(土) Vol.233-	249
2時間02分 -2000/11/20(月) Vol.234-	250
成長速度 -2000/11/21(火) Vol.235-	251
2000年12月	251
親ばか -2000/12/2(土) Vol.236-	251
空振り -2000/12/4(月) Vol.237-	252
コピー用紙 -2000/12/5(火) Vol.238-	253
20世紀 -2000/12/31(日) Vol.239-	254

1998年

「まぐまぐ」を使ってメールマガジンを出し始めたのが、1998年も押し詰まった頃。

この「ぼちぼちいこっ！」の前に「子育て・学校・子ども達……」というメールマガジンを出していましたが、そんな堅苦しいものではなく、自分の心の揺れを記していきたいと思ったからです。

18年間関わってきた、教育現場を離れ、家にいるようになってから、一年半の事でした。

今読み返すと、赤面することや自分の未熟さばかりが目立ちます。

ダメですね。

随分とゆーたを苦しめてしまっていました……。

あれからもう三年半。ゆーたは中学2年生になりました。

「中学2年」と言っても、小学校5年生の2学期の終わりから、学校に行かなくなりました。

毎日ゆーたと顔を合わせていると、ついついイライラしたりすることも多く、落ち込むこともたくさん……。いつしかこの「ぼちぼちいこっ！」は、僕自身を振り返るためになくてはならないものになっていました。

ゆーたももうじき14歳。

確実に大きくなっています。

1998年11月

「ごめんなさい」が言えなくて -1998/11/25(水) 創刊号

オーボエのリード。

どういうわけかオーボエにえらく興味を持ってしまったゆーた。

担任の先生の旦那さんが、浜松の交響楽団でオーボエをやっているということからだろうか、「オーボエ、オーボエ」といつも騒いでいる。

「リコーダーが吹けないと、オーボエなんか吹けないぞ」

そう言って、僕は何とかリコーダーの練習をさせたいと思ったりするのだが、いっこうにこの手には乗ってこない。

突然、下からおばあちゃんの呼ぶ声がした。「ちょっと来てよ～」と。

担任の先生からもらったオーボエのリードが無くなった、と騒いで、手に負えなくなったらしい。

「リードが無くなったのは、私のせいだ、何とかしろ！って言ってきかない」

そうおばあちゃんは言った。

今朝、食卓の上を片づけていたときに、何か見たぞ……。

「ゆーた、2階にあるかもしれないぞ」と2階へ。

「あ、これだ！」

食卓の上にリードは転がっていた。

「さあ、おばあちゃんに謝ろう」

「きちんと『ごめんなさい』って言うんだよ」

そう言って再度一緒に下に降りていった。

「さあ、おばあちゃんに謝んなさい」

「ごめんね……」とそっぽを向いて言った。

「ダメ、ごめんなさい、ってきちんと言うの」

「ごめんなさいね」……。相変わらず横を向きながら言った。

「ダメ、おばあちゃんを見て、ちゃんと言うの！」

「ごめんなさい」……。目に涙をためながら、ようやくそう言った。

その後、おばあちゃんは又、

「ちゃんと探さないから、何回も言ったのに……」

とか言い出したので、ゆーたはたまらなくなって、泣き出してしまった。

「もう、お終い」

「ちゃんと探さなかったゆーたが悪かった。でも、リードは見つかった。それでおばあちゃんにちゃんと謝った。それでお終い！！ おばあちゃんも、これ以上は言わないで」

そう言って僕は2階に上がっていった。

なかなか謝れないんだなあ……。

上辺の言葉ではなく、心から謝ることが出来るようになって欲しいな。

【ま、ぼちぼちいこっ！】～ご挨拶～

我が家は5人家族。僕の両親と、僕、女房、そして息子(小4)
生後直ぐに手術をした息子のこれからを考え、静岡県沼津市の教員を辞め、実家の浜松で2世帯での暮らしが始まったのが、今から8年前のことです。

僕は元私立高校教員、女房は高校教員。
「教員は、家でも先生をしている」とよく言われます。
僕が仕事を辞め、息子と向き合うようになった当初は、そのものだったかもしれませんが。今でも、時々僕の中に染みついている「先生」がむっくりと顔を出すことがあるような気がします。

どうしても焦ってしまうときがあります。
「ぼちぼちいこっ!」というタイトルは、そんな自分の思いにブレーキをかける気持ちが込められています。
息子の子育てを通して、自分の子どもから「子ども達」に視野が広がっていけばいいな、と思っています。また、皆さんとの意見交換を通して、自分の視野をもっともっと広げていきたいと思っています。

率直なご意見、ご感想をお待ちします。

そうそう、「日刊」が基本ですが、無理はしません。
「書けない時は書かない」と思っています。焦らず、あわてず、ポチポチといきたいと思えます。

片山隼君の交通事故。不起訴処分を取り消して起訴する、との報道。
いずれにせよ、隼君が帰ってこない事には変わりはないが.....。

「ほめてやって下さい.....」 -1998/11/26(木) Vol.2-

夕食前、学校の担任の先生から電話があった。
ナンバーディスプレイで、学校からだとなり深呼吸してから電話をとった。電話の中身は、今日の持久走のことだった。

「ゆーたくん、帰ってきた後の様子はどうでしたか.....?」
「ええ、いつもと変わりなく帰ってきましたけれど.....」
と返事をしつつ、不安がよぎった。

電話の内容はこうだ。

5時間目の体育の時間は、4,5年生合同で持久走のタイムをとった。
ゆーたは、気持ちが乗らず、1,2週目は「走るのはいやだ」「どうしてこんなことするんだ」とかなり興奮しながら走った。しかし、体育の先生や既に走り終えた友だちと一緒に励ましながら走ってくれて、最後まで走り通した。

最初の様子では、1週でやめさせようかな、と思ったけれど、今日は、最後まで走り通したことを、まずはほめてやって下さい

ということだった。

泣いたり、わめいたりしながら走っている(歩いている)ゆーたの姿が、目に浮かんだ。

去年もそうだった。

初めから自分には出来ない、とあきらめてしまっているのか、力無く走っていた。特に、女房の姿を見つけると、途中でコースを外れて女房の方へ寄って行ってグズグズ言い出した。

担任の先生が、声をかけてくれて、何とかコースに戻り最後まで走り終えることはできた。順位は一番最後だったことは言うまでもない。

でも、良く走り終えたな、と思った。

しかし、同時に自分の中に、何とも言えない恥ずかしさがあったことは、否定できなかった。

ゆーたが可哀想、というのではなく、僕自身が恥ずかしい、とってしまったのだった。

今年も持久走大会が、来週の土曜日に迫ってきた。

女房は、「今年は見に行かない方が良いと思う」と言っている。

今、ゆーたは持久走大会を前にして、あの子なりにくじけそうになる気持ちと時には顔をそむけ、時には向き合いながら、毎日を過ごしている。

僕は、「恥ずかしい」と思う気持ちと向き合っている。

そしてもう一つ。

頑張っって欲しいと思いながら、どこまで頑張ることを要求して良いのだろうか.....？ そのことが頭から離れずにいる。

「知識は好きなだけ好きなことを覚えればいけれど、知恵の伝授は難しいです。」(創刊号を読んで早速メールをくれた友人のメッセージより)

友だちを呼び捨てにするように -1998/11/27(金) Vol.3-

今日も我が家に、友だちがやってきた。

最近では暗くなるのも早く、寒くなってきたせいか我が家はすごぶる静かな夕方を過ごすことが多くなった。

ひと頃の、家に帰ったら子ども達が10人！などという、凄まじい光景は大分なりを潜めてきた。

一方、子ども達同士の中でも、次第に

「はいやだ」

という意識が芽生えてきたのかもしれない。

家に来ている子ども達が、他の子ども達の悪口を言うことが増えてきたような気がしている。

「ってむかつくらあ？」 「ら」というのは方言(注)

「xxもそうだら？」

あまりにも度が過ぎると、おやつ時間などに、

「おじさんは、そういうの良いとは思わないな。絶対に」

と言ったりすることもある。

で、今日も遊びに来ていたK。

彼はとっても元気な子どもで、ホントによく遊びに来る。

休みの日も「お父さんが家にいるから、余所へ行って遊ぶんだ」と口にする。

「いいなあ、いろんな所に連れていってもらって」とも。

お母さんは、ファミリーレストランで働いているため、日曜日は休みではない。

どこかに出かけるときは、Kに声をかけるようにしている。

最近、彼のことを「K」とゆーたが呼び捨てにしているのに気が付いた。

また、彼も我が家に来るときは「ゆーたあーっ！」と言って、2階に駆け上がってくる。

「オイ、最近、呼び捨てにしてるんじゃない」

「ウン、そーだよ」

「友だちだから、呼び捨てにしあっても良いことにしたんだ」

「じゃ、学校で呼び捨てにしあってるのか？」

「ウン、そーだよ。友だちだモン」

ゆーたが呼び捨てにする「友だち第一号」だった。(^^)

あやです。6さいです。
ゆーたくん、がんばってね。
ぜったいはやくはしれるよう
になるよ。
おうえんしているからね。
あやちゃん、ありがとう。まだ、ゆーたにつたえてませんが、
たぶん、ゆーたは はずかしがると おもいます。

一足早いクリスマスプレゼント -1998/11/29(日) Vol.4-

土曜日、東京に出かける前に、

「ママあ、あのさあ」とゆーたの雰囲気をも真似して女房にすり寄った。

女房は、何やら毛糸のセーターをいじくっていた。

「何っ！気持ち悪い！」

「今日の夕方、Tom i (仮名)さんも、東京に行くから一緒に秋葉原に行くことにしたんだ。ちょっと買いたいものがあるんだ。クリスマスも近いから、買って欲しいなあ、と思うんだけどお……」

「あのねえ、冬は色々とお金が必要なの！ダメ！」

「だって、毎日遊びに来る子ども達のおやつだって、俺が買ってきてるんだよ。それに、写真の現像代とか、細々した生活費を結構出してるんだよ」

「何、言ってるの！」

「いや、パソコンのハードディスクの容量が足りなくなってきたからさあ。それにヨシコだって、使うでしょ？」

女房はこちらを見ようともせず、毛糸をほぐしていた。

「だって、秋葉原の小さな店に掘り出し物なんかあるんだよ」

しばらく黙っていた女房はニカッと笑って、

「わかった、じゃあ、2万円お小遣いあげる！ その代わりに……」

……これが怖いんだな(独り言)

「今度、私のクラスで卒業文集作るから、その手伝いをくれる、って約束で買ったも良いよ」

たああっ！

きっとこき使われるんだらうなあ、と思いつつ、目の前のにんじんに目を奪われた僕は、もう、嬉しくて

たまらなかった。

その時、なぜかしら、小さい頃、お小遣いを貰って、手に50円をしっかりと握りしめて、走っていった駄菓子屋の風景が、突然、目に浮かんだ。

何しに東京に行ったか？それは、またのお楽しみ。

あ、そうそう。何と、その時オームの店でハードディスクを買いそうになったのだった！と、この話は週刊メールマガジンの方で、たっぷりと.....。

人混みの中をあちこち歩き回り、狭い階段を上り下りして、足がたまらなく疲れた！でも、少し痩せたか？

「OSMさんは、秋葉原の迷惑や(爆)」

(秋葉原に連れていってくれた、Tomi、おかP)

むむむむむ.....確かに！

秋葉原の人の多さにびっくり。アチコチで人とぶつかったり。(;)

炊いたニック (by ATOK) -1998/11/30(月) Vol.5-

「炊いたニック」じゃない、タイタニックのビデオを女房が借りてきた。

先週、クラスの生徒が

「タイタニックのビデオを買ったよぉ～」と嬉しそうに話しかけてきて、「うわぁ、映画見たかったんだよね～」とその時、返事をしたそう。そしたら、今日、その生徒が「貸してあげる！」と言って持ってきてくれたのだった。

おお～！何と可愛い生徒さん！

結構、まっとうに担任をしているんだなあ、

と少し感心したりして.....。

二人で、見たいね、見に行きたいね、と言いながら結局見られなかったタイタニックだが、我が家のテレビに登場と言うことに相成った。

ゆーたと一緒に布団に入ったのが、8時半過ぎ。

今日は帰ってくるなり「出張で疲れた～」と言っていたのに、9時過ぎにモゾモゾ起き出してきた。

「ほら、早く観て返さないといけないジャン」

結局僕もつきあわされることになった。

(僕も観たかいことは観たいのだが.....)

氷山がタイタニックにぶつかった所で、上巻のビデオが終わった。

さて、後半！と言うとき、

「明日早いから、寝るわ～」

「明日も一緒に観よ！」

「あ、そうそう、ご飯やってないでしょ？ 2合で良いからね」

「ファインヒーターの灯油、もうすぐ無くなるからね～」

そう言うだけ言うと、さっさと寝てしまった.....。

:*:.'° 。.:*:.'° ° '.*:.. .:*.:'° 。.:*:.:.*:

東京に行ったとき、東京駅の側の「ポケモンセンター」に寄ってきた。いやあ、たくさんあるなあ……。でも、ゆーたのお気に入りの「マルマイン」は影も形もない。まあ、マルマインを好きだ、つてのはあんまりないだろうからなあ。ゆーたくらいかもしれないなあ……。

ということで、ポケモンの文房具を買ってきてあげた。

- ・ピカチューのホッチキス
- ・フシギダネの鉛筆削り
- ・プリンテープカッター
- ・ニョロモのメジャー
- ・コイルのマグネット

がセットになってしめて1980円也。

「またくだらないの買ってきて～」と言われるかなと思っていたが、意外と反応は良く、「あら、良いじゃない」ときた。 - ホッ その1 -

ゆーたはプラモデルが好きなのだが、今日は貰えるとは思っていなかったためか、素直に喜んでくれた。 - ホッ その2 -

ピカチュー達が、今、ゆーたの机の上に並んでいる。

サーバーがダウンしているのかどうか分からないが、全然ホームページに繋がらない。メールも読めない！ストレスがたまる！

このところ、ホント繋がらなくなってしまっている。もうイヤ！

1998年12月

授業参観……ああ、恥ずかしっ -1998/12/01(火) Vol.6-

今日は息子の授業参観会。5時間目に「道徳」の授業。もう朝から憂鬱で仕方がなかった……。

1時50分、授業が始まる5分前に教室に着いた。

顔なじみの子ども達が寄ってきて、ポケモンの話から、ゲームの話、今日のゆーたの様子等々をとくとくと話してくれた。

いやあ、ありがと！ほれ、授業始まるぞ！と追い返す。

さて、授業が始まろうとするその時、仲のいい友だちが

「水飲んできま～すっ！」と言って廊下に出ていった。その後に2～3人の子どもが続き、予想したとおり、「あ、オレもっ！」と言ってゆーたも飛び出していった。 (--;)

案の定、ゆーたは一番終わりに教室に入ってきた……。

いつもと違うこぎれいな格好をして、参観会を迎えた担任の先生も、出鼻をくじかれたようで、ちょっとぎこちなかった。ったくもう……。

ゆーたの机の上には、他の教科書とノートが置いてある。

隣近所の友だちが、
「これだよ」「とか、早くしまいなよ」とか手伝ってくれている。

やっとこさっとこ、道徳の教科書を出したゆーた。

しかも黙って出しているわけではない。最近お気に入りの「六甲のいいみずう〜」等と、小さく口ずさみながら準備をしているのだ。(--;)

で、教科書を出し終えた途端に、先生の話など何処吹く風、ひたすら教科書を読み始めた。(--;)

ゆーたの学校は道徳の研究指定校だそうで、今日は、「おかあさんのせい求書」というヤツだった。

話の中身はこうだ、

「けんじ君が、おかあさんに留守番代100円。お遣い代100円。風呂の掃除代100円、計300円のせい求書を書いた。

夕ご飯の時、300円と一緒におかあさんからのせい求書が置いてあった。病気とその看病代0円、洗濯代0円、食事代0円……。合計0円。

これを読んだけんじ君の目には涙がにじんできた」

ということだ。何を言おうとするかはわかるだろう……。

先生は教科書を閉じさせて、話の筋を確認していった。

その後、先生は「けんじ君がせい求書を書くとき、どんな気持ちだったか書いてみよう〜」と。

子ども達は一生懸命書き始めた。教室の中に鉛筆のカリカリ言う音が響いた。ゆーたも何か書いている。でも、中身はなんとなく想像が出来る。

そのうち、調子に乗ってきたのか、ゆーたは鼻歌を歌いながら書き始めた。決して大きな声ではないが、静まり返った教室中に聞こえるには、十分な大きさだった。(--;)

さて、発表になった。

最初の内はゆーたも手を挙げなかった。その内、しゃべりたくなかったのか、手を挙げた。

発表をした子が次の子を指名するやり方だ。

ゆーたは一生懸命気を引こうとする。

4年生ほどにもなれば、どんな答えが要求されているのかも、わかってくる頃だ。

何人かの子どもは、授業を展開する上で「期待通り」の答えを発表した。

ついにうずうずしているゆーたを指名した子がいた。

……何を答えたかは忘れた。ただ、先生がフォローできないくらいの頓珍漢な答えだった。

次に「お母さんの0円、というせい求書」を見て、けんじ君はどう思ったか書きましよう〜、というお決まりのパターンに授業は展開していった。

「違うよ、そんなこと聞いているんじゃないよ。」

ゆーたの横の友だちが、小さいけれどはっきりと聞こえる声で言っている。

アチャー……。

ゆーたの答えがなんとなく想像できた。

ゆーたは食事代とか、洗濯代とか看病代をいくらくらいか、換算しているのだと思った。

例によって、発表が始まった。
またしても元気良くゆーたは手を挙げた。
頼むから指名しないでくれ～。

そんな僕の願いも空しく、ゆーたは指名され、僕の予想したとおりの答えを発表した。 (--;)

僕はひたすら早く授業が終わることを願っていた。

授業もまとめの時間になってきた。
「家族愛」というのが本日のテーマ。
先生はあるお母さんに子どもへの手紙を書いてもらっていた。
それを読んで終わりにしようというのだった。

じいんと来る手紙だった。

ゆーたは机に突っ伏して寝ていた.....(--;)

「終わりましょう」という先生の声と共に、友だちに起こされ、大きなあくびをして参観会は終わった。

授業が終わって、子ども達が集まってきて、
「今日、遊びに行くよ～」とか「ミュウつくって」とか口々に言ってくる。
その時は僕も開放感に浸り、
「おお、いいよ。ミュウは100円だな」等と話をしたり.....。
かくして参観会は終わったのだった。

ホントに恥ずかしいったらありゃしない。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:. .:~'°'° 。.:*~'°*:

45分の授業時間の長かったこと。
僕が「恥ずかしい」と思っても、ゆーた自身が「恥ずかしいこと」と体感できない限りは、怒鳴りつけたとしても何の意味も持たない。
「周りの状況がわからないことは恥ずかしいことなんだよ」ということは言っても、ゆーたがわかるまでは、まだ相当な時間がかかるだろう。

それまで僕は「親としての恥ずかしさ」と仲良くしなければならぬ。

家に帰って女房に今日の参観会の様子を伝えた。
「もお、めっちゃ、恥ずかしかったぞお」と。

でも、周囲の期待通りの答えを考えようとするより、自分の思いを口に出来ることの方が大事じゃないのかなあ、と二人で話していた。

無論、周囲の状況を判断する能力とは、全く別の問題として.....。

タバコ代値上げ。厳しい～。でも、止めない。いや、やめられない。

いよいよ師走。今年も一年が終わろうとしている……。

風邪をひいた -1998/12/2(火) Vol.7-

風邪を引いてしまった。
今も鼻をすすっている。
頭がぼーっとしてしまっている。
喉がいがらっぽい。
だけどタバコは吸っている。
換気扇の下で吸うのはかわりはないが……。

ゆーたの持久走大会は後、3日後に迫ってきた。
明日は、また、当日のコースを走ってタイムを計測する、とのこと。
相当プレッシャーがかかっているんだろうな、と思う。

ホントは「頑張れ」ってことについて書きたいと思ったのだけれど、頭が回らないからやめる。

何か大変なことを始めてしまったのかもしれない……。

昨日も少し触れたけれど、

「まなびや」～めるまがで学ぼう！～

<http://www.iris.dti.ne.jp/~osamu-s/>

という「子育て、教育、学習」に関するメールマガジンを紹介するサイトを開設して、プレスリリースも出した。そしたら、まぐまぐの運営者の深水さんからはメールをいただくわ、掲載希望のメールは来るわ、登録内容の変更依頼は来るわ、ってな感じで、てん てこまいの一日だった。

おまけにこの風邪……。

わお～！ってなモン……。

あ、あ、ダメだ今日は！

もう寝る……。

お前のままでいいんだよ -1998/12/03(木) Vol.8-

本日配信された、ウィークリーまぐまぐに『まなびや』の事が紹介された。
HPへのアクセスが、この2日間で、3000人を越えてしまっている。
ホント、大変なことをしでかしたのかもしれない……（汗）

「そんなに手を広げて大丈夫？」と心配してくれる友人もいるが、朝飯の片づけをした後や、昼飯を食べながら、見るともなくワイドショーを見ているよりはよっぽど良いと思っている。

（あ、いつもゴロゴロワイドショーを見ているわけじゃないですよ）

昨日、今日とメールが次々と来て、それに対して返事を送ると、又新しいメールが届いていて……。賽の河原の石積み状態になっている。

でも、いろいろな人が、いろいろな角度からアドバイスをしてくれたり、意見を送ってきてくれる。
全く僕とは違う視点から、物事を見つめさせてくれる。

インターネットの広がりと同時に、自分自身が広がっていくのを実感できる……。嬉しいことだ……。

「いろいろな人がいるんだ」と思った。

この感覚は久しぶりの感覚だ。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

ゆーたが小学校の2年生の時、なかなか集団に馴染めずに精神的に不安定になり、何度も学校を飛び出してしまったことがあった。

その度に学校に出向き、担任の先生や、学年の先生、生活指導の先生、果ては校長先生と話をしてきた。

その時に感じた感覚と似ているような気がする。

「集団を維持していくためには、はみ出してしまう子ばかりに手をかけてはられない」というのが学校の基本的な姿勢だ。これはよくわかる。そんな一人の子どもに構ってられないのだ、学校と言うところは。

「何かあったら直ぐに電話を下さい。学校に出向いてゆーたの面倒を見ますから……」

僕が携帯電話を使うようになったのもその頃からだった。

携帯電話がなる度に、ドキっとした。

「集団生活」という型に無理矢理ゆーたをあてはめることが、学校に通う条件というならば、そんな学校には見切りをつけよう、というのが当時の僕たち夫婦の結論だった。

「今のままのお前のままで良いんだよ」と何度も何度も自分に言い聞かせていた。

でも、少しずつ、少しずつゆーたは落ち着いていった。

……そんなかなで、今まで来ている。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

今日、ゆーたは5時間目お腹が痛くなって保健室に行ったそうだ。

放課後には全く元気になって、はしゃいでいたそうだ。

本当に調子悪かったの？と疑いたくなるほどだった、と担任の先生から連絡があった。

多分、神経からくるものじゃないかな、と女房も言っていた。

本当に痛くなったのだと思う。

明後日に迫った、持久走大会を前にして、ゆーたはとても落ち着かないでいる……。

「本来は、生徒がいるから先生がいるのであって、
生徒がいるから学校があるのですよね。
先生がいるから生徒がいるのでも
学校があるから生徒がいるのでもなく。」

(頂いたメールより)

ただ見ていることしかできない辛さ -1998/12/04(金) Vol.9-

「いよいよ明日が大会です。今日の5時間目の練習を頑張っていました。2周目まで走り、3周目は時々歩くというペースです」

担任の先生がこんなメモを書いてくれた。

いよいよ明日は、持久走大会。でも、天気が悪いようだ……。

5時間目が終わる頃、持久走の練習をやっているグラウンドの外に車を停めて遠くから眺めていた。既に走り終えた子ども達もいるようだった。

ゆーたの姿がなかなか見つからない。

もしかしたら保健室にでも、と言った不安がよぎった。

しばらくすると5、6人の子ども達が固まって走っているのが見えた。先生もいた。

時には、先生に手を引かれながら走っている、ゆーたの姿がそこにあった。周りの子が何を言っているのかわからなかったが、しきりにゆーたに話しかけていた。そして、その度にゆーたは走るスピードをあげた。

最近よく、ゆーたが生まれて入院、手術を繰り返していた時の事を思い出す。日頃は出来る限り考えまいとしているせいか、あまり当時のことを思い起こすことはなかったが……。

生まれた年の11月。2度目の手術。

「簡単な手術ですから」と言われていたが、失敗して、やり直しの手術をゆーたは受けた。その頃にもなると、表情もはっきりして、笑顔がたまらなく可愛かった。

手術が終わり、麻酔が切れる。

ゆーたの体には、たくさんの管がつけられ、体も動かないようにされ……。

鼻から管をいれられているため、泣き声にならない声をゆーたはあげていた。

女房は、その横で、

「痛いね、痛いね」と言い続けていた。

僕はそんな二人の姿を見ているだけだった。

それしか僕たちに出来ることは何もなかった。

目の前で痛みを訴える一歳にもならない我が子がいても、どうしてやることもできなかった……。ただ、見ているだけしか……。

明日、女房は学校の仕事の合間をぬって、持久走大会を見に行くと言っている。但し、ゆーたの目に入らない遠いところから見ている、と。母親の姿を見れば、ゆーたの気持ちがいっぺんにめげてしまうことがわかってるからだ。

これから先、色々辛いことがあっても、それは自分自身で立ち向かうしかないのだ。たとえどんなに苦しくても、僕たちは「頑張れっ」としか言ってあげられないのだ……。

「U - T A」 -1998/12/05(土) Vol.10-

「今日こちらは、冷たい雨が降っていますが、そちらはいかがですか？」

もしお天気なら、今ごろゆーた君は、一生懸命マラソンしているところでしょう。

無事完走できますように。遠くから応援しています！」

その他にも、頑張っってね、と言うメールをいただいた。うれしかった。

こちらも雨。

朝、ゆーたは

「やった！中止だあ～」

ととっても喜んでいた。

12月19日に延期されたただけだが、その気持ちはとってもよくわかる。

* _ *

『 U - T A 』

お前の名前はゆうた
ようこそおチビさん
お前は僕らの子ども
僕らの世界にようこそ

お腹の中にお前の姿を
見つけたその日から
まだ見ぬお前と出会う日を
何よりも待っていた

僕らの声が聞こえますか？
僕らの姿がわかりますか？
ただ青く、透き通る空
風に揺れる草木の唄が

ちっちゃなちっちゃな手足
小さな小さいのち
僕にあげられるものは
全てをお前にあげよう

この世に生まれて二日目には
手術室に運び込まれ
待つことだけが、祈ることだけが
僕にできる全てだった

祈ることで救われるなら
すぐることで救われるなら
なににでもすがろう、祈ろう
それでお前が助かるのなら

お前の名前はゆうた
ようこそおチビさん
お前は僕らの子ども
僕らの世界にようこそ

もっと強く泣いてごらん
もっとミルクを欲しがって良い
手足をバタつかせ、
おしめを濡らして
それがお前の生きているしるし

お前の名前はゆうた……

*_**

とりあえず僕もホッとした.....。

今回のようなときは、決まって昔作った歌を思い出している。

.....もし、この曲を聴きたいという奇特でお暇で下手くそな音楽
にも寛容な方は(笑)

<http://www.osamu.net/kosodate/u-ta.ra>

で、どうぞ.....。

「U-TA」(513k 04:17) もあります.....。

「どうか一日でも長く連載してください。」(頂いたメールより)

.....ドキッ!

ハードディスクがああああああっ! -1998/12/06(日) Vol.11-

土曜日の夜から、友達が5人泊まりにきて我が家はちょっとした合宿所状態だった。
子ども達は興奮してなかなか寝付かれなかった。

9時半過ぎには、布団に入れ(女房が学校からシュラフを借りてきた.....アハ)、ようやく静かにパソコンに迎える時間になったと思いきや、10時30、2人が「眠れないよおおお。おじさん、こっちで遊んでいていい?」

と部屋にやってきた。

1時間ほど相手をして、とにかく布団に戻した。

僕はいつしか、床に転がって眠ってしまった。

4時過ぎだった。

あたりが騒がしい.....。子ども達がもう起き出してきたのだった!

女房に「目が覚めたら、寝ている子がいるから、おじさんの所で遊んでね」と言われたことを忠実に守ったのだった。

「ゲームやって良い?」駄目だよ。本呼んだり、絵書いたりしてな」僕は寝ていることもできず、再びパソコンに向かった。

ところが、退屈している彼らは、直ぐに「おじさん、おじさん!」と側にきて話しかけたり、ディスプレイをのぞき込んだりしてきた。

何もできないなあ。しゃーない、この前買ってきた、ハードディスクを交換するか!

.....それが全ての始まりだった.....。

頭はぼーっとしているが、子ども達に覗き込まれても、苦にならないし話し相手にもなれるな、と。

大事なデータは全部2台目のハードディスクの中。

交換するのは、1台目のシステムの入った方。

マスター、スレーブを確認して、はい、じゃ、フォーマット.....。

あれ?あれ?あれれれれれれれれっ。

いつもするようなチェックをしなかった僕がいけなかったのだ。
子ども達がうるさいから、等と考えた僕に罰があたったのだ(あるか!)

とにかくハードディスクの中身は全て消えた.....時、午前5時半

とにかく、全部消えてしまったのだった。
MOに保存してあるのもあるが、メール関連が全部消えてしまったのが、たまらなく痛い。返事を書きかけのメールもたくさんあった.....。

メールマガジンのバックナンバーも消えてしまった。
雛形もなくなったため、急遽友人のTom i (仮名) 氏に事情を話して送ってもらった。
朝の8時から10までの子ども会の廃品回収当番に行ってきた以外は、一日中、パソコン復旧にかかりつきりだった.....。

夜の10過ぎ。
ようやく、通信環境も元に戻った。

お願い

ここ、2週間ほどでメールくださった方でこちらから返事がまだの方、
お手数ですが、出されたメールを再送して下さい。
「要返信」フォルダのメールも消えてしまいました。ゴメンナサイ

この世で二つとないかけがえのないもの。それはデータ.....。(涙)

「死にたい」なんて言ったらダメっ! -1998/12/07(月) Vol.12-

土日に泊まりにきた子ども達が
「今日、学校でゆーた君、『もう、自殺してやるう』って騒いだんだよ」
と、報告してくれた。

日曜日の夜、女房がゆーたにそのことを聞いてみた。

どうやら、足が痛くなって、それでも「早くしなさい」とか言われてイヤになってしまった、ということみたいだ。

今までも、クラスの友達に嫌がらせをされたり、悪口を言われたりしたとき、夜布団の中で、母親に
「ゆーたはどうせ役立たずだから.....」
「生きていても仕方がない・・・」
等と口にすることがあった。
その度、「そんなことはないよ」と女房は言ってきたが。

マスコミで報道される小さな子ども達の悲しむべき事件、そしてTVゲームなどの影響で、子ども達の周りに「死」という「言葉」が確実に増えてきている。
そう、「言葉」だけが.....。

ゆーたの給食用のお箸を洗いながら、話をした。
どうして、「自殺」とか「死ぬ」とか言って欲しくないかと。

僕の受け持った生徒の中で、二人の生徒が自殺している。
そのうちの一人は卒業生だが……。

「パパが先生だった頃、二人のお姉ちゃんが自殺したんだ。
一人は高校2年生。もう一人は、卒業して働くようになってから。
ものすごく悲しかった。たまらなかった。
自分の子どもでもない人が死んで、あれだけ悲しんだり苦しんだりしたんだ。ゆーたが死ぬことなど、考えられないし、考えたくもない。
もし、ゆーたが死んだりしたら、パパは自分がどうなってしまうかわからない。
『死』というのは、とってとって悲しいことなんだ。
だから、「死ぬ」とか「自殺する」なんて言葉を聞く度に、パパはいつもドキっとするんだ……」

この話をゆーたにするのは初めてだった。
今はまだわからないかもしれないが、いつかゆーたも「死」の重みを受け止める日が来るだろう、そう思った。

生徒の自殺については、HPのバックナンバーで
お読みになれます。No.1です

パソコンショックの中で、何が一番ショックなのかは、送受信メール。
その場の勢いで書いてしまったメールもあるが、一つ一つのやりとりを読み返すと、自分の書いた言葉にドキっとすることがある。

あの頃 -1998/12/08(火) Vol.13-

親父はよく何かを書いていた。
夜遅くまで、何を書いているのだろうか、と小さい頃はよく思った。
本も良く読んでいた。

本棚に(と言ってもタンスの上に並べてあるだけだが)「ハムになる本」というのを見つけたとき、「人間をどうやって食べ物にしてしまうのだろうか」と不思議に思った感覚は今でも忘れない。

中学の頃だったろうか、本棚に「国鉄六華」という本が何冊かまとまって置いてあるのを見つけた。
なんで同じ本がたくさんあるんだろうか……？
不思議に思って手に取った……。

国鉄の短歌サークルの全国組織だろうか、「歌人会」というのがあったらしい。年一回、その年の「国鉄歌人賞」を決めていたみたいだ。その第一回の歌人賞から第六回の歌人賞の短歌を納めた本だった。
そして、親父は第一回の歌人賞を受けていたのだった。
6人の歌人(というのも変だが)の歌が載せられていた。

僕は黙ってその中の一冊を持っていった。以来、20年以上、その本は僕の手元にある。
本を僕が持っていることを親父は多分知っているだろう。
けれどその本については、親父は何も言わない。
本が出されたことも何も言わなかった。

それほど多くのことを僕と姉に語ろうとしない人だ。

：*：*！° 。：*：*！° ° '：*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

マラソンを日課ときめし子の朝のいさぎよきさまいつまでつづく
ひとり待つ淋しさ体に滲ませて日暮れの部屋に子は座り居き
勤め持つ妻の自転車きさらぎの風まともなる野をゆく頃か
昇進の以外に早きかのひとり阿（おもねり）しゆえと噂されいつ
神経の疲るる作業の日がつづき時計いつしか手首にゆるし

若くして征きて還らぬ君の貌流血のデモの貌にかさなる
うち据えて獲物を運ぶさながらに運ばれてゆくデモの学生

：*：*！° 。：*：*！° ° '：*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

昨夜、メールがどどっと届いた。
その人との今までやりとりしたメールの送付をお願いしたのだ。
70通。4月に「子育て……」のメールマガジンを出してからのつきあいだ。

特に、この4月からの揺れ動いている僕の姿が克明に記されている。
そうだった、そうだった。

人間の記憶は曖昧なものだから、自分に都合の悪いことや、恥ずかしいことなどは、無意識のうちに遠くへ追いやろうとする。
でも、書き残したものに対しては嘘はつけない。
たとえ自分の気持ちとは、ずれていても、そう書き残した自分がしっかりとそこにいる……。

ゆーたもいつかこうした僕の文章をみることがあるのだろうか？
その時あいつは何を思うのだろうか……。

【お願い】

メールボックス復活しつつあります。
みなさんとのメールのやりとりが残ってありましたら、
お手数をかけますが、是非、送りつけて下さい。お願いします。

「ウンチい！」(汚くってごめんなさい) -1998/12/09(水) Vol.14-

ゆーたは、学校で何かあったりすると、なかなか2階にあがってこない。
疲れ切っているときもそうだ。

玄関の開く音がする。
おっ、帰ってきたな……。
まず、ゆーたは下のおじいちゃん、おばあちゃんのところで一息つく。
「早く、片づけてきなさい」
「パパにただいま、言ってきなさい」
そう言って下では、一端2階に追いやる。

ゆーたはそぉーっと、そぉーっと足音を忍ばせてあがってくる。
調子の良いときは、「ただいまっ！」と部屋に入ってくる。

(注、パソコンの置いてある机とゆーたの学習机は隣り合わせ。
大体、僕はパソコンに向かっている。
時々、床に転がって寝ているときもあるが.....)

一種のゲームを楽しむように、ゆーたは二階にあがってくる。
そして、部屋の外にランドセルを置いて、再び静かに下におりていく。
もちろん、おじいちゃん達に、「ただいま、言ってきたよ」と言うことは忘れない。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.。

今日も、なかなか二階に上がってこないの、僕はしびれを切らして階段を下りていった。ランドセルは、玄関に放りっぱなし。

ったくもー、と思いながら居間に入っていったが、そこにも姿はない。
あれれれれれ?????

「お便所行ってるよ」とおばあちゃん。
「帰ってくるなり、すっ飛んでいった」と。

:.:.:'° ° '.:*:.。:*:.:'° 。.

ゆーたはまだ、毎朝の排便の習慣ができていない。
家で朝、きちんとトイレをすましていくといいんだよ、と言ってはいるがなかなかできない。
大体、家に帰ってきてからか、学校で用を済ます。

だから、出かけるときは絶対に「ウンチ！」となる。

:.:.:'° ° '.:*:.。:*:.:'° 。.

しばらくしてから、ゆーたは2階にあがってきた。
「よかったなあ、もれなくて」
「なおゆき君と別れたあたりで、急にしなくなった」
「もし、漏れてたら、ババまみれになっちゃうところだったな、オイ」

このババまみれ、がゆーたには受けたのか、ゲラゲラ笑い転げていた。
全く屈託のないヤツだ。(笑)

ウンチ、ウンコ、糞、大きいの.....
大便に対する呼び方、話題の仕方には、いつも一瞬のためらいをもってしまう。我が家ではやっぱり「ウンチ」だな。

失礼！

忘年会シーズン -1998/12/10(木) Vol.15-

「本日、全国一斉に公務員に冬のボーナスが……」
何度もそのニュースがTVから流れていた。
そうなんです。始まりました。女房の忘年会シーズン。

学校というところは、忘年会とかが多い。
所属している学年。学校全体。教科。分掌（教務とか進路とか）。他にも人によっては、PTAとか、同窓会とか……。

で、本日は第一弾。
寿司屋で学年の忘年会だそう。

「ねえ、送っていつてくれる？」「ああ……」
「ねえ、迎えに来てくれる？」「ああ……」

5時半過ぎに出かけて行って、混雑する町中を忘年会会場まで。
家に戻ると7時頃。
晩飯は、ご飯にみそ汁と納豆をかけてお終い。

風呂から出てきたゆーたに明日の支度をさせ、8時半には布団に。
気持ちよく一緒に寝てしまった。

9時45分頃。
女房から電話があったが、寝てしまって気がつかずにいた。
そこで、彼女は下のおじいちゃんの所に電話を入れた。
親父の声にガバッと起きあがり、眠い目をこすりながら、んじゃ、行くかと言うときになって、ゆーたが目を覚ました。

「ママはあ～????」

「今日、遅いと言ってたでしょ？」
再び布団に戻り、15分ほど一緒に。寝入ったのを確認して出発。

「遅い～。寒かったんだから！！」と女房。
手には一応、お土産の寿司が握られていた。

「今日のメールの中に、『毎朝の排便習慣』という話がありましたね。
たしかにそれは理想かもしれませんが、必ずしも正しいとは思いません。
人間の体にはひとそれぞれのリズムがあると思います。
それに素直に従ったほうが体のためにもいいのではないのでしょうか？」
（頂いたメールより）
……なるほど！！近々、「続・ウンチ」を書こう！！

ウンチは続くよ、どこまでも -1998/12/11(木) Vol.16-

まずは、お便り紹介

うちの子供達は 朝「行ってきま〜す」と言ってから「あっうんち！」か ただいま〜と言いながら便所に掛け込む(ゆーた君方式)です

なんでと聞くと上の子は「便座が汚いし、なんかカッコ悪い……」下の子は「ぼく学校で出来るで、でもあんまりしたくならん」

上の子の言うカッコ悪いは時々聞きます。うんちしたやると言われるのが嫌で家まで我慢・我慢……身体に良くないような気がするんだけどなあ

んでもって、もういっちょ！（昨日も「一言」で触れましたが）

すごく前に新聞だったかで読んだ話を思い出しました。

やはり小学生の話で、その子は学校から帰って家でゆっくり排便するのが日課になっていました。

でも親がやはり朝にするように注意したところ、もちろん子供もがんばってみるのですが、うまくいかずだんだん精神的に参ってしまい、病院にかかるほどになったか、登校拒否になったという話です。

記憶が曖昧ですが、たしか精神科の病院にいった話だったかなあ。

「子供たちのこころ」みたいな記事だったかもしれません。

すいません、曖昧で。

最終的に、その子にとっては、家のトイレが学校から帰ってきてゆっくりできる時間と空間だったというわけで、安らげる場所ということだったらしいです。

(別に学校の友達や家族と不仲だったわけではない)

きっと一日の出来事を思い起こしながら、安心して(これが重要)用を足していたのでしょう。家のトイレで夕方排便する、というのがこの子の毎日にとっては欠かせない大事な精神安定剤(ひいては体の健康なリズムを整える)なのでは？ (以下略)

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*.:'° 。.:*...*:

ウンチのメール、頂いてます。(笑)

昨日、女房を送りがてら、聞きました。

「朝の排便習慣、ってどうして大事なの？」

「????????」

「あれ？ 言っていたジャン！」

「えっ？ 言ったあ？ 言ってないと思うよ」

「私だって、朝の排便の習慣がついたのは、お産の後からだよ」

うおっとおおおおお！

まずは、「朝の排便習慣をつけるとよい」と言うのは、女房から聞いたことではなかったのだった。あれれれれ？

女房は、保健体育の先生。大学では人間の色々な機能や、ストレスなどについて一応は勉強していたらしい。

現在でも心理学や大脳生理学のことは、結構勉強している(みたいだ)

OSMさんのメルマガを読むのが、毎日のストレス解消になってて。。。“^_^”
自分のメルマガを出さない日でも、OSMさんのメルマガは欠かさず読みます。(笑！)

ランチバイキング -1998/12/12(土) Vol.17-

朝から、今日一日何をしようということで女房は、頭を悩ませていた。
突然、「ランチバイキングに行こう！」と言い出した。

何年前か前、親子三人で、年末に東京ディズニーランドに一泊で行ったことがある。ホテルの朝食がバイキング形式で、ゆーたはとっても気に入っていたらしい。

以来、年末にはディズニーランドに行くのが恒例行事になってしまっているが、わざわざ泊まりで行くまでもないので、日帰りにしている。

12月になり、ゆーたはしきりに
「ねえ、ディズニーランド行くんでしょ？ホテルに泊まるんでしょ？」
「行くけれど、ホテルには泊まらないよ」
「……」

そんなやりとりを最近、よく女房とゆーたはやっている。

早速インターネットで、女房はランチバイキングをやっているところを調べ始めた。
結局、浜松では、有名(?)なグランドホテル浜松。
大人¥1,900 子ども(小学生以下) ¥950

:.:.:'° 。.:.:'° ° ' .:.'° .:.'° ° .:.'° .:.'° .:.'°

「あ、忘れ物だっ！」
出かける間に、ゆーたがそう言った。
ハンカチを机の引き出しから、引っぱり出したのだった！
学校に行くとき、いつも「ハンカチを持ったの？」と言われてから、持っていったゆーただったのに……。

行きの車の中で、聞いてみた。
「どうしたの今日は？ハンカチを自分から持っていくななんて初めてじゃないの？」と。
「だって、ちゃんとしたところに行くんだから、身だしなみだよ」
「オイオイ、学校はちゃんとした所じゃないのか？」
「う～ん……。わからん！」
ゆーたの頭の中には、学校=ちゃんとしたところ、という図式はないようだ……。(^^ゞ

「家の中にいるときは、タオルとかかけてあるから良いけれど、どこかに出かけるときは、身だしなみとしてハンカチなんかは持って行った方が良いんじゃないかい？それで納得できる？」
「うん、わかる、わかる」
と。本当にわかったかは ? だが……(^^)

:.:.:'° 。.:.:'° ° ' .:.'° .:.'° ° .:.'° .:.'° .:.'°

11時40分頃、ホテルに着いた。

「今日は、どの部屋に泊まるの？」

「ちゃうんよ、お昼を食べに来ただけ！」

わかってないヤツだ……。(;)

それから1時間。ゆっくりゆっくり食事をした。

おいしかった。

それよりも、時間をかけて食事をするということは最近、あまりなかったから、とっても気分がゆったりとした。

……途中でゆーたはいきなり「トイレ！」と言って立ち上がった。

食事の後、ホテル内の探検をした。

教会のチャペル形式の結婚式場。最上階のスカイラウンジ……。

2時半頃、自宅に戻ってきた。

友達からの「遊ぼう～」の留守番電話が何本も入っていた。

帰ってきた直後にも「遊ぼう～」と言う電話が入り、友達がやってきた。

僕は、疲れていたのと、お腹がいっぱいになっていたので、昼寝をした。

起きたら5時半。

晩飯の時間だった……。(;)

いよいよ来週末は、延期になっていた持久走大会。

夕食後、来週の日曜日にも、持久走大会終了をお祝いして、ランチバイキングに行こうか？と女房とゆーたは話していた……。

1 センチメートル2 -1998/12/13(日) Vol.18-

「1センチメートル2(にっ)」

女房からこの話を聞いて、声を出して笑ってしまった。

学校で、今、面積を習っているんだそうだ。

1 cm² < -- この「2」は本当は上付きです。(^^ゞ

そう、「1平方センチメートル」をゆーたは、「1センチメートルにい！」と読んだそうだ。なるほど、そう言われてみればその通りだ。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

結局、今日はどこにも出かけなかった。

僕は朝の5時近くまでHPをいじくっていたので、とても外に出る気にはなれなかった。

ゆーたも少し鼻水がでるし……。

女房は、しきりに「こんな良い日なのに」とこぼしていた。

午前中は、友達が一人遊びに来て、午後は、灯油を買いに出かけたり、目薬を買いに行ったり……。

パソコンショップにメモリーを取りに行ったり……。

おお、簡単じゃん！うげっ！速い！と感激。
.....ふと気がついた。音が出ない。音源ボードがなかった。
まあ、明日買いに行こう、と言うことで幸せ一杯の気分で眠りについた。

.....ゆーたは元気だ！
ばらばらにされたパソコンのパーツがとても気になるらしい。
触りたくて、触りたくて仕方がないみたいだ・・・。
そばに来るたび、「しっしっ！ダメダメ！」と追い返していた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

「手も足も出ず！」 16日(水)
さて、音源ボードを買いに行って、早速取り付け。
よっしゃあ、組立完了！
おりよりよりよりよ.....？
音が出ない、やっと音が出たと思ったら、パソコンがいきなりダウンする。
あれ？ファンも回らない.....。うわあああああっ！
完全にパニック状態。目の前が真っ暗なまま、眠りについた。

.....女房はパソコンで成績処理をしたいらしい・・・。
それから、卒業文集用にプリクラを作ってほしい、と。
うるさいわい！それどころじゃないんだから・・・。
.....ゆーたは、元気だ！

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

「このボードおかしいですね」 17日(木)
パソコンショップに、「ファンが回らないのはおかしいんじゃない？」と、持って行ってチェックをしてもらった。
いろいろ調べてもらった結果「やっぱりおかしいですね。交換します」ということで、新しいマザーボードと交換してもらった。
緊張しながら、組立。そしてwin98のインストール.....。
やったあっ！
今度はうまくいった。
メールをチェック！どひゃ～！溜まっている.....。
幸せ一杯で、眠りについた。

.....ゆーたは、元気だ！

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

ソフトを入れ直して、ほぼ以前の状態に環境は戻った。
しかも、スピードが今までの200MHzから400MHzに。
う～ん、快感！！！！

.....さて、いよいよ明日は持久走の記録会。
だいぶ観念(?)しているのか、それほどイヤだイヤだ、とは言わない。イヤな気持ちを少しは整理でき

るようになったのだろうか……？

天気も良いみたいだ。さて、どうなることやら……。

アメリカがイラクに攻撃をしかけましたね。

たとえいかなる理由があろうと、戦争はイヤです。

あの場所に僕たち家族がいたら……。

爆撃によって、目の前でゆーたが……。

絶対にイヤです。

「3周800円かぁ……」 -1998/12/19(土) Vol.21-

持久走前日……。

これを書かずに今日は終われない。

たくさんの方から、応援のメッセージをいただいた。

天気快晴。風は少し……。

昨日の朝、女房にゆーたが何やらゴシヨゴシヨ言っていた。

「ねえママぁ……。

ゆーたすんごく頑張っていると思うんだ。明日の持久走大会、頑張ったら何か買ってくれたらなぁ、って思っているんだ」

夕食後、「いよいよ明日だね」と言う話になった。そこでゆーたは、

「ねえ、ママぁ……。いくらくらいのプラモデルだったら良いと思ってるの？」

「そうねえ、じゃぁ500円くらいかなぁ」

「……」

何やら紙を持ってきてゴシヨゴシヨ書き出すゆーた。

「ゆーたのひょうか額 800円」

というメモを女房に渡した。

お宝鑑定団の身過ぎだつづくに！

「よし、わかった！じゃぁ3周を歩かずに走り通せたら、800円にしよう。でも、途中で歩いちゃったらぁ……。500円ね。いい？」

「OK！」

「ウム、3周800円か、まぁまぁだな」などと気取った口調でヤツは言っていた。

そんな二人のやりとりを僕はずっと聞いていた。

今週になって、ゆーたはもっと落ち着かなくなるかと思ったが、そうではなかった。

時々、「あぁ、また延期になればいいのになぁ」とか、「先々週にやっちゃってあげれば良かったのになぁ……」とかボソッと言ったりした。

しかし、学校で訳が分からないことをしでかすでもなく、「調子悪いから、明日は休まないといけないかもしれない」なんてことを言い出すこともなかった。

ゆーたの心の中で「いやだけれど越えなければいけないこと」と「できることならやりたくない」という気持ちが、戦っているんだろうな、と思った。そして自分の中で一生懸命、自分の気持ちをコントロールしているのもよくわかった。

：*：*’° 。 ..*：*’° ° ’*：*.. ..*：*’° 。 ..*：*：*’°

9時20分スタート！

我が家のすぐそばに工業用水の浄化施設があり、そこにはグラウンドがある。
歩いて、1～2分のところ。
グラウンドのトラックとその周囲の草っぱら、1周500mを3周するのだった。

スタート地点とは反対側のグラウンドの隅の方で見ている。

スタートした。すぐに子ども達は一列につながっていった。
ゆーたは……。一番最後の方を見た。
いたいた。
あいつだけ体育の帽子をかぶっていない……。すぐわかった。(;)

1周目の後半に差し掛かるところに僕はいた。
目の前をゆーたの友達が走り去っていく。
どの子も、いつも我が家で見せる表情とは全く違う。真剣そのもの。
とても声などかけられなかった……。

ゆーたが目の前を通り過ぎていった。
まもなく、2周目……。
そのとき、ゆーたは草の上にもゴロンと横になってしまったのだった！

担任の先生が駆けつける。
もう一人の先生も駆けつける……。

体をグニャグニャさせている……。
どうするんだろう……？

お、もう一人の先生に手を引かれて、また走り出した。
2周目は何とか二人の先生に挟まれた格好で走り終えた。

さて、3周目。
そのころには速い子ども達は、とっくにゴールに入っている。

3周目は先生の手を離して走っている。

半分ほどすぎた頃、3人の子ども達が、コースを横切ってゆーた達の所に走り寄っていった。
わかった。

よく家に遊びに来る、A君とN君と、Sちゃんだ。

ゆーたの両横と後ろ、3人に囲まれるような形で、ゆーたは走っている。

「頑張んなよ!」「後少しだよ」「もっとスピードあげて!」

子ども達は口々に言う。

ゆーたの走るスピードは次第に上がっていった。

そして僕の目の前を通り過ぎ、人垣の向こうのゴール地点に消えていった。

僕はグラウンドを後にした。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

3周700円!

女房が帰ってきた。

開口一番「どうだった?」と僕に聞いてきた。

ムニヤムニヤムニヤ、ゴチヨゴチヨゴチヨ.....顛末を話した。

昼寝から目を覚ましたゆーたはダダダと二階に上がってきて、

「さ、パパ!早く買いに行こっ!」

と僕をせかすのだった。

「ゆーた、今日はどうだったの?頑張れた?」

「ウン。ママ800だったよね。」

「途中で寝転がっちゃったんだって?」

「だって、疲れちゃったんだモン。」

「う~ん、3周休まずに走れたら、ってことだったよね。」

「.....」

「自分で頑張ったなあ、って思える?」

「ウン、頑張ったよ」

「よおし、わかった。じゃあ、100円引いて、700円でどう?」

「ウン、そだね」

.....

「じゃあ、消費税はパパが出してやろう~!」

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

お店にて

何か本を読んだのだろうか?戦車のプラモデルが欲しかったみたいだ。

いろいろ探すが、ほとんどが「800円」以上だった。

「う~ん、買えないなあ.....」

更に探すゆーた.....。

なかなか見つからない。

500円くらいのを手にとって、これにしようかな、と一度決めたみたいだ

った。そのプラモデルはいかにもちゃっちゃかった。

「オイオイ、ここはプラモデルは1割引だから、800円のが720円になるんだぞ。まあ、20円オーバーは、パパが出してやるから、さっき見ていたので気に入ったのにしたらいいよ。」

ということで、ゆーたは戦車のプラモデルを手に入れた。

「帰り、どこかで食事していこうか？」

「う～ん、どうしようかなあ……」

とどうも乗ってこない。

早く作りたい、という気持ちもあるだろうが、疲れ切ってしまったているようだ。

時々、バックミラーでゆーたの姿を見ても、力無くシートに背をあずけている。目はトローンとしていて、今にも眠ってしまいそうだった。

ホント、疲れたんだらうな。

かくして、今年の持久走大会は終わりを告げた。

いよいよ、今年もお終いだ……。

例によって女房は、今日も忘年会だ……。

相変わらず、空爆が続いていますね……。

アメリカ議会では大統領の弾劾裁判が……。

イルカの死 -1998/12/20(日) Vol.22-

静岡県東部の最南端の下田から、静岡県の西の外れ浜松に卒業生が遊びにやってきた。

彼女は下田の水族館でイルカの調教をやっている。

もう、就職して10以上。チームのリーダーになっている。

仕事を辞める、遊びに行く、と携帯のスカイメールでメッセージが届いたのは先々週。いろいろと話しかかったようだ。

今週の初め、なかなか連絡がとれなかったと思ったら、イルカが死にそうですとつきっきりだった、と。

下田の水族館で生まれたイルカで、3歳になる子ども。

「死にそう」ということで、彼女は3日間、ずっとイルカの側についていたと言うのだった。

……3日間で睡眠時間は3時間、だと……。

看病の甲斐もなく、結局イルカは死んでいったと。

その後も、解剖して原因を調べたり……。そんな日々が続いていたと。

死因は海から流れてきたビニール袋を食べて、それが食堂に詰まってしまっていた、ということだそう。ビニール袋が詰まっていたために、戻すこともできずに、日に日に弱っていった、と。

「海が汚いからね……」

うわぁ！寝過ごしたぁああああ！
7時過ぎ、けたたましい叫びで、目が覚めた！

「何iiiiiiiiiiiiっ！ご飯炊けてないじゃんっ！」

しまった！炊飯スイッチではなく、保温スイッチのままだった！
また、やってしまった……。

冬休みに突入したのは、ゆーたではない。
女房の高校は、19日が終業式だったのだ。

で、今日から冬休みに入ったのだ。

今週一杯、学校には出勤するが、教員にとって生徒がいる、いないはとっても気分的に違う。朝のHRがないし、授業、休み時間と言った時間に追われることもない。

明日は午後から、同僚の先生と薫製をつくるんだとか……。

まァ、気楽なモンだなァ。

家にいると、とにかくうるさい。
女房はよく独り言を言う。

「あ、そっか！」

「これはこうなんだよね……」

「良いこと考えた！」

それとこっちにお構いなしに、話しかけてくる。
ま、パソコンに向かっていても遊んでいると思っているだろうが……。

考え込んでいるとき、
「ねえねえ、ちょっと、ちょっとお！」
大体さもないことが多い。
全く困ったモンだ……。(;)

改めて思う。
「女房元気で外が良い！」

自分で確かめてっ！ -1998/12/22(火) Vol.24-

冬休みまで、あと少し……。

学期末には、ゆーたの病院がいくつか集中する。
その一つ、今日は、小児神経科の診察。

診察結果については取り立てて変わったこともなく、「まァ順調ですね」とのこと。

病院からを出たところの横断歩道を渡って、駐車場に行く。

信号は赤。僕とゆーたは止まって待っていた。
車は来ない。
向こう側から一人、赤信号なのにこちらにやってきた。
そしてゆーたの隣のおばさんも横断歩道を渡った。

それにつられてゆーたも「手を挙げて」横断歩道と渡ろうとしたのだ。

「オイ、赤だぞ、赤！」

はっとして、ゆーたは立ち止まった。
信号が青になった。

「さ、いこかっ」

ゆーたは信号を見ることもなく、歩き出した。

.....

「ゆーたねえ.....。自分の目でしっかり確かめないと駄目だよ。
周りの人に流されるんじゃなくて、自分で判断しなくっちゃ！」

横断歩道は手を挙げて！
信号をしっかり見て！
左右を確かめて！

.....いずれにせよ、形だけではないということ、
身につけて欲しいなあ.....、と。

明日は、映画を見に行くことにした。
「スモールソルジャー」ってヤツだ。

スモールソルジャーズ -1998/12/23(水) Vol.25-

いやぁ、面白かった！

はっきり言って、あまり気乗りはしていなかった。
コロコロコミックで知ってはいたが、テレビの「何とかレンジャー」のアメリカ版だろうと思っていた。

女房は部活があり、二人で映画館に行った。
ガラガラ。やっぱ、人気がないんだな、などと勝手に思いこんだ。

少し時間があつたので、ゆーたの買ったパンフレットをペラペラめくっていた。アレ？なんか違うみたいだぞ.....。

で、映画が始まった。
ストーリーは、書くのが面倒くさいので省略。

ゆーたも僕もとっても楽しめた。
おもちゃが主人公だが.....。

見終わった後、キャラクター的に「グレムリン」「ネバーエンディングストーリー」を思い出した。
特に、雰囲気的には「グレムリン」に似ているなぁ……、と。

すっかり気に入ってしまった僕たち二人は、その後おもちゃ屋を回ったが、まだスモールソルジャーズのおもちゃは置いてなかった。

家に帰ってパンフレットをゆっくり見た。
なんと、監督はグレムリンのジョー・ダンテだった。

な～るほど、と思いながら、ゴーゴンナイトだ、エリートコマンダーだ、と話をしている僕たち二人を女房は何とも言えない顔を見ていた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .:*.・'° 。.:*:...*::

クリスマスはチキンと手巻き寿司！

我が家は二世帯住宅。
ゆーたを中心に階下のおじいちゃん、おばあちゃんと2階の僕たち夫婦はつながっている。
誕生日とか、お正月とか、クリスマスとか言った時は、一緒に食事をしたりする。

我が家のクリスマスパーティは、25日のゆーたの終業式の日に行くことになったみたいだ。

女房はダッチオープンで「すたっふどちきん」とやらを作るそうだ。
じいちゃん、ばあちゃんはチキンとかは好きではない。
で、結局、女房がチキンをつくり、おばあちゃんが手巻き寿司を用意する、
ということになったみたいだ。

……何とも言えない取り合わせだ……。(;)
ゆーたは、そんなことより、サンタさんからのプレゼントがあれば良いみたいだ。

デパートでゆーたと食事。なかなかお店が決まらず、30分ほどあちこち歩いていた。(;)
結局、ゆーたはいくら丼、僕はまぐろ丼でした。

クリスマスの風景 -1998/12/24(木) Vol.26-

ゆーたは頭が痛い、ということで、学校を休んだ。
パソコンの置いてある横に布団を敷いて横になっていた。
熱があるわけではなく、コロコロコミックを買って来て！ととてもうるさかった。
昼前、女房が帰ってきた。

午後、静岡の病院まで、ゆーたの薬を取りに行ってきた。
静岡インターを降りてから、市街は滅茶苦茶混んでいた。
病院に着くと外国の若者の一団がいた。足下には紙袋がたくさん詰まった段ボール箱があった。
クリスマスを病院で過ごす子ども達のために来たんだな、と思った。
クリスマスツリーが飾ってある。

26歳の時、網膜剥離の手術を受けた。

クリスマスだった。看護婦さん達が、真っ暗になった部屋にロウソクを手にして、メリークリスマス！と言って入ってきたっけ……。

相変わらずの病院の光景。色々な子ども達、そして不安げな親たちの顔、顔、顔……。

ゆーたが生まれた年、ゆーたが我が家に帰ってきたのは、クリスマスの直前だったんだ、とあの頃を思い出していた。

会計を待っているとき、どこからか携帯電話の呼び出し音が聞こえた。

ぱっと顔を上げ、見ると側にいた母親。

彼女は検査官が着るような白衣を羽織っていた。もしかしたら、病院の関係者……？

彼女は電話をとって話しながら予約コーナーへ行き、何やら受付の人と話をしていて。何か緊急のこともあったのだろうか……？

でも、それでも無神経すぎることだ。

携帯電話の病院内の使用は禁止

そう、貼り紙がしてある。

ましてやここは子ども専門の病院。

我が子の診察に気を取られているのかもしれないが……。

話している最中、遠くからじっと見つめ続けていた。

帰りの道もまた渋滞。

インターに入る途中にあるオモチャ屋に寄った。

あった、あった！ スモールソルジャーズのオモチャが……。

一つ1800円もする。

どうしようか、買って帰ろうか？

タベもゆーたと二人でアメリカのスモールソルジャーズの公式サイトを見ながら、

「こいつが格好いいんだ！」

「パパはこいつが可愛いなあ」

と言っていた。

でも、やめた。欲しければ小遣いやお年玉で買えば良いんだから。

僕の方だけ買って帰ると、「ずるい〜」となるから、こっちも我慢！

:*:・!° 。.:*:・!° ° !*:・!° .:*.・!° 。.:*:・!*:

インターに入る途中に一つの喫茶店がある。

その横を通り過ぎていった。

大学時代に3年間つきあった彼女と初めてのデートで出かけていった場所。

20年以上経つのに、当時と同じ場所。名前も変わっていない。

今でもはっきりと覚えている。

彼女の着ていた服。座った場所……。

彼女の誕生日は12月24日。今日。
今日、どこかで、家族に誕生日おめでとう！って言われているんだろうなあ……。
……Happy Birthday!

何とも言えない酸っぱい思いが、胸を刺す。

家に戻ってきたのが、6時過ぎ。
疲れてしまって一眠りしてしまった。

目を覚ますと、ゆーたはしきりに今晚のことを気にしている。
「サンタクロース来るかなあ……？」
「ゆーたが欲しいの、間違えないでくれるかなあ……？」
「心配で心配で……」

例えばクリスマスがどこかのデパートの売り上げのためであろうとも、ふと昔を振り返ったりするひととき
を与えてくれることに感謝したい。
そしてみんなの心をハッピーにしてくれることに。

【クリスマスのディナー】
東名高速のサービスエリアの「天玉そば」、¥380也
クリスマスだから、贅沢して、玉子と天ぷらを入れてあげた。(--;

クリスマスの風景2 -1998/12/25(金) Vol.27-

ゆーたは今朝、4時前に目を覚ましたようだ。
去年もそうだった。
サンタクロースがプレゼントを持ってきてくれるかどうか、気になってしまって……。枕元に置いてある
プレゼントに気がついてからというもの、ほとんど眠れずに朝を迎えたようだ……。

夜は、家族5人で夕食。
おじいちゃん、おばあちゃんは天理教を熱心に信仰している。
僕たちは宗教的には、とんと無頓着。
これが一週間もすれば、神社にお参りに行くのだから、無節操と言えば無節操かもしれない……。(--;
ま、いっか。気にしない気にしない！

手作りのスタッフドチキンに、手作りのケーキ。
クリスマスツリーには、おじいちゃんの手作りのピカチューやら飾り。

こうして家族みんなでクリスマスを迎えると、ホントに今年一年が終わりに近づいていることを実感する
……。

:*:.'° 。..*:.'° ° '.*:.. .*:.'° 。..*:.'*:

1988年12月15日(木) 11:50PM

=====
祐太が、祐太が帰ってくる！！
そう、後二晩一人の夜を過ごしたら、僕と佳子のこの家に祐太が帰ってくる。

1ヶ月半に及び入院生活。その間、佳子はずっとずっと神経を使えばなし。心休まる日は、一日とてなかつただろう。本当に頭が下がる。

手術が決まり、入院の日を待つ間、「こんなに祐太は元気じゃないのぉ」と涙を流した日。
手術室の前で、雑誌を読んだりしながら「簡単な手術だから……」
とお互い、言い聞かせるように話していた日。
ただ泣き続ける祐太に「痛いね、痛いね、おなか空いたね……」と一晩中声をかけていた佳子。
あの時の祐太の泣き声が耳にこびりついている。

そして手術が失敗だったという連絡を受け、急いで病院に車を走らせて行った日。全てのものが音をたてて崩れていくような……。

再手術。手術室のローカ。麻酔から覚めた後の泣き声……。
眠れない夜……。

今、思い返せば、いつの間にか過ぎてしまったような気もするが、本当につらく重苦しい日々だった。けれどこれで終わりじゃない。また、次の手術が祐太には待ち受けているのだから……。とにかく精一杯祐太を愛してやらなくては……。

=====

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

毎年、この時期になると、昔の日記を引っ張り出したり、昔の学級通信を読み返してみたり……、と。

サンタクロースのプレゼントのプラモデルを作って、喜んでいるゆーた。
クレヨンしんちゃんのスペシャル番組を、喜んでみているゆーた。

誰とはなく、感謝したくなる……。

ようやく待ちに待った冬休み……。
明日は友達が遊びに来るらしい。疲れたね。頑張ったね。

通知表 - あゆみ - -1998/12/26(土) Vol.28-

そう言えば、2学期の通知表を見ていなかった。
静岡県浜松市では、通知表とは言わずに「あゆみ」と言う。
呼び方は地方地方によって違うみたいだ。

で、相対評価ではなく、絶対評価……、ということだが、そうでもないらしいという噂も聞いた。ただ、これはあくまで噂の域を出ないので、何とも言えない……。

各教科がさらに4つほどに分類され、それぞれ「 、 、・ 」で表されている。(よそではABCで表す所もあるみたいだが……)

・
国語 2 2
社会 3 1

算数 2 2
理科 1 3
音楽 1 3
図工 4
体育 1 2

行動の現れ、も良いところには がつく。

「よく考えて行動し、正しいと思うことは粘り強くやり通す」

「仲良く助け合って仕事をする」

に がついていた。

後は、所見欄として「学習」「特別活動」「学校から家庭への連絡」に色々と記入されていた。

いやぁ、学校の先生ってホント大変だわ……。

「所見欄」

かつては僕もそうした「通知表」なるものを書いていたっけなぁ、と人ごとのように思ってしまったり……。

他にも就職試験や、受験の際に先方に出す調査書には、ホント頭を悩ませた。

「ホントこいつはうるさいやっちゃ……(;)」

「明るく元気で活発である」

「無口で消極的で、困ったモンだ……(;)」

「物静かで、落ち着いて行動することができる」

「こいつは、口答えばかりしおってからにい・・・(;)」

「自分の考えをきちんと主張することができる」

「いろんな事に首を突っ込んでえ。少しは引っ込んでろお！ (--;)」

「人が困っていたりすると、黙って見過ごせない性格である」

……他にもあげれば、切りはないが、「悪いことは書けない」もんだ。

まぁ、先方にしたって、言葉通り受け止めることはまずないし……。

中学から来る、調査書にしたって、言葉の裏を読むようなことばかりしていたモンなぁ……

だから性格が歪んでしまったのかも……。 (^◇

いやぁ、何カ月ぶりだろう。町に出かけてお酒を飲んだ。

今日は、女房に駅まで車で送らせた！！

わっはっははははははははは、はぁはぁはぁはぁはぁ……・

年賀状・窓拭き・配水管 -1998/12/27(日) Vol.29-

ハードディスクの中には、住所録データも入っていたのだった。

そのことを年賀状を作り始めたら気がついた……。

しまった……。 (;)

昨日から年賀状作りを始めた。今年は取りかかりが早い！

というのも、パソコンに向かっていると、女房に遊んでいると思われて、直ぐに仕事を言いつけられるからだ。

んなら、「おい、年賀状つくらんといかんぞ！」と合法的にパソコンに向かう手段として、「年賀状づくり」始まったのだった。

いつもなら、31日にあぁ、書かないとなぁと腰をあげるのだが.....。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

午前中、友達と遊びたい、とゆうたが女房に言った。

「だって窓拭きやる日でしょ、今日は」

「午後になったらやるよ」

で、午後になった。

また別の友達から、電話があった「遊びに行つて良い？」と。

「窓拭きをやつたらいいよ」と女房。

「んじゃあやるよ。パパ早くやろう！」

と、さっさと窓拭きを始めた。

ゆうたが塗れ雑巾で、僕が乾拭き。

勿論手の届かないところも一杯ある・・・。

ほほお、それなりにしっかりできるようになったじゃないか！

と感心したり、オイオイ、もっと丁寧にやれよなぁ、と思ったり。

さっさとやってしまった。

「ねえ、今日の大掃除の給料はいくら？」とゆうた。

「そうねえ.....。ディズニーランドのチュロスでどう？」と女房。

「うん、いいねえ」

ということで、300円(?)だった。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

少し前から、食器の洗い物をしているとき、水の流れが随分と悪くなっていた。

早く何とかしないと危ない、と思っていたが、やはりあのヌメヌメが、何とも言えず、ついつい先延ばしにしてしまっていた。

今日は、窓拭きの勢いに乗って、その後、配水管の詰まりを掃除した。

うわぁ、出てくるわ、出てくるわ.....。

これじゃあ詰まるはずだわ！

とつい、納得してしまうほど、ゴミが詰まっていた。
こういうのは始めてしまうと、とことんやらないと気が済まない。

いやぁ、スムーズに流れるようになった。
ウン、気持ちが良い！

毎年恒例となってしまった、ディズニーランド。
そんな毎年行かなくなつて……、と言われても。(^^ゞ
チュロスを食べるのを楽しんでいます。 ゆーた
マイクロワールドを頑張るぞ。OSM

みくろあどべんちゃあ -1998/12/28(月) Vol.30-

行ってきました。ディズニーランド。

去年は30日に行って、雨にたたられ、しかもとっても混雑。
今日はとっても暖かく、人も去年、一昨年に比べればずっと少なかったからとっても良かった、とまずは概論。

7時の浜松発のひかりに乗ると、9時にはディズニーランドに着いている。
まずは、マイクロアドベンチャーに！という僕の願いが叶って行ってはみたが「100分待ちです」という案内に、あえなく却下されてしまった。

「牛ヒレステーキ赤ワイン蒸し」
で、お決まりの「スターツアーズ」から、「カリブの海賊」へと。
その後、少し早いけれど、昼食に。
「落ち着いた場所で食べたい」という女房の意見で、「カリブの海賊」から見える「ブルーバイユー・レストラン」へ。11時過ぎだから、空いていた。

メニューを見て、目が点。高い……。
女房は、「シーフードドリアなんかがおいしいよ」と言うが、「牛ヒレステーキ赤ワイン蒸し」を主張してゆーたは譲らない。

結局、僕がシーフードドリアにした。（ ; ）

アンビリーバボー、の影響
毎年ゆーたが楽しみにしているが、ホーンテッドマンション。
いつも真っ先に行こう、行こう！と言うのだが、今年は尻込みしている。

あれれれれ……？

他もそうだった。カリブの海賊を初めとして、しきりに女房にしがみついくことが多い。

はは～ん。

「ゆーた、怖いんだろう？」
「わかった、アンビリーバボーの影響だろ？」

「……ウン」と小さな声で答えが返ってきた。

毎年、同じ所に行って、アトラクションも変わっていなくても、それを見る側は確実にその一年で変わっているのだ……。

小さな子ども向けのトイレ
途中、おなかの調子が悪くなってトイレに行った時のこと。
3歳くらいの小さな子が、足をバタバタさせている。
外ではお母さんらしい人が「一人でできるよね～」と言う声。

便器が高くて、オシッコができないで困っていたのだ。

僕のお腹も次第に暴れ始めていた……。

ようやくトイレが空いた。
「オシッコ……？」
「ウン」とうなずくその子。
「じゃあ、ここを使いなよ」

その子はすっきりした顔で出ていった。

さて、と思ったら、今度はお父さんに連れられた小さい子が……。
ははぁん、と。
「オシッコなら、どうぞ」と。
……もう少しの我慢だ！笑い顔が引きつっていたかもしれない……。

その子も用を足して出ていった……。
ようやく落ち着くことができた……。(汚い話で恐縮です！)

念願のマイクロアドベンチャー

「3時間待ちでも見る価値はありますよ」と友人に言われていた。
2時のパレード前、再びトゥモローランドへ。
「1時間待ちです」

「待とう！」
「ヤダ！」と女房とゆーた……。

「じゃ、私たちパレード見てくるから！一人で行っておいで」(--;
で、一人で見えてきた。念願のマイクロアドベンチャー！

面白かった……。
けれど、僕としてはもっともっと凄いのを期待していた。
行きたい行きたい、と言う思いが、僕の中で勝手にイメージを膨らませてしまっていたのだろう……。

乗れる日が来るのだろうか……？
「スペースマウンテン」「スプラッシュマウンテン」「ビッグサンダーマウンテン」

この3つは、一度乗ってみたいなあ、とかねがね思っているが、家族で行く限り、その夢は叶いそうにない。

女房もゆーたもその手のヤツは、ホントにだめで、

「一人で行っておいで」と言われてしまう。(。.)

一人で乗るほどアホじゃない。

その空しさを考えると、乗りたい、と言う気持ちも一瞬にして消え去ってしまう。

せいぜい、「乗りたいなあ……」と呟くことが僕の密やかな抵抗。

「来年も来たい？」

そう聞くと「ウン」というゆーた。

対象物が変わらなくても、ゆーたは毎年変わっていく。

同じように新幹線に乗り、同じように人混みの中に行き、同じアトラクションに乗っても……。

ゆーたは毎年確実に変わってきている……。

【年末の予定】

床屋に行って髪を切る。

床のワックスがけをする。

おじいちゃんの年賀状をつくる。(;)

ゆーたは「がまん」をおぼえた -1998/12/29(火) Vol.31-

「技」ではないけれど……。

ポケモンご存じない方は、ちょっと意味不明かもしれない……。

ま、いっか……。オイオイ(--;

土産物売場は、何とも言えず気持ちがわくわくしてしまう。

「こんなん、どこにでもあるジャン！」と思いながらも、つい、手が出てしまうタイプだ、僕は。

沼津の実家に行くと、ゆーたはおじいちゃんに連れられて、駄菓子やにガシャポンをやりに行くのが、一つの楽しみになっている。

直ぐに見向きもしなくなるとわかっていても……。

おじいちゃんの楽しみでもあるのだった。

「ゆーたあっ！ガシャポン行くか！」って。

昨日のディズニーランド。

着いて直ぐに、疲れが出たのか、足取りが重くなってしまった。

元気を回復させるためにも、ま、土産物屋に寄って、何か買えば……、ということで、カリブの海賊の横にあるショップに入った。

ゆーたは自分の小遣いから1500円ほど持ってきていた。

……

随分見て回ったが、どれも今ひとつみたいな様子……。

「気に入ったのがないんだろ？」

「ウン……」

「ここで変なのに飛びついちゃったら、本当に欲しいものが買えなくなっちゃうと思うんだけどなぁ……」

「……」

「ゆーたはスモールソルジャーズが欲しいんだろ？」

「ウン」

「んじゃ、お正月のお年玉を足せば、買えると思うんだけどなぁ……？」

「でも、ゆーたが欲しいもの、パパはよく分かるんだねえ」

「そりゃ、そーさ」

と云うことで、何も買わずにショップを出た。

おおおおおおお、おおおおおおお！

偉くなったじゃないか！

と内心感心してしまった。

今までは、こんなじゃなかったのにな……。

【今日の喜び】

ポストペット2001を手に入れた。(^^)/

以前のペットは、ハードディスクと共に、消えてしまっていたから……。

早速、自分宛に送ってみたが、なかなか帰ってこない……。(--;

1998年の終わりに -1998/12/30(水) Vol.32-

「目撃！ドキュン・人生波瀾万丈！」

9時になった。

「29年ぶりだモンなぁ、感動だなぁ……」

と言いながらゆーたは2階に上がってきた。

下では、特におばあちゃんがこの手の番組が好きだ。

しかもコタツがある。

2階にコタツは置いてない。買ってもない。コタツなんかを買ったら、ますます僕が布団で寝なくなってしまうからだ、と女房が言う。

コタツに入りながら、うたた寝したり……。ゆーたはそんな下での生活が気に入っている。

「今日は、な～ぁんと、2時間半も『目撃！ドキュン』をやるのであった！」と新聞のTV欄にボールペンで線まで引いて楽しみにしていた。

「感動するなぁ……」

「悲しいなぁ……」

そう言った言葉が、今年はゆーたの口から随分と聞くようになった。

現実の生活では、まだまだ「？」だが……。

「大搜索スペシャル'98 あの人は今!?歌謡大賞」
2階の僕たち夫婦は、つついTVに見入ってしまった。
いやあ、出てくるわ、出てくるわ。
懐かしい当時のニュース映像と共に、僕たちが小学校や中学校、高校だった頃の歌の数々……。

すっかりタイムスリップしてしまった。

「水色の雨」「ナオミの夢」「ベガサスの朝」「京都の恋」「大都会」。フィンガーファイブにベイシティローラーズ、ヘドバとダビデ……etcetc……

でも、でも……。
下手になった歌を聴かされると、何とも言えず寂しくなってしまった。
特に八神純子(字は?)の歌、クリスタルキングの「大都会」。
音が上がりきらなかったり、声の張りが無くなっていたり……。

かつての澄んだ声はどこへ行ってしまったんだ!

そりゃ、10年も20年も同じであるわけがない、と分かっているつもりでも、その頃の風景が、壊れていってしまうような錯覚に陥ってしまうのだった。

……年を取った証拠だな、そう思いつつ、ゆーたと同じ年の頃の自分を思い出すともなく思い返していた。「あの頃」など存在せず、「明日」しか無かった頃の自分を。

平凡な生活……

小学校5,6年生の担任の先生が言っていた。
「平凡な生活が良いのよ」
わけの分からない顔をしている僕たちに
「いつか分かる時が来るわよ」
とその先生は笑いながら言った。

人に言わせれば、僕の人生は決して「平凡」とは言わないだろう。
毎年、毎年新しいことを始め、あちこち飛び回り……そんな生活をずっとしてきた。

今年はホントに家にいるようになった。
当初予定されていたゆーたの手術もしないで済んだ。
家族が大きな怪我や病気をすることもなかった。
穏やかな一年だったと思う。

こうした日常をこの上なく大切だと思うと同時に、今、こうしている時でも、どこかで、言われのない理由で奪われていく「幼い命」のことを思う。

「人生の河は、ゆっくりゆっくり渡らないと
子孫のことが見えなくなる」

(イロコイ族の言葉)

「『生まれてきて良かった』と言える地球を。

『生まれてきて良かった』と言える人生を……」

……今年一年、ありがとうございました。

来年もたくさんの笑顔にあえますように……

【今日の出来事】

床屋に行って髪を切ってきた。

「どう？」と家に帰って女房に聞いたら、

「顔がでかくなった！」と言われた……。(;)

お墓参り -1998/12/31(木) Vol.33-

11時頃、親子三人でお墓参りに行って来た。

本当なら、ゆーたの3つ下、7歳になるはずだった。

男の子だった。

泣き声をあげることもなかったその子を、僕一人で火葬してきた。

「れば」「たら」はないとわかってはいても、もし、その子が元気に育っていたら今頃、我が家はどんなだったろうか……？

ゆーたはどんなお兄ちゃんになっていたろうか……？

女房にしてみれば、今でもその子の話に触れたがらない。

誕生の瞬間しか実感を得られない父親と、お腹に赤ちゃんができたときから、親になる「母親」の違いだろうか……？

本当に思いたしたようにしか行かない、お墓の前で手を合わせながら、そんなことを考えていた。

そして、僕たち家族を見守っててください……、と。

やはり書き続けてしまいました。

HPから考えると、なんだかんだと3ヶ月以上にわたって書き続けてきた

この日記。まぐまぐが休止していても、書きつづるのが習慣になってしまいました……。

ということで、ご迷惑かもしれませんが、1月4日にまとめて送らせていただきます。

1999年

10月からゆーたは学校に行かなくなりました。

この年、6年生のクラスで学級崩壊が起きました。2学期のことです。PTAの役員になり、学校によく顔を出すようになり、雰囲気がとても重苦しくなっているのを感じました。先生達の顔がとってもぴりぴりしているのです。

そんな雰囲気は5年生にも広がっていったのではないのでしょうか？

次第に学校の中から、おっとりとした空気が消えていったような気がします。

ゆーたは多くの優しさに支えられてこそ、成長していける子どもです。学校の中に、ゆーたのいる場所がなくなってしまったのかもしれません。

1999年1月

家族写真 -1999/01/02(土) Vol.35-

正月の二日。朝、浜松を出て、沼津の女房の実家に行く。

沼津インターを降りて、実家に行く途中に、毎年、3人で写真を撮っていく。

この写真屋さんは、沼津の教員時代、学校の卒業アルバムやら何やらで、学校に出入りしていた所。とっても気さくな人で、沼津を離れた後も、より続けている。

ゆーたが生まれてから、一度だけ行かなかったときがあるが、毎年、毎年飽きもせずに行くものだと、我ながら感心している。

写真屋さんは僕たちの写真をカレンダーにして、送ってきてくれる。

今朝、出がけに去年の正月の写真を見ながら、

「あ、去年と同じ服だ！」

と女房と笑いあった。

ゆーたは毎年毎年、服が違うが、僕たちはほとんど代わり映えがない。

もちろん、ネクタイ、背広なんかでは取らない。

でも、この日ばかりは、普段化粧をしない女房も、顔を白く塗りたくる。

ゆーたと二人で

「あ、ママ顔、白いやあ〜」

とからかう。

写真屋さんに行くとき必ず

「ホント一年って、あっという間ですね」

という言葉が出てくる。

ホントにそうだ。

一年一年が、あっという間に過ぎていく。

女房がポツンと

「いつまでここで写真を撮るんだろうね……」と言った。

数年前、義母はガンの手術を受け、その後、精神的にかなり滅入ってしまっている。

義父は元気に船を出していると言っても、もう70歳だ。

「最近は、しんどいわ」

とよく口にする。

いつまでもみんなが元気で！

そう願ってはいても「老い」は確かに忍び寄ってきているのだ……。

富士山の雪は、今年は少ないです。

明日は、釣りに出ます。

釣り、そして温泉 -1999/01/03(日) Vol.36-

今日は、義父に船を出してもらい、釣りに出かけた。

今日は、伊東の南、伊豆高原に足を延ばした。
十年ほど前、熱海に住んでいた頃、よく出かけた。

その頃は、若者向けのペンションが建ち並ぶところ、という記憶が強く、正直あまり気乗りがしなかった。
「まあ、しゃーないなあ」と実家を出発。
1時間もかからずに伊豆高原に到着。驚いた。(@_@)
いやあ、昔ながらのペンションもあるが、「～博物館」「～美術館」と言った類が随分とできているではないか.....。

してやったり、という顔を女房がする.....。(;)

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:. .:~'° 。.:*~'~*:

「ガラス工房」

最初は女房のお目当てのガラス細工の体験ができる「ガラス工房」へ。
ガラス吹きの体験をすることにした。
ゆうたはコップを、女房は寝酒用(笑)のぐい呑みをつくることに。
形、模様、模様の付け方等を自分で選び、工房の人のいわれるがままに、ガラスに息を吹き込んだりして
いくのだった。

ガラスって溶けるんだなあ.....。
こうやって形をつくっていくのかあ.....、と側で見ながらただただ感心していた。
女房は宅急便で送られてくるのを楽しみにしている。
ゆうたは.....・「熱かったから、いやだった」と.....。

「アンモナイト博物館」

なんてのをめざとく見つけたゆうた。

「行ってみたい!」と。

小さな博物館には、アンモナイトの化石が並んでいる。
その一角には、化石の入ったままの石が置いてあり、自由に削って持って行ってよいと言うコーナーがあった。
ゆうたは興味を持って始めたが、これが結構大変。挫折!
僕も挑戦。でも、面倒くさくなってやめた。
女房が.....最後まで頑張って、一つ化石をもらってきた。(;)

「ワイルドスミス美術館」

絵本作家、ワイルドスミスの原画を展示してある小さな美術館。
マザーグースの挿し絵でも有名だそうだ。
それに石坂浩二がマザーグースの訳をつけたのが、出版されている。

マザーグースファンには、ウキウキするところだろうが、僕は、もう一つマザーグースがわからない。でも、絵本は好き。ゆっくりゆっくり時間をかけ眺めていた。

女房とゆーたはさっさと回って、僕が一階の半分も見えていない頃に、二階もまわり、「さ、帰ろう！」

.....だから、こーゆーところに、女房と来るのはイヤなんだ。(--;

そんな声を無視して、二階に上がっていった。

ゆーたが来たので、絵本の面白いところを説明した。

「こーやって読んで行くんだよ」と。

意味がわかったゆーたはゲラゲラ笑い転がっていた。

どーゆー見方をしているんだ..... > 二人

他にも「からくり人形館」「蠟人形館」「オルゴール博物館」等々、魅力的なところがたくさんあった。けれど、ゆーたが大分眠そうにしているので、例によって例のごとく、温泉に立ち寄って、伊豆高原を後にした。

帰りは、静岡インター付近で15km以上の渋滞。

高速道路を降りて、国道一号線に。

自宅に帰ってきたのは、8時過ぎ、だった。

.....ゆーたの冬休みも、後2日となった。

【明日の予定】

お年玉をたくさんもらった、ゆーたと町へ出て、買い物。

チョコロQのパーツを買うんだそうだ、ヤツは。(^^)

家族そろって -1999/01/05(火) Vol.38-

僕は二人姉弟。二つ上に姉がいる。

今日は、姉貴の家族が我が家にやってきての夕食となった。

姉貴夫妻は共に小学校の教員。中二の女の子と、小六の男の子がいる。

同じ市内に住んでいるため、しょっちゅう泊まりに来たりしているが、義兄も一緒に食事となると、結構珍しい。

子どもたちはコタツで食事。

大人たちは食卓で食事をしながら、ひとしきり教育談義、というか小学校と高校の情報交換といったところだろうか.....。

学級定員を少なくする、という論議が出ているが、姉夫婦の勤めている小学校は共に市街地にあり、ドーナツ減少が進んでいる地域にある。1クラスの生徒数は、なんと15名。今年の1年生などは、ぬわんと、7名、という話にはビックリ！

今、小学校では、生徒減少期の波のまっただ中にあり、若い教員は採用したくても、できない状態にある、とのこと。

TT (TeamTeaching) をしたりして何とか仕事を見つけている、と言う側面もあるそうだ。

今後、小学校の統廃合も進んでいくかも知れない、ということだった。

う~ん.....。(;)

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*：*。：*：*！° 。：*：*：*：*：

さて、難しい話をしている子ども達が待ってられない。

姉、義兄、姪、ゆーた、おじいちゃんの五人で人生ゲームを。

僕と女房とおばあちゃんと従兄は、ジェンガでひとしきり楽しんだ。

女房とおばあちゃんは片づけもあり、ジェンガでは僕と甥の二人で何度も勝負を続けた。甥っこも結構熱くなり、最後にはかなりコツをつかんできて、高く積み上げられるようになった。

「また勝負だ！」と言って、九時前、帰っていった。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*：*。：*：*！° 。：*：*：*：*：

チョコQコースをGET

ゆーたはお年玉で、チョコQのパーツを買いに行った。

そこで見つけたのが、チョコQのコース。

う～ん、ミニ四駆のコースを思えば随分と小さいものだ！

「これがおもしろそうだね」

「ウン」

ということで、持っていった予算3000円以内に納めたゆーた、明日は朝からコースを組み立てる、と張り切っている。

僕もついついチョコQを1台買ってしまったのだった……。(^◇^)

いよいよ新学期 -1999/01/06(水) Vol.39-

明日はとうとう新学期。

ゆーたの気持ちを重くさせているみたいだ。

みんなそうだろうな。僕も教員をしていた頃、休みが終わるときの気の重さを思い出していた。

でも、今は違う。

ようやく、ゆーたも女房も学校に出かけるようになり、自分の時間が大分持てるようになるから、ゆーたには悪いが、とっても嬉しい!!!

いやだなあ……。いやだなあ……。をしきりに連発するゆーた。

「三学期にはオーボエの授業があるしな！」

などと、自分に言い聞かせている姿を見ると、おおおお、一生懸命気持ちの整理をつけてるなあ、と感心してしまう。

この三学期が終われば、ゆーたも5年生になるのだ……。

¥4,3000……

……今年の正月にゆーたが貰ったお年玉の総額……。

僕より金持ちだ……(;)

そう言えば、去年のお年玉から1万円借りて、まだ僕はゆーたに返していない……。ゆーたはすっかり忘れていたようだが……。

【まなびやML】

ML(メーリングリスト)開設しました。

メールマガジンのこと、教育のことなどを気楽に話せるように、と言うことで。MLって何、初めて。という人もどうぞ気楽に参加して下さい。詳しくは、下記URLをご覧ください。
<http://www.iris.dti.ne.jp/~osamu-s/ml/>

さよなら正月！ -1999/01/07(木) Vol.40-

さて、ゆーたの学校が始まり、女房の学校も明日から。
年賀状ももう来ない.....だろう。
次第に正月の雰囲気は姿を消していく。

冷蔵庫。
年末年始に比べ、随分と寂しくなったものだ。

ゆーたがイクラを見つけた。後りはわずか。
「あ、イクラだ！食べるう～」
女房がパッケージを見たら、賞味期限は過ぎている。
「ゆーたね、これ、賞味期限が切れているし、生ものだからねえ.....。
傷んでいるといけないから、パパにあげな、ねっ」
「うん、わかった！ハイ、パパ」

この二人は僕をなんだと思っているんだろう.....。
それでも、食い気に負けて、そのイクラを食べてしまった自分が悲しくもあるが.....
.....今、現在、別に調子は悪くはない.....。(;)

¥43,000
> ふいふ。あらさがし。。
> | ¥4,3000.....
> ¥43,000 ですね！
という心温まる、突っ込みを何人かの方から頂きました。(^^ゞ
いやぁ、これも正月ボケ.....

雪だぁ！雪だぁっ！ -1999/01/09(土) Vol.41-

寒い、寒い！
昨日から急に寒くなった。
午後には、雪がちらつき始めた。
浜松では珍しいこと。
ゆーたは「雪、雪～」と喜んでいる。

静岡県の西部地方は、西風が強く、それが体感気温をぐっと下げる。
幼い頃から、「雪」と言えば南アルプスから吹き下ろす風に乗ってやってきた。
だから、雪は横から降ってくるものしか知らなかった。
「あ、雪が降ってきた」と言って、首を横に振るのだった。

上から降ってくる雪を初めてみたのは、大学受験で岡山に行ったときだった。
次から次へと上から降り続く雪.....。

「舞い降りる」というのはこういう感覚なのか、と初めて知った。

思わず足を止めて、上をずっと見続けていた。

今でも雪が降ると、僕もゆーたと同じように、ワクワクしてきてしまう。

「雪」は僕たちの生活から、全く遊離したもので、雪国に住む人たちの苦勞、楽しみ、そして雪害の恐ろしさを、僕たちは知らないでいる。

カッカッカッカッカッカッカッ-----ん

どう表記したらいいのだろうか？

昨夜、台所から聞き慣れない音がした。そして「ヤダぁ～！」という女房の声。

ゆーたと僕は思わず女房の方を見た。

ゆーたは直ぐに女房の所へ

「何、何？ 事件……？」

と言って寄っていった。

「ヤカンに、お米入れちゃった～」

しばし爆笑！

学校が始まったというのに、まだ正月モードから、抜けきれないようで……。

パパ、怒ってる？ -1999/01/10(日) Vol.42-

午前中、女房は部活で学校へ。

朝食を下で食べてきたゆーたは、九時少し前二階に上がってきた。

「薬飲んだの？」

「顔洗いは？」「歯磨きまだだろ？」

あがってきたゆーたに矢継ぎ早に僕は言った。

ゆーたは友だちに遊ぶ電話をしようと、二階に上がってきたようだった。

それを遮られる形で僕の言葉が飛ぶ。

ゆーたはモタモタ、モタモタしている。

「早くやんな！」

僕は換気扇の下でタバコを吸い始めた。

煙が中に入らないように、吹き出し口に向かっている僕の姿をゆーたはどう見たのだろうか？

「パパぁ……」

「ん？」

「パパ、怒ってる？」と。

ドキ、とした。

別に怒っているわけではないが、何度も何度も同じことを繰り返し言っているとついつい口調がきつくなっていくのが自分でもわかるのだ。

ゆーたは、位置関係をつかむことがうまくできない。
右と左を理解するのも随分時間がかかった。
また、抽象的な事柄を理解する力も、まだまだ弱い.....。
だから、できるだけ僕は口で説明するようにしてきた。
日常生活のことも、ものをつくったり、とったりするのも、できる限り口で説明し、それを理解するよう
に、と。

しかし、同じ説明を何度も何度もしていくと、その度に、イライラが現れてきてしまうのだった。
ゆーたは僕のことを「こわい」と思っているようだ。
僕の顔を随分気にするようになってきたと思う。

これじゃあいけないなあ、と最近強く思う.....。

僕って一体？ -1999/01/12(日) Vol.43-

昨日の夕方のこと、ゆーたが翌日の支度をしていた時。
「あ、パパあ～。算数ノートがないんだ。みよし屋さん（学校の側の文房具屋）で買ってきて～」
「ん？ 明日算数あるのかあ？」と換気扇の下から僕は返事をした。
「ウン、あるよ」
「じゃあ、今から行こうか！」
「えーーーーーっ！ だって寒いジャン！」
「じゃあ、パパは寒くてもいいってのか？」
「ウン」

.....結局、ゆーたも一緒に行くことになったのだが.....???

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

これも昨日。
夜、少し出かけないといけないので、片づけを急いだ。
お米を洗って、スイッチを入れて、っと.....。
ヨシヨシ。

我が家は、僕が夕食の片づけが終わるまでに、お箸やお弁当箱を出さなければ自分で洗うことにしてい
る。

ゆーたは自分で洗うことが多い。

さて、片づけお終い！ 丁度その時、電気カーペットの上で、新聞を読みながら食後のコーヒーを飲んでい
た、女房が、
「あ、お弁当箱っ！！」と。
「ダメ～、自分で洗いなっ！」.....ざまーみろ、ってんだ！

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

この前の日曜日、女房がお汁粉を作った。

友だちが帰った後、ゆーたの予定帳を見た。

(;)

持ち物や、授業の予定はしっかり書いてある。
がっ、宿題の所は、何も書いてない！！！！

やられた！ と思った。

今日、ゆーたに
「最近、わざと宿題だけ書いてこないんじゃないの？」と聞いてやった。

ゆーたはニタニタ笑って何も答えなかった……。

号外 -1999/01/14(木)-

「子育て・学校・子ども達」「ぼちぼちいこっ！」「まなびや」の各メールマガジンの読者の皆様へ、お送りしています。重複する方は、ご勘弁下さい。

+-----+

昨日、千葉県にお住まいの、もこさんより、下記のようなメールを頂きました。
内容から考え、多くの方に知ってもらうと同時に、専門的な立場や、同じような経験をされた方、こうした問題への考えかた等々……アドバイスも頂きたいと思い、号外として発送させていただきました。

=====

私は11歳の小学校6年生の男の子と4歳の保育園児の女の子を持つ働く母です。
こんな世の中ですから、心と身体を丈夫に育てる子育てをしてきたつもりです。働いている母親なので、子どもにも負担をさせている部分も多々あるのですが、勉強云々より、きれいな夕日を見て「きれいだねえ」と言える親子でありたいと思ってます。

さて、前記の事件は、先週の土曜日に起きました。
夕方、下の女の子を連れて買い物に出かけ、帰宅すると、長男が号泣しています。
電話で、脅迫されながらクラスの友達の電話と名前を言ってしまった……という訳です。

最近その手の名簿入手の悪質な電話があるので注意してください。と学校から連絡が来ていましたし、子どもにも「へんな電話がかかってきたら切っちゃいなさい！」とっていました。
でも、実際にはやっぱり難しい。

相手の言い分です。
「やくざの自分の親分のバイクが、倒されて壊れた。目撃者の証言から犯人は小学校六年生だとわかった。それで子分で手分けして探すことになり、自分はおまえの学校を調べることになった。クラスの子の名前と住所と電話を言え！」

長男が『言いたくない』というと……

「自分はおまえの名前も住所も知っている。やくざの親分はナイフを持っていて人を簡単に殺せる。ぼこぼこにされたいのか？ 電話を切ったらすぐ行くからな」

……と後は、泣きながら、名簿の友達を一人言うたびに、「もっているだろう」「親に言ったらすぐいくぞ」と脅しをいれながら結局全部言わされてしまったようです。

電話を切って五分後くらいに帰宅した私が訳を聞いて、担任の先生に連絡を取ろうとすると「そんなことしたらぼく殺されちゃう。」と泣きます。

担任に連絡を取り、警察にも通報しました。

学校の対応は、緊急連絡網を流す事です。

「脅されてクラスの名簿を言うてしまう事がありましたから、注意してください。悪質な電話には毅然と対応してください。」

「誰が」と言う事は伏せてあったのですが、まわしてくれたお母さんが「困っちゃうわよねえ」と言っているのを聞き『毅然と対応』できなかった我が子が責められている気がしました。

警察の対応は、(110番通報でしたので)近くの派出所から電話が入りました。

「相手も高校生くらいかもしれないねえ」「まあやくざの親分はバイクなんかのらないから」「今後不審人物がうろついていたいたらすぐ連絡してください。」というものでした。

母親の私が言うよりと電話口に子どもを出しておまわりさんに話しをしてもらったら少し安心したようでした。

ナンバーディスプレイの電話でない事を後悔したり、買い物に行った事を後悔したり……

心優しく、心豊かに！と大事に子育てしているのに、一瞬にしてそれを無にしてしまうような卑劣な電話。

言っではいけないと言われている名簿を、殺すぞ！ぼこぼこにするぞ！と脅され泣きながら言わされたのか・・・

でも、警察には些細な事件ですから、N T Tに電話番号の開示請求をだしたりする凶悪事件ではないのです。

長くなってすみません。

最近、インターネットや電話の犯罪が増えているということにちょっと関連しているようで長々書き込みしました。

我が子の事件なので、感情的になりすぎているでしょうか？

やっぱり第三者的には、そんなに大袈裟なものではないでしょうか？

いま、警察に徹底捜査を！と言いに行くべきかどうか悩んでいます。

よかったらご意見をお聞かせください。

=====

こうした行為が許されないというだけでなく、息子さん傷ついた心を癒してあげることが大切だと思いました。

また、この電話がどんな事件を引き起こすかわからないほど、今の社会は病んでいるというのが、メールを頂いたときに感じたことでした。

「僕は警察に遠慮する事ではないと思う」ということと、メールマガジンでの発信をお願いしました。

もこさんより、今朝ほどメールが届きました。

併せてご紹介します。

=====
おはようございます。
さっそくお返事をありがとうございます。

警察に行くに当たって、ひとつだけ心配なことは、今回相手が公衆電話以外でかけていた場合は特定できるとおもうのですが、逮捕(?)された場合、相手も思い当たるところがあるので、報復されないか?ということです。

多くの方に、意見を伺える機会を、ありがとうございます。
是非、お願いします。

最近、近所で、小学生が突然なぐられたり、通称「ホチキスおじさん」と言って、「手をだしてごらん」言われ、手をだすと、ホチキスでパチン! というような信じられないような事が起こっています。

痴漢というより、追いかけて逃げるのを楽しんでいるような「緑のマウンテンバイク男」とか、弱いものへ弱いものへと矛先をむけていくようで、ほんとに世の中どうなっていくんでしょうか?

今日も我が子は、元気に登校したようです。(親のほうが先に出勤してしまいます。) 先生、友達、友達のお母さん方に支えられて、ここまで来ました。
そんな我が子の一大事、やっぱり泣き寝入りは、やめたほうがいいですね!

=====
よろしくお願いします。

鈴木 修

粗大ゴミ -1999/01/14(木) Vol.45-

「ねえ、ゆーたあ、レコードって知ってる?」
「わからん!」

こういう時代なんだなあ.....。

先日、業を煮やした女房が市役所に電話をして、レコードプレーヤーとFMチューナー、そしてファンヒーターを粗大ゴミとして処理してもらうように連絡を入れ、ついに月曜日にゴミ集積所に出しに行った。

このプレーヤーや、チューナーは僕が社会人になった年に買ったもの。だから、20年近く前のもの。もう、壊れてしまっていたのだが、捨てるに捨てられずずっと我が家に居座り続けてきた。

ファンヒーター。こちらは、僕が独身時代にお世話になっていたもの。

昨年点火するたびに煙を吹きだし、修理しようにも部品が、と言われたもの.....。

修理するより買い換える方がよほど安くつくのって何だかおかしい、と思いつつ、集積所に持っていった。

我が家に使っていないパソコンのマザーボードとCPU(MMXPentium200)がある。今となっては、「遅い」部分に入るのだが、十分に使える。

メモリーも余っている。

「最初に言ったのとはちょっと違うと思うぞ……」

ゆーたは、部が悪くなったと見えて、さっさとご飯を食べ終わり、チョコQで遊び始めた……。

ヨッシャ、勝った！ (^)v ……オイオイ

【もこさんより】

転送していただいたメールを読んで、ほんとに涙がでるくらい感激して、勇気百倍！といった感じ
です。

あらためて、インターネットの「すごさ」を実感いたしました。

情報化社会の武器は、ほんとに良いようにも悪いようにも使えるということでしょうか？

その後、息子はなにもなかったように元気に学校に行ってます。

大人より精神的にタフにできている……ってことでしょうか？

でも、相変わらず電話だけは出ませんが……

この週末に電話をナンバーディスプレイ式のものに買い換えようと思います。

警察や学校のその後も、何か変化がありましたら、お伝えします。

今まで、情報を受ける一方で、なかなかメールを送ることができなかったのですが、感じたことを
すぐに返すことも大事なんですね。

ほんとうにありがとうございます。

「インフルエンザ」 -1999/01/16(土) Vol.47-

朝、ゆーたが、「どうも調子悪いから、今日は休む～」と言って、なかなか布団から出てこなかった。

よく、休みたいなあ、とは口にしても、「5分間休憩したらね」等と自分で言いながら、気持ちを切り替
えるようになった。

「調子が悪い」と言うのに、以前無理に学校に行かせて、熱がどばっ！ と上がったことがあった。

学校に迎えに行った時のゆーたの顔……。

目に一杯涙をためて、

「今朝、調子が悪い、って言ったのに、パパったら『行け、行け』って言うモンだからっ！ こんなに熱が
上がったじゃないのぉ～」と言われた。

ホントに体調が悪いときは、「悪い」と言えるようになってきた。

で、今日は学校を休ませた。

じいちゃん、ばあちゃんも昨日から、和歌山まで法事で出かけていて留守。

ゆーたと僕の机が並んでいる部屋に、布団を敷いて寝かせた。

朝は七度ちょっとだった熱が、8度台まで上がっていった。

かなりしんどそうだ。

昼過ぎ、女房が帰ってきた。もう少し様子を見て、熱が上がるようだったら病院に連れていこう、と。

布団の中に寝転がって、コロコロコミックを見ているゆーた。

時々、「パパあ、六甲のおいしい水買ってきて～」などと声をかけてくる。

僕も小さい頃、熱を出して布団に入っていたとき、天井がやけに怖く見えた時があった……。

夕方になると、熱も大分下がってきた。

夜寝る前には、七度に……。

熱が下がると、途端にうるさくなる。

う～ん、静かにしてくれ！ (^)

【女房、メールに挑戦！】

女房にメールが届きました。大学時代の友人から。

メールアドレスは、勿論僕の方に.....。

ということで、女房用にメールアドレスを作りました。

メールソフトですが、僕はbecky!を使っていますので、女房がOutlookExpressを使うようにしました。これで、プライバシーは、一応確保。

ということで、お暇な方は、女房宛にメールを送ってやって下さい。

但し

1、返事は期待しないで下さい。メール初心者ゆえ (^)

2、女房との力関係で、僕が弱くなるような話は「厳に」謹んで下さい。

死活問題です。(^^)

まあ、動物園の猿をからかうような(いけないんだ!)乗りで、結構です。時間つぶしにでも、どうぞ.....。

.....一応、インターネットにつないだときは、メールのチェックをしているみたいだ。出してもないのに、来るわけない、つつうのに。(;)

熱、再上昇！ -1999/01/17(日) Vol.48-

朝起きたら、ゆーたはさっさと下へ行ってしまった。

なかなか二階に上がってこない。

昼前、下に行ったら、熱が次第に上がり始めている、とのこと。

午後になって、熱はさらに上昇。9度近くまで上がっていた。

ぐったりしていつもの元気がない。しんどそう.....。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

ゆーたは生後半年の手術で、頭部から腹部にかけて、「シャント」という管を通してている。(脳にたまる「水」を逃がすため)

医者に小さい頃から言われてきたことは、

高熱により、ばい菌が入り、髄膜炎を起こさないように注意すること。

シャントの入れ替え手術が必要になることも.....。

熱性の痙攣を起こさないように、ということ。

痙攣止めの薬は朝晩、きちんと飲ませ続けること。

この二つは言われ続けてきた。

熱が出るたびに、髄膜炎、痙攣、この二つにいつもビクビクしてきた。

今は、大分ゆーたも体力がついてきたのだろう、風邪も引かなくなった。

自分で自分の症状をきちんと伝えられるようになってきたので、以前ほどのビクビクは薄らいではきている。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

弱々しい声、トロンとした目で、
「病院連れて行って……」と。
熱はまだまだあがりそうだ。
夕方、いつも行っている病院の救急外来へ連れていった。
……凄い人だった。インフルエンザの人が多いのだろうか……。
赤ちゃんや、小さな子ども達が多い。
赤ちゃんなど、ただ泣いているだけ。抱いているお母さんは、狭い待合室で周囲を気にしながらも、ただあやすことしかできないでいる。

やっと順番がやってきた。
「のどが真っ赤ですね～」「明日か明後日、また見せに来てください」とのこと。
来週も結構休むんだらうな……。

【お礼】

女房へのメールありがとうございます。
何人かの方が、早速メールを送って下さいました。ありがとうございます。
「これ、返事書かないといけないのぉ？」……(;)
「なんか、授業中生徒達が手紙回してるのみみたいだね……」
……こんなもんでしょうね。メールかいていただいた方、こんな調子ですので、返事は……？です。ごめんなさい。
そうそう、このメールマガジンに返信されると、「僕宛」になってしまいます。
メールチェックしたときに、女房宛のメールを開いてしまって、思わずドキリ！
小学校の時、学校の裏山でヌード雑誌を見つけたときの感覚が蘇りました。

お墨付き、GET！？ -1999/01/18(月) Vol.49-

夕食の食器を洗っているとき、
「そうそう、メール来てるみたいだよ」と女房に一言。
「そう、じゃ、見てみるわ」と、女房はパソコンに向かって、覚えてたOutlook Expressを起動した。しばし、メールを読んでいた女房……。

「ねえ、ちょっとお！」声がきつい。ドキッ！
「一体、なんて書いてるのよ。何書いたか、見せなよ！
ホームページ見たって、最近の日記、読めないじゃん！」

「だから、大したこと書いてないってば」
「んじゃ、見せてよ！」
「ホント大したことないってばあ」
「いいから！見せれば良いの！」

……HPには整理していないので、仕方なく、テキストファイルを開いて見せた。
「……………」
「……この日は？」
「ふ～ん……」
「私のメールアドレスを知らせたときは？」
「……………」

次第に、文章に難癖を付け始めた。
「この書き方はなによぉ〜。」(--;)

しばらく読みながら、
「もう、いいよ。あっち行って。食器洗いまだなんでしょ？」

なんなんだよぉぉぉぉぉぉぉぉぉぉ！ (..)

どうやら、納得したらしい。
考えてみれば不思議なことだろう。
全く見知らぬ人が、自分のことを知っているのだから。
プライバシーも何もあったモンじゃない、そう感じるのは当然だろうな。

「そんなに何を書かれているか、知りたければ、メールマガジンの購読をすればいいだろ？」言いたいことがあるれば、原稿書けよ。そしたら、メールマガジンに載せてやるから！」

そう言ってやった。ハハン、だ。(^^)v

最後の方では、ニタニタしながら読んでいたから、ま、大丈夫だろう。
勿論、この話が今日のネタになるということは、感ずいているみたいだったが……。まずはメデタシ、メデタシ……。(^)/

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

ゆーたは、熱がすっかり下がった。
でも、まだ頭がくらくらする、と言っている。
午前中、病院に連れていこうと思ったが、六度五分の平熱。
変に風邪の菌が蔓延しているところに連れて行くよりも、様子を見ることにした。

体調が良くなってくると、やっぱりじっとしてられない。
退屈で仕方ないのだ。
同時に、「学校行きたくないなぁ」という言葉が口から出てくるようになった。もう少しだな……。

女房は、しきりに私にきたメールを読んでもでしょ？ と疑っている。
読もうと思えば読めるけれど、読んでない。
そう言っても、なかなか信用しない。これも日頃の行いか……。(;)

続・インフルエンザ -1999/01/26(火) Vol.50-

一週間ぶりの「ぼちぼち……」です。
先週の火曜日の夜辺りから、どうも調子が出なくなりました。
日曜日に救急に連れて行って、ゴホゴホやっている待合室にいたり、「これはまずいぞぉ……」と思っ
てはいたんです。
で、水曜日。
外出先でどうも、頭が重い。体は相変わらず重たい……(;)
寒気がする……。

コンビニで「鍋焼きうどん」とタバコを買って(笑) 家に帰り熱を計ったら38度8分。普段熱などほとんど出したことのない僕にとって、この熱は、異様な高さ。

フラフラしながら布団を敷いて潜り込んだ。

ますます寒気は強くなる。

とりあえず、女房の職場に電話を入れて、ゆーたのこともあるから早く帰ってくるように伝えた。

しかし、その日は生徒のことで女房が帰ってきたのは八時過ぎ。

電話の一本くらい入れても良いのに……、と布団の中でひたすら帰りを待っていた。

女房が帰ってきた。

下でもおばあちゃんに「電話くらい」と言われてカチンと来ていたらしい。

二階が上がってきた途端、僕も「何してたんだよお！電話くらいいれられるだろっ！」と。

よけいに頭にきたらしい女房は、怒って口をきかなくなってしまった。

立ち向かう気力も体力もない僕は、何も食わずにそのまま布団にくるまっていた……。 (T_T)

ゆーたは結局一週間学校を休んだ。

昨日の月曜日から、元気に学校に行くようになった。

僕の方も、すっかり良くなった。

と思ったら、今度は女房とおじいちゃんが、寝込んでしまった。

女房は学校を休んだ。

3年生の担任だから、後、生徒が登校してくるのは今週だけ、と言う。

ま、仕方ないわな……、と僕。

今もパソコンのおいてある部屋に布団を敷いて寝ている。

「リンゴが食べたい……」

「背中をさすって欲しい……」

……たまに目を開けて新聞何ぞを広げ、面白い記事があると、

「ねえねえ……」

と、とにかくうるさい……。

「この前の夜、俺が熱出していたとき、ヨシコは俺に何をしてくれた？」

と、ここぞとばかり言ってやった。(^^)v

今は、疲れたらしくまた眠っている。

そんなかなで、ようやく落ち着いてパソコンに迎えるようになった。

これを発送したら、買い物に行かなくっちゃ……。

色々心配して下さって、メールを頂きました。

もう、ぱっちりです。

続々・インフルエンザ -1999/01/28(木) Vol.51-

午前10時です。

ようやくゆっくりとパソコンに迎える。

昨日と言い、今日と言い、目がさめたのは七時前。

慌てて起きて、ゆーたの朝ご飯の支度、出かける準備……。
「早く、早く！」「アレは持ったのか？」「薬、薬！」
せかせてせかせているうちに、女房が起き出してくる。

「卵焼き、しょっぱい……」
「みそ汁、味が濃い……」
「コーヒー飲みたい……」

食器を洗って、洗濯物を干して、布団を干して、掃除機をかけて……。女房は、大分体調が良くなったのか、口うるさい。

「あそこがまだ、汚い……」

九時半を回って、パソコンのスイッチを入れた。

「おやつがないかなあ……」
（ ; ）
「お昼は何、作ってくれるの？」
（ ; ）
「ねえねえ……」
「ん？」
「朝日テレビ、って何チャンネルだっけ？」
「……」
「ねえねえ、若の花ってこの前優勝できなかったんだっけ？」
「そう」
「ねえねえ、若の花って離婚しちゃうの？」
「俺はワイドショーレポーターじゃないっつーに！」

「ねえねえ……」
「はぐれ刑事純情派、10時からやるんだよ」

わあああああつあああああああつあああつあああああ！
頼むから静かにしてくれ！！！！

最近、女房がよく口にする。
「ったくもー」と言うようなことがあると、
「メールマガジンのネタになるでしょ？ (^) 」と……。開き直るようになってきた……。(-_-;)

1999年2月

ぼちぼちいけなくて -1999/02/15(月) Vol.52-

実に二週間以上も書けませんでした。
1月の下旬のインフルエンザもさることながら、ゆーたが今、色々と壁にぶつかっています。
一つは友だちと絶交した、ということ。

よくあることです。

しかし、それに伴い精神的にとても不安定になり、学校や家で感情を爆発させ、わけのわからないことを口走ったりします。

「わがまま」と言ってしまえばそれまでです。

しかし、そうした状態になったときのゆーたは、手が着けられず、こちらも声を荒げてしまいます。

友だちとのトラブル。

結局は、ゆーた自身が解決していかないといけない問題なのですが、毎日のようにちょっとしたことで、感情を爆発させるゆーたに振り回されています。

僕も小学校五年生の時、クラスみんなに嫌われ、担任の先生にも「だからお前はみんなに嫌われるんだ！」とクラスみんなの前で、言われたことがありました。

悩むときなんだろうな.....。

大きな壁にブチ当たっているゆーた.....。

今回も越えねばならないハードルが高くなりすぎないように、なおかつ、決して妥協しないところを探しています。

それがなかなか見つからないところが、とっても苦しいですね.....。

さあ、今日はメールマガジンを.....なんて思っても、寝る前、朝、ゆーたが滅茶苦茶になると、それだけで気持ちが落ち込んでいってしまいます。

「どうしたんですか？」とメールを多くの方からいただきました。

一つ一つになかなか返事を書けないのが実状です。

でも、途中で何も言わずにこのメールマガジンが消滅するようなことはしません。

ぼちぼちいけないとき、そうしたときもありますから、ご勘弁を.....。

『...というわけで』 -1999/02/16(火) Vol.53-

1987年3月27日

12年前、僕たちは結婚しました。

その時に、二人で「.....というわけで」という本を作りました。

その中に、僕の小学校時代のことを書いたところがあります。

この間、ゆーたのことで、あれこれ悩んでいるとき、とうじ書いたものを読み返しました。

12年前の文章ですが、少しずつ、「ぼちぼち.....」紙上で、紹介していきたいと思います。

当然、12年前の文章ですから、今の僕の考え方とは、異なる部分もあります。でも、そこには、12年前、29歳の時の僕が確かにいます。そして当時の僕が見つめた小学校時代の自分が.....。

.....これでネタが当分無くなることもないな.....オイオイ(-_-;)

:*:.'° 。.:*:.'° °.'*:.'° .:*.:'° 。.:*:.'*:

「やさしさについて」

~だからお前はみんなに嫌われるんだ ~ その1

斉藤隆介

「八郎」「三コ」「花咲き山」等の作品で知られる斉藤隆介という作家は、彼のどの作品を取り上げてみても、「やさしさ」というものをテーマにしている。それは「強さに裏打ちされたやさしさ」と言えよう。

やさしいと言うことは何でも許容することではなく、一見、相反するように思える厳しさと表裏一体のものであるということ、更には個人的なレベルのやさしさ、マイホーム的なやさしさではなく、民族的なスケールを内包する大きなやさしさが今日求められているのだということを彼の作品は教えてくれる。

そんな斉藤隆介の作品を僕に教えてくれたのが、小学校五、六年の時の担任であった長谷川正子先生であった。(僕が小学校卒業後結婚され、中野先生となったが、ここでは長谷川先生と呼ばせていただく)

小学校時代の僕を一言で言うなら「優等生」。とにかく勉強はよくできたと思う。「自分は頭がいい、勉強ができるんだ」ということを「自覚」した子供であった。たとえば班で小テストの競争をした時、点数が悪い子に向かって「さんができなかったから、僕らの半の平均点が下がったんだ」というようなことを平気で口にする人間であった。

今でも思い出すたびに恥ずかしく、申し訳ない気持ちで一杯になる。この類の思い出が僕の小学校時代にはたくさんある。

次第に自我も目覚め始めている5、6年生ともなれば、そんな人間を許さなくなる。僕はみんなから嫌われるようになっていった。

「修君とは一緒に遊びたくない！」

そう言われたこともあった。しかし、一方で僕の幼い自我は、自分が嫌われていることを知りつつも、それを容易には認めようとしなかった。

6年生のいつの頃か忘れた。また、その時、具体的に何をしたのかも忘れたが、帰りの学活の時、長谷川先生がみんなの前で僕に向かって、

「修！ だからお前はみんなに嫌われるんだ！」

と言い放った。

その時初めて、「僕はみんなに嫌われているんだ」ということを認めたのだと思う。同時に「このままではいけないんだ」と思うようになった。

しかし、そうは思ってみても、自分を取り戻すこともなく僕の小学校時代は終わっていった。この長谷川先生の言葉だけが小学校卒業後もずっと、自分の人間形成に多大な影響を残して……。

(明日に続きます)

「よかったです」「頑張れ～」「もう一度登録し直したりもしました」等々メールが届きました。ホント嬉しいです。ありがとうございます。

絶交 -1999/02/17(水) Vol.54-

今日は、久しぶりに5人の友だちが集まった。

スマッシュブラザーズ(ゲームソフト)やマンガの本を持ってきたり、ドラクエモンスターズ、相変わらずのポケモン、カード……。

五時には家に帰すようにしているから、そんなに遊ぶ時間は多いわけではない。でも、みんなで順番に

やったり、中には一人でマンガを読んだり、友だちのやっているのを見ていたり.....。

で、その中の一人はただ今「絶交中」のB君だった。

「今日、君と、B君と.....が遊びに来るよ」学校から帰ってくると、ゆーたはそう言った。

「あれ？ B君とは仲直りしたんか？」

「ウウン、絶交しているよ」

.....ぽよよよよよおん。おさむは こんらん した.....

B君もゆーたに対しては何となくぎこちない。

言葉もちょっときつめ.....。

おやつを食べているとき、B君が

「ねえ、おじさん、またどこか連れて行ってよ」と。

う~ん。「絶交」っているいろいろあるんだなあ.....。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.° .:.:.:'° 。.:*:.:~*:

「やさしさについて」

~だからお前はみんなに嫌われるんだ ~ その2

修君は友だちがたくさんいる..... (前半)

中学校時代の僕は「嫌われる」ということに必要以上に神経質になっていた。

何気ない一言で相手の気分を害し、嫌われたのではないかと、とくよくよ悩んだこともあった。相手を傷つける以上に自分が傷つくことを恐れていた。

反面、「やさしさ」というものに飢えていた。人からやさしくされることがとてもうれしく、できる限り「やさしい」と言われる友だちに近づいていこうとした。そして「人にやさしくされたいのなら、まず自分がやさしい人間になるべきだ」という「発見」をした時から「やさしい」と言われる友だちなどを観察するようになっていった。

どういう人間がやさしいと言われるのだろうか.....と。同時に自分の行動においても「やさしさ」が一つの基準になっていった。

廊下で物を落とした人がいると、

「あ、こう言うとき、何も言わずにすっと拾ってやれる人間がやさしい人間って言われるんだろうなあ」と考えてから行動に移していく、という具合だった。

こう書いてくると、中学時代はとても神経質な、他人の言葉にビクビクした暗い毎日を送っていただけのように感じるかもしれないが、決して友だちがいなかったわけではない。

今でもつきあいを続けている友人も見つけれられたし、部活動を通して人間関係もひろがっていった。

しかし、中学時代全般を振り返ると、根底には人の顔色をうかがっている臆病な自分がことあるごとに顔をのぞかせていた。

それは他でもない、小学校の時のように嫌われたくない、という思いが、一種の強迫観念のように僕につ

きまっていたからだる思う。

(後半は明日です)

「よかったです」「頑張れ~」「もう一度登録し直したりもしました」等々、メールが届きました。ホント嬉しいです。ありがとうございます。

三寒四温 -1999/02/18(木) Vol.55-

朝。NHKのTVでは、天気予報が流れていた。

「いやあ、また寒くなるのか.....。三寒四温だね.....」

そう言った僕の言葉に、女房は何の反応もしない。ゆーたはもちろん言葉の意味などわかっていない。もしや、と思い、

「ねえ、三寒四温、って言葉知ってるう？」

女房は、しばらく沈黙.....。

「あれ？ 知らないの？」

と優越感に浸りながら、そう言ってやった.....。(^^ゞ

「わかった！ 3月は寒いけれど、4月は暖かい！ってヤツだ！」

これはゆーたの答えではない。女房の答え。

.....(;)

「わかった！ 山間部の山間だ！！」と再び女房が言った.....。

ますますもって、目が点に。

その後しばらく笑い転げてしまい、ご飯どころではなくなってしまった。

「.....これはね」と説明してやった。

すがすがしい朝のスタートだった。(笑)

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

「やさしさについて」

~だからお前はみんなに嫌われるんだ ~ その3

修君は友だちがたくさんいる..... (後半)

そして、高校へ。

部活は中学からやっていた卓球部へ。その練習の厳しさの中で、僕の甘ったれた根性が鍛え直されていった。少しずつ、他人の目を気にするよりも自分自身の精神、行動に目を向けるようになっていった。

そういう中で、共に苦楽を分かち合う仲間巡りに巡り会えたことは、僕の人間形成に大きな影響をもたらしたと言えよう。

高校時代は、自由奔放に生きた、という思いがある。

悪いことをやって学校に親が呼び出されたこともあるし、停学になったこともある。酒を飲み、タバコを

覚え、麻雀を覚え、好き勝手に過ごした高校三年間をオフクロなど心配で心配で仕方なかったらと思う。

高校三年の時、仲の良かった女の子に、

「修君は友だちがたくさんいて、本当にうらやましい……」

と言われ、その言葉に何とも言えない救いのような物を感じることができた。
文化祭のコンサート（*）をやり終えた次の日、教室の北側の一番後ろの席で……。

（明日は「14年振りの再開」）

（*）文化祭のコンサート

3年生の時のこと。友人と二人でアコースティックギター二本で1時間半のコンサートをやりました。悪仲間、クラスの仲間、とにかく大盛況でした。

翌日は、気が抜け、ぼわーん、としていたのを覚えています。

声をかけてくれた彼女とは、その後、結婚する、しない、などと言う所までいきそうになりましたが、結局、タイミングが合わずすれ違ってしまいました……。若い頃の話です。

どうやら女房がこの「ぼちぼち……」の購読を申し込んだようだ。
油断がならない……。(;)

ダッチオープン教室 -1999/02/20(土) Vol.56-

午後から、3人でアウトドアショップに出かけてきた。

そのアウトドアショップでは、材料費だけでダッチオープンを使っての野外料理を教えてくれるそうだ。

もちろん、僕とゆーたは、「作る」ということにはあまり興味があるわけではなく、女房に「付き合わされて」の外出だった。

外は寒い。

駐車場の一角で、料理づくりが始まった。

……。ゆーたと僕は、車の中で昼寝。

目を覚まして少し様子を見に行ったが、ただ、仕上がり具合をじっと見つめていることなど、僕たちでできるはずはない。

おまけに寒いときている。空からは雪がちらついたりもするような天気。

僕とゆーたは車に戻り、ドラクエモンスターズに興じていた。

時々、「チキンができたよ」とか「パンが焼けたよ」と呼びに来る女房の声に答えて、試食に行き、また車の中へ……。そんな午後だった。

女房はすごぶる満足。

ゆーたは、新しい「ぬし」をやっつけて満足。

僕は、僕は……。ま、運転手だったな……。。(;)

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:'.。.:*:・'° 。.:*:.....*:

「やさしさについて」

14年ぶりの再開

大学に入り、寮生活を送ったことも大きな意味を持った。そこで多くの先輩、後輩、仲間に出会い、自分を怒ってくれる人たちに巡り会えたことにより、ようやく僕は自分が嫌われ者である、という小学校時代からの思いを断ち切ることができたように思う。

しかし、小学校時代からの思い出を遠ざけようと言う気持ちはぬぐい去れなかった。そんな思いを完全に断ち切れるようになったのは、長谷川先生と14年ぶりに再開できたからである。

偶然……と言ってしまふにはあまりにも信じられないことだった。

三年前の目の手術の時、浜松で静養していたある日、姉の家へ遊びに行った。
(姉は同じ小学校の先生と結婚していた)

学校の話から、僕の小学校時代の先生の話になり、教職員名簿をめくっていたら、何のことはない長谷川先生が、姉の旦那さんと同じ小学校に勤務していることがわかった。

その時の驚きと、うれしさと懐かしさと……。

その日すぐに先生に電話をした。十年以上経って久しぶりに聞く声であったが、受話器から聞こえてくる先生の声は、昔と少しも変わりはない。

何とも言えない甘酸っぱい思いが胸の中に広がっていった。

その時の僕の状況等を話し、そして、近いうちに是非お会いしたいということを伝えて 電話を切った。

沼津に帰りすぐに先生に手紙を書いた。

懐かしさと、それ以上に自分をここまでしてくれた先生へのお礼の気持ちをこめて……。

折り返し先生から十枚以上に及ぶ返事が届いた。

(明日は「先生からの手紙」です)

何よ、アンタ。これ、って昔に書いたのを書き写しているだけじゃない。手抜きね。

女房殿の感想でした。……じゃかぁしい!

……ってこれも読むんだらうな。(;)

舟釣り計画 -1999/02/21(日) Vol.57-

今日は午前中から、「絶交中」(笑)の友だちが遊びに来た。

二人して、ボンバーマンのゲームをやったり……。

午後3時過ぎには、その子も含めて、もう2人、計3人が遊びに来た。

この子達は、学校でもゆーたの面倒をよく見ている。

いろんな場面でフォローをしてくれている。

3月14日に女房が学校の同僚と一緒に沼津の実家で舟釣りをやる計画を立てた。13日に僕は東京に用事があるので、当初は、「アンタはいいわ」「東京で遊んできたなら」と言うことだったが、今日、ゆーたと遊んでいる姿を見て、

「三人にも声をかけてやろうか」という事になった。

とすることで結局、僕も子ども達のお守り役として急遽、沼津に合流することになったのだ。

子ども達が帰る前に、急いで家の人に見てもらおうようなプリントを作って(何か、学校からの文書を作っているみたいだった……)手渡した。

でも、こういうときになると「誰に声をかけるか」ということで本当に悩んでしまう。前のキャンプの時は、「あ、僕も」「僕も」ということで6人に膨れ上がってしまったが、今回は船に乗れる人数の関係で、そう言う訳にもいかない。

子ども達にも「学校ではこの話はしないでね。行きたい、って子が出てくると申し訳ないからね……」とは言っておいたが、これからも友だちを選んで行くんだな、と思った。

.:*.° 。.:*.° °.!.:*.°. :*.!.° 。.:*.:*:

「やさしさについて」

～だからお前はみんなに嫌われるんだ～ その5

先生からの手紙 ～前半～

修君、お手紙ありがとう。

手紙を読みながら、涙が出て仕方ありませんでした。そして、感謝の気持ちで一杯になりました。

ここまで修君を立派に育ててくれたものに、又、一番心配なさりながら見守っていて下さった御両親、それから何と言っても一番頑張った(というより自分を高めていてくれた)修君に。

よかった。本当に良かった、と言う気持ちで一杯です。

電話、本当に嬉しかった。先生という職業をしていて良かった、と思います。修君の人生にずいぶん関与したと聞いて、実は胸がチクリと痛みました。

私は本当に生徒にとって良い先生だったか、ってね。特にあの頃失恋して、そして次の人との出会いで結婚を決めた時。

また、学校を出て、あまり教育なんて考えずに夢中になって、五、六年とみんなに会い自分をさらけ出し、ぶつかっていました。

もうあれから十五年も経つのですね。

渋川に来てくれた時、みんなが帰った後、修君の手紙で

「お世話をかけました。いろいろと出費させたからみんなでお出し合ったお金です。受け取って下さい」というような内容の事が書かれ、千円同封してあった時、修君も成長したなってしみじみ思い、もう6年生のころ、自分が怒鳴ったことなどすっかり忘れ、よい子達だった。あんなに夢中に打ち込める子ども達に、これから先、会えるかな、あの頃は良かったナ - - と思っていました。

今の私なら、そんな言葉を言わないだろうナ。申し訳なかったと謝ります。

(後半に続きます……)

何人の方から、メールいただきました。

「奥さんも気になるんですね」「いいですね、こういうの……」

で、本日の女房殿の感想は、

「私が購読するのも、アンタが好き勝手なことを書かないように、監視するためだからね。」とのことでした……。

……ってこれも読むんだろうな。(;)

(このフレーズは当分続くな.....)

1999年3月

卒業 -1999/03/01(月) Vol.58-

今日は女房の学校の卒業式。

全国的にも、今日が卒業式の時が多かっただろう.....。

女房もこの日のために、洋服をレンタルし、日頃はしない化粧をし、白い顔で学校に出かけていった。特に化粧はしない人だから、

「顔が白い～」とついつい笑ってしまうのだった.....。

昼前、外出先から戻るとき、とある高校の側で、凄い音をたてて走っていくバイクに出会った。

全くうるさい！

周りの迷惑ってものを考えない行為には、ホント頭に来る。

教員だった頃、文化祭や体育祭、卒業式.....そう言った行事の時は、必ずと言っていいほど、そうしたバイクや改造車がやってきた。

確かに迷惑だ。

けれど、彼らは自分の思いを爆音にしているんだろうな、とも思う。

「ホントは俺達だって、学校に行きたかったんだ！」

「どうして俺達を見捨てたんだ！」

そんな行き場のない叫びにも聞こえてくるのだった。

同時に、学校を辞めていった、辞めさせられていった生徒達のことを思い出していた。

.....

「やさしさについて」

～だからお前はみんなに嫌われるんだ～ その6

先生からの手紙 ～後半～

.....(中略)

修君に会えたら、いろんな事を話したい。次から次へといっぱいあって、とても整理ができませんが、とても大事なことを三つだけ、とりあえず。

一、だからお前はみんなに嫌われるんだ.....。と言ったこと許して下さい。ごめんね。学級の人みんなに謝りたいと思いつけていたとのこと、その気持ち辛かっただろうなって申し訳なく思います。

でも、案外、学級の人みんなは、そんなこと気にしていないのではないですか。

私もそうですが、人ってのは、外から心の中へポチャンと石を投げ込まれると、波紋のごとく広がっていく人と、ふたをしてはねかえす人もいる。

そして、日々の時の歯車に、自分にとって必要でないものは次第に忘れていくのではないかしら。

久しぶりに合えばみんなニコニコと「修君、元気っ」と声をかけ方をたたき合えるのではないかしら。修

君の心を傷つけておいて、こんなこと言っている自分が恥ずかしいけれど、そう思います。

修君が、スイモアマイもかみ分けができる教師になったこと、みんなに好かれている先生になったことで、十分、帳消しになると思うけど……。

どうですか。

……（略）……

夜も更けてきました。梅のつぼみがほんのかすかにふくらんできました。

もうすぐそこまで春がきているのですネ。

健康に十分注意してご活躍下さい。

会える日を楽しみにしています。

乱筆乱文お許し下さい

中野

修様

……明日（？）最後です

メールチェックをする習慣が少しずつ出てきた女房。

「私が読者だから、書けないんでしょ？」（^o^）

「んなことあるよ。気がむかないだけだよ」（-_-;）

……ふと思った。

夫婦の会話をメールマガジンでやったらどうなるだろう、と。

ま、誰も読まないだろうな……。 （爆）

短縮授業 -1999/03/02(火) Vol.59-

ぬわんと、今日から、小学校は短縮授業になってしまった！

いつもは3時半過ぎに帰ってきたゆーただが、今週からは二時半には家に帰ってくることになる。つまり、それに合わせて友だちもやってくる、ということなのだ。(--;)

外出先から家に電話を入れたのが、2時40分頃。おじいちゃんが出た。

「もう、友だち来ているよ」

3時。家に帰ると三人の友だちが上がり込んでいた。

その後しばらくすると、もう二人……。

例によって例のごとく、NINTENDO64をやったり、ホッとカーペットに寝ころんでポケモンのカードをしていたり……。

今まで、3時半だと塾とかスイミングとかがあり、遊びに来られなかった子ども達も、習い事の前の一遊びができるのだった……。

ここしばらく、ゆーたの「絶交」事件があったりして、家に来る友だちも少なく、平穏な夕方を過ごしていたのだが……。

これが終業式まで続くとなるとなあ……。

更にその勢いで春休みに突入するのか……。ため息……。

そう言えば、今日は、ゆーたが絶交していたもう一人の友だちも遊びに来ていたなあ……。 （笑）

.:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

「やさしさについて」

～だからお前はみんなに嫌われるんだ ～ その8

3月、診察のために浜松に帰った時、長谷川先生にお会いすることができた。

その時、小学校以来、僕自身を縛りつけていたものが、先生の笑顔の中で確実に消え去っていくのが感じられた。

先生は「そんなことはない」と言うが、僕にとってみれば、小学校の時の先生のあの一言がなかったら、僕はどうなっていたかと思う。いくら感謝しても感謝し尽くせるものではない。

今、改めて思う。やさしくありたいと。かつ、厳しい人間でありたいと。

そして「人間は変わることができるのだ」という人間に対する信頼、そして、自分に対する信頼を持ち続け、今よりほんの少しでもいい、これからも変わり続けていかなくては、と思う。

「.....というわけで」1987.3.29 より

.:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

長々と書き写してしまいました。(^^ゞ

12年前の文章です。いやぁ恥ずかしいなぁ、と思いつつ、改めて自分自身を振り返ると同時に、自分の小学校の時の姿と、今のゆーたの姿を重ねて見るのができたような気がします。

.....ウン、ゆーたもきっと悩みながら変わって行くんだろうな、と。

中野先生との出会いがなかったら、どうなっていたらろうか？

「私の力じゃないよ」という先生の言葉の意味が、今になってわかるような気もする。大きな「きっかけ」だったのだろう、と。

タイミング、きっかけ.....。

僕の周りにもたくさん転がっているのだろう。

そのきっかけをきっかけにし得る力、それが「感性」なのかもしれない。

昔の自分に比べて、「感性」が鈍くなっている自分を感じる。

12年前の3月29日に僕たちは、結婚しました。その時に作った本が、「.....というわけで」です。

その本が少し、余ってます。もし、読んでみたいなぁ、という物好きな方がおりましたらご連絡下さい。希望者多数の場合は.....、そん時考えましょ～（笑）

以上のような案内を出しました。ご了解下さい 女房様

どうしてお前ら来るんだぁ？ -1999/03/03(水) Vol.60-

今日も六人の子ども達がやってきた。ゆーたを入れると七人。

今、我が家で流行っている遊びは、

六四のボンパーマン、スマッシュブラザーズ

ポケモン（根強い！）ポケモンカードゲーム

ドラクエモンスターズ（ゆーたと僕）

で、ゆーたには、ドラクエモンスターズはみんなと一緒にの時は、やめようね、と言ってある。折角みんなが集まっているんだから、みんなで遊べるゲームがいいね、と。

とすることで、専らボンバーマンの四人バトルが、お気に入り。

昨日は、一人の子がスマッシュブラザーズを持ってきた。

ボンバーマンをみんなでやっている最中に来て、「これ、やろう！」と。

ゆーたはあまり好きでないらしく、「ボンバーマンがいい」と主張はしてみたものの、結局押し切られてしまった。みんながスマッシュブラザーズをやっているとき、ゆーたは一人でコロコロを読んでいた。

時々、「ボンバーマンやろうよぉ～」と言ってはみるものの、なかなか相手にされない.....。

スマッシュブラザーズで遊んでいるのが四人。

ポケモンのカードゲームをしているのが二人。

コロコロを読んでいるのが一人(ゆーた)。

パソコンに向かいながら(と言ってもほとんど落ち着いて考えられないが)ふと思った。

.....こいつら、どーして家に来るんだあ？

スマッシュブラザーズやりたければ、よその家でやれよな！ と。

完全に我が家は、「学童保育所」と化している.....。(--;)

「このウチじゃなくて、他の家でやったら？」と言いたくなる衝動を押さえて様子を見ていたら、その内、スマッシュブラザーズにも飽きたのか、またボンバーマンをやり始めたりした。

う～ん。

子ども達を前にしていると、僕の中に潜んでいる「教師」が顔を持ち上げて来るような気がしてならない。難しいなあ.....。(--;)

「...というわけで」は僕たちの結婚式の時に五〇〇部つくりました。

式の参加者と生徒達に配りました。で、その後一人二人と手渡しして、今、我が家には十数部。早速、「読みたいです～」というメールいただきました。

女房は.....「え～っ！」って言ってましたが、文句は言われませんでしたので、この企画は進めていきたいと思います。

ご希望の方は、

人数は、取りあえず五人の方にお送りします。

「.....というわけで」希望 と書いてメール下さい。

締め切りは、3月6日(土)。

代金は.....金を取れるようなモンではありません。(笑)

希望者多数の場合は.....そんな時考えます。ま、大丈夫でしょう(笑)

我が家を逃げ出す(笑) -1999/03/04(木) Vol.61-

こここのところ話題が毎日、同じだなあ。(爆)

今日も、予想通り2時半過ぎには、友だちがやってきた。

しかもそのウチの一人は、ゆーたが家に帰るよりも早く、我が家に到着！

「今日はダッシュしてきた！」

.....こんでええ、ちゅうにい (--;)

と言いつつ、パソコンのスクリーンセーバーが気に入ったらしく、ひとしきり

「おじさん、これ、何？」

とか話をしていた。

今日は、パソコンのトラブルをみるために、三時に予定を入れていた。

イヒヒヒヒヒっ！

ちゅうことで3時前には、我が家を出発！

今日はいつもより少なく遊びに来たのは三人だった……。

「仲良く遊んでいなよ～。4時過ぎには帰れると思うから」

「行ってらっしゃーいっ」と子ども達。(^^ゞ

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

四時には、メンテナンスが終わった。

しかし、そのまま家に帰る気が起こらず、僕の車は喫茶店に向かった。

そして1時間ほど読書。(マンガだっつうに！)

5時前に、家に電話を入れ、おじいちゃんたちに、

「もう5時だから子ども達帰してねえ～」

と頼んだ。

5時15分帰宅。

友だちは帰っており、後には、麦茶を飲んだグラスと、ゲームのコントローラーが散乱していた……。

……今日は麦茶だけだったんだなあ。

わりいなあ～。

おじさんだって、こーゆー時があるんだよお～！

「……というわけで」ですが、結局十冊、お届けすることにいたしました。

「もう、勝手に話をすすめて～」と女房に言われましたが……。

たははははは！

国家・国旗 -1999/03/05(金) Vol.62-

2月28日の広島県世羅高校の校長先生の自殺の報道がなされてから、ずっと気になっていること。

「君が代、日の丸」を法制化して「国旗・国家」にしようと言う動き。

僕は、国語の教員をしていた関係上、一応(嫌いだったけれど)古典、漢文なども教えてきた。嫌いと言っても、「教えなければならぬ」古典の文法や、漢文の読み方などが嫌いであって、歴史は大好きでよく本は読んでいる(つもり……)

大学の頃だったろうか、ある人に勧められて、モルガンという作家の「人間のしるし」という本を読んだ。内容もほとんど忘れてしまったが、とても感動した記憶だけは、未だに残っている。

ただ一つ、覚えているところ。

冒頭の部分だったと思う。第二次世界大戦が終わり、戦地から祖国フランスの地に帰ってきた、一人の兵士が大地にキスをする、というシーンだった。

「君が代、日の丸」の話が出るたびに、その話を思い出す。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

小林よしのりの「戦争論」(だっけ? 今、手元にない.....)というマンガがとて売れているという。
第二次世界大戦は、あれは「聖戦」だった、というものだ。

読んでいて途中でイヤになってしまった。

確かに僕は戦争を知らない。

あくまでも僕の感覚がいかなる戦争をも拒否しているだけかもしれない。

知らないからこそ見える本質もあると思う。

たといかなる理由があろうとも、人が人を殺して良い理屈はない。

いのちの重さは、他の何ものにも変えることはできない。

そう思う。

毎日のように、我が家にやってくる子ども達.....。

時に喧嘩をし、時に大声で叫び、時に笑い合う光景が、なんだかんだと言っても僕は好きだ。

.....

今日の朝日新聞に政府が「君が代、日の丸」法制化の基本方針を定めた、という記事が載っていた。
「国旗は日の丸、国家は君が代と定め、漠然と尊重義務をうたう」(文部省筋)

だそうだ。

「漠然と尊重義務」

イヤだ。尊重することを義務づけられるなんて、まっぴらだ!

平穏な日々.....

子ども達の姿を見ながら、そして皆さんからの子どものことを中心としたメールを読みながら、穏やかな毎日が過ぎていきます。

でも、むのたけじさんが言うように、「美女の舞踏の中に骸骨の動きを見定める目」が必要なのだろうな、と思います。

おやつなし! -1999/03/06(土) Vol.63-

今日も今日とて、友だちが三人。

ゆーたを入れて丁度四人と言うことで、ボンバーマンのバトルゲームをみんなでやっていた。

僕は僕で例によって、会話を聞きながらパソコンに向かっていた。

次第にエスカレートしていくのか、三人がチームを組んで、ゆーた一人を攻撃する、というパターンになっていった。

「俺、ゆーたを攻撃する」

「じゃ、僕アイテム集める」

「どうして、俺ばかり狙うんだよぉ!」とゆーた。

子ども達にしてみれば、それがまた面白いのだろう、

「いいじゃん!」と言って相手にしない。

.....

そんなやりとりが30分くらい続いた。

次第に僕の方もイライラしてきた。

「一人を狙うなんて汚いぞっ!」と.....。一生懸命口から出そうになる言葉を押さえていた。

.....ゆーた、もっと言い返せ! 負けるな!

.....彼らはそうして弱い者を攻撃することが楽しいのだ! と。

結局、こいつらにおやつなんて出してやるモンか！ と思い、5時になったら、「もう、時間だから帰って！」と言い放った。

「後、もう一回……」なんてことを言う子もいたが、「ダメ！」と拒否。

……子ども達にしてみれば、何となく雰囲気がおかしいなあ、とは思ったかもしれないが、どうして機嫌が悪いのかまではわからないだろうなあ。そう思った。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:. .:~'°'° 。.:*~'°:~'°:

夜、布団に入ってゆーたとそのことについて話をした。

「パパ、今日怒っていたのわかった？」

「ウン、何となくね」

「何に怒っていたかわかった？」

「う～ん、よくわからん」

ゆーたを寄ってたかって、攻撃するみんなに腹が立ったことと、でも、口出しはしたらいけないな、と思っていたことを説明した。そして、

「いつも、ゆーたの側にパパやママや、先生達がいるわけじゃない。ゆーたが自分で解決したり、立ち向かわないといけないことが、これからたくさん出て来るんだよ」と付け加えた。ゆーたは「ウン」と返事はした。

……う～ん！ 強くなれよ～！

「...というわけで」お送りします。

「読みたい！」と申し出て下さった方が、八名おりました。

んなわけで、皆さんにお送りします。お読み下さい～。

小さな冒険？ -1999/03/07(日) Vol.64-

午前9時。女房が帰ってくるのは昼過ぎ。

ゆーたが、「友だちと遊ぼうかなあ……」と独り言のように口にした。

「今日は、パパ色々やりたいことがあるから、家で遊ぶのはチョットなあ……」と答えた。すると、「じゃあ、R君の所に電話してみる」と。

結局、その友達の所へ遊びに行くことになった。

NINTENDO64とコントローラー、おやつをリュックに詰めて。

その友達の家は、2、3回遊びに行ったことがある。

家からそれほど遠いところだが、僕が送っていったり、友だちと一緒にいったり、と言うことで一人では行ったことがない。一人で迷わずに行かれるかどうかは、「？」という状態。

地図を書いてやった。

「いい、ここがグランドで、この道を左にまがって……」

大人から見ればさもない道ではあるが、「地図を見て出かける」等と言うことはゆーたにとっては初めてのこと。出かけた後も、二階の窓から、最初の曲がり角でちゃんと曲がるかどうか見続けていた……。

「迷ったら家に帰っておいでよ」とは言っておいたが……。

無事ゆーたはたどり着いたようだった。
後から聞いたら、「ウン、わかった、わかった！」……と。

午前中は、ゆーたは遊びに。女房は一泊旅行から帰ってこず。じじ、ばばもどこかへ出かけて行った。とっても、とっても静かな時間が過ぎていった。
で、その間何をしていたか、と言えば、結局ぼーっと……(^_^)

薫製の作り方 -1999/03/09(火) Vol.65-

我が家に散乱している本の数々。
パソコン関係は僕。ゲーム、コロコロなどはゆーた。
そしてキャンプ、ダッチオープンといった類は女房……。

この前、ダッチオープン教室に出かけたが、結局は「いまいち」という所で終わった。その後、女房の職場の同僚が、鱈の薫製を作って来てくれた。

これがまた、うまいのナンの！

「いやぁ、うまい！」

日頃食べさせられている「薫製」とはえらい違いだ！なるほどこれが薫製か！と納得してしまった。
……おいしい、おいしい、と言って食べれば食べるほど、女房の心に火がついていく。

来週の土曜日、再度、ダッチオープン教室に出かけるという。
今度は同僚を誘って……。

ゆーたは「薫製臭い」と言って、女房が作ったものを食べようとしなない。
自ずと僕に回ってくる……。(-;-)

なかなかうまくいかない女房の「薫製」……。
良かったことと言ったら、ゆーたが「薫製」等という難しい感じが読めるようになった事ぐらいだろうか
……。(-;-)

お願いします。

どなたか、おいしい薫製の作り方、女房に教えて上げてくれませんか？

一応、あちこちのホームページを見ては、

「ウン、なるほど！」等とはいつてはおりますが……。 (笑)

手紙が来ました。卒業生から。
「……色々ありまして、離婚しました。先生には……」と。
こうした場合、なんて言ったら良いんだろう……。電話をしようとは思っていても、なかなかかけられないでいます……。

4年生終了 -1999/03/18(木) Vol.66-

一年間ありがとうございました。
この連絡帳を四月の最初の頃から読み返してみました。
改めて、色々なことがあったんだと思い出されました。

四年生になって今までと大きく異なることは、友だちとの関わりができたことです。学校にいる時間以外は、ほとんど家族と過ごしていたゆうたが、自分から友だちの家に出かけたり、声をかけてさそったりと、大きな変化が見られた一年間でした。

先生を初め、心優しい友だちの支えの中で、一年間過ごしてきたこと、ゆうただけではなく、私たち家族もゆうたの友だちや、そのご家族との関わりが増えたことなど……。

先生を初め、多くの方々に感謝の気持ちで一杯です。

人との関わりが増えれば、それに伴うトラブルが増えることは当たり前です。そのトラブルの経験をたくさん積んでいって欲しいと願っていました。

今はまだ自分の力で解決できないので、大人の力を必要としますが、様々な経験を積んで、たくましい社会性を身につけて欲しいと思っています。

その具体的な一歩を踏み出せた一年間であったと思います。

多くを期待せず、せめてこれだけはというものをいくつかに絞って、ゆうたの成長を客観的に見ていきたいと思っています。

本当に一年間ありがとうございました。

母

担任の先生との間でやりとりされている「連絡ノート」。
我が家の場合は、事務的な連絡だけでなく、かなり突っ込んだ話もこのノートを使っている。時には、二～三ページに及ぶことも……。
今日は、終業式。昨日、女房が担任の先生に連絡ノートを書いて、ゆうたに渡した。
今日、その返事が返ってきた。
で、それを読んだ僕は、是非、記しておきたいと思った。
……無断転載です（笑）
これに気がつくのは、二～三日後だな……。

液晶ディスプレイGETお～！ -1999/03/22(月) Vol.67-

昨夜というか、深夜、突然ディスプレイが「ぶんっ！」という音と共に映らなくなってしまいました。丁度、メール等を送っている最中。何やら異様な臭いも……。おまけに、ファンヒーターも突然止まってしまった。

……う～ん、掃除していないからなあ……

とにかくウンともスンとも言わずに、電源も入らなくなってしまった。

途中、ICQのメッセージ着信音が聞こえても、どうすることもできない。

こうなりゃ、液晶ディスプレイを買い換えるわい！ と密かに決意をしました！

しかし、朝になればその決意も、女房に粉々にうち砕かれることも、目に見えているだけに悲しい……。せめて、数時間の間だけ、液晶ディスプレイの夢でも見ようと思い、ホットカーペットに寝ころんで朝を迎えました。

で、今朝、女房に話したら、ぬわんと、「買えばいいじゃん」と一言……。

おおお！思わず我が耳を疑いました……。(;)

「で、いくらするの？」

.....この時、ノート購入の野望が頭をかすめました。
「う～ん、4,5万かなあ……。でも、最近の薄型の液晶だと、ちょっと高くなるけれど、場所が広がるよ」
「ふ～ん、いくら？」
「そうだねえ、9万くらいかなあ……」
.....とりあえず、いくら引き出せるかの攻防の始まり.....。
「ふ～ん、いいよ」と女房。
.....これは一気に攻めるチャンス！この機を逃してはいけない！
「ただ、その値段だと、今までよりもかなり画面が小さくなるんだ。15インチの液晶だと、いいよ」
.....この辺りから、女房の目が鋭くなってきました.....。ヤバイ、か？ 下手に詰めを誤ると、全てが水泡に帰してしまう！（^_^;）

「ウン、でも2～3万、ホラ、地域振興券も使えるし！」
（ゆーたよ！すまん！ こんな親父を許してくれ！）

「そうね、しょうがないわね、12万円までならいいよ！」
よっしゃ！ここだ！
.....確か15インチのモニタなら、2万ちょいであったはず。ノートパソコンも、何とか.....、と密かに思ったが、敵も然る者、こちらを見透かしている。
「ノートパソコンは、動くから買わないよ！」と釘を刺されてしまった.....。（ ; ）

ちゅうことで、パソコンショップに行き、
「12万以下、15インチのTFT液晶！ 手持ちは今、2万しかないから、残金は明日！ 飯山がシャープがいいなあ！」（なんちゅう無茶苦茶な.....）
馴染みの店員さんが、
「取り寄せになってしまいますから、その間、ウチのディスプレイ使っていて下さい」と貸してくれました。

借りてきた15インチのモニタでしっかり、無事、復活しました。
一時はどうなることかと、ホント真っ青になりました。

「なんで勝手に書くのよぉ～」と、女房が言ってきた。
「いやぁ、言い文章だから残したくって、よく書けてるなあ、ホント」
ニタッと笑って、何も言わなくなった.....。(^^)v

結婚記念日 -1999/03/29(月) Vol.68-

今日、3月29日は、僕たちの結婚記念日です。
12年前、僕たちは結婚しました。
神主さんに御祝い(?)をしてもらったりすることもなく、ウェディングケーキもなく.....。
披露宴会場のみんなの前で、婚姻届を書き、指輪の交換を行い、そして、「誓いの言葉」を読み上げる.....。
そんな結婚式でした。
その時に、二人で読んだ「誓いの言葉」.....。
読み返すとどこかしら、気恥ずかしさも.....。

あれから12年。どう変わってきたのだろう。

変わらずにいられたのだろうか……？

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

『誓いの言葉』

今まで私達は全く異なる人生を歩んできました。

そして、数多くの生命を踏み台にして、自分の人生を築き上げてきました。

時としては傲慢さ、未熟さから人を傷つけたこともありました。

しかし、そんな私達を支え続けてきてくれた友人や仲間、先輩、そして父や母をはじめとする家族・親戚がいました。

自分の人生にのみ目を向けていた私達でしたが、自らの人生をより豊かにしていきたいと望んだ時、自分以外の人間の存在を必要とするようになりました。

二人が初めて顔を合わせてから四年。

お互いの存在を意識し始めてから一年の月日がたちました。

その間、多くのことを私達は語り合ってきました。

結婚というものは、二人が一人になるのではなく、

自立した者同士が、互いの人生、互いの生き方を尊重し、寄り添って生きていくものだということ。

相手を愛することだけに自分の存在する意味があるのではなく、相手を愛する以上に、自分を愛することが大切だということ。

自分を大切にできない、自分を愛せない人間には、本当に人を愛することはできないのだということ。

人間は社会との関わり、人との関わりの中でこそ、人たりえるのだということ。

その為にも決して独りよがり、二人よがりの生き方をしてはならないということを……・・。

私達は、考え方や意見の食い違いを、話し合うことにより乗り越え、

そして、その中から価値観の共通性を見出し、

生きていくことに対する姿勢を確かめてきました。

そんな日々の積み重ねが、

いつしか私達に、結婚を決意させてくれました。

今日から二人で生きていきます。

私達は持ちうる限りの誠実さをもって

人とのつながりを求めていきたいと思います。

たえず、お互いの存在や、生きることの意味、

生命を育むことの重みを問い続けながら生きていきます。

また、独立した人間同士として、

尊敬しあい、

愛し合い

精一杯、生きていくことを誓います。

1987年3月29日

鈴木 修

佳子

:*:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:.。.:*:.'° 。.:*:.:.*:

毎年、結婚記念日だから何かをする、ということはない。
いつの間にか、この日が過ぎていく。
女房は、そうした「記念日」というものに淡泊なのだ。
僕は結構、そう言うのが好きだが、「淡泊な人間」を相手に、一人ではしゃいでも仕方ない、と思っている。
一人で、今日を嘔みしめようと思う。
……と、これを読んだ後の女房はどう、反応するだろうか？（笑）

トラブル脱出できました。一年以上に渡って、重くのしかかっていたものから解放され、気が抜けてしまってます。春です。二年分の「春」を満喫しています。

1999年4月

新学期スタート！ -1999/04/07(水) Vol.69-

いよいよ春休みが終わりました。
ゆーたは、昨日が新学期。
女房は、今日が入学式。
ゆーたは5年3組に。女房は1年生の担任になりました。

我が家には、久方ぶりに平穏な日々が訪れました。
僕も、ようやく冬眠から目覚めることができそうです。（笑）

春休み、ゆーたと友だちと「ガメラ3」を見てきました。
「ガメラ1」「ガメラ2」は家族三人で見ました。「ガメラ」は「モスラ」に比べ、「理屈っぽい」(ゆーた弁)ので、以前は眠くなったり、退屈してしまったゆーたも、今回は随分と話について行かれるようになりました。

こんなところにも、ゆーたの成長を感じます。

夕べは、真新しい教科書をチェックしながら、名前を書きました。
横でゆーたは教科書をチラチラ見ながら、
「ほら、パパ、見てご覧！タバコを吸っている人の肺はこんなだよ」と。
保健、家庭も習うんですね。家庭科では、裁縫をしたり、卵料理をつくったり……。
ゆーたは「げーーーーっ！」と言っていました。

1年のスタートは4月だなあ、と改めて思います。
ただ教師をやっていた頃と比べて一番違うことは、長期の休みが終わるのが待ち遠しくなったということでしょうか……？（笑）

廃刊か？週刊化か？などという憶測をよそに、全くマイペースです。（笑）
ただ、この春休みは、ゆっくりできませんでした。やはり、落ち着いて考えられる時間と空間とが必要で。
さて、ぼちぼちいきます……。

いやあ、久しぶりです。(笑)

書きたいことがありすぎて、結局、書かずじまい.....。

ますます書きたいことが溜まっていく.....という悪循環です。

女房は、この間自宅に帰ってくるのが、大体七時半過ぎ。

今月の25(日)~27日(火)にかけて、新入生の集団宿泊訓練があり、その係りになったとかで、帰ってくるなりご飯をかきこみ、風呂に入り、疲れたあ、と言って9時にはゆーたと寝てしまいます。

ってなわけで、最近夫婦の会話が少なくなってます。

さて、ゆーた。

今度の担任の先生は男の先生。44歳だとのこと。あいつなりの緊張感を持って、新学期を過ごしているようです。

が、気になることが一つ。

「忘れ物をしたら、漢字の書き取りとグラウンドを走る」

というのがあるそうです。詳しいことは担任の先生と話してないですが、ひじょうちに、イヤな予感がしています。

それは僕自身が、今度の担任とうまくやっていけるかどうか、ということです。

ゆーたの成長にとって「学校との協力」が非常に重要になるわけですし、今までは、うまくやってこれたなあ、と思ってます。

でも、この「忘れ物」については受け入れられないですね。

勉強嫌いになった生徒達をたくさん見てきましたが、「罰」として「書取」や「計算」なんてのは最悪です。勉強の効果もあがるから、というのが理由としてよくあげられますが、これは逆効果です。

も一つ。グラウンドを走らせる.....。

これも同時に体力を付けさせる、ということがよく言われますが、体力をつけることと、忘れ物は、全く別の次元の話でして.....。

グラウンドを走らせる、ってのは明確な「体罰」です。

う~ん、一度ゆっくり話をしてみたいと.....。

さてさて、僕は.....。

今年はPTAの役員になりました。各学年の代表ということで、五年生の代表委員です。早速、PTA総会に向けての会合がありました。

もう、言いたいことだらけ。でも、まあ、とりあえずは様子見、ってことで黙ってました。これも、今年度の話題の一つになりそうです。

今まで、「T」の立場だった僕が、「P」の立場で学校を見る。

う~ん、面白いネタがたくさん出てきそうです。

そうそう、PTAの「校外指導部長」だそうです。

教員時代、一番多かった仕事が「生徒課」でした。 (--;)

トラブル脱出!しました。これについては、「子育て.....」の方に、書きたいと思ってます。

二日ほど前、布団で寝たら首の筋がおかしくなりました。
ちょっと首をひねったりすると、痛い！ どうすりゃ治るんだぁ……。

いやぁ、なんて書いたら -1999/04/19(月) Vol.71-

No.70で書きました、「罰の書取とグラウンド」の件の顛末です。

たくさんの人から、「そうですねえ」「罰はおかしいですねえ」というメールを頂きました。そーだよなぁ、もし、そんな先生だったら、と重苦しい気持ちで、担任の先生に連絡ノートに書きました。で、その返事というのは……。

「先週、毎日書取の宿題をしてこなかったんで、それをやらせた。
グラウンドは、体育の授業の時に、遅れてきたので、その時に走らせた。」

ということでした。(^^;)
どうも、おかしいなぁ、とは思うところもあったんです。

「何を忘れたの？」としきりに聞いても、「う～ん、何だっけえ……」と口をモゴモゴさせていました。
毎日、家に帰ってきて予定帳を見て、宿題、持ち物をまず確認するわけですが、「書取」というのは、「いちども」書いてきませんでした。

昨年辺りから、自分のしたくない宿題は「わざと書いてこない」という技を覚えてきたゆーた。今年も同じようにいけると思ったのでしょう。

ゆーたの作戦は、あっけなく崩れてしまった、というわけです。

土曜日、女房と二人で、

「ゆーたぁ、ずるいなぁ～！わざと書いてこないんだからな！

これは、『罰』とは言わないのだ！！！！

これは、当たり前なのだぁぁぁぁぁぁぁ！！」

ゆーたはばつが悪そうに笑っていました。

それよりも、先生はさぞかしイヤな思いになったろうなぁ、と。今日、再度、お詫びを書いて、ゆーたに持たせました。

「はい、これ、連絡ノート。先生に渡してね」

何が書いてあるか気になるゆーたは、カバンに入れる前に、ノートを開いて見ていました。

再度、僕は

「ゆーたのずるっこのことを書いてあるんだよ。」と。

あぁ、P T A -1999/04/21(水) Vol.72-

今年度僕はP T Aの役員を仰せつかってしまいました。(笑)

役職は、学年代表、ちゅうことです。

P T Aの役員構成は、

会長1、副会長4(兼務会計、書記) 運営委員(各学年1、各地区1)

上記のメンバーが「運営委員会」を構成します。

また、地区委員として各地区から6～20名、学級委員(各クラス2)が選ばれ、各係りに別れます。係は、教育部、広報部、保健体育部、施設部、校外指導部に別れています。

で、僕は、校外指導部長、ちゅうことになりました。(爆)
教員時代、主にやっていたのが、生徒部とか生徒指導部.....(^_^;)
オイオイ、またかぁ、ってな感じでした。

この役員ですが、僕の所にも3月に
「役員やってくれませんか？」と電話があり、「あ、いいですよ」と答えました。
「学年代表ということでお願いしたいんですが？」
「あ、いいですよ」とまた、答えました。

で、先週14日に初めての会合があったので学校に出かけていきました。
黒板を見たら、「校外指導部長 鈴木修」って名前があるんですね。

オイオイ、そんな話聞いてないぞ.....、なんじゃぁこりゃ??

で、自己紹介が始まりました。
多くの人が、「役員をやって欲しい、って言われてここに来たら、部長になってました、××です」って挨拶をしてました。
う~ん、こんなもんでしょうねえ.....(^_^;)
決め方について一言発言しようとしたんですが、「和気藹々」の雰囲気の中でやめました。雰囲気を壊しそうで.....。

でも、やっぱおかしいんですよね。

明日、PTA総会があるんですが、僕の方から今年度の校外指導部の簡単な方針を発表することになって
いるんです。部長として.....。

規約に

- ・会長、副会長はPTA総会によって選出される.....。
- ・運営委員(各部長等)は会長が委嘱する.....。

だって。

オイオイ、僕の立場って何?ってなモンです。(爆)

一応、17日(金)に行われた会合で、「おかしいですね」とは発言しましたが、混乱させるだけだから
と、指摘するだけにしておきました。

23日(金)はPTA総会です。

おっしゃ、またデビューだけいっ!

毎年PTA総会には出ていますが、日の丸が飾られるんですねえ、壇上に。そいでもって、みんな
きれいな格好してきます。スーツ、ネクタイ.....。

明後日(金曜日)はジーンズで行こうと思ってます。

夜8時 -1999/04/22(木) Vol.73-

昨日は、久しぶりに女房が早く帰ってきた。

と言っても7時少し前。このところ八時近くの帰宅が続き、帰ってくるなりご飯をかきこみ、風呂に入り
寝てしまうパターンが多かっただけに、昨日は久しぶりに話をした、という感じだった。

と言っても、一方的に女房が新しいクラスのことをまくしたて、僕が時々口を挟んでも、「ちょっと、まだ続きがあるの！」という感じだ。

よくまあ、しゃべるわあ……と思いつつ、これはネタになるなあ、と聞いていた。

ひとしきり女房の話聞き、食器の片づけに台所に立った。

「コーヒー飲む？」「お風呂出てからね」

女房は、弁当箱を僕の横に置いて、風呂に行った。

入れ替わりにゆーたが、下から二階に追いやられてきた。

Dr. スランプあられちゃん がある日だった。7時台のアニメなどは、二階では見られないため、ゆーたは下でテレビを見るのだが、8時には二階に上がる、ということになっている。

「宿題は、本読みと書取だろ？」

この辺のチェックはしっかりしておかないと、ヤツにごまかされてしまう。

「洗い物しているから、大きな声で読みなよ。聞こえないから」

テレビのスイッチを消し、辺りには、ゆーたの本を読む声と、水道の水の流れる音……。

時々、ごまかしたり、ムニャムニャと言うところは、台所から「ダメダメ！」「もっと点や丸でちゃんと切らないと！」と声をかける。

……………う～ん、元国語の教師(爆)

途中で飽きてしまうゆーたの気持ちを以下に集中させるか！

「パパあ、マジックザギャザリンのカード交換しようよ～」

「ウン、いいよ。きちんとやることやったらね。」

ゆーたは書取を始めた。

風呂から上がった女房が洗濯物をたたんでいる。

僕は、ご飯をセットして、生ゴミを処理して、換気扇の下でタバコをくゆらせる。

「終わったあ～！」

「じゃあ、明日の仕度、早くやっちゃいな」

洗ったばかりの箸と箸箱をゆーたに渡す。

仕度を終え、薬を飲み、歯を磨き、パジャマに着替えたのが八時四五分頃。

「さあ、交換だよ！」

少しの時間だが、ゆーたとカードの交換をしていたら、女房の「もう、寝るよ！」の声。

ゆーたは寝室に行き、ようやく僕の時間がやってきた。

僕は、ドラクエモンスターズのレベルアップをすべく、ゲームボーイカラーのスイッチを入れた。

ポチっ！

ここのること「ぼちぼち……」を朝書くようになった。

ゆーたと女房が出かけていき、食器、布団の片づけが終わり、ホッと一息ついた頃に。 テレビを消して、パソコンに向かう。

今朝は、ニュースステーションのキャスター菅沼栄一郎が、不倫が発覚しキャスターを降板した、と……。 そんなときは、ついついテレビに見入ってしまったりもするのだが。(^^;

『少年 A』この子を生んで -1999/04/23(金) Vol.74-

かつて、「『淳 Jun』を読む……」と題して、HPに自分なりの感想をまとめた。(<http://osamu.net/dekigoto/jun.htm>)

昨日、「『少年 A』この子を生んで」を読み始めた。後、1 / 3を残すくらいだ。

重たいなあ……。読み始めてからずっとそんな思いが胸の奥底にくすぶっているのを感じる。

第三章「逮捕直前の息子 A と私達」(父親の手記)

7月22日(火)

イヤな郵便物が入っていました。……

葉書に頭部の絵。

「お前たちが交尾してできた化け物の責任を取れ」

……A君が逮捕されたのが6月28日。A君は両親に会うことを一貫して拒否していたため、両親が本人の顔を見たのは、9月18日だったと。

淳君を失った土師さん一家の悲しみ、怒りは決して消えることはないだろうが、また、A君を生み育てた両親の悲しみ、苦しみもまた、僕にはとうていばかり知ることにはできないほどのものだろう……。

よく、マスコミなどでA君の成育過程が云々される。

僕は、育て方についてあれこれ言うつもりや感想を述べるつもりは毛頭ない。

ただ、ただ、子育ての難しさを思うばかりだった。

ゆーたのことを改めて思った……。

……この本については、HP及び「子育て……」の方でもまとめたいと思います。今は言葉になりません……。

昨日は女房が帰ってきたのは9時をまわっていた。地区の懇談会？ があったそうだ。今朝も出かける際にこぼしていた。

「年々仕事が増えていくのよね。それもみんな。削るところは削らないといけないのに……」とため息をつきながら、出かけていった……。

クレヨンしんちゃん -1999/04/26(月) Vol.75-

昨日の日曜日から女房は、二泊三日新入生の集団宿泊研修に出かけていった。今朝は、6時15分に目覚ましをかけ、一度は起きたのだが、再び、深い眠りについてしまった。 やっぱ、布団は気持ちが良い！

\(--;)

「パパあ、大変！大変！ 6時45分だよ！」

キャツは、5時半過ぎに起き、ひとしきりゲームをしたり、昨日観てきた「クレヨンしんちゃん」の映画のパンフレットを眺めていた。

6時半には絶対に起こせ！ って言っておいたのに……と文句を言っても始まらない。慌てて朝飯の仕度を始めた。

と言っても、残り物のみそ汁を温め、目玉焼きをつくり、後は、ふりかけを用意するだけ……。

「パパあ、ハムは？」

「今日はなし！明日！」

バタバタしながらもゆーたを送り出した。ホッと一息。(^^ゞ

明後日28日は、ゆーたの学年は校外学習で、バス、電車を乗り継いで、漁港の見学に行く。グループ単位で行動し、集合場所は浜松駅。

う～ん、ゆーたは一人でバスに何か乗れないぞ.....(--;)

ってなわけで、「クレヨンしんちゃん」の映画を観に出かけた。

バスに乗って、駅まで一度行ってから.....。

「ちゃんと整理券を取らないといけないんだぞ」何度も念を押していたら、僕の方が、整理券を取るのを忘れてしまった.....。(^^^;)

路線図を見ながら、今どこを走っているか、なんて話をしたり、整理券とお金を入れるところを教えたり、駅のロータリーを一通り歩いたり.....。

当日は恐らくグループの他の子ども達が、ゆーたの面倒を見てくれるだろうから、心配はしていないし、また、トラブルが起きてもそれはそれで、勉強だと思っている。

でも、ただ周りの友だちに引っ張られて行くのではなく、たとえほんの少しでも良い、自分の足で動いて行って欲しいと思うのだ。

で、クレヨンしんちゃん.....。

1時間50分の映画は、小さい子にはちょっとしんどいかな？

毎週放映しているのとは異なり、じっくり作られ、所々にはCGを使ったり、と僕も結構楽しんでしまったりした。(笑)

改めてみると、あのあつけらかんと「下ネタ」を連発するのも、むしろ最近のテレビや雑誌の暴力シーンやセックスシーンよりも、よほど健康的なのかもしれない、とも思ってしまった.....。(;)

館内では、子ども連れのお父さんたちの大きな笑い声が、響いていた。

今日発行の「子育て.....」に詳しく載せていますが、ゆーたと町を歩いているとき、「あしなが育英会」の街頭カンパをやっていました。

「ねえ、パパ、何か買って」って言えない子ども達がたくさんいるんだよ。ゆーたは小遣いから、50円カンパしました。

と、これだけ書くと、いやあ、凄いなあ、となるのだが、最初は「五円でいいらあ？」等とぬかしおって.....。(;)

「あのなあ.....」とついつい一言、言ってしまいました。(笑)

ゆーたよスマン！～自己嫌悪～ -1999/04/27(火) Vol.76-

洗濯も終わり、ほっと一息。ここ二、三日、とても気持ちの良い日が続いている。

「クレヨンしんちゃん」を見に行った時も、汗ばむほどの陽気。

さぁ～っと心地よい風が吹いてきたとき、ゆーたと二人、

「ああ、気持ちいい風だねえ～」

と口にしていた。「気持ちの良いものを気持ちが良い」ととらえるゆーたが嬉しかった.....。

洗濯物を干すとき、穏やかな陽の光の中に、ヒンヤリとした心地よさを感じながらも、やはり隣近所に目をチラッとやる自分が、何とも言えずに滑稽でもある.....。(笑)

【バス停、誰もおらず！】

女房も帰ってきて、一気にうるさくなった感じもしないではないが、やはり落ち着くものだ。さて、今日は、日曜日に予習（笑）をした、校外学習の日。

7時50分のバスに乗るために45分に家を出た。一応、バス停まで一緒に行くことにした。

女房も、「クラスの友だちが一緒だから教えてもらいなよ」と送り出した。

で、バス停に着くと、一緒に乗るはずのクラスの子どもの姿が、全然ない！

「もう一本、早いバスだったのか！」と心配になっていたら、バス停の前の家の同級生のおじいちゃんが、「36分のバスが40分過ぎに来たモンだから、五~六人の子が、乗っていったよ」と……。

ゆーたの顔から、血の気が失せていったような気がする。

勿論、僕も……。

「ええ～、一人で行くのお～？一緒に行ってよ～！」

一瞬悩んだ！そのまま乗っていった方が良いのか……？

「5年生にもなって……」という一般論ではない。ゆーたの集中力、絶えず誰かの力を借りてきた生活……、そうしたことを考えると、わけがわからなくなることは十分に予想できた……。

「大丈夫！ 大丈夫！ この前パパと行ったでしょ？ あれをちゃんと思い出せばいいから！」

ゆーたは心配そうな顔をしながら、バスに乗った……。

おい、僕の方がもっと心配なんだぞ……。

家に帰り、女房に話をした。

女房も今日は、宿泊訓練の代休ということで、家にいる。

とりあえず、学校に連絡をいれておいた。

ま、何かあったら、探せばいいことだ。

……今、9時10分。

無事にたどり着いていれば、浜松駅でのチェックを終え、電車に乗る頃だ。

学校からは特に何の連絡もない……。

果たして、無事たどり着いたのだろうか……？

To Be Continued !!

女房殿、代休の今日は家にいるかと思いきや、静岡に出張だそうで。

明日の休みは、部活の練習試合だそうで……。インターハイ予選が5月8日。

GWは何をするの？そんな話題があちこちで聞かれるが、とりあえず僕の予定は「何もない」（-;-）

無事帰還！ -1999/04/29(木) Vol.78-

【元気な声で】

昼頃、突然携帯が鳴った。一瞬ドキっとしたが、それはISDNを引いたけれど、設定がわからないから来て欲しい、という連絡だった。

そこのお宅に行ったのが、2時過ぎ。ゆーたの帰宅予定は3時過ぎ。

途中、出張中の女房からも、ちゃんと帰ってきたかどうか、連絡があった。

女房に「オイ、こんなにするぞお……。やっぱ、やめよっか……」と、聞くと「そんなモンだよっ」
だって……。(;)

ためしてガッテン -1999/04/30(金) Vol.79-

「目玉焼き」を電子レンジで作る方法を、「ためしてガッテン」でやっていた。

その日も確か女房の帰りが遅く、ゆーたと二人で見ている。

以前、番組が電子レンジで目玉焼きを作る方法を紹介し、それが100% 確実ではない、ということから、色々な角度から検証していたのだった。

W数による違い。容器による違い。機種による違い……。

「へえ～」「ほお～」「わあ～」

なんて声を上げながら見ている。

：*：*：*。 。 。*：*：*。 。 。*：*：*。 。*：*：*。 。*：*：*：*：

今日、ゆーたは学校を休んだ。

朝、頭が痛い、ということで、布団にしばらく潜り込んでいた。

別に熱があるわけでもなく、少し鼻声かな、と言う程度。

しかし、じゃあ学校へ、と起き出すと、

「う～ん、どうも頭が痛いなあ……」と。

28日の校外学習。そして昨日も僕と二人で町へ……。

疲れが抜けてないのだろうなあ、と。

昨日は、町から帰ってきた後、昼寝をしよう、ということになった。

女房は部活の試合。おばあちゃんもお見舞いに出かけて、僕と二人で寝た。

僕の方はさっさと寝てしまい、気がついたときには、ゆーたは下で独りで遊んでいた。

ほとんど寝なかったらしい。「パパと一緒にだと寝られない！」んだそうだ……。(;)

で、今日の夕方。

「おい、ためしてガッテン、しよっか？」と声をかけた。

「ウン、やる、やる！」

卵を割ったのだが、やはり最後はうまくできなかった。でも水をはかって入れたり、レンジをセットしたり……。

1分40秒……。

無事、破裂することもなく、目玉焼きが完成した。

ゆーたの晩ご飯のおかずが、一品増えた。

何やらかび臭い臭いがするんです。

年末の大掃除の時に、詰まりを直してきれいにしたのですが……。

どなたか、パイプの詰まり、臭い消しに良く効くクリーナー等、知りませんか？これはいい、ってのがあったら、教えて下さい。

1999年5月

もう、うるさいったら ~ -1999/05/04(火) Vol.80-

ホント女房は、独り言が多くてうるさい。
ゆーたはゆーたで、よく鼻歌を歌っている。
そんな二人が、側にいる。

しかも女房はノートパソコンで、保健体育協会だかなんだかの仕事をやっている。
ゆーたは、おじいちゃんから突然もらった、大きなプラモデルを、せっせと作っている。
みづと二人とも、僕に対して「ねえ、ねえ、ちょっとちょっとお〜」となる。

女房は、元来こうした実務能力には乏しいし、また、そうした経験も少ない。そこへもってきて、この仕事は、学校長が引き受けてきた仕事ということで、ブツブツ文句を言いながら.....。
パソコンの操作のことから、文言のことまで.....。直ぐ横でやっているから、たまらんわあ、と。

ゆーたは、「ねえ、K - 一二のパーツがないんだあ、パパあ〜！」と。そんなの自分で探せよなあ。ったくう〜 (--;)

色々文章をまとめたりしたいと思っているのだが、とてもそんな環境にはない.....。ちゅうことで、「ぼちぼち.....」を書き綴っている。

「いいのかなあ、こんなんでは.....」
「ちゃんとやろうとするから、いかなのかなあ.....」
「あ、いいんだ、いいんだ！」
「面倒くさいで、前年度と同じでいいんだよねえ」
「バックアップって、BUCK だっけ？」

それって、僕に聞いているの？よしこさん？ って言ってる側から「パパあ、へるぶみー」とゆーたが.....。
(...)

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:.. .!:*:~!° 。.:*:~!*:~!*

女房の部活のインターハイ予選が、8日の土曜日。昨日まで部活の練習。
今日は、学校の仕事。おまけに雨.....。
本当なら僕は小学校の校外指導部の仕事で、凧揚げ祭りに行く予定だったがそれも中止.....。
かくして今年もGWは終わっていくのであった.....。

PTAの懇親会、行ってきました。僕がパソコンを教えているということが話題になったのか、先生の一人が「ISDNがうまく繋がらないんだけどあ.....」と。
早速二日に行ってきた。その日のお礼は、タマネギ一袋だった。(笑)

ピュリツァー賞写真展 -1999/05/07(金) Vol.81-

写真の語るもの.....
昨日、静岡で行われている、「ピュリツァー賞写真展」に行ってきました。
始まった直後から、行きたくないなあ、と女房と話をしていました。
女房は先月、静岡へ出張のついでに見に行き、記念の写真集も併せて買ってきました。
GW中は、3時間待ち、等というニュースもやっていました。会期は今日、7日まで。最終日だと余計

に混むかな、そんな思いで行って来ました。

会場の入り口で待たされること30分ほど。やっと、中に入ったらもう、滅茶苦茶な人。「写真は順番ではありませんから、空いているところからどうぞ～」という会場整理のお姉さんの声が空しかった。

もう、ここまで混んでいるのなら、と、ゆっくりゆっくり見て回った。
一枚一枚、写真を見、説明を読み……。2時間以上かかりました。
さすがに最後の方は、疲れてしまって……。

一枚の写真は、ただそれだけで、ホントに多くのことを語りかけてくれていました。

思わず目を背けたくくなるような写真も……。
……僕などは、こうして文章を書いたり、やたらめったら、喋ったりして……。

写真のような人間になりたいなあ、そんな思いが頭をかすめました。

GWが終わり、ようやく我が家に静寂が戻ってきました。
今日は、PTAの運営委員会です。楽しみで～す！
PTAについて、意見をもらいました。ありがとうございます。

はちみつしぼり -1999/05/010(月) Vol.82-

昨日は、女房とゆーたと三人で近くの養蜂場の「はちみつしぼり体験」なるものに行ってきました。以前から、女房は蜂蜜しぼりをやってみたい、と問い合わせなどをしていたのですが、たまたま、近くで体験ができるということを新聞か何かで見て、んだば！ということになったのでした。

ゆーたは、すずめ蜂が好きです。
他にも蜘蛛とか(しかも毒蜘蛛……)に興味を持っています。
よくおじいちゃんやおばあちゃんと裏にある小さな畑で、虫を探してます。
最近、蟻を捕まえてきては、瓶の中に入れ飼っていたりします。
以前と違うことと言えば、前は、捕まえたら捕まえっぱなしで、世話はおじいちゃん達にやらせてました。でも、最近、ハエだとの蚊だのを捕まえては餌をやってます。

う～ん、進歩お～！

で、はちみつしぼりです。

宇宙防護服みたいなのをかぶるんですね。
そして蜂の巣箱をあけると、うわぁ～っと、蜂が出てくる。
そんな中で、「これが女王蜂」「これがローヤルゼリー」なんて見せてもらいました。 図鑑で見ると目の前でウジャウジャしてるのを見るのとでは大違い！

ゆーたなんかは、巣箱の前に座り込んでみました。

しばらく蜂の様子を見た後、いよいよ蜂蜜しぼり～！
と思いきや、なんのこたぁない、遠心分離器みたいなのに、巣箱を入れ、ガラガラガラガラってやるだけ

です。

でも、それですっかり巣箱の密は下に落ち、とろ～んとした密が出てきます。
しぼりたての密.....砂糖っぽくなって、おいしかったですね～。

ゆーたは、ミツバチよりもスズメバチや襲ってくる蜘蛛の話をしきりと聞いてました。好きなんだなあ～。

実際、昆虫の事はよく知ってます。

ぱっと見て、これは何々～、って具合に。

夏になるとスズメバチがやってくるそうです。
んじゃ、それを捕まえるところを見に来よう～、ってことになりました。

日差しが強く、防護服を着ていると、暑さがたまらなくなり、お昼前にはゆーたはもう、ぐったり.....。
昼は近くの神社でおにぎりをほおばりました。
女房もインターハイが終わってホッとしたらしく、木陰に座りながら食べたおにぎりは、格別でした。

う～ん、いい休日でした。

ゆーたに「今日はどうだった？ 楽しかったねえ～」と聞くと、「ううん！ 全然！」だって！
かわいげのないヤツだ.....！（--;）

さっきゆーたが帰ってきました。でも、久しぶりの学校で、疲れたらしく眠ってしまいました。宿題は.....う～ん、結構あるぞお！（笑）

生徒憲章 -1999/05/11(火) Vol.83-

人権の章

人間だから
わたしの生命（いのち）も心もたった一つ
かけがえのないひとりとして
大切にされる
あなたも人間だから
わたしはあなたを大切にする

自主の章

人間だから
わたしはわたしの意志をもつ
自ら創りあげる喜び
やりとげる責任とともに
ひとりの人間だから
わたしもあなたも自分で立てる

民主の章

人間だから
わたしはあなたと違う

たがいを認め、そして話しあう
違う人間だけれど平等であるために
だれもが人間だから
わたしとあなたは支えあえる

希望の章
人間だから
わたしはわたしを高めていける
真実を求め
豊かな心を育てる
わたしたちは人間だから
夢に向かってともに歩く

北海道士幌町中央中学校 生徒憲章

～朝日新聞 5/10の記事より～

朝日新聞が学級崩壊についてずっととりあげていました。
昨日は、北海道士幌町中央中学校ことが大きく取り上げられていました。
う～ん、捨てたモンじゃないなあ、って嬉しくなりました。

誰かの意見を聞きたくて -1999/05/13(木) Vol.84-

こんなメールいただきました。
さて、今日のメールマガジンは何を……なんて考えているとき、届きました。
ゆーたと似ているところがあるのかな、と思いつつも、とりあえず同じようなことで悩まれた方(悩んで
いる方)もおられるのでは、と思いました。

=====

初めまして。いつも楽しく「ぼちぼちいこっ！」拝見しております。
実はどうしたら良いのか分からなくなって、とにかく誰かの意見を聞きたいと思い、是非聞いていただき
たくメールさせていただきました。宜しくお願い致します。

家には小学校二年の息子がおります。
息子は一年の時明るく、元気にはきはきと素直で何でも率先してやれる。とまるで絵にかいたような学校
にとっては申し分のない子供でした。(もちろん、家ではわがままもいいますし、いたって普通の子供です
が……)

ところが、2年生になって、今日初めて布団にはいるなり「あのね……」といいながら泣き始め、この頃
皆にいじめられてると言いましたのです。

四月になってからA君に校庭で引きずりまわされた。遠足の時何人もの子に木の枝でやっけられて傷をし
た。今日は五人の子に体に乗られて泣かされた。など……

子供の事を何もかもそのまま鵜呑みにする事は出来ませんが正直驚いたと同時に、いじめているという子
供の名前がいつも誰より仲良くしているこどもの友達ばかりだった事にただびっくりして、我が子が少し大

袈裟に言っているんじゃなどと考えたりもして.....

誰にも「先生にも絶対言わないで」という息子を見ながら、とにかく今日私にだけでもこうやって話してくれた事に感謝し、何でも話してごらんと言いました。

同じ話の繰り返しの中で、息子が初めて人からの疎外感を感じた経験が特別に自分には感じられたのかなとか、少しの暴力がいじめに感じたのかなあ等と思える部分もあり本当のところは分からずでした。

ただ、こういうとき親としてどういう態度や意見がいいのか？

自信のないままに手探りのままに対応しているわけで.....

なにかご意見をお聞かせ頂ければ本当にありがたく思います。

=====
とのことです。

責任感 -1999/05/19(水) Vol.854-

今年、ゆーたは「福祉委員会」という係りになった。

話の内容から、空き缶のリサイクルや、朝の挨拶運動なんかをするみたいだ。

で、先週のこと。

朝の挨拶運動の当番になっていたとき、ゆーたは遅れていった。

これは本人が自分の仕事や当番であるということを知らずにいた。

毎朝恒例の集団登校で学校に行ったゆーたは、他の子から「今日は、当番なのに！」と責められたみたいだった。「役立たず」とも言われたみたいだ。

そのことが本人をとっても傷つけたらしく、学校に行ってもしばらくは、泣いたりして保健室に行っていたという。

「役立たず」という言葉をぶつけられ、本人はショックだっただろうなあ、と思いつつ、ゆーたは確かに「役立たず」だと言われても仕方がないと思うところが、たくさんある。

四年生までゆーたは先生達や、友だちのフォローによって、学校生活を送ってこられた。逆に言えば、自分で考え、行動しなくても誰かに言われるままに、ゆーたは動いてきた、ということだ。

その話を聞いたとき、ゆーたにこう言った。

「ゆーた、お前は今まで、誰かに世話や面倒をみてもらってきたでしょ？ でも、5年生にもなれば、ゆーたより下の学年の子らの面倒を見てやらないといけない年齢になってきたんだよ」と。

「自分の係りの仕事とかを責任もってやらないといけないんだよ」とも。

僕は初めてゆーたに「責任」という言葉を使った。それまでは「責任」ということでゆーたに話をしたことは、まずなかった。

しかし、小学校5年生一般が求められる役割とゆーたの実生活、実体験はとても距離がある。だから、一概に「5年生になったから」という言い方は適切ではないとも思っている。

ゆーたの今年のおっきなテーマは「責任」かなあ、と。

それをゆーたが身につけるためには、今まで以上に学校と連絡を取りながら、ゆーたが責任を果たせるようなフォローをしてあげないといけない、そんなことを考えている。

同時に今まで以上に自我が育っているゆーたや周りの子ども達。

ますますフォローの仕方が難しくなっているのを感じる。

「息子へのいじめ？」に対するメールありがとうございます。
これらのご意見につきましても、また、HP上にまとめたりしたいと思います。

ゆーた君がいると負けるから -1999/05/20(木) Vol.86-

今日、ゆーたは学校を休んだ。いや、休ませた。

昨日は帰ってきてから、ひとしきりゆーたを怒った。これは、「何時になったら宿題をやる」と言っておきながら、それをすっぽかし、更に色々と言いつつしたり.....。

「クラスの子だって言い訳してる」

「クラスの子のことを言ってるんじゃない。ゆーたにずるい人間になって欲しくない。それだけなんだ」と。

あーいえばこういう。

結局、ばつが悪いのか、女房が帰って来た九時過ぎまで、ゆーたは二階に上がってこなかった。

で、話はそれから始まった。

「ゆーただって、学校で色々イヤなことがあるんだから～」

涙をいっぱい浮かべながら、女房にすがりついていく。

話はこうだ。

30日の日曜日は小学校の運動会。

年度当初、校長が「秋にはこの学区の大きな触れあい運動会があるので、春の校内運動会は競技敵色彩が強いものにしたい」と言った。

イヤな予感がしていた。

で、昨日、クラス全員が出るリレーの順番を決めていたときのこと。

同じグループの子ども達から

「ゆーた君がいると負ける」

「ゆーた君はぐずだから」

「ゆーた君は邪魔」

そんなことを言われたというのだ。

ゆーたが口にした言葉そのままなので、昨日言われたことが、最近言われたことかはっきりはしないが、大方予想はつく。

「明日は学校休む」

半べそをかきながらそういつている声が、寝室から聞こえてきた。

その時、僕はクラスの担任に電話を入れた。大体の状況を話した。

今朝、学校に再度連絡をした。今日休ませるということを。

その時、再度こちらの意向を伝えた。

「ゆーたの力が勝負を大きく左右するような競技なら、それは辞退させて欲しい。ゆーたの身体的なハンディを、きっちりとクラスの生徒にも伝えて欲しい。

勝つことにこだわるならば、ゆーたがいれば負けることは目に見えている。勝ち負けよりもクラスみんなで頑張ることが大切、ということならゆーたが参加できる余地はあると思う」と。

女房も僕もいろいろなハンディを持った生徒の担任をしたことがある。

「勝つ」ことの意味も勿論ある。

そのことによって、その生徒が大きく成長できることもある。これは十分承知している。

女房が出かけ、学校に電話した後、ゆーたにこう言った。

「今、先生に連絡したら、先生も『勝ち負けよりもみんなで頑張れる事が大事だと思う。今日、クラスのみんなに訴えるよ』って言ってたよ」と。

ゆーたは嬉しそうな顔をした。

「これから先、ゆーたはいろんな事にぶつかっていく。イヤなことたくさんある。でも、ゆーたはそうしたことに自分で立ち向かっていかないといけないんだ。

悪いことは悪い、いけないことはいけない、って怒ることはあっても、パパもママもどんな時でもゆーたの味方だからね。それだけは忘れないで欲しい」と。

ゆーたは、下のおじいちゃん、おばあちゃんの所に行った。

今日一日は、ゲームもビデオもだめ！ と言ってあるので、長い一日になりそうだが……。

「無理しないで下さい」と言う、僕の言葉を学校はどう受け止めるんだろうか？ そんなことがふと頭をよぎった。

わかってしまうのだ。その時のクラス子ども達との力関係。クラスの雰囲気。担任と生徒との関係。担任や学校の力量……。それをきちんと見定めないと、無理をするとかえって子ども達の心にしこりを残すことも。そして子どもがますます傷ついていくことも……。

勝ち負けよりもみんなで走ろう！ -1999/05/21(金) Vol.87-

先生へ

昨日は本当にありがとうございました。

あれからゆーたはとってもすっきりした感じです。

昨日の朝も、

「ゆーたはこれから色々なトラブルにあうけれど、自分で向かっていかないと行けないんだよ。悪いことは悪い、いけないことはいけない、って言うけれど、パパやママはどんなときでもゆーたの味方だよ」と言ったところ、少し元気になりました。

でも、先生が来てくれて、クラスのことを話してくれた後、本当にすっきりしたようです。あの子なりに五年生になって、頑張ろう、という気持ちを持ってきているんだと思います。逆に、「やらなくては行けない」という意識があるだけに余計、それに対する周りの評価や言葉に、必要以上に敏感になっているところがあると思います。

まだまだ、何かイヤなことや辛いことがあると、以前の話を持ち出して気持ちが萎えてしまうことも多いかと思いますが、少しずつハードルを越えていって欲しいと思います。

「越えなければならぬハードル」と今、あの子の力で「越えられるハードル」では、随分と高さの違いを感じます。

親として、どうしても焦ってしまうときもありますが、「ハードルの高さ」を見誤らないようにしたいと思います。そして少しずつ、自分の限界を高めていって欲しいと思います。

色々あると思いますが、よろしくお願いします。

父

.....

昨日の夕方、先生が家に来てくれた。

「1時間目に、みんなで話をしました。勝ち負けよりもゆーた君と一緒にやる方が良い、ということになりました。」と。それを聞いて、ゆーたはとっても嬉しそうな顔をしました。

先生が帰った後、ゆーたはメチャクチャ元気になりました。

ホント、重たい気持ちになっていたんでしょう。

女房が帰ってきた後、話をしました。

女房曰く

「う～ん、ホントゆーたは宝物だねえ。みんなに色々な事を考える場を与えてくれるんだもの。」と。

「人は他人の不幸には同情することができる。しかし、他人の幸福を素直に喜べないときがある。むしろ、他人の不幸を願うことすらある」

芥川龍之介の「鼻」に出てきた言葉だったろうか？

ゆーたの場合は、はっきりとした原因がわかっている。

だから、原因をきちんと話せば理解はしてもらえることが多い。

原因がはっきりしていないとか、曖昧だとか、わかっていなかったりする子どもの場合は、もっと難しいことだと思う。

僕たち大人にしたって、自分と異なる者への違和感は簡単にぬぐい去ることはできない。理解することも難しい。まして子ども達にしてみたら、もっと難しいことだろう。

.....いや、待てよ。子ども達だからこそ、大人ができないことでもできるのかもしれない。

そんなことを考えてしまった

去年の持久走大会の光景を思い出しました。

既に走り終えた友だちが、ゆーたを励ましながら、一緒に走ってくれたことを。

バトンをわざと投げ捨てる -1999/05/26(水) Vol.88-

昨日の夕方5時半過ぎ、担任の先生がやってきた。

「ゆーた君の事で報告したいことが...」

丁度、女房も帰ってきており、まさに食事をしようとした時だった。

急いで食卓を片づけ、先生にあがってもらった。

先生の話はこうだった。

「昨日、全員リレーの時に、ゆーた君はバトンを受け取ろうとせず、その場にしゃがみ込んでしまった。そして、やっと手にしたバトンを放り投げてしまった.....。その後も、教室には行かず保健室で休んでいた」と。

おじいちゃんたちと食事を終えたゆーたが二階に上がってきた。

「どうして先生が来てるかわかってるんでしょ？」

……

ゆーたの言い分はこうだった。

「どうせ、みんなは邪魔だと思っているに違いない。一生懸命走っても、そう言われることはわかりきっている。だから最初から、走らなかった」

「この前、クラスの子に『ゆーた君がいるから負ける』と言われたから、学校を休んだんでしょ？ それから先生がクラスで話してくれたんでしょ？ その後も、そんなことを言われたの？ 一生懸命やっても言われたの？」

いくら言っても、「そう言われることがわかりきっている！」の一点張り。

涙を流しながら、時々、支離滅裂なことを言ったり……。かなりの興奮状態になった。これ以上話にならないと思い、先生には帰ってもらった。

時間は7時近かった。

「やろうともしないで、何だ！」

「ゆーたの考え方は何だ！」

女房が怒った。

食事の後も、二人でずっと話をしていた。

しばらく下に逃げていたゆーたが再び二階に上がってきた。

「もう、ゆーたのことは知らない！ 一緒にも寝ない！」

女房はそう突き放した。

「じゃあ、ゆーたも寝ない！」

ゆーたは怒りだした。

……………

時々、僕が寝室に行き様子を見ている内に、ついにゆーたが女房のところに来て、再び、色々と言い出した。しかし、トーンは下がっていた。

「ゆーたは、どうしたいの？」女房が聞いた。

結局、ゆーたが言いたいことは、

「自分のこの気持ち(負けたら責められるのではないかと不安)をみんなに伝えたい」というのだった。バトンを放り出したのも、走って色々言われるに決まっているんだから、どっちにしろ嫌われるのはわかっているんだから、そうしたんだ、と。

女房は自分の気持ちをみんなに訴えたい、というゆーたの気持ちがとても嬉しかった、と。

「最初は私に自分の気持ちを聞いてもらいたい、って思ったのよね。そうじゃないのよ。あの子は、みんなに言いたいよ。」と。

「そう思わない？」と女房に聞かれたが、僕は、それ以上に、ゆーたがキチンと自分の気持ちを訴えられるかどうか、そちらの方が、心配だった。

ゆーたは人の顔色、反応を鋭く捉えることができる。

そして、ものの見事に相手の嫌がる言葉を浴びせてくる。

言葉の揚げ足取りもうまい。やりあっていても、時には、こちらが言葉に詰まることさえある……。

ちゃんと伝えられるだろうか？ そればかりが気になった。

「そこをちゃんとフォローするのが、担任でしょ？」

女房は言いきった。

僕にしる女房にしる、この手のトラブルはイヤと言うほど経験している。

トラブルは次のステップに進むチャンス！

僕などもそう思ってきた。

しかし、次のステップに進むどころか、かえって傷口を広げてしまうこともあるのだから……。

今朝、ゆーたと女房は一悶着起こしたが、元気に「行ってきます」と出かけていった。僕は今、これを書きながら久しぶりに、いつでも学校に出かけられるようにしている。

ゆーたには、わかっていたのだろう。

先週、先生が来てクラスのみんなで話した、とは言っても、本心からそう思っていない子もたくさんいることを。

そうだと思う。そんなに簡単にはいかないのだ……。

女房はしきりに言う。

「全員競争なんて、最近の学校体育の方向とは全く逆行してるじゃない！ 一体、何を考えてるのよ！ 今度のPTAの役員会で言ってきなよ！」と。

ゆーたに対して、僕も「お前の好きなようにすればいい！」と口にする事があるが、そうしたときのヤツの返事は「パパは直ぐそう言う！」だ。

今回、女房が突き放す事をしたときのゆーたの慌てよう……。

僕ではダメなのだ。やはり女房なのだ。

「いくら俺が言ってもダメだから、今度は佳子の方から一度、ガツンとゆーたに言ってよ！」

我が家ではこんな言葉が交わされている……。 (…)

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

先生へ

昨日は本当にありがとうございました。

今朝の様子です。

やはりかなり不安があるようです。

「どうせ言ってもわかってもらえない……」と何度か口にしています。

ゆうたなりに緊張しているんだと思います。

「わかってもらいたいから、ゆーたに色々と言うんだぞ。わかってもらえないって思ってるんだったら、言うべきじゃない」と答えたりしています。

昨夜女房が電話で伝えたように、みんなに自分の気持ちをわかってもらいたい、という思いは強いようです。

この間休んだとき、先生が来ていただき、「みんなで一緒に走ろう」とおっしゃって下さっても、実際に自分自身で確認したい、という思いだと思います。

ゆーたの足が遅かったり、運動が苦手なのは、生まれてからの病気のせい。

自分が加わると、このクラスは負けてしまうだろう。

それでも本当に、本当にいいの？

本当に負けてしまうかもしれないけれどいいの？

そんなことを言いたい、と。

昨日もバトンをわざと放ったりしたけれど、みんなに「ぐず」とか、「いない方がいい」と言われるのが怖かったからだと思います。

しきりに他のゲームの話をして、気を紛らわそうとしています。

- ・ ゆーたの話、是非、フォローお願いします。
- ・ 様子を見て、学校に行った方が良ければ、連絡下さい。
携帯 *****
- ・ 体育の総練習が終わった後、疲れているようでしたら、早退させて下さい。
(どうも体調も悪いようです)

鈴木 修・佳子

さて、今日、どんな様子でゆーたは帰ってくるだろうか...?
やはり、こうしたことがあると、全ての思考が止まってしまう。
学校から何か連絡がないか、とただ待っているだけってのはイヤだ.....。

運動会終了！ -1999/05/31(木) Vol.89-

26日(水)

「ぼちぼちいこっ！」を配信し終わると直ぐに、学校から電話があった。

「1、2時間目の学年練習はやったんですが、途中から疲れてしまって、今保健室で休んでますので.....」
直ぐに学校に行き、総練習が終わった後に、早退させて家に戻ってきた。

朝、みんなの前で、「僕が走らない方が良くと思う」とゆーたは言ったそうだ。7～8人のクラスの子が、
「それでも良いから、一緒に走ろう」と言ってくれたと。

27日(木)

ゆーたは、とてもすっきりした感じがする。元気になった。
自分でみんなの言葉を確認できたことがよかったのだろう....

29日(土)

「コースから外れたら殺す」と、全然関係のないクラスの子(去年一緒のクラスの子)に言われた、と。
夕方、「もう、明日はイヤだ！」と泣き出す。

その子の親に電話を入れる。
併せて担任の先生にも連絡を入れる。

「君とは、運動会が終わったら、きちんと話をすればいい。今は、クラスのみんなや担任の先生の誠意に応えることを考えよう」と。

30日(日)

運動会。朝、担任の先生が、その子とゆーたを呼んで話をしてくれた。

「運動会が終わってからで結構です」と言っておいたのだが....

結局、それが気持ちを楽しにしたのだろう、全種目、係りの仕事、などゆーたなりに一生懸命やっていた。
端から見ればなんだ？と思われても、ゆーたは精一杯やった。

夕方、恒例のケンタッキーで食事。ついでに欲しがっていたミニ四駆のコブラパーツを買ってあげた。

31日(月)

今、近所の友だちが三人遊びに来ている。

学年、クラスは違うけれど、穏やかな子ども達ばかり。安心して見ていられる。

穏やかな日…。

この運動会を通して、ゆーたの次の課題がはっきりした。

ゆーたは、自分のハンディを認識している。しかし、「何かしてもらえるのが当たり前」という意識が芽生えている。

みんなにフォローしてもらえないと、なかなかできないだろう。

たとえ、ゆっくりであっても自分に与えられたこと、しなければやらないことは最後まで投げ出さずにやり通すこと。

そうすることによって、他の子ども達から認められていくのだろう。

「のろまだけれど、きちんとやり通す」

みんな、これから先、年齢が上がっていくにつれ、ずるさを覚えたり、手を抜くことを覚えてくる時だからこそ……

たくさんの励ましのメールありがとうございました。

ゆーたもしんどかったですが、先週は親の僕たちもしんどかったです。

「今は嵐が過ぎ去った後のよう」 -1999/06/01(火) Vol.90-

日曜日の運動会、色々ありがとうございました。

ゆーたはもとより、家族共々無事に終わり、ほっとしています。徒競走とリレーは不十分ではありましたが、最後までやりきる姿に、親として大きく胸をなで下ろすことができました。私達は彼の順番を待っている間、ゆーた以上に、やきもきし、祈る気持ちで一杯でした。

今回の運動会ではゆーたのために、先生方を始め、5年3組の皆さんに本当に感謝しています。見方によれば、ゆーたのわがママが通ったようにも映ります。

ゆーたのために5年3組の皆さんが、譲ってくれたこと、我慢してくれたこと、理解してくれたこと、本当にありがとうございました。今回の運動会が、ゆーただけが良い思いをしたのではなく、5年3組のクラス集団にとって、大きな前進になることを望んでいます。またそうならなければならないと思っています。

運動会直前にゆーたは、自分が抱えている不安や心配、自分の気持ちをみんなにわかってもらいたいという意識の高まりをもてたこと、当日休んでしまおうということだけしか思っていなかったゆーたが、自分の不安を解消して、当日を迎えたこと、運動がみんなと同じように上手にできないというコンプレックスを持っている部分を、大人の声で代弁せず、自分の声でみんなに訴えたこと。

どれをとってもゆーたにとっては大きな飛躍でした。こんな姿を待っていました。ハンディがあるが故、生じる状況に、自分で対応できること。自分の力で立ち向かえること。ずっとゆーたに望んでいました。困難なことにぶつかったとき、まずは自分で挑んでみるが増えると良いと思います。

また、君との件も、お忙しい中、早急な対応をしていただき、まことにありがとうございました。上記のようなことができていれば、君に言われても、言い返すことができるのですが、それにはまだまだ自信が足りません。自分に自信がもてるようになるまでは、まだまだ時間が必要です。

それにしても、学年があがるにつれて、解決しなければならない課題や、問題は、増幅していきますね。

10年前、浜松に帰ってきて同居を始めたときから、「妻」とおばあちゃんはうまくいっていない。本質的にあわないのだ。

自分の母親ではあっても、僕自身、今現在でも母親を疎んじている。

過保護、過干渉。

そのために僕は中学、高校と母親を避け続けた。

母親として僕をこの世に生み、育ててくれたことには感謝している。これは嘘偽りのない気持ちだ。一方、一人の人間として母親を見た時には、昭和の時代を生きてきた女性としての、「古い考え方」には相容れないものを感じる。

「ゆーたが可哀想」ということが、母親の考え方の出発にある。

だから、何でも手を貸し、何でも言うことを聞いてしまう。

「放っておく」ことが、今のゆーたにはとても必要なのに、それができない。僕たちがいくら、しばらく待とう、と思っても、横からおばあちゃんが手を出してしまうのだ。

このことは何度も僕は母に言ってきた。

しかし、言ってもわからないのだ。

.....

ゆーたは、確かにハンディを持って生まれてきた。

大人たちにたくさんの愛情をかけてもらって育ってきた。

友だちにも支えられてきた。

ゆーたは自分のハンディを認識している。そして、それは誰のせいでもなくどうしようもないことだということも。

しかし、「何かしてもらって当たり前」という感覚が芽生えていることも事実である。

「人に感謝する」という気持ちが育っていない。

だから、自分を攻撃する友だちは「悪い」という図式が成り立つのだし、思い通りに ならないことが、何とも許せないのだと思う。

「おばあちゃん、おばあちゃん！」という声の下からしている。その度に相手にしているおばあちゃん。つい先ほども「ゆーたは今日はズル休みしてるんだから、いちいち相手をする必要ないんだからね！」と言った。

「おやつは？」

「10時になってからだよ。」「手を洗っておいで」そういったおばあちゃんの声が聞こえる。

たまたまなくイライラする.....。

二世帯住宅.....良いところもあるけれど。そう思ってしまう。

京都にて -1999/06/11(金) Vol.92-

最近、書くことがないのではなく、また、書けないのでもない。

むしろ書きたいことがいっぱいあるのだが.....。

今週の月、火、と京都へ行ってきた。

まぐまぐの深水さんと会って色々話をするために.....。

せっかく京都に行くのだから、とゆっくりとしてきた。

子育てからの逃避か？という声も聞こえそうだけれど、リフレッシュ！という事で許してもらおう～。
って誰にだあ？(;)

司馬遼太郎の「竜馬が行く」を読んだのが、高校生の時。
以来、幕末の頃の小説をよく読むようになった。
特に司馬遼太郎の本が多かったが。

最初は坂本龍馬のお墓に行きたいと思っていたのだったが、観光のパンフレットに「寺田屋」があるではないか！「ウン、ここだ！」と早速出かけていった。

ああ、ここに居たんだなあ……。
時間がゆっくり過ぎていった。

まぐまぐの深水さんに会ってきた。
日頃思っていること、メールマガジンのこと、教育のこと、など色々と話げできた。
深水さんの言葉の中で印象的だったこと。

「どうして、みんな人に何とかしてもらおう、って思うんだろうか？ 自分でやろう、自分で楽しもう、って考えないんだろうか？」と。

以前、ウィークリーまぐまぐに深水さんが書いていた。

「自分たちは何も変わっていないのに、周りの見方が変わっていってしまう」とも。

メールマガジンのパイオニアとしてのまぐまぐ。
巨大化してしまったまぐまぐ。
色々な人が、色々なことを言うてくるのだろうなあ、と。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

ゆーた、最近反抗期のように。

毎日毎日、日替わりランチのように、僕たちを喜ばせたり、考え込ませたりしてくれてます。

だから、途中まで書きかけて、じゃ、配信、という頃になると、様子が一変している……。そんな毎日です。

そこらあたりは、また、ぼちぼち……。

今度は金曜日から来よう！ -1999/06/14(月) Vol.93-

11日の金曜日朝、ゆーたは女房もとい「妻」に、口答えをしたりして、目一杯怒られた。そしてゆーたのいつものセリフ

「もう、今日は学校行かない！」

「行かなければいいじゃん！」と女房、もとい「妻」(しつこい、って?)

結局、こうなると手が着けられず、ゆーたは学校を休んだ。

土曜日、日曜日とサクランボ狩りをしに、山梨へ出かける予定を立てていたのだった。金曜日、女房は早く帰ってきた。そして、再びゆーたとガンガンやり始めた。

ゆーたも興奮して、泣き、騒ぎ、怒り.....。

僕は横でパソコンに向かっていた。

女房の怒りのボルテージも次第に上がっていった。

(リザードンの「いかり」を連想した。 < わかる人にはわかる！)

最近僕は、ゆーたの気持ちを整理させられるようになってきたと自負している。とにかく一つ一つ、冷静に冷静に解きほぐしていくことだけれど。

一度怒りだしたゆーたの気持ちを、自分に向けさせるかがポイントなのだが、これはとても口では説明できない。その時の状態をみて、「殺し文句」を口にするのだが.....。

二人の間に割って入り、とにかく、今朝、悪かったのはゆーただった、と言うことをわからせることができた。

「まず、一番の原因を作ったのはゆーただから、そのことに対して、『ごめんなさい』って言えないと、話が進まないでしょ？」

ようやく、ゆーたは女房に「ごめんなさい」を言った。

そして、下に言って、おじいちゃん、おばあちゃんに、

「ママにごめんなさいを言ってきた」と伝えることと、「おじいちゃん、おばあちゃんにもごめんなさいを言うてくる」ということ、この二つをやってきなさい、と言って一件落着！

まあ、エネルギーを使うわあ....(--;)

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .:*.・'° 。.:*...*:

実は、土日とさくらんぼ狩りをしに清里に一泊で出かける予定だったのだ。

三年前にも一度、日帰りで清里の「萌木の村」に出かけたことがあり、今度は気合いを入れて、一泊にしたのだったが、「こりゃ、下手すればキャンセルか！」という思いが脳裏をよぎっていた。

でも、なんとか、無事出発。

清水インターでおりて興津から国道52号で、一路山梨へ！

サクランボ狩りは、僕とゆーたは、ま、こんなもんか、と言う感じ。

でも、おいしかった。(^^)

その後、昇仙峡へ行って、ロープウェイに乗り、てっぺんへ！

「うぐいす谷」という見晴らしの良いところで、三人でしばし景色を眺め、その後、宿泊地の清里「炉辺荘」というログハウス風のペンションへ！

ゆーたはそのログハウスが、とっても気に入ったらしい！

「すごい～！リッチい～！」と。

日曜日は、清里のスキー場へ。ちょっとしたハイキングコースになっている。スキーリフトを二つ乗り継いで上へ。更に石段を登って、標高1900mの休憩所まで。

辺りが一望できる。

リフトに乗りながら、そして、頂上の休憩所で、

「きれいだねえ～。気持ちいいねえ～」と。

「先生、いよいよお？」

生徒達に半ばからかわれながら、学校を後にした。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*..'° 。.:*...*:

産院につくまでの道、いつも以上に車のスピードは出ていたと思う。

その頃乗っていた車は、トレノ1600GTV(若かった!)カーステレオから流れてきていたのは、TMネットワークだった。

産院についた。

ラマーズ法、で出産、と言ってもそれほど僕自身は積極的ではなかったような気がするが、とにかく分娩室に入った。そこには先生と看護婦さんと、ベッドに横になった女房がいた。

「はい、ガンバって~！」

「お父さんは、横にいてっ！」

女房に言わせると僕は、興奮していた、と。

僕はそんな覚えはないのだが.....。

「頭が出てきたよ~!もう少しガンバって！」

.....。

ゆーたは、一声か二声しか泣かなかった。

「もっと赤ちゃんって激しく泣くんじゃないの？」そんなことを思った。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*..'° 。.:*...*:

「ラグビーボールだ！」

お腹から出てきたばかりのゆーたを見たとき、そう思った。

感激したとか、涙が出た!とかいう手記を読んだりもしたが、僕が思ったのは、「こいつは、一生、こんな頭で生きていくのか!」ということだった。しかも、体中、紫色のような.....。(色については、正確ではない。僕は色弱です)

「お父さん、赤ちゃんの体を洗ってあげてください」

「え、え、え~っ！」

おっかなびっくり、今にも壊れそうな、今、生まれたばかりの我が子を洗った。

そうこうしていくうちに、頭のトンガリが丸みを帯びていった。

「産道を通り安いようになってるんです」看護婦さんに言われた。

目の前のそうした光景を目の当たりにしたとき、初めて、僕は命の誕生を実感した。

Happy Birthday! U-ta!

実は誕生日どころではないのです。

昨日の学級懇談会。担任の指導方針に対して、ほとんどのお母さんが反発をして、終わり頃には、一種のつるし上げ、みたいな様相。35人のクラスのうち、24人が出席。その内、父親は僕だけ。

昨日の朝も、あるお母さんから、「昨日の懇談会はどう思われました？」と電話がかかってきたり.....。もめますね、これは.....。

ますますまずい展開になっているような.....。

女房にその話をした。

その場の雰囲気知らない女房は、脳天気な答え方をしたのが僕には不満だったが、最後には「パパがまとめていかなければ、どうにもならないでしょ？」と.....。

とりあえず、学級委員をしている二人に、簡単に今の状況についての考えをF a xで送っておいた。

「僕にできることはなんでもします」と.....。

身体のしくみ～保健の授業～ -1999/06/23(水) Vol.96-

先だっでの学級懇談会の席上、五年生ともなると早い子はもう、生理が始まる、という報告があった。知識の上ではしってはいても、いざゆーたがそういう年齢に達してきたと思うと何とも言えない気持ちになる。

女房、もとい「妻」は、特に「性の問題」をゆーたがどう乗り越えていくか、気が気でないらしい。これは「男性の生理」を知らないことと、やはり高校生の教員として、性的な問題にたくさん直面しているからだろう.....。

僕も心配ではあるが、女房、もとい「妻」よりは深刻ではないと。

：*：*：*。 。：*：*：*。 。：*：*：*。 。：*：*：*。 。：*：*：*：*：

ゆーたは口の周りの「ひげ」が濃い。

髭の薄い僕に言わせれば、「髭が濃いかっこいい！」(どーゆー論理?)とっていたから、うらやましいのだが、本人はいたく気にしている。友だちにも「ひげが濃いね～」などと言われるモンだから....。

う～ん、声変わりをして、髭がもっと濃くなったゆーたを想像できないなあ.....(^_^;
小さい頃のままの、「可愛いゆーた」であって欲しいなどと、玩具のように思ってしまう親のエゴ!
(笑)

一方、大きくなったゆーたと、二人で酒を酌み交わす光景を思い浮かべたりもする。

どんなお店だろうか？

何を呑んでいるんだろうか？

何を話しているんだろう？それとも黙ったまま.....????

：*：*：*。 。：*：*：*。 。：*：*：*。 。：*：*：*。 。：*：*：*：*：

自分の手の中にいつまでもしまっておきたい大切な宝物。

そんな思いになってしまった。

あっ、僕に娘がいたら、結婚式なんて、とてもじゃないと思ってしまったりもした.....(._.)

「懇談会」については、「子育て...」の方でまとめていきます。

早速、現場の先生からお便りをいただきました。来週、紹介します。

今日は、沖縄での戦争が終結した日。

ゆーたのクラスには、「見つけたよ」という箱がある。
友だちのどんな小さな良いところでも、見つけたら書いて、その箱の中に入れるのだ。
この箱は、丁度、この間の授業参観の道徳の授業の話のまとめとして、先生から説明があったのだ。
他にもたくさんの子供も達の「良いところ」が学級通信に載っていた。
「友だちの良いところを、どんどん見つけていこう。そうすれば、その子のことをもっと好きになれるかもしれないよ」
そう言った先生の言葉が、心に残っている。

.....この話は、大人たちにこそ、必要なだろうなっ.....。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

「ゆーたあ、こうやって 君が、書いてくれて嬉しかった？」
「ウン！」
「じゃあ、今日はゆーたも誰かの良いところを見つけておいでよ」
「う～ん.....難しいなあ... (;)」

確かに、ゆーたには難しいかもしれないな、と思いつつ、いつかゆーたが「見つけたよ」の箱に入れられるようになったら、また、ゆーたはちょっと成長するかな、と。

学級懇談会の事も触れられていました。
「.....懇談会では、指導に対するご批判をいただきました。私なりに反省し考える機会を与えてくれたことを、ありがたく受け止め、今後の指導に役立てたいと思いました.....」と。

算数ドリル -1999/06/29(水) Vol.99-

「さあ、宿題やっちゃお！」
ゆーたがひとしきり遊んだりおやつを食べたりした後、そう声をかける。

「ウン？明日の宿題は？何？」
「えっと、算数ドリルと、本読みと書取とお.....」
五年生になって、宿題を忘れてたりすることに対して、厳しく言われるようになったのか、予定帳もしっかり書いてくるようになった。だから、毎日、去年までのように、算数ドリルなどをためてしまうことも少なくなった。
ほとんど、毎日のように、算数をやっている感じだ。

ゆーたが宿題の準備を始める。
最近、算数ドリルを最初に出すようになってきた。
今までは、最後に回していたのに.....。

「おお！最近、算数が好きになったのぉ？」とちょっとからかいながら、僕が言う。
「そーでもないよっ！う～ん、四八%くらいかな？ 四月の頃は五%くらいだったけどぉ.....」とゆーた。

わからないまま、1時間座り続けるのは、ホント苦痛だろうなあ、と。
ゆっくりでもいいから、「わかる」ことが大事だよ！

いいぞ、その調子！

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

テストの点数を気にするようになってきた。

決して点数に左右されているとは思わないが、もう少し、 が欲しい、そんな感じだ。

「明日テストがあるんだね。じゃ、ちょっと教科書読んでおくか？ 教えてやるぞぉ～」 そう言うと、「ウン、そだね」という返事が返ってくるようになった。

国語で「仮名づかい」という所をやっている。おぉ、懐かしい～！ ついつい、色々と説明してしまった。「へえ～！！」と聞いていたんで、調子に乗ってしまった。(笑)

サッチーも、ヒロスエも君が代も -1999/06/30(水) Vol.100-

朝のワイドショー。

月曜日は、ヒロスエ一色。

また、サッチーの様々な「疑惑」が連日のように特集を組まれて流される。

一方、ニュースでは「君が代・日の丸」の法制化が七月末にも可決の見通しとか…。

う～む……………。(～;))

全部、同じに感じてしまうのだ。

ワイドショーも、ニュースも結局の所、ブラウン管の向こうから、締め忘れた蛇口から水が流れるように、ただ、ただ、流れてくるだけ。そんな感じがする。

「ああ、何かやってるなあ…」と。

時として、テレビの報道にあきれかえったり、腹を立てたりもするが、所詮一時のこと。この感覚、何とかならないだろうか？ 味噌もクソも一緒くたになって、僕の中に入ってくる。

味噌とクソは一緒ではないのに、一緒に感じてしまう僕の感性は、一体どうなっているんだろ……？

女房は、「新学習指導要領のこと、どうもよくわからないわぁ。もっと勉強しないとついていけない。結局『学力』って何か、ってことなのよね」などと口にするが、もう一つピンと来ない僕。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

毎日が過ぎるのが早く感じる。

あれ？いつの間にか今週も後半だ！

「刺激が足りないのかな？」

そう思いつつも、毎日のゆーたを中心とした暮らしに、不満があるわけでもない。むしろ、色々なことをゆーたを通して、発見したり、考えたりしている。それはそれで、またいい。今の自分が嫌いだ、というわけでもない。

でも、もっと刺激が欲しい、のかな？

よくわからん！

おお！この「ぼちぼち…」も今日で100号となりました。
このメールマガジンは、ただ今、383人の方々に配信されてます。どんな人達が読んでくれているんだろ...？ これからも宜しく！(^)/

1999年7月

「最近、疑問に思うんだ」 -1999/07/01(木) Vol.101-

ゆーたが突然、そう口にした。

「何が、疑問なの？」

「ウン。消費税を5%に決めたのは、誰なんかなあ、って思うんだ」

うっ、一瞬答えに詰まってしまった。(^^;

「消費税はね、国の法律で5%に決めよう、ってなったんだよ」

「ウン、で誰が決めたの？」

----納得していない。(-_-;)

「えっとね、政府が法律を提案してね、国会で決めたんだよ」

「ふ～ん.....」

----絶対にわかってないなあ。

「で、誰が決めたの？」

「国会議員の人達は、パパやママ達が選挙で選ぶんだよ。その時、パパは『消費税反対』って言っている人に投票したけれどね」

「誰が決めたか、って言ったら、結局、議員さんを選んだ人、みんなが決めた、ってことなんだよ.....」

最後の方は、ゆーたにわからせる、というよりも、なんか、自分に向かって言っているような感じになっていた。

そう、国民一人一人が決めるんだよな.....。

今の「日の丸、君が代」も....。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

ゆーたがそんなことを言った背景はこうだと思う。

我が家では決まったお小遣いをあげていない。

沼津のおじいちゃんや、正月のお年玉、などからゆーたが買いたいものを買わせている。と言っても、メチャクチャお金を使うわけでもない。

最近、色々欲しいものが出てきたようだ。

「 が欲しい」と言うと、

「いいよ、自分のお小遣いで買えば」と答えている。

いざ買いに行くと、この消費税5%が、意外とジャブみたいに効くのだろう。それが、ゆーたの「疑問」になったのだろう。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

この先、ゆーたの疑問に、どれだけ答えていけるのだろうか？
どんな疑問にも、真っ直ぐに答えたいなあ、とったりもした。

> どんな人達が読んでくれているんだろ...？

昨日の「ぼちぼち...」にそう書いたら、早速何人かの方からメールをいただきました。短い言葉の中にも、ああ、こんなメールマガジンでも楽しみにしてくれている方がいるんだな、とシアワセな気持ちになりました。(^^)

教科書って面白い -1999/07/02(金) Vol.102-

一学期も終わろうとしている。

学期末と言うことで、各教科とも「テスト」が多い。

「おお、明日は のテストがあるなあ」

「ウン」

「んじゃ、チョット教科書読んでいくか？」

「ウン」

時としては、朝早く起きてから、教科書を読んでいくこともある。

「んじゃ、予想問題ね～」

等と教科書を読みながら、色々質問したりする。

読みながらついつい、中身が面白くなって、話がどこかへとんでしまうこともある。

「家庭科」では、家族の役割や働くと言うこと.....。

「理科」では、天気図の見方等々.....。

算数ドリルもそうだ。

いざ、計算となると、途端にわからなくなってしまうけれど、日常生活ではきちんとできるのだ。(時々とんでもない答えを出すこともあるが)

教科書やドリルを「点数を取るための対象」という目で見なくなったとき、これは面白い読み物になっていくような気がした。

本人は、 がもらいたい、という思いがあるだろうが、僕と一緒に てもらいにいったら、きっと面白くなるだろうなあ。

いや、予想問題をつくったりしていけば、かなりのテスト対策にはなるだろうし、それなりにテストの点数もあがるだろう。また、ゆーたも喜ぶことは喜ぶだろう。コンプレックスも少しは払拭されるかもしれないなあ。

そう言う一面はあるだろう。

でも、やっぱこれをやり始めたら、僕も点数でゆーたを追っていくことになるんだろうな、と思った。

また雨が激しく降ってます。先日の大雨でも多くの人の命が失われました。

被害が最小限度になりますように。そして、人の命が奪われないように.....。

ウチのは教えるのが好きだから -1999/07/05(月) Vol.103-

女房は、職場では「パソコンが使える」という評判みたいだ。

その話を聞かされるたびに、僕は笑ってしまう。(失礼)

こうしたところから、学校教育へのパソコン導入に対する、社会全体の動きと教育現場とのギャップを、メチャクチャ感じてしまうのだが.....。

それはさておき、学校の中でやはり使われるソフトと言ったら、ワープロに次いで、「表計算ソフト」だろうな。何しろ、至るところに処理すべき「数字」が、転がっているのだから。

- ・テストの点数処理(順位、合計、平均)
- ・各楽器の成績処理(点数に応じての評価、10段階評価からの5段階評価への変換)
- ・成績一覧表(各学期毎に生徒の一覧をつくる)
- ・出欠席
- ・スポーツテスト
- ・他にも水泳の記録、運動会や水泳大会の点数処理

で、夕べも成績処理を頼まれた。

学校は「ロータス」を使っている。僕はすっかりロータスからエクセルに乗り換えてしまったため、どうもやりにくい。

「エクセルでやろうよ!」と言うと、「だって、まだ、昔のロータスを使うことがあるんだモン」と言う答え。

.....

処理としては簡単だ。

水泳のタイムに応じて、10段階評価をつけていく、というもの。

男子、女子別。クロールと平泳ぎ別に。

秒以内は10、秒から病魔では9...、と言った具合に。

そして、度数分布を出して、10段階の平均が、7点前後になるように、調整する。グラフを見ながら、どうも、5が少なすぎる、とか、10が多すぎるとか.....。

しかし、こうした処理を僕が自分でやるのと、「少しは知っている」女房が「ほとんど知らない同僚」に教えられるようにするのは、全く違ってくる。

女房に教えるにしても、まだ、説明が途中であっても、「ウン、わかった、わかった!じゃ、お風呂はいつてくるから!」とくる。

.....困ったモンだ。だから、僕は女房にパソコンを教えるのが嫌いだ!

そんな女房が、若い同僚に、「パソコンは覚えなさいといけないよ~。どう? 夏休み、ウチに来たら? ウチのは、人に教えるのが好きだから、教えてもらえるよ」と、声をかけてきたそうだ.....。(;-;))

う~ん、素晴らしい「妻」だ....。

今週から、小学校が短縮授業になった。

いよいよ夏休みだ!

子ども達に夏休みはいらぬ! と叫びたくなる今日この頃

誕生日 -1999/07/06(火) Vol.104-

今日は僕の誕生日でした。

ゆーたに、この前、「7月は、何があるか知ってる?」と聞いたら、「30分間、回泳」

「他には？」
「夏休み！」
「他には？」
「 の発売！」
「他には？」
「う～ん……。わからん！」
いつもと何にも変わらない一日。

昨日、女房が「明日、デパート行くから、何か買ってきてあげようか？」と聞いてきた。「いらん！」
……大体、何か買ってくると、そのことをず～っと、恩着せがましく言い続けるから嫌いだ！ それで
も、一応、ゼリーを買ってきた。

夜、PTAの地域の会合があったので、食事をした後、いつものように片づけをし、いつものようにご飯
をセットして出かけていった。

僕が帰ってきたときには、女房もゆーたも寝ていたの、一人で冷蔵庫をあけて、ゼリーを食べた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

42歳になりました。
去年が「男の厄年」だそうで、確かにそうだなあ、と。
連帯保証人のトラブルで終始した一年間。
ホント、たまりませんでした。(^^ゞ

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

元号よりも、僕は西暦の方がピンとくる。
「80年代の教育は俺達がつくるんだ！」
そんなことを語っていた大学時代を経て、1980年に大学を卒業。
憧れの教師になり、無我夢中で突っ走ってきた一〇年間だった。

結婚、ゆーたの誕生。そして手術。
1990年に沼津の高校を退職して、浜松に帰ってきた。
浜松の高校に勤務、退職、学校設立運動、開校、退職、扶養家族、自己破産……。
この10年間もまた、「激動」の10年間だったような。
そんな90年代も終わっていかうとしている。

2000年からの10年間、果たして僕はどこで何をしているのだろうか？
う～ん、自分でもよくわからないなあ……。
こんなフラフラしていて良いのだろうか？（笑）

最近忙しいです。じっくり腰を落ち着けて考えられる時間が、ホント少なくなりました。ヤダなあ
……。

自分のこと、好き？ -1999/07/12(月) Vol.105-

毎日、毎日がとっても早く過ぎていきます。
これは良いことなんでしょうかねえ……？

スターウォーズ、上映始まりましたね。もう、観られた方はいるのでしょうか？「鉄道員」「となりの山田くん」と併せて、観てみたい映画です。

不覚っ！ -1999/07/13(火) Vol.106-

ゆーたが帰ってくる前に、少し床で眠りました。

大体ゆーたが帰ってくると気がつくのですが、昨日は疲れていたのか、全然わかりませんでした。下のおじいちゃんたちに、荷物を片づけてきなさい、と言われたみたいですが、その時も足音を忍ばせて上がってきたようです。

「宿題やろうと思ったけれど、パパが寝てるから可哀想だから、起こさないであげた」

そうって、ひとしきり、ゲームボーイで遊んでいたとのこと。

う～む。

キャツも言うようになったなあ……。

ゆーたも一眠りして目を覚ましたのが、夕食前。

宿題、明日の準備もできないまま、僕はPTAの補導研修会に出かけていった。やられたなあ、と思いながら……。

この話を女房にしたら、「また、寝たの！ ホントにもう～」と言われるのは目に見えている…(;_;)

PTAの研修会。青少年補導センターの係長の話。

「最近、先生の『人権』が無視されているから、現場の先生もやりにくくなっている」と言った。ひっかかるなあ……。(-_-;)

小児神経 -1999/07/16(金) Vol.107-

今日は、小児神経の診察があった。

浜松に帰ってきてから、当初はリハビリに2週間に1回くらい通っていたが、「もう、こちらでやることはないでしょう。後は日常生活の中で遊び回ることがリハビリです」ということで、その後、小児神経に通うようになった。

ゆーたが通っている病院は大きく言って三つ。

静岡の脳外科…。これからもシャントの入れ替え手術でお世話になっていく。また、ここで痙攣止めの薬を出してもらっている。

眼科…。

「左右とも右半分ほど視野がかけています。」

丁度眼科の医者は、僕と同年で、十数年前僕が網膜剥離の手術をしたときの担当医だ。ゆーたが生まれて直ぐのときも、家に遊びに来がてら、相談に乗ってくれた。医者を知り合い、というのは何とも心強い。

先だって診察で「視野が少し回復しているねえ～」とのこと。

欠損している部分も少しずつではあるが、回復するみたいだ。

いや、これは語弊があるかな？

欠損しているところは欠損しているけれど、脳の他の部分が代用していくということみたいだ。う～ん、凄い！

時々、声を詰まらせたり、時には気丈になったり.....。
動転しつつも、それでも親であるが故に、色々な問いかけに答えている。
そんな両親の姿はとても直視できなかった。
最後に、遺体と対面して僕たちは、病院を後にした。

：*：° 。：*：° ° '：*：。：*：° 。：*：*：

今日からいよいよ夏休み。

この間、学校とも夏休みの交通安全や通学路の危険箇所などを話しあっていた所だった。今頃、終業式の席上で、校長先生から昨日の事故のことが話されているときだろう.....。子ども達は、どう受け止めているだろうか.....？

昨夜から、今日、お父さんやお母さんは、変わり果てた姿で家に戻ってきた我が子を前に、どんな思いだったろう.....。

言葉にならない.....。

.....小さな命が一つ奪われた.....。

夏休みモード -1999/07/26(月) Vol.109-

暑いです。溶けてしまいそうです。
夏休みに入って、更に忙しくなってきました。
炎天下の中、プール当番で四時間ほど。
昨日の日曜は、奉仕作業でペンキ塗り。
臨時の運営委員会。
夜は夜で地域のお祭りがあれば、校外指導と言うことで巡回.....。

結局、7月30、31日に予定していたPTA主催のキャンプ(学校のグラウンドを使って)も、この前の交通事故の直後と言うこともあり、中止になりました。

：*：° 。：*：° ° '：*：。：*：° 。：*：*：

暑さもさることながら、緊張感が欠けてしまっています。
生活のリズムもムチャクチャになりつつあります。
なんつっても、朝、ゆっくり寝ていても女房に怒られない！
女房の方も、部活と家庭訪問
.....女房の高校は1年生の全家庭を訪問するのです！
比較的朝もゆとりがあるからでしょう。

ゆーたの学校も休みで、「早くしなさい！」と大きな声を出すことも、めっきりなくなった。

だから、だから、だるだるううううううううううううううっ！

いかななあ、と思いつつも、目一杯疲れ切ってます。
ウナギでも食べて、元気をつけるか！

最近、PTAの三役から、「来年もお願いしますね」なんてことを言われる。
げげげげげ！ このままではPTA会長か！！
でも、やっぱできないだろうな。
何よりもネックは、日の丸、君が代だろう、と思う。
日の丸にお辞儀する気は毛頭ないし、君が代を歌う気も全くない。
こんなのが学校の親の代表になったら校長さんの立場もないだろうしな。

でも、それでもOK、ってなったらどうしよ……？
って余分な心配か。(^^ゞ

エピソードー、ゆーたと見てきました。
僕もゆーたもとても楽しんでできました。特にCGを駆使した画面は凄いなあ、と。
アメリカではジャージャー・ピンクスが「黒人を揶揄したもの」と批判があがっているとニュース
でやっていた。感覚的にはそう思わなかったのだが。

1999年9月

低空飛行 -1999/09/01(水) Vol.110-

7時30分から始まる朝の連続テレビ小説を横目にみながら、食器を洗う日が始まった。

7月26日以来の発行。
毎日、毎日、平凡に流れているように思えても、決して同じ日はなく、その時々々に心を揺さぶられてこと
があったのに。

八ヶ岳でのジャズフェスティバル
下田でのシーカヤック
スターウォーズ、となりの山田君... etc、etc.....。

言葉を失ってしまって...。
ウウン、違う違う！
面倒くさくなっちゃって？

.....
PTAが忙しくて...。
24時間、PTAをしていたわけ？
生活にリズムが失われてしまったから...。
それまでもそんなにしっかりした生活をしていた？
先が見えなくなってしまって...。
目を開けてしっかり見ていた？

.....

君が代が国歌に、日の丸が国旗に決められたとき、僕は親子三人下田の海で、シーカヤックに乗って喜んで
いた。トルコの大地震のニュースが起きたときも、ゆーたと一緒にゲームを続けていた.....。

自分自身を見失っているような.....。

夏の終わりの頃、女房に言われた。
「ゆーたと一緒よ！ 結局は誰かが何とかしてくれると思っている。自立できてないのよ！」

返す言葉もなかった....。

精神的な低迷期？
この一ヶ月、メールマガジンを書こう、という気持ちが全く起きませんでした。
色々な方からのメールの返事も出さずじまいでした。こういう時って.....。今しばらく続きそうです.....。

牛乳 -1999/09/02(木) Vol.111-

夏休みが終わりに近づいた頃、「お~い、ゆーたは学校が嫌い？ 好き？ 学校でイヤなことある？」と聞いたときに、

「う~ん、あると言えば、ある.....」と答えた。
一瞬ドキとしたが、ゆーたの答えが「牛乳」だった。

ゆーたは、牛乳が飲めない。いや、好きではない。
だから、給食の時間が非常にイヤみたいだ。

1学期の時も、同じ班の女の子達に
「牛乳飲まないといけないんだよ！」ときつく言われて、めげてしまったことがあった。 その子達にしてみれば、他の友達に言うような口調で言ったようだが、ゆーたにしてみれば、「非常にきつい」言葉になってしまうのだった。

.....そう言えば、僕も小学校の頃、にんじんが食べられなくて、掃除の時間に一人で食べて(飲み込んで)いたなあ.....。

女房が言う。
「別に飲めなければ飲めないで良いじゃん。牛乳に変わるカルシウムをしっかり採れば良いんだから。無理に飲ませることはないよ」と。

うむ、なるほど、納得！

ゆーたは、チーズは大好きだ。これで良いんだな。でも、女房がせっせと作った「スモークチーズ」は、「臭い！」と言って口にしようとしなないけれど.....。(笑)

今度の日曜日は、近隣の小中学校のPTAのドッジボール大会。
夕べも練習があって、ひとしきり汗をかいてきました。運動しなくちゃ、ダメですね。

生命保険 -1999/09/03(金) Vol.112-

昨日の昼間、ゆーたが入っている学資保険の地区担当(?)の人が我が家にやってきた。
???? お、何だ今頃？と。

「生命保険のこの地区を担当しているものですが、私どもの担当者は、こちらにお邪魔しましたでしょうか？」と。

「いえ、未だかつて一度も来たことはありません。何ですか？」
「カードを作っただけだと、電話一本で引き落としができた...」
「はい、わかりました。今、工作中です。」
「じゃ、この用紙にお名前だけお書き下さい」
「これで良いですか？」
「ありがとうございます。お休みの所、失礼しました」
ドキッ！
実は、昼寝をしていたのだった！！見透かされたか???

:.:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:. .:*.:'° 。.:*:.:*.:

ゆーたが生まれて手術直後のことだった。
女房は産院に、ゆーたは病院、誰も居ない家に戻った時、突然、我が家に生命保険の外交員さんがやってきた。

「子どもさんがお生まれになったそうで...」
「何かと大変だということで、お邪魔しました」
「こんな生命保険があるんですが.....」

「そんな話を一体どこで聞いたんですかっ！」
そう聞き返す気力もなかった当時、とりあえず、「帰って下さい」とだけ答えたことを思い出した。

何かの時の備えは必要だろうなあ、と思いつつ、「命の値段」なんてことを考えてしまった。保険会社も大変なんだろうなあ、なんて言う変な同情心も顔をのぞかせながら。

「元気の無いメールを拝見して、でも止めたわけではないのが分かって嬉しかったのと、自分だけが落ち込んでいるわけではないとわかったことで、私はちょっと元気が出ました。」
こんなメールをいただきました。だはははははっ。(^^)

肥満児 -1999/09/04(土) Vol.113-

小学校4年生のころから、僕は見事なくらいに太りだし、六年生の時には「肥満児」というお墨付きをもらった。当時の写真を見ると、自分でも目を背けたくなるくらい、プクプクしていた。

運動は好きだし得意だった(つもり)だったが、どうしてあんなに太っていたのだろう、とってしまう。まあ、「太る体質」だと自分で解釈しているのだが.....。

中学に入り、運動部で鍛えられた僕は、いつしか「肥満児」を脱却していた。
高校、大学と身長170cm、体重65kgを維持していた。

で、昨日、小学校で身体検査があった。

ゆーたはこの夏、なんと4kgも体重が増えていた。

身長は+1.5cm。

ローレル指数が一気に18%にまで上がっていた。(;)

プラスマイナス20%が一応標準だから、ゆーたはかろうじて標準以内に収まってはいるが、この先が心配でならない。

女房の体質を引き継いでいれば、ガリガリになるのだが、ゆーたは僕の体質を引き継いでいるように思うのだった。

とにかく動かないからなあ……。

「まず、アンタが動かないからよ！」

と日頃女房に言われるように、僕自身がシェープアップしなければならないだろうなあ。ゆーたは結局、僕が毎日家でゴロゴロしている！そう思っているのだから。

汗をかかなくては、汗を！

……現在ローレル指数 + 50%の O S M (^_^;

明日は、P T Aのドッチボール大会。チョット動くと思切れがしてしまふ……。
四試合もやるんだって……。(;)

P T A球技大会 -1999/09/05(日) Vol.114-

近隣の小学校六校、中学校3校の計9つの小中学校が集まって、年に1回親睦の球技大会が行われる。父親はスーパードッチボール。母親はバレーボール。

予選は3チーム毎でリーグ戦。その後各ブロック1位リーグから3位リーグを行い、順位を決める。

僕はドッチボールに出場。

我が小学校チームは、練習の甲斐あって(?)、見事に優勝。(^^)v

一方、バレーボールは第9位、という結果だった。(;)

特にバレーボールは、非常に熱くなる。

「高校生」がゲームをしているかのような錯覚を起こしてしまった。

……高校生、にしては化粧がひどく厚かったりするのだが(笑)

一つ一つのプレーに喜んだり、悔しがったり。

普段学校で顔を合わせる、お母さん達の顔はない。

きれいに着飾って、参観会や懇談会に出て、かしくまって座っている姿からは程遠い姿がそこにある。

むしろこっちの姿が、本物なんだろうなあ、と思ってゲームを見ていた。

この「顔」で教室でも子ども達の事をお互いに話ができたらいいなあ、とも……。

おばあちゃん -1999/09/06(月) Vol.115-

「おばあちゃん、おばあちゃん！」

ゆーたの大きな声が、玄関を開ける音と同時に、二階にまで飛び込んできた。

「あそこのハウスのところで、4 cm くらいのスズメバチに刺されそうになった！」

ゆーたの話は、とどまるところは知らない。

おばあちゃんの「パパにただ今、って言うておいで」という声が、ゆーたの話の合間に聞こえてくる。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

おばあちゃんは、日曜日から具合が悪くなって寝込んでしまった。

めまいがして立ってられない、ということだった。

日曜日のお風呂もゆーたは、「仕方なく」女房と入った。

ゆーたに言っておいたのだ。
「今日は、下へ行ったらだめだよ」と。

二階へ上がってきたゆーたに、
「スズメバチの話は聞こえたよ。でも、ゆーたあ。その前に『おばあちゃん、大丈夫？元気があった？』が先だったんじゃないの？」と。

ゆーたは神妙な顔をしていた。

：*：・'° 。..*：・'° ° '°*：..。..*：・'° 。..*：...*：

おばあちゃんは何でも言うことを聞いてくれるから、ゆーたは好きで好きでたまらない。我が儘の言いたい放題。

いくらつつぱねてみても、最後には負けてしまう。

そんなやりとりを見ながら、何とも言えない気持ちになることがしばしばある。

こうして病気になると、僕の心の中では、「おばあちゃん」が途端に「母親」に変わる。歳をとったなあ、と思う。でも、相変わらず、そうした気持ちを口や態度に現すことのできない僕だった。

今日もまたPTAの会合。

来週は3回。そして19日の日曜日は、地域の「ふれあい運動会」

楽しくないわけではない。でも、しんどい.....。(--;)

歩く -1999/09/08(水) Vol.116-

初めてスポーツセンターのジムに行ってきた。

PTAのドッチボール大会が終わって、それまで週一回、思いっきり汗を流すことがなくなったことと、ゆーたのローレル指数18%という数字を見てから、こりゃ真剣に身体を動かさねば！という思いに駆られていた。

丁度そんなとき、新聞のチラシに「1000円で体験コース実施」というのが目に飛び込んできた。

早速、女房に、「これ、行ってみたいよぉ～」と言ってはみたものの「そんなの毎日歩けばいいのよ！」と一蹴された。

だが、今回はそこでめげなかった。さっさと電話して、行ってみた。

11時からの申込みだったが、10時半頃には到着。早速受付へ。

その日ジムの体験を申し込んだのは、僕一人。

「他の方はおりませんので、早速やってみますか？」

う～ん、いい人だ(?)

着替えをした後、トレーナーさんが色々説明してくれた。

自転車10分間に始まり、ストレッチ、器具を使っての筋力トレーニング。

そして、「動く歩道」みたいなヤツ、20分。(なんて言うんだろ？ 笑)

結構な汗をかいた。また日頃使っていない筋肉が張っているのがよくわかった。

体験では、「30分コース」なんて書いてあったが、ゆうに一時間以上は、身体を動かしていた。その後、その日は自由に使える、というプールへ直行。泳いではみたが、筋力トレーニングがたたってか、腕が直ぐに疲れてしまった。ジャクジーに入ったり、サウナに入ったり.....。

シャワーを浴びて、すっきり！
スポーツクラブを出たのは、1時を過ぎていた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

歩行器(?)に乗っていた時のこと。
何とも言えない違和感をず～っと感じていた。何かが引っかかる...

「歩いていればいつかは着きます！」
僕の大好きな詩(『炎える道』)の中の一節。
高校時代や大学時代もマラソンが好きだった。
走っている最中、一步一步、確かに近づいているんだ！そう考えていた。

色々と困難に直面しても、「歩いていれば.....」と自分に言い聞かせてきた。
生徒達にもよく、この詩を紹介して話をしたものだ。

ところが、.....歩いていても全然着かない！！！！ (;)

周りの景色が変わるわけでもなく、風が通り抜けるわけでもない。突然飛び込んでくる、音もない。
ガラス越しに見える景色は動かず、館内を流れる音楽とピッ！ ピッ！ という規則的なデジタル音
.....。変わるものと言えば、機器に取り付けられている、セブンセグメントのデジタル表示だけ.....。
後はただ、ひたすら「足を動かし続ける」

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

「自分の周りを散歩したりすればいいじゃない！」女房はいつも言う。
「お金をかけることじゃないわよ！」とも。

う～む。

女房と話をしている思った。
「教員というのは、身近に運動施設が転がっていて、スポーツに接する機会が、いたるところにあるのだ！」
と。

僕も教員をしていた頃は、色々な部活に顔を出した。
独身時代の夏休みなどは、運動部の合宿に顔を出し、一日中一緒に汗を流し、食事にありついていたりした。ソフト、バレー、テニス、卓球、バスケ.....。

一緒になって汗を流すのは、とっても気持ちが良かった。
スポーツジムでは、一人黙々と汗を流した。
この違いは大きいなあ.....。

「健康はお金で買う時代」に僕もはまりつつあるのだろうか.....？

子ども病院 -1999/09/09(木) Vol.117-

今日は静岡の病院へ行って来た。

特に大きな変化がないため、今では半年に一度、先生の診察を受けるくらいになった。今日は午後の診察。

午前中とは打って変わって、患者さんの数が少ない。

待たされることを覚悟して持っていった本やゲームボーイカラーもほとんど用をなさなかった。

まず先生が聞くことは、

「この間、痙攣は起きなかったですね」

「はい」

「ウン、薬が良く効いているな。よしよし」

朝晩の薬は、欠かしたことはない。

だから、僕たちにはゆーたが起こす痙攣というものがわからない。

もし、そうした場面に直面したら、恐らくパニックになるだろうなあ。

いくら今まで何人かの生徒の痙攣に直面してきたとは言え……。

ケンケン(片足飛び)をさせたり、片方ずつ手のひらをグルグルさせたり、バランス感覚をみたり……。普段ゆーたに要求されていることを考えれば、なんと簡単なことだろう、とってしまった。

でも、そうなのかもしれない。

先生が要求することができれば、まずよし！ なのではないか？

普段、僕は学校生活の中で要求されることを、そのままゆーたに要求しているのではないだろうか？

この間も、リコーダーや鍵盤ハーモニカの事で、ゆーたを随分きつく問いつめてしまった。「やろうとしないであきらめてしまう」事に僕は腹を立て、「あきらめざるを得ない」ゆーたの気持ちをあまり考えていなかった。

子ども病院……。

いつも様々なことを教えてくれる。

ナンバーディスプレイ -1999/09/10(金) Vol.118-

昨年の連帯保証のトラブルに巻き込まれてから、我が家はナンバーディスプレイの電話に変えた。その時、関わらざるを得なくなったノンバンクは、番号を「非通知」に設定していた。我が家は「非通知」の電話は受け付けない。

だから、よくノンバンクの取り立て屋には言われたもんだ。

「いつかけてもつながらない！」と高圧的に言われる度に、「違うでしょ？ そちらさんが番号を非通知にしているからでしょ？」と。

そう答えると、先方は黙ってしまうことが多かった。

随分重宝したものだだった。

電話に出る前に心構えができるのだから……。

で、午前中のこと。

さて、ボツボツ出かける準備をしなくては、と思ったとき電話が鳴った。

げ、げ、げ～っ！
小学校からだ！！

一つ息を吸い込んでから受話器を取った。
案の定、担任からだった。(^^;

「今日、家庭科の授業の道具を全部忘れてきました。3時間目が始まる前に届けてくれませんか？ それから、この前もミシンがイヤで『お腹が痛い！』って言って、保健室に行ってしまったので、授業を見に来ていただけますか？」

ということだった。

「今日家を出るときに、『今度作るナップサックはミシンだから、今日の授業はちゃんと聞いていないとできなくなるよ。いい？』と言って、登校しましたから、最初から授業に行くのは、待っていただけます？ その代わりに、何かあったら、学校に行かれるようにしますから」

そう言って、電話を切った。

:*:~'° 。.:*:~'° ° ' .:~:.. .:~:~'° 。.:~:~:~*:

出かける予定があったが、先方には事情を話して遅れることを伝えた。

やはり、いくら大丈夫だろう、とは思っても気になって気になって仕方がなく、何をやるにも手につかない。んじゃ、と言うことで、PTAの用事にかこつけて、学校に行った。

正門に入り、保健室に顔を出す。

ゆーたはいない。ホッと一息。

次いで職員室に行き、教頭先生と集団登校のことで、意見交換。

その内、3時間目が終わり、休み時間に。

家庭科の担当の先生が職員室に戻ってきた。

その先生も、僕がいることを気がついたらしく、こちらに向かって、指でOKサインを送ってくれた。

教頭先生との話が終わった後、担任と昨日の診察の内容を伝え、ようやく学校を後にした。

夕方、学校から帰ってきたゆーたに聞いた。

「オイ、ミシンやったかぁ？面白かったかぁ？」

「ウン、まあねっ！」と素っ気なくゆーたは答えた。(^^ゞ

飲み会・カラオケ -1999/09/12(日) Vol.119-

昨日は球技大会のご苦労さん会。

家に帰ってきたのは12時を回っていた。

毎回、毎回の会費 ¥5000は僕にとっては非常にきつい。

でも、なんだかんだと言いながら、結構参加している。

夕べは教頭先生と結構話をしていた。

色々本音を聞いて楽しかった。

「酒は飲まないんだけど…。まあ、つきあいだから…」最近の新卒の先生は、なかなか戦力にならなかつたりも……」「本音を言えば、今度の行事にしても……」

ホント苦労しているんだなあ、と同情してしまう。

善良な人だな。教頭先生は……。

僕もついつい調子に乗って、昔の教員時代の事などをポロリポロリと。

普段、話せないことなどが話せる。
日頃は感じられないその人の違った一面が見られる新鮮さ。
それがいい。

お決まりのように二次会はカラオケ。
僕は音楽は好きだ。
でも、どうもカラオケは好きになれない。

今歌っているの、誰？
あ、音がずれてる……。
あ、リズムが……。
ここの音響今一つだなあ……。
ハウリングだあ。
あ、終わったんだ。拍手しなくちゃ……。(;)
狭い部屋の中で、エコーのかかった歌と、音楽と笑い声と、話し声が、ごちゃ混ぜになって耳に飛び込んでくる。

お母さん達は元気だ。
えっ、えっ、と言いながらも、しっかりと歌う曲を探している。
そしてホントに楽しそうに歌う。
楽しい姿を見るのは嫌いじゃない。
中には、ホントうまい人もいる。

そうした雰囲気も又いいのかもしれないが、笑ったり話をしたりしながらも僕の中には、醒めきった自分がいるのがわかる。

中学時代の友人に、ワンショットバーをやっているヤツがいる。
その店は、5人以上の団体さんはお断り。
騒いだりしたら、出ていってもらおう。
酒は静かに飲むもんだ、というポリシーの元、音楽も流れていない。
「女の子を入れると、それを目当てに来るヤツがいるから」と言って、女性は決して雇わない。

飲み会が終わると僕は一人でそこへ出かける。
別に話すこともなく、ただ、ポーッとしながら、酒を飲む。
酒の味がわからない僕だが、酒を飲む雰囲気を楽しんでいる。

昨日は、地元での飲み会だったために、そのワンショットバーには行けなかったが、無性にそいつの店が恋しくなった。

さて、いよいよ今度の日曜日はふれあい運動会。
それが終わると資源回収。それが終わるとバザー。
それが終わると……。も、やだあ～ (..)

我が家の朝食は、6時半から始まる。

大体ゆーたは、早いときには5時過ぎに起き(夜は8時半~9時前には就寝)ひとしきりゲームをしりして遊んでいる。

女房が起きるのは6時頃。そして朝食の仕度にかかる。

6時半。

「ご飯だよ！起きなよ！」と鋭い声が飛んでくる。

その声に気圧されて僕は目を覚ます。

たとえ、どんなに前の晩が遅かろうと、その声は情け容赦がない。

まして、朝っぱらからゆーたがグズグズ言っていたりすると、その声は更に鋭さを増す。

.....だから僕には昼寝が必須なのだ！(笑)

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

実は、この夏に我が家にはe-one(MACもどきの...)がやってきたのだった。

これは、女房とゆーた専用のパソコンがあったらいい、と、突如、女房が言い出したのだった。

このチャンスを逃すまい！と、一気にe-one購入にこぎつけたのだった。ところがこのe-oneというかSOTECのマシンは、初期不良が多く、マニュアルも薄っぺらなのが一冊だけであまり勧められない、ということに懇意にしているショップの店員から聞かされていた。

ぬわんと、我が家のe-oneも、初期不良に当たった。

まともなマシンが、僕のPCの横に置かれたのは、夏休みも明日で終わり、と言うときだった。(;)

今朝は、6時に「起きて！」の声が飛んできた。

というのも、ゆーたが朝の6時過ぎから、パソコンに向かって、「調べもの」を始めたからだった。

ボンバーマンのミリアン王女をすくえ、とかいうNINTENDO六四のソフトのことを調べたいと言うことだった。

この間、ゆーたはインターネットで、色々な「調べもの」をしている。

カブトムシ、クワガタ、蟻、蜘蛛、ボンバーマン、UFO.....。

その度に、僕が横について、日本語入力や、インターネットのホームページの事をあれこれ、教えている。(^^ゞ

ホームポジションってな、ここにこうやって指をおいて.....。

「ぼ」は「B、O」だろ？

「ん」は「N」を二つだよ。

そんな力入れなくていいんだ。クリックするときは、「ポチっとな」でいいんだ.....。 キーワードを入れるには、まず、日本語が入力できないといかんだろ？

とにかくゆーたが触るようになって、女房は「ほ~らね。私が言ったとおりでしょ？」と得意げな顔をする。ハイハイ、貴方のおっしゃるとおりでございます。ははあ~ってなもんで。

まあ、僕も「ねえ、パソコン使わせてよお！」と女房に言われなくても非常に助かっている。でも、女房であろうとゆーたであろうと、パソコンを始めたなら、自分のやりたいことは中断させられるのは、同じ事だが.....。

でも、頼むから朝早くからの「調べもの」は辞めて欲しい.....(;_;))

このクソ暑い日はいつまで続くんだろう……。
僕の部屋は、風通しが悪い。今日も、午後三時過ぎには、ついに暑さに負けてエアコンのスイッチをいれてしまった……。

拷問？ -1999/09/14(火) Vol.121-

今日、ゆーたは学校を休んだ。
昨日の2時間続きの運動会の練習でかなりばてていたみたいだった。
いよいよ出かけるときになって、「お腹が痛い」と言い出した。
熱があるわけではない。
学校に行こうと思えば、行かれる状態だと思った。
しかし、本人は疲れからか、よしっ！ という気持ちにならないみたいだ。
結局しばらく様子を見ることにした。

僕は出かける予定も入っていなかったもので、ずっと一緒にいた。
顔色も悪くないし、熱もあるわけではない。
ホント気持ちの問題だ。
ゆーたも少し休んでいたら、お腹の痛いのも治って、ウズウズし始めた。

「体の調子が悪いんだから、もし休むようだったら、今日、明日はテレビもゲームもダメだ。今日は一日、二階でおとなしく横になっていること」
「もし、調子が良くなるようなら、途中からでも学校に行こう」
そう言いつけた。

「今晚、伊東家の食卓をやるんだけど…」
「明日は、元々学校が休みなんだから、ゲームしたって…」

「何を言っているんだ！お前は！」
その度、僕は叱りつけた。

お昼頃になると寝ているのも飽きてきたらしく、チョロチョロし始めた。
「調子は良くなったのか！？」
「良くなったんだったら、学校へ行こう！」
「う～ん、まだあ…」
「じゃ、おとなしく寝ている！」
何度繰り返したことだろう？
とにかく、そんなに体調も悪いわけでもないのに、一日中、何もしていないのは、ある種の拷問に近いことだったのではないだろうか？
でも、今日は絶対に譲らなかった。

午後になると、ゆーたは、ティッシュを引っぱり出して、扇風機の羽を掃除し始めた。しかも、布団の上で。埃がそこらじゅうに落ちていた。

「そんなことやらんでもいい！とにかくおとなしく横になってる！ 元気なときに、そうやって掃除をしてくれるんだったら、嬉しいけれど今日は余分なことはするな！」

ゆーたも一日、かなりストレスが溜まったと思うが、僕の方も同じだった。
女房が帰ってきて、ほとんど口をきかず、さっさと食事をして、PTAの会合に出かけていった.....。
(..)

「独り言」
今日はホント、イライラしっぱなし。
どうしたら、ゆーたの中に「やろう！」という気持ちができることやら？

笑い声 -1999/09/16(木) Vol.122-

昨日の朝、6時頃。夢うつつの中、ゆーたが「もう、身体調子よくなったから、ゲームやっていいでしょ？」と女房に言っている声が聞こえた。

ったく、と思いながら、再び眠りについて、目が覚めたのは、七時半過ぎだった。
朝、そうは言ってみたものの、結局ゆーたは、ゲームをやらずに過ごしていたとのことだった。

9時過ぎ、手持ちぶさたのゆーたは二階にやってきて、再び「もう、調子よくなったから」と女房に向かっていった。その後もゆーたは女房に向かって、ゲームをやらせて欲しいと、ひたすら訴えた。
僕もず～っと黙っていたが、ついに頭にきて、口を挟んだ。

お「 \$ & ~ !!! x x \$ + @ & # だろおがあっ!!!!」
ゆ「!!!!”) x @ * + > < & % なんだよお!!!」

僕たちの会話を横目に女房は、前から予約してあった、エステに出かけていった。(;)

ゆーたも随分と成長してきたと思う。

何よりも、自分の方が悪かった、ということが随分とわかるようになってきたということだろう。だから、今回のようなケースでは、余計に自分を正当化しようと、躍起になって反撃してくる。そこが今、ゆーたの抱えている課題だと思っている。

一つ一つ丁寧に、時としては、頑として譲らずに.....。
ものすごく時間はかかるが、ゆーたの意固地になった心を、一つ一つほぐしていくしかない。

結局昨日の休みも、三〇分以上、二人であーでもない、こうでもない、と言い合っていた。最後になってようやく、ゆーたが

「昨日はごめんなさい」
「さっきの言い方は、ごめんなさい」と言えた。 ふう～。(^^;)

ということで、「んじゃ、ゲーム少しだったらやっていいよ」とようやくゲームを許した。

しばらく一人で遊んでいたが、「ねえ、パパ一緒にやろう～！勝負しよう！」と声をかけてきた。
ようやく二人で笑い合った。(^^ゞ

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .:*.・'° 。.:*...*::

「渡る世間は鬼ばかり」という番組がある。

今夜は、ゆーたは直ぐに寝てしまったので、女房は再び起き出し、テレビを見始めた。

がはははははっ！

全くうるさいったらありゃしない。
そのうち、テレビに向かって文句を言い出した。
僕はナイターを見たかったのに…… (；_；)

でも、女房のあっけらかんとした、笑いには救われることが多い。

∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴

大学の時にどこかで読んで記憶に残っている言葉。

人の心の豊かさとやさしさが笑いを生む
どんな時でもおかしいものをおかしいと笑える心を育もう

……ですね。(^^)

Vol.121 の「独り言」に対してこんなメールをいただきました。

=====

家の長男小二もそうです。何だかやる気が無い。ゆーた君との共通点はゲームです。もしかしたら子供の精神発達にゲームはいい影響を与えていないのではないのでしょうか。おおげさに言えば無気力、攻撃的、非創造的、外遊び拒否、短気、自己中心的など家の子が最近示している悪い傾向です。良い点もあるのですが、ゲームをやるのが楽しくてそのことで頭がいっぱい。どうしても悪い点が目立ちます。家だけかなあ。

ゲームが子供達の心身をこんな風に変えていく、と言うような報告があったら見比べて見たいものです。

=====

スキューバダイビング -1999/09/17(金) Vol.123-

スポーツクラブに入った。
前回、1000円の体験コースをやったところとは、別の所。
家から車で5、6分。

この間行ったところは、値段も高く、家からも遠い。そして何よりも、直ぐ横にゲームセンターが併設されていて、平日の昼間でも、高校生くらいの年齢の若者(?)がたむろしていて、何とも言えない雰囲気醸し出していた。

入会したクラブは、深夜1時までやっている。
その時間に行くか行かないかは別として、夜など一泳ぎできるなあ、などと……。

昨日の午後、機器の使用方法や体力測定など。
僕の体力は、7段階の内、下から2番目。「poor！」だった。(；_；)
まあ、仕方がない。ひどいときには、一日中家の中において、外に一步も出ない日もあるくらいだから。
そして、今日は、入会申込みに行った時から気になっていた、「スキューバダイビングの無料体験」をしてきた。(笑)

時間にすれば、20分程度だし、水深も2.5mほどの練習用のプールだけれど、プールの底から水面を見上げた時、何とも言えない幻想的な気分になった。

.....

体験の後、説明を聞いたらライセンスを取ったり、道具を揃えたりで15万~20万かかると言うこと。
それが高いか、安いかの問題よりも、当面はそんなお金はない、ちゅう事で、スキューバダイビングはしばらくお預け。(^^ゞ

でも、気持ちよかった~。(^^)v

体力づくりなんて、お金を出してまで.....、という気持ちもなかったわけではない。
最近、ゆーたに付いていけなくなってきた自分を感じる。
特に、外に出かけたりというときなど、すぐに僕の方が息切れしてしまうのだ。
また、ゆーたの運動嫌いや、太ることに対する危機意識のなさも、僕を見ているからだろう。そう思う。

やせるぞ！ (^^)/

Vol.122 の「独り言」に対していただいたメールに対するメールをいただきました。.....どこまで続くかな？(笑)

=====

子供とゲームについて

私もゲームにネガティブな意見を持っている母です。

ゲームの欠点と思われること「目が悪くなる」「創造性がなくなる」「外出嫌い」など、事ある毎に子供たちには諭しているのですが、うちの二人の小学生の息子達はゲーム大好き。

ほっといたら何時間でも..... こっちが怒鳴るまで(きっとどこの家庭でもこのバトルは繰り広げられているのでしょうか)

それに、めんどくさがりの性格を助長するような気がします。

だって、座って指先を動かしているだけで、すべてができるのですから。こういう事に小さい時から慣れているとどうなるのだろうと思います。

結局、私たち大人が生み出した文明の利器は、子供の健全な成長を妨害している?!

=====

テレビゲームと癒し -1999/09/18(土) Vol.124-

香山リカという精神科医がいる。最近、テレビなどにも良く出ている。

彼女が岩波書店の「今、ここに生きる子ども」シリーズで「テレビゲームと癒し」という本を出している。「テレビゲームは人格形成に悪い影響を与える」という風潮の中で、テレビゲームに救われた感覚を持っている彼女は、「果たしてそうなのか？」という問いかけをしている。

結論的には、まだ、「考え中」ということで、読んだ後もモヤモヤ感は、拭い去れないけれど、いくつか、ウム、なるほど、と思うところがあった。

「科学が生んだ新しい技術は、人間にとってかつての狐つきと同じように魔術的なもの、害を及ぼすものとして働く可能性があることを、示しているのではないのでしょうか。もし、そうなら、『テレビゲームは恐ろしいもの』という報道や意見なら何でも受け入れる態度は、『狐つきは恐ろしいものだからお祝いしよう』というのと根本的なところでは同じなのかもしれません」

「『ゲームそのものが子ども達に悪い影響を与えるのではない。最初から問題のある子がゲームに熱中するのだ』というこれらの意見をこんなふう言いかえることはできないでしょうか。『何か問題を抱えている子どもでも、テレビゲーム二なら熱中することができる』」

「……つまり、ゲームをすることによって、心は大まかに次の二つのプロセスを踏むと考えられるのです。まず、ある世界に暖かく迎えられ、『自分が受け入れられている』という体験をする。それからゲームそのものに没頭することによって、『新しい世界への強い参加の感覚』を味わう。
受容と参加、しかも現実の生活では体験できないほどの強さで、それらを実感する」

:*:~!° 。..*:~!° ° ' ~*:~!° ..*:~!° 。..*:~!°:~!°:

実は、メールマガジンを書こうとしたら、隣で女房がメールのチェックをし始めた。そしてこの間の「ぼちぼち…」を一気に読み始めた。
「あ、確か、『テレビゲームと癒し』だかっていう本、あったよ。私、読んでないけど」と。
ってなわけで、早速読み始めて、つい先ほど読み終えたところ。(爆)
さすが、OSMさん！ なんて一瞬たりとも思った人は、さすがyoshi koさん！ と誉めてやって下さい。
(^^)

Vol.122 の「独り言」に対していただいたメールに対するメールに対するメールをいただきました。……どこまで続く？(ストック有り！)

この件ですが、一時話題になった「滅びゆく思考力」という本が参考になると思います。TVについての影響が主なテーマですが、ゲームにもいえることだと思います。
あと、シュタイナー教育ではTVやゲームを極端なまでに避けてます。
その思想も参考になると思います。

私も小一の子がいて ゲームをやっています。

ゲームの批判は世間でもよく指摘されていて 私もうなづける部分は多々あります。でも、「ゲーム」はすでに存在しているわけだしその上とても人気がある。……となれば どうやってそれと付き合い合っていくかにもっと重点をおいた話をもっともっと増えていいんじゃないでしょうか？

「ゲームやってるからこうなる」みたいなのが多すぎる気がします。

私自身 今 渦中の人間なので結論なんてありませんがうまく受け入れられる方法をさがしています。もちろん ゲームには悪の面もあります。

でも、まずは受け入れてあげたいのです。そこから始めたいのです。

ゲームに限らず……

誰も好きなものを否定的に見られるのはとてもつらいと思うので。

できるだけ 子供の視点と大人の視点 両方から見ていきたいです。

みなさん、どう思われます？(その三)

ゲーム取り上げ！ -1999/09/22(水) Vol.125-

今日、ゆーたは学校を休んでいる。

例によって「だったら、学校行かない！」という調子だ。

ふれあい運動会が終わって一息。

運動会が終わったら、「ボンバーマン～ミリヤン王女を救え～」を買おうということになっていたため、疲れ切った身体をむち打ち、中古ソフトを買いに行った。

ゆーたは、このソフトが気に入ったらしく、早速やり始めようとした。

「宿題やってからにしよう！」ということで、機嫌良く勉強をし、よし遊ぼう！という感じだった。僕も一緒にやりながら、あーでもない、こーでもない、と二人して楽しんでいた。

月曜日の代休。友達が遊びに来た。
僕が昼過ぎに帰ってきたとき、その友達ばかりがゲームをやっていて、やらせてくれなかったと怒りまくっていた。

きちんと言い切れないゆうた。
その場で言えずに、その怒りや憎しみだけを持ち続ける。
それがゆうたの課題なのに、なかなか乗り越えられない。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !*:*:.. .!:*:・!° 。.:*:...:*

それからゆうたはムキになって、そのゲームをやり始めた。
昨日の朝も、30分だけだよ、ということだったのに、終われずに女房に朝っぱらから怒られた。
怒られると「だって、君がやらせてくれなかった！」と言い出す。

昨日は、3時過ぎに学校から帰ってきた。
友達は遊びに来ない、というので、
「じゃ、二人で遊ぼう！。でも、宿題もやらないといけないから、とりあえず何時までにする？」
「う～ん、じゃ、4時半！」
「よし、交代でやるっ！」

4時30分を回った。
後少しで、ゲームオーバーになりそうだ。
ま、もう少し待ってやるか.....。
4時32分。ゲームオーバーに。

「30分回ったから、一端止めて宿題やるっ～」
「え～っ！ え～っ！ え～っ！ え～っ！ え～っ！」

なかなか止めようとしないううた。
「だって時間だよ」
「だって～」
「時間が守れないなら、もうゲームはやらせられないよ」

ゆうたは怒り始めた。
「だって君が.....」
「そんなこと言ってないでしょ」

.....

「明日の仕度や宿題はどうするんだ？」
「.....。」
「『だったら、学校行かない』ってまた、言うつもりなのか？」

ゆうたは怒りながら下へ行ってしまった。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !*:*:.. .!:*:・!° 。.:*:...:*

疲れが残っているところにきて、朝早くからゲームをしたり、友達のことがあったり.....。怒りをコント

ルールできないと、本当に支えてくれる仲間がいなくなってしまうのに。それがゆーたにはわからない。
僕にしてみれば、どうすればわかるのかわからない……。

とにかく、我が家からゲームの類は姿を消した。
前から思っていたが、一度、ゲームを無くしてみることも必要ではないかと思っていたから。学校も休み
たいなら、休めばいいと思う。
ただ、この場合の問題は、「おばあちゃん」だ。
結局、ゆーたは相手をしてくれる人間がいる限り、甘えてしまう。
今も下から「おばあちゃん！ おばあちゃん！」という声が聞こえてくる。

おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に暮らすことの是非も、ゆっくり考えてみないといけない。

僕の毎日は、ゆーたによって決まる。浮いたり沈んだり……。
子育てのイライラを他のお母さん、お父さん達は、どう、解消しているんだろうか……？（ ; ）
言葉がどんどんきつくなっていく……。

乱高下（ ;_;） -1999/09/29(水) Vol.126-

今日「も」、ゆーたは学校を休んだ。
丁度、一週間前も学校を休んだ。

この一週間というもの、
「パパあ、もうわかったから、ゲーム出してよ～」
ということで、ゲームを出してやったり、その後、しばらくは調子よく頑張ってみたり、また、約束が守
れなくなって、少し注意すると怒り出し、またもやゲームを隠したり……。またまた、「わかったから～」
と言ってきたり……。
一日おきくらいに、ゆーたの状態はコロコロと変わっていく。

：*：*’° 。 ..*：*’° ° ’*：*’.. ..*：*’° 。 ..*：*’*’°

今、ゆーたが直面しているイヤなことは、今月末の林間学校と、体育の授業でやっている「スポーツテス
ト」の練習。

前日も、そして昨日も体育の時間になると、「頭がクラクラする」と言って、保健室で休んでいたとのこ
と。「う～ん、頭がクラクラするなら、ゲームはやっちゃいかんなあ。あれは、目に負担をかけるしなあ……」

この間のやりとりの中で、「できるできないはともかくとして、立ち向かうこと。頑張ろうとすること」
を強く言ってきた。

それをゆーたもわかっているから、ある種の負い目と同時に、何とかごまかそう、ごまかそうとする。そ
れがますます自分を追いつめていく。

：*：*’° 。 ..*：*’° ° ’*：*’.. ..*：*’° 。 ..*：*’*’°

宿題も学校の仕度も放り出してしまったゆーたに、
「じゃあ、明日も学校を休むの？」と。
で、結局、学校を休んだ。

ゆーたのような子どもは、周りの理解がない限り、救われなと思う。先だつての地域のふれあい運動会の時、クラスの子に「邪魔だっ！」と言われ、めげてしまったみたいだ。
下級生(2、3年生)にも、何か最近言われているみたいだ。

:.:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .:*.・'° 。.:*:...*:

「強くなって欲しい」という願いが、前面に出すぎているのだろうか？
もっと、もっと時間が必要なのだろうか？
でも、「林間学校」は確実に迫っている.....。 (--;)

Vol.125 で、「子育てのイライラを他のお母さん、お父さん達は、どう、解消しているんだろうか.....? (;)」と書いたところ、メールをいただきました。

1999年10月

登校拒否 -1999/10/12(火) Vol.127-

先週の水曜日から、ゆーたは学校に行くのをやめた。
あまりにも不安定なゆーたの状況。
二次障害に対する危機感が僕の中にとても強くなった。

みんなと同じテンポでできないゆーた。
次第に自我が目覚め始め、様々な問いかけをするようになる五年生という年齢。
友達も自分のことで手一杯で、とてもゆーたのことを思いやる余裕も無いのだろう。
色々と言われれば、ゆーたも反論する。
それは友達の気持ちを更に逆立てするような言葉。
一度感情の整理がつかなくなると、ひたすら攻撃することによって、自分の心の平衡を保とうとする。
理解しよう、何とかしてあげよう、という気持ちすら、周囲の人間からも奪っていく。
このままでは、情緒障害を引き起こすのではないか、という危惧、不安。
担任と話をしても、とても手が回らない、という印象を僕は受けた。

:.:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .:*.・'° 。.:*:...*:

メンタルクリニックに親子三人で行ってきた。
院長先生が色々と面接をした。
「不安の原因は何？」
「友達が色々なことをしてくる.....。」
「この間も、ちょっとぶつかったから、謝ったのに首を絞めてきたり、手を捻られたりした.....」
「君と、君と、さんがいやだ」
「謝ったのに」と言うところに僕自身は引っかけりを覚えなわけではなかったが.....。
「学校のような大きな集団ではしんどいでしょうね」

そのメンタルクリニックが併設している、デイケアに通わせたらどうか、ということになった。

:.:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .:*.・'° 。.:*:...*:

今、ゆーたはゲームをやっている。
午前中1時間、午後1時間、という約束で。
僕は、一昨日買ってきた、MP3プレイヤーのRio500で、音楽を聴きながら、パソコンに向かっている。

ゆーたの一言一言に、言い返したくなる自分がいる。
だから、ゆーたの言葉をできるだけ聞かないように、という所が本音。

「ちゃんと耳を傾けてあげないと！」

一般論ではそうだろう。
でも、こちらがもたない、と言うのがそれ以上。
イライラすれば、ますます言葉がきつくなり、結果的には、ゆーたをますます追いつめていくことになる。

育児ノイローゼ……。お母さん達が時として襲われるという。
そんな気持ちが、わかるような気がする今日この頃……。

P T Aの仕事 -1999/10/13(水) Vol.128-

夕べは、小学校の「登校方法検討委員会」の会合だった。
息子が学校に行かなくなり始めているのに、「登校方法」も何もあったもんじゃなし、というのが本音。
レジュメを作らないといけないのに、全く気乗りがせずに、昼間は結局、CDをMP3ファイルに変換したり、お米を買いにいったついでに、喫茶店に入り、ひとしきりマンガを読んでいたりした。
しかしながら、いきなり「オイラいち抜けた！」もないから、なんとかレジュメを作り始めたのが、5時過ぎ。
そしたら、担任の先生がやってきた。

「今、ゆーた君に学校やクラスとして何かできることあるでしょうか？」

そう言ってくれた。

嬉しいことは嬉しいが、果たして何ができるのだろうか？

「ホントわかりません」

とだけ答えた。

思うことはある。

・ゆーたは本当にクラスの一員として迎え入れよう、と言う気持ちがあるのだろうか？これは、子ども達以前に、学校や担任の思いとしてだが。

もし、そうならば、クラスの子ども達に

・ゆーたとどう接していったらいいのだろうか？

・もし、そうなった場合は、どう対処したら良いのだろうか？

この二つを時間をかけて話したら、少しは変わるかな、という思いもかすめたが、結局は口に出さなかった。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

自分が教員だった頃のことを思い返す。

高校生と小学生では比較にならないが、僕だったらこうするのに、ということがいっぱいある。

とことんやる、というのはホント、とことんやることなんだけれど……。
自分が受け持った生徒がトラブルを起こしたことは、たくさんあった。
その時のハチャメチャな毎日を思い返すことが多い。

アナログとデジタルの違いかな？
教師は、子ども達を断面で見る。
親は、生まれたときからの連続で見る。
教員時代は、突き放すことができた。
しかし親となって見ると、それができない。
その違いに、今の僕の根本的な迷いや苦しみがある。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

昨日の会合でも、メンバーの積極的な意見を聞いている内に、
「やっちゃられないよ」という気持ちが多少薄らいでいったのも事実。
ゆーたが安心して過ごすことのできる学校をつくるためにも、頑張らなくては……という正論と、「ああ、
もーいいや！やめっ、やめっ！」と何もかも放り出そうとしている自分が、存在している。

今から、小学校に行ってくる。
昨日の会合で出た意見を元に、作り直したアンケートを持って……。

早速、メールいただきました。ありがとうございます。
「返事はいいですからね……」という一言が添えられてあったり、何年か前の経験を語ってくれたり
……。救われます。心遣いが身にしみます。ありがとうございます。

体力づくり -1999/10/16(土) Vol.129-

丁度、スポーツジムに通い始めて、一ヶ月になる。
時間があれば、せっせとジムに通って汗を流している。
ひと頃の「健康を金で買う云々」なんてのはどこへやら、今では僕にとってなくてはならない時間になり
つつある。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

一昨年の冬。
女房のスキー実習の下見を兼ねたスキーツアーに参加した。
ウェア等がきついことは、日頃きている服が、どんどん着られなくなっていくことで、予測はできた。ま
た、運動していないからチョット滑るだけで、しんどくなるだろうとは思っていた。しかし、その「チョッ
ト」が、あまりにも「チョット」過ぎたのに、愕然とした。
最終日、初級者用のコースを降りてきたのだが、少し滑ると、足首、ふくらはぎが言うことをきかなくな
った。転ぶことはないのだが、泣きそうな気持ちで下まで降りていった。

去年の12月。
ゆーたの持久走大会の前に、一緒に散歩をしよということになった。
その時、少し走ったりもしたのだが、これもほんの「チョット」走っただけで息が上がり、音を上げる
ゆーた以上に、こちらが音を上げたくなくなってしまった。

自分の体力が衰えていることは、自覚はしていた。

しかし、その自覚は、単なる衰えの自覚であって、体力づくりをしようという所にまで行き着いてなかった。

：*：・'° 。 。。*：・'° ° '。*：。。 *：*：・'° 。 。。*：。。*：

ゆーたが五年生になった当初から、ゆーたのトラブルが、今まで以上に内面的な問題になっていった。その度に、ゆーたがいつになったら自立できるか、ということが僕の悩みの大きな部分を占めるようになってきた。

今までは、「思春期」をどう迎え、どう乗り越えていくか、と言うところが視線の先にあったが、既に思春期の入り口を彷徨い始めているゆーたを前にし、ゆーたの「一生」という問題が浮上してくるのだった。

「自立」には、相当な時間がかかるんだろうなあ……。

ゆーたの場合は、かなりかかるかもしれないなあ……。

そう考えたとき、自分の健康問題も考えないではいられなくなった。

「こんな不健康な生活をしていたら、いつ、ポックリ逝くかもわからないなあ……」と。

ポックリ逝かないにしても、心臓病だとか、糖尿病だとか……。

う～ん、まだまだポックリ逝くわけにはいかないのだ！（笑）

：*：・'° 。 。。*：・'° ° '。*：。。 *：*：・'° 。 。。*：。。*：

スポーツジムに通い始めて1ヶ月。

時間があれば、というよりも時間を作ってせっせと通っている。

その成果もさることながら（笑）音楽を聴きながらひたすら自転車を漕いだりランニングマシンで汗をかいているとき、しばしば、日常的なイライラを忘れることができる。元来、身体を動かすことが好きだった僕にとっては、思いっきり汗をかいた後の爽快感は何とも言えない。

気分をスッキリさせて、また、家に帰りゆーたと付き合う毎日が繰り広げられている。

メンタルクリニックに行ってきた。

親子は、今までの時間の積み重ねがある。一方、カウンセラーはその断面を切り取る。違った視点で、我が子を見つめること。これが大切だと思ってます。

1999年11月

酸素が吸えない -1999/11/12(金) Vol.130-

昨日、11日は小学校の音楽会だった。

毎年小学校の音楽会を見てきたが、その音響の貧弱さには、「何とかならないか、何とかしてやりたいなあ」と思ってきた。半分から後ろでは、ピアノの音も何もかもがこもってしまって、ほとんど聞こえないのだった。

今年、PTAの役員になったことから、会長や校長に、「もし、なんなら、音響設備を借りてきませんか？」と申し出たところ、「是非」ということになった。

ゆーたは学校には行っていないが、その代わり(笑) 僕がこの3日間ほど学校に入り浸っていた。
9日の夜、10時過ぎまで、マイクやスピーカーなどのセッティング。
10日は、朝の八時過ぎから、夜の9時まで子ども達の総練習のおつきあい。
そして昨日は、午前中発表会。

結果的には、体育館の隅々まで音がきれいに聞こえ、大変好評だった。

まあ、僕が今まで関わってきた、文化祭を初めとした色々なコンサートの音響(PA)に比べれば楽な方だったが、喜んでもらえたことは嬉しかった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

普通、親や外部の人間が学校に入っていくのは、発表会の当日だから、練習風景などは、まず見る機会がない。ホントそうだ。

しかし、前日のリハーサルに一日つきあって、学校の姿は、本番を見るよりも、何倍も何十倍もよく見えるんだということを痛感した。

明日が本番だ、ということでどの先生達もピリピリしていた。

きつい言葉が、よく飛んだ。

「あんな言い方するのかあ〜」

「あんなに怒鳴らなくても良いのに……」と何人もの先生に驚かされた。

僕たち父母と接しているときとは、全く異なり子ども達の日常的な接し方が、よおおおおおおおつく、わかってしまうのだった。

せっぱ詰まった時にこそ、その人の本当の姿が見えてくる。

だから、ああ、この先生の姿はこれが本物だなあ、とってしまった。

先生達も、僕がいるのでやりにくい所はあったらう。

練習が終わり、教室に引き上げていくとき、

「ホント、明日の本番が思いやられます」とか「恥ずかしいですよ、これじゃあ」というような言葉を、多くの先生達が口にしていった。

照れ隠しもあるうが、

「アレレレレレ? 恥ずかしいの? そんなら何でもイイジャン」

と僕は内心思っていた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

「緊張感」とは違うような感じを僕は受けていた。むしろ、重苦しい空気、と言ったらよいだらうか……?

緊張感の高め方にも色々な方法はあるだろう。

思うにまかせない子ども達や演奏への苛立ちが、言葉の端々に感じ取れてしまったのだ。大きな声で注意をするたびに、子ども達の心が離れていくように思ってしまったのだった。

もっとも、日常接しているわけではなく、断片的な見方であろうけれど。

ただ、ゆーたが今まで「学校に行っても何かあるような気がして、酸素を吸えないようなんだよ」と何度も口にしてきたことがあった。

「誰々君」とか「何が」と言った、具体的なものではない、「漠然とした重苦しい空気」のことをゆーたは言いたかったのではなかったのか?

そう思った。

リハーサルを見ていて、ゆーたの言う、学校全体の空気を僕も感じ取れたような気がした。

:.:. '° 。 .:*. '° ° ' .:*.:. .:*. '° 。 .:*.:.*:

ゆーたの好きな先生が、合間によってきて、
「ゆーた君の顔を見ないから、寂しいですよぉ～」
と声をかけてきてくれた。
とても笑顔のステキな穏やかな先生……。

眉間にしわを寄せた顔は、学校には似合わないなあ。
大きな声を出さなくたって、子ども達は静かになるのになあ。
待ってあげればいいんだと。
「待ってあげられる時間がない！」から大きな声を出す。結果として、かえって時間がかかるようになっていく……。
そここのところに、気がつかないのかなあ……？

時速 11km -1999/11/22(月) Vol.131-

昔々のその昔……。
高校時代の体育大会。僕はイヤと言おうが何を言おうが毎年 1500 mに出させられた。
みんなは気楽なものだった。
黙々とトラックを走り続ける僕たちが目の前を通る時になると「おお！頑張れよぉ～」と手を振る。
通り過ぎてしまえば、隣近所のヤツとベチャベチャしゃべくっている。
「全くいい気なもんだ」そう思いつつ、トラックを走った記憶が蘇る。
当時、スポーツテストの 1500 mの記録で、僕のベストタイムは、4分 30秒だった。時速に直すとぉ……
！！！！！！ なんと 20km/hで走っていた計算になる。(@_@)

:.:. '° 。 .:*. '° ° ' .:*.:. .:*. '° 。 .:*.:.*:

大学の時も、時々そこらへんを走ったりした。
先輩と二人で、いつかホノルルマラソンに出てみたいなあ、などと話をしたこともあった。
で、少し前ワイドショー番組。
郷ひろみがニューヨークシティマラソンに参加し、4時間 20分(?)くらいで完走した、ということが話題になった。
時速に直すと 11km/hだそうだ。

郷ひろみ。まあ、ワイドショーとしては、新たな恋人がどうの、ってところで飛びついたわけだが、僕にしてみたら、四四歳という彼の年齢と、フルマラソンということが気にかかった。
もっとも、つい 2、3ヶ月前の自分だったら、すぐにチャンネルを変えていただろうが……。

:.:. '° 。 .:*. '° ° ' .:*.:. .:*. '° 。 .:*.:.*:

スポーツクラブ通いを始めて 2ヶ月が過ぎた。
以前は喫茶店に行ってランチを食べ、その後時間の許す限りマンガを読んでいたのだが、この間、ほとんど喫茶店に行かなくなった。マンガは、コンビニの立ち読みですましている。(--;)

当初は、5分も続けて走ろうものなら(いや、「早歩き」かな?)もう息が上がり、ゼーゼーいっていたものだが、最近では10分、15分は平気で「走り続ける」ことができるようになってきた。
そして新たな欲望が僕の心の内からわき上がってくるのを感じるのだった。

「土の上を走りたい!」
「景色が変わるところを走りたい!」って。(笑)

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:~!。.:*:~!° 。.:*:~!~!~!:

女房に言った。
「来年あたり、フルマラソンに挑戦してみたいなあ……」
「何言ってるのよ。お金もかかるからダメよ」
「…… (--;)」
ま、とりあえずローカルの2kmとか5kmマラソンから始めようか!
「んじゃ、クリスマスプレゼントに、ジョギングシューズが欲しいなあ」
サンタクロースに、そうお願いした。

ゆっくりゆっくり時間が流れていくのを感じます。
以前だったら、毎日のように、「宿題やったのか!」「明日の仕度は!」という言葉が飛び交っていたのに……。
「次」はまだまだ見えてきませんが、ゆーたの時間同様、僕自身の時間もゆっくり流れていきます。

お邪魔女ドレミ -1999/11/29(月) Vol.132-

全くゆーたときたら、どうして女の子向けの番組が好きなんだろう?
キューティハニー、セーラーMoon……。
そして最近はお邪魔女ドレミ。
「んなあ、女の子の見る番組ばかり~」
「またあ……」

もちろん、ミクロマン、しんちゃん、コナンetcetcと言ったヤツも見る。また、伊東家の食卓、たけしの万物創世記、奇跡体験アンビリバーボー、生き物地球紀行、日本人の質問、ためしてガッテンといった番組も好きだ。

いずれにせよ、生活のかなりの部分はテレビからの知識が増えている。

「は、界面活性剤を使っているから良くないんだよ!」
「は、食塩がかなり含まれているんだよ」
「~をすると、健康にいいんだって!」
新しく仕入れた知識を、ここぞとばかりに言ってくる時は、さすがにこちらも閉口してしまうときがある……。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:~!。.:*:~!° 。.:*:~!~!~!:

さて、お邪魔女ドレミ。

頭ごなしに、「あんなもの！」と言ってばかりは良くないなあ、先週、「おい、『お邪魔女ドレミ』もなかなか面白いんだってなあ。今度は、パパと一緒に見るか？」

と何気なくそう言った。

その時のゆーたの喜びようと言ったらなかった。

なんでこんなに喜びなのか、と思うほど、一気にまくしたててきた。

「そうだよっ、そうだよお！」

「パパはいつも『あんなの！』しか言わないんだから！」

で、昨日の日曜日、一緒に見た。

横でゆーたが一生懸命解説してくれて(笑) うるさすぎて話の中身がよくわからなかった

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~'. .:~*:~'° 。.:~*:~*:~*:

テレビを見た後、3人で御前崎の灯台まで出かけていった。その途中、「お邪魔女ドレミって、あーいう番組か。来週も見るか！」そう声をかけた。

「これって、パパの作戦じゃないの？」

「ん？ 作戦って？」

「いや、おばあちゃん達のテレビをゆーたが占領してるから、そこから引き離す作戦じゃあ、ないのかなあ、って思ったんだ」

しばし爆笑！ う~ん、なるほど、そう思っていたのか！

「違うよ、そんな気持ちは全然なかったよ」

事実、ゆーたに言われるまでそんなことは思ってもみなかった。でも、ゆーたにしてみたら、今まで頭ごなしに否定してきた僕が、いきなり理解を示したんだから、これは何かある！と思ったんだろう。

う~む。

ゆーたも人の心を読むようになってきたんだなあ.....。

ますますごまかしはきかなくなってきたな。(笑)

毎日毎日、書きたいことが山ほど浮かびます。
でも、色々なことがありすぎて、まとめられません。
ゆーたのこと、自分のこと、学校のこと、家族のこと.....。
わおっ！ ってな感じ.....。

1999年12月

田沼意次ファミリーマラソン -1999/12/01(火) Vol.133-

女房が、「ハイ、これ！」と言って、一通の案内書を見せた。

「田沼意次ファミリーマラソン開催要項」と記されていた。

「何、これ？」と僕。

「ウン、体育主任宛に届いたの。どう？ ホノルルマラソンとか馬鹿なこと言ってないで、とりあえず、これでも参加してみたら？」と笑って答えた。

フムフム、なにになに.....？ (..)

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~'. .:~*:~'° 。.:~*:~*:~*:

場所は、原発のある町、浜岡町。

ん？ 田沼意次と何か関係あるのかぁ？.....知らんぞい！(^;)

距離は20km、10km、5km、2km.....。

20km、10kmはとんでもないから、パス！

.....5km.....制限時間40分以内で走れる方。

お、これだったら何とかなりそうぞ.....。

興味のない顔をしながらも、その夜、要項をじっくり読んでいた僕だった。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:*:.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

「ねえねえ、2kmの親子ファミリーマラソン、ってのがあるから、ゆーたとママの二人で出てみたら？パパは5kmに出ようかなあ、って思ってるから.....。」

「私は、ゆーたが出るならいいよ」と女房

「うーん.....」とゆーた。

しばし沈黙.....。

「頑張ったら何かくれる？」

「それはないよ」と女房。

「うーん、だったらなあ.....」

そうは言ったものの、最近、ゆーたは自分の運動不足を気にしている。

「ま、申込みは来年の1月だから、ゆっくり考えたらいいよ」と、結論は保留してある。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:*:.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

学校に行かなくなってから外に出かける機会がホント少なくなったゆーた。

「意識的に働きかけて、身体を動かすようにしないと」と女房。

休日は、可能な限り外に親子で出かけるようにしはいる。

このままだと、ホント深刻な運動不足になるなあ.....。

小学校時代、肥満児だった僕の血を半分受け継いでいるのだから....(--;)

何か「もの」でつるわけにもいかないしなあ.....（笑）

いよいよ12月です。今年も残すところ後、一ヶ月。

色々あったなあ.....。やっぱりそう思います。

子ども達は無条件に可愛い -1999/12/04(土) Vol.134-

今日は小学校の持久走大会。

僕は、学校から交通整理を頼まれ、もう一人の役員さんと8:30分にはグラウンドに出かけていった。もちろんそこにはゆーたの姿はなかった。

随分と学校との距離を感じるようになってきたし、また、他の子ども達の姿を見て、僕の内面に何らかの変化があるのだろうか.....、そんなことを考えていた。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:*:.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

8時30分過ぎには、保護者の車が続々とやってきた。

そしてしばらくすると、子ども達が学年毎にグラウンドにやってきた。

「おはよーっ！」

「おはよーございまぁーすっ！」

「元気だねえ～！」「頑張ってるね～！」

そんな声をかけながら、交通整理をしていた。

中には、音楽会のリハーサルの時のことを覚えていた子もいて、「あ、すずきさんだぁ～っ！おはよーっ！」と向こうから声をかけて来る子ども達も何人かいた。

また、音楽会の時、他の役員と「遠い世界に」をバンド形式で、歌ったりしたもんだから、僕の顔を見ながら、「とおい～、せかいにいー」なんて歌いながら、通りすぎていく子もいたりして、こちらの方が、思わず吹き出してしまった。

中には、体育が苦手なんだろうなぁと思うような子もいたり、緊張した顔つきをしている子どもや、高学年になると何とも言えない不機嫌そうな顔をしている子もいたりして……。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

ゆーたがその場にいる、いないに関係なく、そうした子ども達の姿を見ていると、何とも言えず心がなごんでくる。

そして、つい笑顔がこぼれてくる。

子ども達って、ホント可愛いと思う。

たとえむすっとした顔をしていても……。

実生活の中では、「この子増！」なんて憎たらしく思えるときがあったとしても、子ども達の存在そのものは、可愛いものなのだと改めて思った。

同時に、こうした子ども達が健やかに育っていく環境を作っていくことこそ大人のつとめなんだろうなぁ、とも……。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

一方、親達……。

車の出入りと、子ども達の出入り。そして駐車スペースの狭さもあり、時には随分と待たせることもあった。

大体の親達は、会釈をしていったが、中にはこちらをほとんど見ることもなく、無表情でグラウンドに入っていく親も結構いたりした。

年がら年中エヘラエヘラしてる、とは言わない。

誰に対しても愛想笑いをしろなんて言わない。

こっちは寒い中、朝の八時半から立ってるんだぞ！

「お前もやってみるよなぁ～！」

そう言いたくなるような顔だけはしないでくれよなぁ……。(--;)

ゆーたは今日はいたって不機嫌。

楽しみにしていた爆ボンパーマンのソフトを昨日購入したのだが、なかなかうまくいかないみたいだ。ほっぽっておいてるから、余計に腹が立つんだろう……。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*..'° 。.:*...*:

「よし、買い物いくか！」

「ウン、行こう！」

今日も、出かけていった。

「そうだね、15日くらい毎に、ゆーたの欲しいお菓子を買ったげるわ」

「え、ホント？ 連続15日？」

「ううん、雨の日もあるだろうから、連続じゃなくて良いよ」

「やったあ～！」

今日の買い物は、お米5kgだった.....。

結局、僕が持ってきたのだが、とっても重かった.....。(笑)

さてさて、夕方の買い物、いつまで続くことだろうか？

風が随分強く吹いています。明日はとても寒くなるという予報。
厳しい寒さの中、二人で歩くのもなかなか良いものです。
とりあえず、そう思ってます。

「あ、あの家は今晚カレーだね」 -1999/12/13(月) Vol.136-

昨日の夕方、僕たちは三人でスーパーまで出かけていった。

やはり、同じ歩くにしても女房が一緒だとゆーたは、とっても嬉しそうだ。

途中、一カ所ある信号機が変わりそうなので、

「ダッシュ～」

という女房のかけ声で、走ってみたり.....。

買い物を済ませた帰り道、とある家の横を通った時、突然ゆーたが「あ、カレーの臭いがする！ あの家は、今晚はカレーなんだねっ！」と言った。

僕と女房は、思わず吹き出した。

ダイエットがどうのこうの、というよりもこうして三人で歩く時間が、何とも言えずに心地よい。辺りはすっかり暗くなり、冴え渡った空、そして月、そんな中を帰っていった。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*..'° 。.:*...*:

先週から今週にかけ、ずっとおだやかな毎日が続いてきたわけではない。

水曜日あたりからゆーたが何とも言えずにイライラし始めた。

木曜日のメンタルクリニックにも、「今日は行かない」と言いだし、結局僕一人で行ってきた。

考えるに、学校からのプリントが来たり、歩き始めたゆーたに周りの大人がはしゃぎすぎたため、途端に「歩くことがとっても期待されていること」といった、プレッシャーを感じたのではなかろうか.....。

また、最近、痩せてきた(以前に比べて!)僕に向かい、女房が「パパ痩せてきたねえ～。ゆーたも痩せないとねっ！」などと言ったりしたものだから、それはとってもショックなことではなかっただろうか、な

どと想像する。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

ゆーたの内面がわかるわけではない。

イライラしているときは、ホント、たまったものではない。

でも、イライラして、周りの家族に当たり散らしている自分というものも自覚しているのだと思う。

「振幅」……。ゆーたの内面は絶えず揺れ動いているのだろう。

いくら親が「学校に行かなくても良いんだよ」と言ってはみても、学校に行ってい自分自身をどう解釈して良いのか、わからないところもあるのだろう。

右に振れたり、左に振れたりしながら、一つ一つを消化していったのだろう。そう思う。

最近いささか寝不足。「爆ボンバーマン2」の予習(笑)を夜中にやっている。なかなか難しく、毎日毎日二人であーだ、こーだと言っている、なかなか埒があかない時が多い。そのための予習なのだが、いつしか...。(^^ゞ

歩いていれば -1999/12/30(木) Vol.137-

今年のママサンタへ僕がお願いしたのは、ジョギングシューズだった。

併せて、防寒用の上下のウェア。(^^)

張りきって早速外に走りに出かけた。

ところが、初日は1kmももたなかった。

.....

足への衝撃が思った以上に激しく、すぐに疲れてしまったのだった。そしてついつい、ペースが早くなってしまっていて、息が切れてしまったのだ。

それなりに体力が付いてきていると、自負していた僕にはいささかショックだった。

すぐにゆっくりゆっくり歩き出し、結局、トロトロと走ってはすぐに歩き、歩いてはまた少し走る、そんな感じだった。(;_;))

スポーツジムのランニングマシンは、それなりのクッションもあり、足にはそれほど負担がかからないのだ、ということに気が付いた。そして走る速さもデジタルメーターで、0.1km/h毎に設定できる、最終的にはただ、足を動かすだけ、汗を流すだけになってしまうのだった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

昨日、一昨日、いつも以上にストレッチをやって、ゆっくりゆっくりしたペースで走り始めた。そして、前もって決めていたコース、約5kmを何とか走り通すことができた。

嬉しかった...

調子が良いとき、視線は遠くを見つめている。

次の曲がり角が少しずつ近づいてくるのを楽しんでいる。

周りを見渡す余裕もでき、「あれ、こんなところがあったのか？」などと小さな発見に心を躍らせたりする。

次第に疲れてくる。

足取りが重くなると、視線が知らず知らず落ちてしまっている。

あまり遠くを見つめていると、イヤになってしまうからだろう……。

しんどくなるとペースを落とし、思いっきり空気を吸う。

「走れなくなったら、歩けばいいんだから……」

そう思うと気が楽になり、「後、もう少し走ってみよう」という気持ちになっていく。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

風ってこんなに強かったんだ…。

車のライトは何て眩しいんだ！

道ってこんなにデコボコしていたんだ。

……色々な事を考えたり、イヤホンから流れてくる音楽に、耳を傾けたり。

ゆっくりでも良いから、そして休み休みでも良いから、足を動かし続けていれば必ず着くんだ。前方に我が家の灯りが目に入ってくるたびに、そう思うのだった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '.:*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

ゆーたは毎日、毎日同じ繰り返し。

「こんな毎日で良いのだろうか？」という出口の見えない不安もあるのだろうか、相変わらず、些細なことで怒ったりしている。

ま、しょうがないかな。

今、僕たち家族に向けてぶつけているイライラは、今までゆーたが保育園や学校でぶつけられてきた、イヤな思いを吐き出しているように思う。全部、自分の気持ちを吐き出すこと無しには、前に足を出せないでいるのだろうか……。

おまけ ~ランニング用音楽リスト~ こんな聴きながら走ってます。(^^)

- 1.America / Simon & garfunkle
- 2.Desperade / The Eagles
- 3.1999年のドラッグレース / 大滝 詠一
- 4.Get Back in Love / 山下 達郎
- 5.Hotel California / The Eagles
- 6.In The Morning / The Bee Gees
7. 悲しみのジェットプレーン / Jhon denver
- 8.Melody Fair / The Bee Gees
- 9.Morning Island / 渡邊貞夫
- 10.Nice Shot / 渡邊貞夫
- 11.Princess Moon / カシオペア
- 12.Rendezvous / 渡邊貞夫
- 13.Saudade / 高中正義
- 14.Tears in Heaven / Eric Clapton
15. 故郷へ帰りたい / Jhon denver
16. 水曜の朝、午前三時 / Simon & garfunkle

僕にとって今年最大のヒット商品は、MP3のプレーヤー。

MDやCDウォークマンと違い、メモリーにデータを記憶させるから、音飛びがしない！これって凄いなあ～。

2000年

いくら口では「無理して学校に行かなくて良いんだよ」とは言ってみても、今思えば心のそこからの言葉ではなかったように思います。その分だけゆーたは傷ついていたんだろう、と……。
毎日、毎日、ゆーたの言動に振り回されていました。
イヤ、それだけゆーたの気持ちがわかっていなかったのでしょうか。

途中、パタッと書けなくなった時期がありました。
無理して書く必要はない、という以前に、自分の気持ちも全然整理がつかなかったんだと思います。

6年生の担任になったY先生は、とっても素敵な先生でした。
今でも、「ゆーた君、どうしてます？」と遊びに来てくれます。

P T Aの会長になりました。
息子が学校に行っていないのに。

おばあちゃんとの関わりについても、随分と表面化してきました。
そして、この問題は今も続いています。むしろ僕とお袋との問題になってきています。

2000年1月

梅池スキー場にて -2000/01/03(月) Vol.138-

今、長野県の梅池に向かうバスの中。
女房が参加している体育の勉強会のスキーツアーに親子三人で参加。

スキーは一昨年あたりまで、近場に行ったり、女房の学校の職員ツアーに行ってきたりもしたが、結局、ゆーたはうまく滑れず、今年はそり遊びとスノーシューイングをメインにすることになった。

.....

スキー場に着いたのが午後の一時過ぎ。
早速三人でソリができるような場所を探して遊び始めた。
日頃動くことが嫌いなゆーたも、とても嬉しそうに雪の中を動き回った。

ソリと言っても、バランスがうまくとれないゆーたは、一人では他の小さな子どもたちと一緒に突っ込みそうで、見ていておっかない。

そのくせ、急なところから滑り降りるスリルを求めるのだった。

結局、僕と二人で、何度も滑ることになるのだが、僕の方も次第にソリのコントロールがわかってきて、うまく左右に曲がれるようになってきた。そうなる、色々なコース取り(というほどでもないが)を考えて、次はどういうふうな滑り降りようか、ということが楽しくなってくる。

何度も滑り降りては上り、上っては滑り降り.....。
疲れはしたけれど、僕もゆーたもとっても楽しんだ。
そして、喜んでいるゆーたの姿を見られることが、僕たち夫婦にとっては一番の喜びだった。

時々、あまりにも鈍いゆーたの運動神経を恨めしく思う気持ちが、頭をかすめるときものある。一緒に海や山などのアウトドアスポーツをもっともっとできるのに、等と思ったり.....。

でも、それは仕方がないこと。
ゆーたができること、ゆーたが楽しめることを探していかなければ。
そして家族三人で楽しめるアウトドアのスタイルを。

.....。とは言いつつも、スキー場に来て、スキーをはかない、ってのも、悲しいものがあるなあ。(;_;))

あけましておめでとうございます。
今年、我が家にとって、大きな環境的な変化があるかもしれません。
どんな一年になる事やら？
不安でもあり、楽しみでもあり.....。
今年もよろしく願います。

主夫 -2000/01/11(火) Vol.139-

昨年末、そして新年早々「インターネットのホームページを見ました」ということで取材の打診があった。TV局と雑誌社と。

どうやら「主夫」という言葉をキーワードにして、HPを検索して、引かなかったようだ。雑誌社の方は「脱サラ・その天国と地獄」というタイトルで特集記事を書きたいだということだった。(^^)

ちょっと違うよなあ、と思いつつ話だけは聞いてみるのも面白いと、こちらの連絡先を教えておいたら、早速電話がかかってきた。

「どうしてお仕事をやめられたんです？」
「家事はどの程度やっておられるんです？」

.....こちらの事情を話した後、
「天国でもなければ地獄でもないです。これが現実だと思ってます」と。

「もう一度編集長と話をしまして、OKが出たら、取材をしたいのですが、よろしいでしょうか？」

電話は切れ、その後連絡はこなかった。(笑)
そうだろうなあ、と思いながらも内心ホッとした。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !.:*:.. .!:*:・!° 。.:*:...*::

「主夫」という言葉を使うと、非常にわかりやすいのかもしれない。
確かに我が家は女房が稼ぎ、僕が家にいてゆーたの相手をしている。ゆーたの相手といっても、学校に行かなくなってからというものは、のんびりのんびり一緒にゲームをやったり、病院やカウンセリングに行ったり、時々散歩をしたり、という具合。
家事の大部分は、やはり女房が担っているし、僕自身はあまり好きではなから積極的に関わることはない。女房に言われるからやっているという域をいっこうに出ないでいる。
「生活するってのは、好き嫌いでやるモンじゃないのよ！
どんなに疲れていても、やらなくてはならないのよ！」

女房がよく口にする言葉だ。

その度に、
「じゃあ、俺が働きに出るから、よしこが毎日家にいて、ゆーたの相手をする？」
と切り替えます。
そうすると、女房は黙ってしまい、僕は勝ち誇った笑みを浮かべる。

しかし全く持って気ままな生活だと自分でも思う。

:*:・!° 。.:*:・!° ° !.:*:.. .!:*:・!° 。.:*:...*::

時々、ふと思う。

.....俺の人生、このままだこへいくんだろ、と。

1980年に僕は教壇に立ち、1990年に沼津から浜松に帰ってきた。
そして2000年。
これから先10年の間、僕はどこに向かっているのだろうか？

梅池での雪遊びが楽しい思い出となりました。
2月くらいにもう一度出かけよう、という話。
雪道を車で出かけることにおそれおのいています。
スタッドレスタイヤ?チェーン?全然わからんよぉ~ (;_;))

お年玉 -2000/01/12(水) Vol.140-

昨日ゆーたと今年のお年玉をいくらもらったかを数えた。
お札を一枚一枚広げ、その度に
「何千円でえ...」
と楽しそうに計算していくゆーた。可愛いモンだ。

.....しめて、4万6千円也 (;´_`;))

1000円札ばかりで分厚くなってしまったゆーたは、「パパぁ~、これ、一万円札と換えて!」と。

何を言ってるんだ!
パパにはそんなお金はないんだよ! (;_;))
財布の中には千円札が数枚あるだけなんだから.....

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

我が家では小遣いというものをあげていない。
ゆーたの収入は、このお年玉と、女房の実家に帰るたび、おじいちゃんからもらう小遣い。

「おい、ゆーたぁ。ほれ!小遣い!」
自分のお金だから、自分で考えて使いな!
まだまだ、その段階。
少しずつでもいいから、考えるきっかけになれば良いと思う。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

「貯金したら?」と女房が言う。
でも、決してウンとは言わない。
自分の手元にお金がないと安心できないみたいだ。

知らない間に僕がお金を借りているということをゆーたは、全く知らないのだ!
シアワセというか、何というか.....(--;))

2月の10日から再び、白馬に行くことに決定。
昨晚、女房は宿探しにインターネットに接続しっぱなし。その横で僕は、「雪道の安全走行」「タイヤ、チェーン」etcetcを必死に読み進めてました。
雪山走行、アドバイスお願いしま~す!

魚の小骨 -2000/01/13(木) Vol.141-

昨夜もPTAの役員会だった。
登校方法の来年度の基本方針もほぼ固まり、それに伴い学校に出かけての打ち合わせも多くなった。

エントリー -2000/01/14(金) Vol.142-

意を決してマラソンのエントリーをしてきた。
「決する」ほどのものではないかもしれないが、
2/27...杉の里ロードレース 5km
4/16...小笠・掛川マラソン 10km
の二つ。

昨年未から自宅近所を走り始め、遠い昔になってしまっていた「走る楽しさ」を再び感じるようになった。

時間はその時の都合がつくとき。
夕方の時もあれば、女房やゆーたが寝っかけている10時、11時の時もある。
その時、その時、見慣れた風景は様々な顔を見せてくれる。
夕食時には、通りすぎる家々から、いろんな臭いが流れてくる。
暖かく、真っ白なご飯...。家族の団欒を思い浮かべる。

寒さが身に凍みるときもある。
冴え渡った空気、透き通るような月。
寒さもまた良いものだと思った。

.*:.'° 。 .*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。 .*:..*:

走ることが楽しく、雨が降っていても外に出たくなる。
そんな僕を見て女房は
「シューズが濡れるから、やめなっ！」と一言。(--;)

「来年の春頃には、フルマラソンに挑戦してみたいなあ～」と。
「あのねえ～、フルマラソンなんて簡単に言うけれどね、そんな簡単じゃあないんだよ」
.....おっ！さすが体育の先生、と思いきや

「練習しないといけないし、すればするほど、シューズだって買わないといけないし、シューズとかも高いんだよあ。わかってる？ お金がかかるんだよ」

.....(..)
なんのこたあない、言いたいのはそれかいな!!! 一瞬といえども、体育的なまともなアドバイスを期待した僕がアホだった。(;-;)

今日はゆーたと一緒にいつものストアまで買い物。
夕方の番組に間に合わない！と走り出すゆーた。追いかける僕。走ったり、歩いたり生活の中に溶け込んでいったらいいなあ、と。

タバコ -2000/01/15(金) Vol.143-

...を止めようかと、換気扇の下でタバコを吸いながら思った。

誰の言葉か忘れてしまったが、
「世の中に禁煙ほど簡単なものはない。わたしは、今までに何回も禁煙をした」と。

タバコとつきあい始めて、もう25年。四半世紀にもなろうとしている。
このタバコのおかげで、高校三年生の時には、家庭謹慎にもなった。(^^)

大学の寮の壁に、

「いかなる理論を構築しようとも、この一服の紫煙に勝るもの無し」
などという落書きがしてあった。

「タバコを止めないのなら、付き合うのを止める」

大学時代付き合っていた彼女に言われた。

それでもタバコは止めなかったし、彼女とのつきあいも終わりにはならなかった。

教師をしていたとき、クラスのロッカーからタバコの吸い殻の入った空き缶が見つかった。

「吸った者は名乗り出る！」

大体の目星はついてはいたけれど、敢えて問いつめることなく、クラスの全員に語り続けた。一週間ほど過ぎただろうか？ こりゃ、ダメかなあ、と音を上げそうになった頃、やっとのことで、本人達が名乗り出た。

「もう、タバコは止める！俺も止める！」

そう一方的に言い放ち、禁煙した。しかし、3ヶ月しかもたなかった。

ニコチンガムを試したこともあった。

確かに本数は激減した。

しかし、ニコチンガムが無くなる頃、メチャクチャ忙しい日々が続いた。

病院に行かなければならなかったが、行く機会を逸した。

タバコの本数は、しっかり元に戻った。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

「自分の身体は自分一人のものではない」

ゆーたが学校に行かなくなってから、その思いは一層強くなった。

タバコを止めようか.....?

その思いも日に日に強くなっている。

しかし、まだ最後の踏ん切りがつかないでいる。

「ランナーズ」などという、マラソンの月刊誌を買ってしまった。のめり込むと止まらない性格。
女房はいい加減、あきれってます。(^^)

些細なこと -2000/01/16(日) Vol.144-

ホントに些細なことだった。

ゆーたが僕の「水」を飲んでしまった。

結局はそれだけのことだったのだ。

しかし僕はゆーたに対して、イライラを募らせ、次々とゆーたを傷つけていったのだった。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

一度沸騰させた水を、ペットボトルに詰め替え、凍らせたりして水分補給用に何本か冷蔵庫に用意してある。昨日の朝、フト見るその内の一本をゆーたが飲んでしまっていた。

「ねえ、これヤカンのお湯が冷えたら、それをペットボトルに移してるんだよ。せっかく作ってあるのに、黙って飲んじゃいかん〜っ」

最初の内、僕もゆーたも笑いながら、やりとりをしていた。

その内、

「『飲んじゃったよ』、『ごめんね〜』って言ってくれればいいんだよ」

とか、僕の方がネチネチ言い続けた。

僕は前の日から、全く別のことでイライラしていた。

そんなイライラが表れたのだろう。ここら辺りはゆーたは敏感だ。

次第にゆーたの言葉も訳の分からないことを言い出したり.....。

終いには

「ゆーたがこうなるのは、悪魔に支配されているからだ！」

「だから謝れないんだ！」

と悪魔を登場させてきた。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~'. .:~*:~'° 。.:~*:~'.*:

この「悪魔」だが、学校に行かなくなってから時々登場するようになってきた。

自分の行動や感情を整理できないとき、「何か」を登場させることによって、心の安定を保とうとするのだった。これは、かつては「A君」「Bくん」「Cさん」であったり、通学路にいる「スズメバチ」であったりという具合に、色々と形を変えて登場してくるのだった。

昨日は、更に僕は追い打ちをかけてしまった。

「そっか！じゃパパも悪魔に感染したから、今度ゆーたのものを黙って食べたり、飲んだりするからなっ！」と。

ゆーたは怒った。

「悪魔の感染はそんな簡単なものじゃないんだ！」

僕は、その場を離れ、パソコンに向かい始めた。

ゆーたはブツブツ言いながらゲームを続けた。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:~'. .:~*:~'° 。.:~*:~'.*:

僕が悪かったのだった。

イライラをそのままゆーたにぶつけてしまって。

メンタルクリニックでは、

「家の中で、のんびり遊んだりすることが大事です。だからお父さんが『鍵』になりますよ」と言われている。

時々、その言葉が重く感じる時がある。

初めて10km走ってみました。時間は1時間0分27秒。

上り下りが何度も出てくるところ。きつかったです。でも、頭を空っぽにすることができました。

5年目 -2000/01/17(月) Vol.145-

この間色々なテレビで、阪神淡路大震災の特集をやっている。

日常生活の中に埋もれてしまっている僕にしてみれば、「そうか、もう五年も経つのか...」というものになってしまっている。

しかし、肉親など身近な人を失った人にとっては、決して「もう」とか「まだ」という簡単な言葉でくくれるものではないんだ、と改めて思った。

：*・'° 。 :.*・'° ° '・*:.。 :.*・'° 。 :.*...*:

「被災地NGO協働センター」の方たちとお会いしたのは、2年ほど前だっただろうか？ 昨日、5ヶ月ぶりにニュースが届いた。

仮設住宅が撤去され、震災の痕跡は次第に姿を消しつつあるが、だからこそ心の傷跡は、より深く刻まれ続けるのだろうか？

直接体験はしていないものが、とてもその辛苦を語ることはできないにしても、その痛みを想像する心は、決して失うまいと思った。

：*・'° 。 :.*・'° ° '・*:.。 :.*・'° 。 :.*...*:

僕のHPの「まけないぞう」のページも全然更新してないなあ.....。

今、改めて読み返すと、少し恥ずかしくなってきた。

<http://osamu.net/top/makenaizo.htm>

被災地NGO協働センターのHPはこちらです。
一度ご覧下さい。 <http://www.pure.co.jp/~ngo/>

指名委員会 -2000/01/18(月) Vol.146-

1月の初め、町内の子ども会の来年度役員改選が行われた。

その決め方は、来年6年生になる家庭の中から、これまで子ども会の会長や三役等の大きな役を経験した家庭を除いて、くじ引きで決めるというものだった。

まず、4役(会長、副会長、会計、地区代表)の4人をくじで決め、その後4人の中で上記役割をこれまた、くじで決めるというやりかただった。

くじの前に、我が家の事情を話し、みんなの理解を求めた。

「ゆーたが学校に行っておらず、地域の活動にも参加していない。どうなるかわからない状態の中で、とても責任をおえるような状況ではないから、勘弁してもらえないだろうか？」と。

ホントはその会合に参加するのも気が重かった。

もし、「みんな大変なんだから、それは理由にはならない」とでも言われようものなら、「じゃあ、子ども会を脱会させてもらいます」そう言って帰ってくるつもりだった。

しかし、同じ5年生という事でゆーたと同じクラスの親もいたり、「それはしょうがないわよ」というこ

とで、役員になることを免除してもらった。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° ' .:*.:.。.:*:.:'° 。.:*:.:.:'°:

年明け早々に現PTA会長から、
「OSMさん、来年度のPTA会長をお願いしたいんだけど」
と正式な要請を受けた。それまでも色々な雑談の中で、「来年は頼むよ」と言われてはいた。
ゆーたも学校に行っており、僕としては引き受けざるを得ないかなあ、等とも思っていた。しかし、ゆーたが学校に行かなくなってからは、とても引き受けられないということで、事情を話して断った。

で、次期会長だが、PTAの会則の中に、
「三役を除いた、運営委員(10名)と学年代表委員(6名)で、『指名委員会』を構成し、時期PTA三役を指名する」というのがあり、その会合が開かれた。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° ' .:*.:.。.:*:.:'° 。.:*:.:.:'°:

現副会長の男性二人の中からお願いするということになった。
しかし一人はお父さんが病気で家庭が非常に大変だと言うこと。
また、もう一人は会社の上司から、PTAの活動を来年は自粛するようと言われていた。

他の役員のお母さん。
同居している義母から、
「アンタはいつまで家の事を放りだして、外にばかり出ているの！」
そう言われて、今日の会合に出てきたと言う。

僕などは条件的には非常に恵まれていると思っている。
じいちゃん、ばあちゃんの協力もあるし、仕事も基本的には自由に設定できる。
しかし、責任を持って行う立場にはとても立てない。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° ' .:*.:.。.:*:.:'° 。.:*:.:.:'°:

指名委員会のメンバーで、お宅に伺って時期会長をお願いしに行くのが通例だそうだ。「自分はできませんけれど、お願いします」
僕には、とても言えそうもない.....。

WindowsDTPソフト、PageMakerを使い始めました。
雑誌等を買って勉強始めましたが、よくわからない! (;_;)
誰か初歩的なことから教えてください。(^^)

走るゾ～っ! -2000/01/19(水) Vol.147-

今日、初めてゆーたと一緒に走った。
走った、と言うほどの距離でもないのだが、とにかく走ったことには変わらない。
「あの看板の前」までであったり、「十字路の路上点滅」までの200mにも満たない距離ではあったが.....。

「ポケモンの攻略本とコロコロコミックが欲しいなあ」
「じゃあ、買いにいこっ」

と、いつものストアの横にある本屋さんまで歩いていった時。

「よしっ、あそこまで走るか？」

「いいよっ」

「ごーっ！」

だだだだだっ、と走り出す僕。

負けまいとすぐに僕の前を走っていくゆーた。

「ゴールううううっ！」

呼吸を整えながら、しばらく歩く。

「おっ、前方に本屋発見！ダッシュううっ！」

再び走り始める僕とゆーた。

:*:~'° 。.:*:~'° ° ' .:*:~. .:*:~'° 。.:*:~:~*:

「パパのダイエットが終わったら、ゆーたの番だね」

最近、こんな事をゆーたが口にするようになった。

昨年の夏頃より15kg近く体重が落ちた僕の体つきは、明らかに変わってきた。……でも、まだまだ太い！（;_;）

家にいてばかりいて、ゴロゴロしている自分を何かにつけて気にしているゆーたに「動かないとダメだよ」と家族は何度も言ってきた。それでもゆーたはなかなか動こうとしなかった。

この間購入した「ランナース」の表紙の「ランニングこそ最強のダイエットだ！」なんていうコピーも気になっていたのかもしれない。

「パパも最初走り始めたとき、100mも行かない内に息があがって、情けなかったんだよ……」

歩きながらそんなことを話したり……。

:*:~'° 。.:*:~'° ° ' .:*:~. .:*:~'° 。.:*:~:~*:

2月27日に地元で行われるマラソン大会。

5kmに申し込んだが、女房にはゆーたと一緒に見に来て欲しい、と頼んである。颯爽と走り抜ける姿には程遠いけれど、ゆーたにも応援して欲しいと思っている。

4月16日に行われる小笠・掛川マラソンには10kmに申し込む。

この時は、当日申込み可能な「1kmファンラン」というのが行われる。

女房と一緒に走ってみればいいのになあ、そんなかすかな願望が頭を持ち上げてくる。

「焦らせたくなるのはわかるけどお」 -2000/01/20(木) Vol.148-

例によって例のごとく、出かけるギリギリまでゆーたはなかなか動こうとしない。

今日はメンタルクリニックへ出かける日だった。時間は6時半から。

時間帯によっては20分ほどで行かれるのだが、夕方のラッシュ時には、下手をすると1時間近くかかるときもある。だから、5時半には家を出たいのだ。

昨日買ってきたポケモンの攻略本により、しばらく遠ざかっていたポケモンの金バージョンに再びのめり込み始めた。

「オイ、行くぞお〜」

「チョット待って！今、戦ってるから！」

僕が太っていることが、ゆーたにとっては絶好の隠れ蓑だったのだが、その隠れ蓑が最近、小さくなってきていることにキャツも気がついているのだ！

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

カウンセラーによく言われる。

「あまり『ダイエット』とか『やせなくてはいけない』という言い方はしない方が良いでしょう」と。

よくわかる。

「ねばならない」が最初に来ると、どうしても自分を追いつめていくことになる。

あくまでも自分が楽しむために身体を動かすのであり、身体を動かすことが目的になっていくと、次第に重荷になっていくのだろう。

学校に行かなくなってから、家からほとんど外に出なくなったゆーた。

僕と一緒にストアまで歩き始めた頃、おじいちゃんやおばあちゃんが「それは良いねえ～。身体を動かさないねえ～」

「家にいてゴロゴロしていたら、どんどん太っちゃうからね～」

とかなり言った。

そう言われれば言われるほど、ゆーたにとっては、「歩く」ことが「楽しみ」ではなく「重荷」に変わってしまったのだ。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

いくら女房に「太っていた方が」と言われても、今更、当時に戻るつもりは僕には毛頭ない。

走ることが楽しくて仕方がないから……。

「全く好き勝手言って！」

僕がそう言うと

「また、メールマガジンに書くネタができたでしょ？」

そう言って笑った。

今まで日付とナンバーでしたが、今日から変えてみました。
自分で何書いたかわからなくなってしまいまして……。(^^ゞ

しがらみ -2000/01/24(月) Vol.150-

昨日、我が家にゆーたの学年の主任の先生がやってきた。

丁度近くの公民館で、「公民館祭り」が行われ、子ども達の引率のついでによってくれたのだった。

この主任の先生、実は姉貴の友人。

ゆーたが小学校に入学したときから、ずっと同じ学校。

だから、何かにつけて今までも気を遣ってくれてきた。

とってもありがたいことだと思う。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

僕の姉夫婦は小学校の教員をしている。

20年以上もこの地域の教員をしていれば、色々なところで人のつながりはできていく。

校長は、姉貴と以前勤務校が同じだったと。当時は研修主任をしていて、お世話になったという。校長さんが、「OSMさんは、M先生の弟さんなんだったってねえ。そうなんですかぁ……」と。

教頭さんと教務主任さんは義兄と面識があり、特に教務主任さんは高校の先輩後輩にあたるとかで、我が家にも昔、寄ったことがあったそうだ。

隣の家に住む僕の伯父は、地域の老人会の会長をしている。

小学校の行事の時など、来賓か何かで来ている人に、

「Hさんの甥御さんなんですかぁ」

等と言われることもある。

親父は親父で、リサイクルの工夫をして公民館に講師でまねかれたりもしている。

こうして考えると我が家の家系は、非常に地域や社会的に貢献しているとは言える。また、「誰々の」という血縁関係がわかると、途端に距離が縮んでいくのも事実。

特に学校に相談したくとも誰に相談して良いのかわからずにいる、多くのお母さん達にしてみれば、羨ましい限りだろうなと思う。

確かにそうだ、確かに……。

：*：・'° 。 ..*：・'° ° '°*：..° ..*：・'° 。 ..*：...*：

それでも、やっぱりそうした「しがらみ」がうっとうしく思う。

「誰々の」なんて関係なく、そのままの自分と接して欲しいのに、と。もっともこれは、小さい頃から「優秀な姉貴」と比較され続けてきた僕の歪んだ人生観かもしれないが……。(笑)

姉貴の長女が明日、推薦入試だとのこと。いよいよそういう年齢になってきたんだなあと思いますね。2年後には甥っ子が、その2年後にはゆーたが、と言う順番ですが、ゆーたはまあねっ！

おはよーっ！ -2000/01/25(火) Vol.151-

今朝は小学校の旗振り当番が回ってきた。

2～3ヶ月に一度くらいの割合で横断歩道に立つ。

時間は7時20分から50分まで。

僕が担当しているところは、小学校の校門近くのため、ラッシュ時(笑)には、結構な数の子ども達を通る。

「チョット待ってね～」 「さぁ、渡ろうっ！」

なんて声をかけながら、子ども達を渡す。

「おはようございますっ！」

元気良く向こうから声をかけてくる子どももいれば、ムスっとした顔の子もいる。横断歩道の手前で、今にも飛び出しそうな子から、足取りの重い子……。実に様々だ。

色々な子ども達が、その子達なりの生活の臭いをさせながら学校に向かっている。

：*：*！° 。..*：*！° ° '！*：*..。..*：*！° 。..*：*...*：

小学生のピークが過ぎた頃、中学生のラッシュがやってくる。
僕の横を通りすぎる中学生達にも、同じように「おはよーっ」と声をかける。

「なんや、このオッサン！」

みたいな感じで胡散臭そうにこちらをチラッと見て、通りすぎるのもいれば、ニコッと笑って「おはよーございます」と応えてくれる中学生もいる。

顔に似合わず声変わりをしている男の子。

眉毛をそっていて、ついつい学校生活で生活指導の先生達とのバトルを思い浮かばせる女の子。

一人でうつむきがちにゆっくりゆっくり学校に向かっている子.....。

：*：*！° 。..*：*！° ° '！*：*..。..*：*！° 。..*：*...*：

「最近の子ども達は、挨拶ができなくなっている」

色々な親の集まりでそんな声を聞くことが多い。

「もっと挨拶ができるように、大人から声をかけていきましょう～」

「挨拶運動などをやっていきましょう～」

確かに一理あると思うのだが、ホントにそうなのかなあ？

挨拶は強制でやるものではないし、時には挨拶したくもないような朝もあるのではないだろうか？挨拶どころか、学校の行くのがイヤでイヤで、かといって休むわけにもいかず.....といった子どもには、「おはよー」どころか「バカヤロー」ってな感じではなからうか？ そんなことを思う。

挨拶ができないよりはできる方が良い。

けれど、子ども達が気持ちよく挨拶のできるように、家庭や学校、社会からもっともっとストレスをなくしていった方が、先だと思うのだが？

説得力 -2000/01/26(水) Vol.152-

「口で言ってわからなければ、身体で覚えさせるしかない」

そう言う考え方がある。

「口で言ってわからないことが、暴力でわかるはずがない」

一方の考え方。

「体罰」の一番の恐ろしいところは、それが表面的であるにしても、一定の効果が表れるところにある。また、表面的であることに気がつかずに、「効果があるのだ」と思いこませるところにある。

僕は、体罰などが何の効果も持たないと思っているから、暴力に訴えることは基本的にはしてこなかった。

.....若気のいたりで、ということはあったし、息子に対しても二度ほど、感情を抑えられずにひっぱいたこともあったが.....。

ただ、「口で言う」だけで相手を説得し、納得させる力もないんだなあ、とゆーたと毎日付き合う中で強く感じる。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*. '° 。.:*...*:

昨日、例のごとくストアーに買い物に行くとき、

「よし、走るかあ～！」

と僕が走り出した。

「ダイエットになるかなあ？」

そう口にしながら一緒に走るゆーた。

ゆーたが疲れて歩き出しても、僕はその横で足を動かしながら歩くスピードに合わせる。

ひと頃の僕よりも、体重にして15 kg近く、ウェストにして13 cmほど縮まった。と言っても、決してスマートには程遠い体型だが、少なくとも毎日見慣れている家族の目にも、「身体がしまった」というのがはっきりわかるのだった。

ゆーたは最初、僕の体型が変わってきたことを認めようとしなかった。

ゆーたの心の中には、「パパだって太っているジャン！」という思いが根強くあったことと思う。

しかし、最近、僕が外を走っていることも知っている。

昨日の帰り道、走っては歩き、歩いては走りながら、

「こうやって身体を動かすことは、とっても気持ちいいんだなあ、ってパパは思うようになったよ。ゆーたのため、っていうよりも、自分のために走ってるんだあ」

そう言った。

「うみゆー……」

「どう？ 最近パパの言うこと説得力あるでしょ？」 (^)

やや勝ち誇った気持ちを抑えながら僕は言った。

「うみゆ～！ (^ゞ」とゆーた……。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*. '° 。.:*...*:

「子どもは親の背中を見て育つ」とはよくいわれる言葉。

ゆーたも僕の背中を見ているのだろうか？

少なくとも、ゆーたに見つめ続けられる親でありたいと思った。

まあ、ゆーたが見てるのは、おなかの贅肉なのかはわからないが……。

些細なことでのゆーたとの喧嘩。相変わらずですね。

そんなゆーたと僕のやりとりを女房やカウンセラーは、子ども同士の喧嘩みたいだ、と。まっ、いっか！ (^ゞ

ゆーたのため？～キックボード (^ゞ -2000/01/27(木) Vol.153-

我が家は二世帯住宅。

二階の居住部分には、畳はなく全てがフローリング。

これは女房の意見でそうなったわけだが、僕としてはコタツ蜜柑に未だに憧れてはいる。

でも、そのフローリングの床が役に立っている。

衝動買いした「キックボード」が気に入ったらしく、アチコチにぶつかりながら、室内を乗り回っている。

:.:.'° 。.:*.'° ° '.:*:. .:*. '° 。.:*...*:

この「キックボード」というヤツ。昨年辺りに日本で発売され、ブレイクしているとかどうかで、何度かテレビなどでも見たことがあった。

簡単に言えば、スケボーみたいな板に前輪と後輪、そしてハンドルがついたようなもの。(う～ん、表現が難しい!)

最近散歩のついでに少し走ったりと、身体を動かすことに多少ではあるが抵抗がなくなってきたことから、インターネットで色々と情報を仕入れ始めた。

自転車に乗れないゆーたの移動手段として.....。

少しでもバランス感覚が養えるように.....。

キャンプなどで手軽に持って行かれる.....。

外に出て遊ぶきっかけに.....。

等と色々理由をこねくり回してみたが、一番は、僕自身が欲しい!面白そうだ!やってみたい!というのがある。(^^ゞ

スポーツショップに片っ端から電話をかけまくったが、欲しかったK2のキックボード(¥38,000)は全然見つからず、Razorのキックボード(¥15,800)がやっとのことで見つかった。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:*~!。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

金額が金額だけに、正直悩んだ。

ハードディスクも欲しいし、メモリーも増やしたい.....。

木曜日はメンタルクリニックに出かける日。

クリニックでもその話をした。

「お父さんが楽しんでいる姿が一番ですよ!」

その一言が僕の心を軽くしたのだった!

しかもその店は運がよいことに(?)クリニックの通り道にあたりしたのもだから、これはもう止まらない。なけなしの貯金(ホントに何もなくなった!)をおろして、買ってしまったのだった。(笑)

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:*~!。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

「せっかく買ってあげたのに!」

僕自身も何度もこの言葉を口にしてきた。

でも、結局これって親のおしつけだったのかな、と思ったりもする。

「ゆーたのため」によかれと思ってすることが、かえってゆーたを追いつめている事ってあったんだろうなあ、と最近気がついた。

反省、反省! f(^^ゞ

「キックボード」って何?という方へ。こちらのHPがわかりやすいです。

<http://user2.allnet.ne.jp/yochi-uhiji/kb.html>

どこぞにK2のキックボードがないでしょうか?

もし、見かけられたらご連絡下さい。欲しいです!

K2 Japanの取り扱いショップ一覧は、こちら!お近くの方は是非、足を運んでみてください!

(爆)

<http://www.k2-japan.co.jp/kick-shoplist.html>

Razor のキックボード、昨日行ったお店に、まだ、5 , 6 個ありました。
全国的に品薄状態が続いているみたいですが、2月の初めには入荷されるらしいです。

ヒット！～キックボードにトライ！～ -2000/01/28(金) Vol.154-

今日も昼間、ゆーたは家の中でキックボードをゴロゴロ走らせて(?)いた。
「オイ、外でやろうぜ～！」
いくらそう言っても、
「う～ん、まだ家の中で練習してからの方が……」
と気が乗らない様子。 (--;)

「パパ、タバコが切れたから、買ってくるから。キックボード外におろすぞ！」
「え-----っ！まだ早いよお！」
「だって車で行くと、CO2をばらまくから、キックボードの方がいいだろ？」
「うーうむっ、仕方がない！」
と渋々ゆーたは納得した。いや、無理矢理納得させた！(^_^)

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*.:'° 。.:*...*:

アスファルトの上は、フローリングとは比べものにならないくらい、ガタゴトしている。路面のショックが足にダイレクトに伝わってくる。調子に乗ってヒュンヒュン走らせると、結構足にこたえる。

しかし、一番楽しかったのは、道行く人達が「なんじゃこりゃ？」という顔をしてこちらを見ていること。コンビニにいた高校生は、それこそ「何、このオッサンは？」ってな感じで会話を中断してしまった。小学生にも出会った。4、5年生くらいだろうか？目を丸くして、じい～っとこっちを見つめ続けていた。

僕はそうした目を意識しつつも、素知らぬ顔をして走り抜けていった。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*.:'° 。.:*...*:

コタツの中に縮こまっているゆーたを何とか外に引っ張り出した。
「怖くないよ。そんなスピードが出ないから。大丈夫だよ」

ゆーたは、自分のバランス感覚が悪いと言うことを知っているのだ。だから、外でやることに対して、極端に臆病になっているのだ。

ところがやり始めたら、自分が思っていたほど難しくないし怖くもない、と言ったところだろうか？ 僕がいくら「今度はパパの番だ」と言ってもなかなか譲ろうとしなくなってしまった。30分くらい外で遊んでいたが、最後の方では、バランスをとりながら、くるっと方向転換もできるようになってきた。

ゆーた曰く
「これ、なかなかいいジャン！」
だと。(--;)
ゆーたの喜んでる顔を見ていると、僕も嬉しくなってくる。

「ゆーたっ！これ、ヒット商品だろ！」
「ウン、そうだね！でも、アウト商品ってあるのかなあ？」

キックボードに乗りながらそんなことを話していた。

Razorのキックボード、もう一台欲しくなってしまうなあ～。
二人でガラガラやったら、もっと楽しいだろうなあ……。

意志 -2000/01/30(日) Vol.155-

いよいよ今月も明日でお終い。早いもんだ、あれだけ騒がれた2000年も12分の1が終わってしまうのだから。(--;)

昨年末から始めた屋外でのジョギング。

走った日と距離を記録している。

この1月に走った距離が、94km。明日6kmほど走れば、100km走ったことになる。

本当にマラソンが好きな人は、一ヶ月に何百kmも走ると言うから、それから考えたら、「屁」みたいなもんかもしれない。でも、人は人、僕は僕。よくもまあ飽きずに走ってきたもんだと、自分で誉めてやろうと思っている。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

月刊誌で「ランナーズ」というのがある。

3月号の記事の中にこんな一節があった。

「人が走らない理由など、実は無数にある。逆にランナーがランナーになった理由は一つしかない。『走る意志を持った』ただ、それだけなのである」

なるほどなあ、と。

今まで何度も女房に「毎日20分で良いから、歩きなよ!」と言われても生返事だけで、結局は何もしてこなかった。ただひたすら膨張を続ける身体に「これじゃあいかんなあ」とは思いつつも、呟くだけだったあの頃から考えると、この変容はどこから来ているのだろうか？
「走る意志を持った」という言葉は僕の心にストンと入ってきた。

まあ、僕の場合はランナーではなくジョガーだが……。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

ゆーたはいつになったら、自分の足で歩き始めるのだろうか？

その「いつ」がわからないが故に、苛立ったリもする。

「いつ」であるかはゆーた自身が決めていくこと。それを「待つ」こともまた、意志なのだろうか？

一昨日夕方のテレビで、足をワイヤーのようなもので切断された子犬のニュースをやっていました。愛らしい子犬の表情と、切断された前足。思わず目を背けてしまいました……。

登校刺激 -2000/01/31(月) Vol.156-

夕方、例によってストアーに出かけ家に戻ってくると、車が一台止まっていた。

「もしや」と思ったら、案の定学年主任の先生だった。

公民館祭りの時に、ゆーたが書いたCさんへの手紙の返事を持ってきてくれたのだった。手紙には「ごめんなさいね」と書いてあった。

「今度の土曜日には、学校おいでよ」
そう声をかけて帰っていった。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*..'° 。.:*...*:

あの手紙をどうしたんだろうか？とずっと気にはしていた。
日頃のゆーたの言動から考えると、Cさんを傷つけるには十分すぎるほどの内容だと思うのだ。
もし、Cさんが「自分のせいでゆーた君が学校に来られなくなった」と受け止めたとしたら、どうだろうか？ Cさんの問題ではなく、ゆーた自身の問題に起因するところが大きいのだから。
無論、クラスの友達を初めとして、学校の中のいたるところにゆーたを追いつめる要因があったのは事実だが……。

Cさんを傷つけないためには、なんらかのフォローが必要になる。
どんな風にフォローしてくれたのだろうか？

現在病気で療養中の担任の先生とは、友人の問題は本質的な問題ではなく、表面的な問題だから、ということ、当事者には何も言わないできた。

学校の先生が気にしてくれるのは嬉しい。「学校に顔を見せて欲しい」という思いもわからないではない。でもなあ、そうしたことを素直に喜べない自分がある。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*..'° 。.:*...*:

女房に話をし、Cさんからの手紙を見せた。
女房も僕と同じ反応をした。

「ゆーたが学校に行っていないと、ホント気楽だわ〜」
あっけらかんと言う。
「朝だって急がなくて良いし、夜だっていちいちせかさなくて良いし」

全くもってその通り。(^^)

いよいよ2月です。雪道走行が目前に迫っています。ドキドキ……。
色々メールでのアドバイス、ありがとうございます。
1月の走行距離、101kmでした。わあ、すごーい！
颯爽・軽快とは程遠いドテバタした走りですが、気持ちいいです。

2000年2月

変質者 -2000/02/02(水) Vol.157-

ようやく来年度の登校方法を説明する地区会が終わった。
先週の月曜日から始まり、計8ヶ所の会場で行われた。

その内僕は、6ヶ所に参加して来年度の方針等を説明した。
こうした説明などは、今までの経験からさほど苦になるものではなかったが、それでも疲れた。

教育、子育てに関する考え方がホント色々あるんだなあ、と改めて思った。
地域毎にコミュニケーションが取れているところと、そうでないところ、全く説明会の雰囲気が違う。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

子ども達の安全を各家庭、各地区でもっと考えていこう、というのが今回の説明会の主眼だったが、折りもあり、一昨日、学区のある地域で変質者が出た。

被害にあったのは一年生。
警察に通報し、昨日もパトカーで巡回中に再度表れたとのこと。
結局、パトカー3台が追いかけたが、その変質者は、車を竹藪に乗り捨て逃げていったということだった。

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

何の理由もなく若い命が奪われていく。
そうしたニュースを聞くたびに、胸が締め付けられる。

今の集団登校も、結局は車社会が子ども達を道路の隅に追いやった。
確かに、道は色々な危険もあるけれど、それ以上に楽しいものだった。
子ども達が、どんどん隅に追いやられていく……。

タイヤチェーン買ってきました。
早速取り付けてみましたが、うまくいかなかった……。(；_；)
特訓しなくては！

公約書（笑） ~ 財布の中には……(；_；) -2000/02/03(木) Vol.158-

朝、女房が出かけるときに、お金をもらうのを忘れていた。
僕の財布の中には、1000円札が一枚しか入ってなかった。
銀行に行っても、この間キックボードを買ってしまったので、残金は数百円しかない。タバコも買いに行かなければならない……。
毎週木曜日は、ゆーたと一緒にメンタルクリニックに出かけるのだが、診察代は1400円。それすら払えない……。

出かける前に、
「ゆーたあ～、今日、お金を貸してくれない?????」
「絶対に返してくれる？」
「返す、返す！今までだって、ちゃんと返してただろ？」
……これは半分、嘘。少し心が痛んだ。
「ウン、わかった。いくら？」
「3000円でいいから……」

：*：*’° 。：*：*’° ° ’*：*：*。：*：*’° 。：*：*：*’*：*

ゆーたは何やらゴソゴソやり始めた。

紙と鉛筆を持ってきて、

「じゃあ、公約書を書くからね」

「ん？ 公約書？ なんじゃ、そりゃ？」

「だから、お金を貸した、ってことをちゃんと書いておくの！」

「だあ、それは借用書。それから、借用書は、借りた方のパパが書くヤツなの」

「ふうん、そっかあ～」

そう言いながらもゆーたは一度書いた「公約書」という文字を消して、「借用書」と書き換えていた。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'.:*:. .:*.:'° 。.:*:.:*.:

行きの車の中、

「『公約』っての、知ってるか？ 選挙なんかの時にみんなにする約束のことだよ」

「.....」

「『誓約』って知ってるか？ これは誓って、約束する、ってことだよ。『ゲームがうまくいかなくても、怒ったり、人に当たったりしません』って、誓ったりすることだぜ」 (^)

「だああああああつ！」

「わかったかあ？」

「ふみゆううううううう??????」 (@_@)

.....

メンタルクリニックから帰ってきたのが8時前。

急いで食事をして、お風呂に入って、テレビを見て、9時過ぎに女房と一緒に布団に入ったゆーたは、すっかり「借用書」の事を忘れていた。

明日になってもゆーたは、3000円の事を覚えているのだろうか？
忘れてくれたら嬉しいが、反面、悲しい部分もあるなあ.....(--;)

久々の学校 -2000/02/05(土) Vol.160-

実に、4ヶ月ぶりだろうか？

今日、ゆーたは久々に学校に行った。

これは、学年主任の先生の電話と、Cさんからの手紙が「行ってみようかなあ」という気持ちを起こさせたのだと思う。

「行ってみいたいなあ、っていう気持ちはあるの？」

「ウン、すこ～っしはねっ」

僕としてはどうしても気が乗らなかった。

臆病になっているのだろう。ゆーたがまた学校でイヤな思いをしたら...そうした事を考えてしまう。

「とりあえず保健室と職員室に行って、教室に行くか行かないかは、様子を見て決める」

そういうゆーた。

「中学時代はどうだった」「高校時代は……」「仕事に就いても……」etcetc。

僕はこの「人物像」というヤツに、何とも言えない嫌悪感を覚える。

:.:.'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.。.:*:.:'° 。.:*:.:.'*:

悲惨な事件が多すぎるし、同じような事件が再び起こらないように事実をきちんと整理することは確かに大切だろう。しかし、中学時代の顔写真を見せたり、同級生や近所の人にインタビューして何になると言うのだろうか？

そして、断片的な情報を元に、さもその人間を知っているかのように、分析をする人達……。

中学生時代に色々不安定になるのは当たり前だろ？

無口な人間がいたって当たり前だろ？

不登校になるのは、特別な子どもだけじゃないぞ！

結局は、マスコミから報道される、「人物像」とセットになった言葉だけが一人歩きを始めていく。そしてその言葉に踊らされ、ますます我が子が見えなくなっていく親達が増えていく。

最近、遺族や被害者への興味本位的な取材は、なりを潜めてきているが、その分だけ、犯罪に対する「分析」が一層時間を費やされているように思えてならない。

Gコード -2000/02/07(月) Vol.162-

全く便利で簡単になったものだと思う。

昨年、長い間使っていたビデオが調子悪くなり買い換えた。

その際、一番のポイントは「簡単にビデオ録画ができる」ということだった。

以前のビデオは、Gコードがついておらず、確かに面倒くさいと言えば面倒くさかった。

ビデオの録画は、僕よりもむしろゆーたや女房がよく使った。

二人は夜9時過ぎには寝てしまうため、面白い番組があると決まって、「ビデオ録画しといて！」という言い残して、さっさと布団に入ってしまう。

そして、大体、そのビデオは見ないまま、いつしかどこに何を録画したのかわからない状態になる。

:.:.'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.。.:*:.:'° 。.:*:.:.'*:

「今度のビデオはね、Gコードってボタンを押して、番号を入れて、決定をおして、転送、それでお終いだからね！」

この新しいビデオの機能に、一番感激したのは僕だった。

これでビデオ録画のうっとうしさから解放されると。

その認識がいかに甘かったかと思い知らされるのに、それほど長い時間はかからなかった。(;_;)

本質的に女房は、機械が嫌いなのだ。

たとえいくら簡単だ、と言ってもボタンが並んでいるだけで、拒否反応を起こすらしい。いくら説明してもわからない。いや、わかってほしい。頭っから「私は機械はダメなのよ」という姿勢を頑なまでに崩そうとしない。あわせて「マニュアルを読む」ということもしない。

「ホラ、ここに書いてあるでしょ？」

しばし、そんなことを言い合った。

時間的に見ても間に合うわけがないし、ゆーたもそれは無理だということを薄々わかっている。しかし一端口にした以上、次第に意固地になって、我を通そうとする。

「もう少し、辺りを散歩してくるけれど？」

ガイドの吉沢のおばちゃんを先頭にして、女房達は、再び散策に出かけた。
後には、僕とゆーたの二人が残った。

「一番確実なのは、パパの知り合いに電話で頼むことだろ？それで良いだろ？」

最後には、僕の語気もかなり荒くなっていたと思う。
ゆーたは涙を流していた。

:.:.'° 。.:*:.:.'° ° '.:*:.:.'° .:~*:.:.'° 。.:*:.:~*:.:~*:

今日のスノーシューは、冬場で使われていないゴルフ場。あちこちに、斜面がある。
適当な斜面を見つけ、持ってきたソリを僕は始めた。
これが面白い。
スピードも出るし、最後にはサラサラの雪の中に突っ込んでいって止まる。

「ゆーた、めっちゃ面白いぞ！」

少し顔をあげた。

ベキッ！

雪の中に突っ込んだ途端に、ソリの一部が割れた！

「わ、われたぁ～っ！」

ゆーたがこっちにやってきた。

.....

自分の気持ちを切り替えるきっかけが、ゆーたも欲しかったんだと思う。

女房達が戻ってきたのは1時間半近く経ってからだった。

その間二人で、延々と斜面をソリで滑っては雪の中に突っ込み、転げ回って笑いあった。

「こう言うところに来たら、浜松じゃぁ絶対にできないことをして楽しまなくっちゃ！」「ふみゅう……」とゆーた。

帰りの車の中、「楽しかったねえ」「また、いこうねえ～」と言い続けていた。

僕たちが泊まった「峠方」では、携帯も「圏外」でした。(J-Phone)
さすがに6時間の運転は疲れました。「白馬あれこれ」は、明日にでも。

白馬あれこれ -2000/02/14(月) Vol.165-

～スタッドレスタイヤ～

白馬駅を過ぎたところから、右折。

駅前の賑わいとはほど遠い所にみねかたスキー場はあった。
途中、路面が凍結していたり、雪が積もっているところがあったり。
雪の中をノーマルタイヤで走る怖さを体験している僕にとっては、雪は恐怖の対象に変わっていた。
ところがどうだ！

スタッドレスタイヤは、そんな道をもものともせず、どんどん進んで行くではないか！ いやあ、ホントすごいやっ！

用意したチェーンを使うことなく、宿泊地に着いた。

二日目は更に雪が降り、みるみるうちに車は白くなっていった。

勿論道路も、昨日以上に真っ白に。

道行く車はチェーンをつけていない。それが一つの目安だと教わった。

「凄い！ 凄い！」を連発する横で、女房は、「この人、一体、何はしゃいでんの？」というふうで、僕が「凄い」と口にする度に、「はいはい」と返事をしていた。

～宿～

宿舎に着いた。

電話で予約をしたときから女房は「なんか無愛想だなあ」と言っていた。

「じゃあ、やめればいいじゃん！」と僕。

「でも、安いんだもん」

「そうかあ？」

それ以上、何を言ってもダメだとわかっていたから、僕は黙った。

「大学生の合宿所ね」

開口一番女房が言った。

部屋には金庫もない、電話もない。風呂もいまいち……。

風呂から上がってきた僕に、

「ねえ、明日は他の宿を探そうか？」

と言ってきた。

「何を今更！ だから言っただろ？」

「だってえ……安さに負けたんだモン！」

ブツブツブツブツブツ……………。

「ま、この次にしようかっ」

最後には、そう言って覚悟を決めたようだ。

部屋のドアを開ける音。壁の向こうから聞こえる話し声。廊下を歩く足音。スリッパのぱたぱた。階下から聞こえるくぐもった声。

何だろう、この雰囲気は？

そう、大学時代の「下宿」だと思った。20年以上前の「下宿」だ。

～見栄～

レンタルスキーの申込書に、「スキーは？初めて、初級者、中級者、上級者」という欄があった。

一瞬、迷った。勿論初めてではないが、中級者か？と。しかし初級者というところにをつけるのもなあ、と。

その欄を飛ばして、住所や氏名を記入した。そして最後に、「中級者」の欄に をつけてしまった。(笑)

一番上まで行って降りてくる時、途中でコースが分かれる。

右は「初・中級者コース」。まっすぐは「中・上級者コース」。そこに来るたびにためらい、そして、一瞬のためらいの後、僕は右のコースを選び続けた。

何度目だろうか？ 例の「ためらい」をしている僕の横を、まだ、小学校前くらいの子どもが、「ボーゲン」で突っ込んで行くではないか！ 僕は、後に続いた。

我慢、我慢！ -2000/02/16(水) Vol.166-

何を思ったのだろう、ゆーたが突然貯金をしたいと言い出した。

聞くと、「チビまるこ」のお姉さんが一年間で8万円をためたから、自分もためるのだ、と。しかし、キャッシュは銀行にお金を預けておけば、勝手にお金が増えていくと思っていたらしい。(--;)

「世の中、そんなに甘くはない！がははははは！」と僕は笑った。

「なんだあ、そうだったのかあ……」とゆーた。

「でも、沼津に行ってお小遣いもらったら、少し遣って、後は貯金するようにしたらいいんじゃない？」

そう言って、二人で銀行に出かけた。

しかし、子どもが通帳を作るのに、保険証か住民票が必要とのこと。

スゴスゴと引き返し、明日また出直すことにした。

:.:.'° 。.:*:.:.'° ° '.:*:.:。.:*:.:.'° 。.:*:.:.'*:

夕方、コロコロコミックを買いにコンビニに歩いていった。

レジの所にカードがあり、ゆーたは手に取った。

どうするのかなあ？ そう思っていると、

「ウン、我慢、我慢」

そう言って、また、そのカードを元に戻した。

へえっ！ 今までにないことだなあ、そう思いながら二人して、また、冷たい風の中を帰った。

No.5596 -2000/02/17(木) Vol.167-

来週の日曜日に出る、「天竜杉の里ロードレース大会」のゼッケン引換券が届いた。番号は「5596」
いよいよ近づいてきたなあ、という感じがする。

僕がエントリーしたのは5 km。他にも10 km、20 kmがあったのだが、今回はとりあえず参加して、完走することが目標。

1月の後半から、週に3日は6、7 kmを走っているから、まあ、完走はできるだろうとは思うけれど、いざ、レースに出るとなると色々わからないことがある。

ゼッケンってどうやってつけるんだろう？

コースには距離の表示ってあるんだろうか？

レースに出るときは何を着たら良いんだろう？

着替えは？

……。

僕の通っている、スポーツクラブにもこのレースに参加する人がいるから、色々聞いてみようとは思っている。

でも、自分の知らない世界を体験するドキドキするのは、良いもんだと思う。

何かしら、小学校の頃の遠足前の気分だ。(^^ゞ

嗚呼、役員改選 -2000/02/19(土) Vol.168-

次期PTA会長がなかなか決まらない。

以前にもお願いしに行った現副会長からは、職場からの強い要請で、これ以上役員はできないと断られた。

委員会で、再度会合を開き、別の人に頼みに行くことになった。

火曜日、指名委員会(*)のメンバー全員で、次期会長候補者のお宅までお願いしに行ったが、「家庭の理解が得られない」と断られた。その後、学校に戻りみんなと相談し、再度、木曜の夜、現PTA会長と指名委員会委員長、小 学校の先生、僕の4人で突っ込んだ話をしようということになった。

で、木曜の夜は、「自宅はまずい」というので、近くの喫茶店に行き、結局10時半過ぎまで話しあった。その席上、僕も「 さんが会長をやるなら、僕も一緒にやりますから」と言った。

結局、「家族の反対が大きいけれど、とにかく話をしてみる」ということで僕たちは別れた。感觸的には、本人はやるしかないかなあ、と言った風。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

昨日の朝、現会長から電話があった。

「夕方学校に来てくれないか？」とのこと。

「昨夜、僕たちが話をしているときに、奥さんから僕の自宅に電話が入ってずいぶんきついことを言われたみたいで、家に帰ったら女房が泣いていた」というのだった。

5時。PTA会長、校長、教頭、教務主任、僕の5人で話しあった。

奥さんは、学校にやってきて、校長さんに「今は子どもも小さいので、会長は勘弁してください」と言ったとのこと。

重苦しい時間が過ぎた。

結局、「んじゃあ、僕がやるよ」と言ってしまった。(--;)

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

家に帰り、女房に話をした。

「ばっかだねえ……。パパはいつもそうなんだから！」

「しょうがないだろっ！ よしこだって一緒だろ？」

ゆーたが行っていない学校のPTA会長かあ……。

何とも気が重いのが、まっ、ネタ的には面白いだろう、と自分に言い聞かせた。

「指名委員会」…小学校のPTAの規約で、
「次期会長は指名委員会が指名する」指名委員会は、PTA運営委員と各学年代表6名」で構成する、
となっております。

i モード -2000/02/20(日) Vol.169-

手に入れてしまった。

例のごとく、女房には「ばっかだねえ～っ！」と言われた。

そして決まってその後には、「お金もないのにつ！」と続くのだ。

きっかけは、みねかたのスキー場でJ-hpone が繋がらなかった、というのもあるが、それが大きな理由ではない。

先だって、「新日本探訪」の再放送を見た。内容は、「聴覚障害者の文字通信」。今までコミュニケーション

笑い会う。僕もいつしか陶芸に夢中になっていった。

帰路、みんなで食事をした。

「何にする?」「これ、おいしそうねえ~」等と言いながら注文をする。
出てきた食事を互いに見定めたり.....。

出かける前、女房に

「家族サービスなんだからね」
と言われていた。

僕がお袋に対して、普段あまりにもそっけないことを知っているからだ。

「なかなか良いもんだ」
そう思った。

「アクティ森」ってこんな所です。って書いてどうすんだあ?(笑)

http://www.enshu-net.or.jp/morimachi/Acty_Mori/Acty00.HTM

オークション -2000/02/22(火) Vol.171-

「楽天市場しよお~っ!」

最近、夕食後女房が口にする言葉。

「コーヒー飲みたい!」

と食後のコーヒーを注文し、やにわにパソコンのスイッチを入れる。

「う~ん、これ、どうかなあ.....」

「注文しちゃおうかなあ.....」

片づけが終わった後、僕もパソコンに向かう。

横から、あーだこーだと呟いたり、色々と話しかけたりしてくる女房。

僕も画面に見入ったり、つつい

「おっ、これ良いんじゃない?」

等と口を出してしまう。いやあ、なかなか面白いもんだ。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

女房が「楽天市場」なら、僕は「Yahoo!オークション」の画面をあれこれ見始めた。

女房は女房で時々、僕の画面を見ながらチェックを怠らない。

「何々? K2のキックボードが2万円?」そんな僕の言葉に

「お金、ないんだからねっ!」と釘をさすことを忘れない。

「お風呂入ってくるね~っ」そう言って女房はようやく接続を切った。

ここのところ、毎晩繰り広げられる我が家の光景だ。

ゆたぼん -2000/02/23(水) Vol.172-

「おい、ゆーた!メール来てるみたいだぞ」

「ゆたぼん」というのは、ゆーた用のポストペットの名前。以前は、僕のパソコンのデスクトップに、「ゆたぼん」のショートカットを作っていた。僕がパソコンを立ち上げているときに限って、「あ、ゆたぼん、

やるっ！」

などと仕事の邪魔をしたり……。

この夏、e-oneを購入した際に、ゆたぼんもそちらに移した。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.:. .:~*:.:'° 。.:*:.:.:~*:

ゆーたの小学校でe-mailを使っている先生が一人いる。

その先生には、メールアドレスを覚えておいた。

時々、ゆーたにあててメールを送ってくれる。

「元気かい？」と。

ゆーたはなかなか返事を書かない。いや、書けない。ローマ字入力がよくわからないから。

昨日の夜、ゆーたの後ろから両手を添えて、一緒に返事を書いた。

「『ば』は『BA』だから、こことここ」

「で、スペース、次にENTER」

一緒になって文章を考えながら、マウスを操作したり。

ゆーたの手は、大きくなったとは言え、まだ僕の手の中にすっぽりに入る。

送信ボタンを押す。ペットが出かけていき、ポストマンが配達に行く。

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.:. .:~*:.:'° 。.:*:.:.:~*:

「一人でやっごらん」

そう言うには、まだまだ難しいだろうなあ。理屈ではなく、一緒にやるのが大切なんだろうなあ…。そのうち色々覚えていくだろうなあ、そんなことを思った。

それぞれ -2000/02/26(土) Vol.173-

「今度の日曜だけれどお、薫製作りたいなあ～」

「日曜日は『お邪魔女ドレミ#』があるからなあ」

先週あたりから、女房とゆーたの口から、そんな言葉がきかれるようになっていた。

- ・今度のレースで早いわけではないけれど、一生懸命走っている姿を見てもらう。
- ・4月16日の小笠・掛川のマラソンと一緒に出かけに行く。
- ・当日参加OKの1.5km ファンランというのがあるから、女房とゆーたが二人で参加する。

その目論見は、女房の「パパ、一人で行って来な」という言葉と共に瓦解した。

まあ、そりゃそうだろうなあ。

わざわざ休みの日に、人が走っている姿を見に行くなんてのはねえ。

一緒に行くとなると朝の7時半に出かけて行ってレースのスタートは10時半過ぎ。走り終わって、帰り支度を始めるのは12時近く。半日をただ待つだけで潰すのだから。別に自分が走ることが好きなわけでもないし……。

「薫製づくりの講習会が半日あるから外で待っていて」

そう言われたら、僕も断るだろうな。(^^ゞ

:.:.:'° 。.:*:.:'° ° '.:*:.:. .:~*:.:'° 。.:*:.:.:~*:

そんなかなで、一人で出かけることになった明日のレース。

のんびり、のんびりと楽しんでこよう。

応援に来て欲しいなあ、という気持ちが全然ないと言えば、嘘になる。けれど、気乗りしないのを無理矢理付き合ってくれる家族よりも、それぞれがそれぞれのやりたいことを、はっきりと主張しあえる家族のほうが、僕は好きだ。

仕事だとか地域とのつきあいの中では、自分の気持ちを押し殺して、うまく折り合いをつけることもあるだろうが、せめて、家族の中では無理に相手にあわせることはしたくないし、して欲しくないことだな。

ぼちぼちのiモード版を作るかと.....(おい!)

とりあえず、まなびやfor iモード「まなびi」っての作ってみました。

まだ、登録マガジンは「0」ですが。(爆)

<http://www.manabiya.net/i/>

いつかは42.195! -2000/02/27(日) Vol.174-

家に帰ってきたとき、誰も居なかった。

汚れたウェアなどを洗濯機に放り込み、ホットカーペットに寝ころび、完走証や配布された資料などを読んでいたら、いつしか眠ってしまっていた。

女房とゆーたが帰ってきた。

「ゆーたあっ!走ってきたぞ!」

「ん!42.195キロ?」

「ちゃう、5キロ!」

「あちゃ!」

「フルマラソンは、いつか!」

僕の言葉を聞いているのかいないのか、「色鉛筆、色鉛筆...」と言いながらさっさと下に行ってしまった。(笑)

:*:~!° 。.:*:~!° °!~*:.. .!:*:~!° 。.:*:~!~*:

.....23分28秒、5kmの部283位(418人中)、これが僕の初めてのマラソン「公式記録」だった(笑)。

どうしようかと迷っていたけれど、スタート直前になって、走るときにいつもつけているMP3のレコーダーをしまった。楽しんで走りたい、いつもと同じに走りたい、そう思って持ってきたのだが、それ以上に、色々な「音」を聞きたいと思った。

「 kmスタート10分前...」「5分前...」「 kmレースに参加される選手は.....」等々、次々と流される場内アナウンス、ハンドマイクからの声、観客の声援、足音.....。

今まで一人で走っていたときには、決して耳に入ってこなかった「音達」が響いてくる。

.....折り返し点を過ぎた辺りから、周りのランナーの息づかいがはっきりと聞こえてくるようになった。しかもかなり荒い呼吸が。あ、みんな疲れているんだなあ、そう思うと途端に気持ちが楽になった。

ゼッケンナンバーから見ると、中学生だったろう。僕の前をチョロチョロ走っていた。坂道で抜かした。するとしばらくすると彼がまた、僕を抜かした。僕はまた追い抜いた。彼は.....。そんなことを繰り返していた。

他にも自分の少し前にいるランナーの中で、勝手にライバルに仕立て上げて、「よし、抜こう!」なあって。

茶パツのお兄ちゃんに抜かれた。抜き返そうと思ったけれど、ついていけなかった。

残り1kmの表示のあるところで、5分遅れでスタートした一般女子の高校生に抜かれた。そう、颯爽と、というのはああいう走りと言うんだらう。

規則正しい呼吸、スッ、スッと伸びるしなやかな足は力強く地面を蹴っていく。美しい、と思った。抜かれて悔しいなんて、少しも思わなかった。どんどん遠ざかっていく後ろ姿に見とれていた。

:.:.:'° 。.:.:'° ° ':.:.. .:.:'° 。.:.:..*:

夕食時、僕は女房とゆーたに一生懸命話をした。

今日走りながら感じたことが次々と思い出され、口をついて出てくるのだった。

.....だが、二人ともあまり関心は示さず、上の空で聞いていた。

「君たちい～、あまりパパの話、聞いてないでしょ????」

「ウン！」と二人の元気のいい返事。

ま、いっか！

女房は女房で今日一日、薫製づくりがうまくいったみたいではしゃいでいるし、ゆーたはゆーたで、買い物に行っても買った色鉛筆で何かやって楽しんでいるし。

そして僕も「もっと走っていたいなあ～」と思う瞬間を体験できたことが何よりも嬉しかったから.....。

親子三人がそれぞれハッピーな一日ってのは良いもんだ、と。(^^)

「いつかは42.195」というメールマガジンを発行します。まぐまぐに申請しようと思います。これはiモード対応。走りながら考えたことを、ね。

先生が来るぞっ！ -2000/02/28(月) Vol.175-

今日、久しぶりに学校に行った。

と言っても、ゆーたではなく僕の方だが。

教頭先生と話をしていたら、学年主任のK先生が

「ゆーた君元気ですか？もしよろしかったらまた、顔を見に行きたいと思って連絡しようと思っていたんですよ」

とのこと。現在、学級担任は病気療養中のため、臨時に来ている講師の先生と一緒に来たいということだ。

このK先生は、僕の姉貴の教員仲間。姉貴は姉貴なりに色々と気を遣って、相談をしてくれているみたいだ。だから、僕としては苦手だ。背後霊のように後ろに見え隠れする姉貴の姿が気になって、言いたいことも言えないときがある。

困ったモンだ.....(..)

結局、明後日水曜日に来ることになった。

:.:.:'° 。.:.:'° ° ':.:.. .:.:'° 。.:.:..*:

さて、大変。

部屋の片づけをしないといけない、と女房は慌てた。

来て何を話すのだらう。

学年末が近づいてきているから、学校としてはそれなりの形をつけたいと思っているのだらう。

僕としてもその点は気になる。5年3組というクラスの一年間を振り返ったとき、ゆーたはどうクラスの

中で、学校として位置づけられるのだろうか、と。

恐らく教室に行くことはないと思う。

だが、そんなゆーたを学校や先生達はクラスの子どもに何と語るのだろうか？

「最後だから、一度教室に行ってみようよ」

そう言った安直な声かけだけはしてほしくない。

「学級担任よちよちある記」なんてのを、昔書いていたことを、ふと思い出しました。久しぶりに学級通信でも引っ張り出してみます。

コロ付き自転車 -2000/02/29(火) Vol.176-

「コロ付き自転車が欲しいんだ」

最近、ゆーたはそう口にすることがある。

ゆーたは自転車に乗れるのだ。サイクルスポーツセンターの2 kmコースなど喜んで乗るのだ。勿論、コロなどついていない。確かに危なっかしいところもあるが、それでも自分なりに気をつけながら乗っている。

：*：° 。：*：° ° '：*：。：*：° 。：*：*：*：

確か4年生の頃だったと思う。

3年生の頃からサイクルスポーツセンターで転ばずに自転車に乗れるようになっていたから、それまでつけていたコロをおじいちゃんが外してしまった。勿論、僕も「コロは必要ないよ」と言った。

もう大丈夫、という思いと他の友達に「バカにされる材料」になることを危惧したからだ。「恥ずかしい」という思いもあったと思う。

しかしコロを外してからゆーたは自転車に乗ろうとしなくなった。「怖い」と言って……。

：*：° 。：*：° ° '：*：。：*：° 。：*：*：*：

「キックボードで遊ぼうよ～」そう声をかけるのだが、今一つゆーたは乗ってこない。ハンドルにブレーキがないから、と。

その代わりに、「コロ付きの自転車」がしきりと登場するようになったのだった。

先週のメンタルクリニックでも、その話をしたとき、カウンセラーの人が

「お父さん、それは凄いことですよ。キックボードのおかげですね」

そう笑いながら話してくれた。

僕もそう思った。

キックボードでストアに行ったり、家の前でゴロゴロ走らせたりするようになってからだ。「風を切って走る」という感覚が気持ちいいということがわかったのかな、とも思う。いやそこまででないかもしれないが、そう思いたい。

結局の所、「コロ付き自転車」を恥ずかしいと思うのは、僕自身だったのだ。たとえ周りがどうであろうと、ゆーた自身、それがいい、と思うものを僕が奪っていたんだなぁと改めて思い知らされた。

iモード対応のHPつくりました。勿論、普通のパソコンでも見られます。

是非、一度見てやって下さいませませ。

「いつかは42.195」<http://www.osamu.net/i/>

「まなびi」 <http://www.manabiya.net/i/> です。

2000年3月

次の手術 -2000/03/02(木) Vol.177-

「ゆーた、いつかは夜、一人で寝るときがくると思ってるでしょ？」
「ウン、いつかはね。でも、そのいつかがいつかはわからないけどね」
「そうだろうなあ、ゆーたが60歳にジサマになったら、ママは90歳のオババさまだもんなあ。ジサマとオババさまが二人で寝てるのを想像したら、メチャクチャ笑えるぞお～」
ゆーたはしばらく笑い転げていた。

:.:.:'° 。 .:.*:.'° ° ' .:.*:.. .:.*:.'° 。 .:.*:....*:

静岡の子ども病院へ行く車の中で、ゆーたとのそんな会話をしていた。
そして、脳外科の診察。
ゆーたは頭にたまる水をお腹に逃がすための管(シャント)を埋め込んでいる。前回の手術が、小学校に上がる前だったので、身長も伸び、管も古くなってきているから、入れ替えの手術をしなければならない。

CTをとった後、お腹のレントゲンをとり、診察。
「もう、古くなっているから、今年中には手術をしないといけないな」
そう、主治医の先生は言った。
「あのお、一つ良いですか？ その時は、ママに付き添ってもらえますか？」
とゆーた。
「う～ん、大人はばい菌を持ってくるから、付き添いは一切できないんだよなあ。」

そんなやりとりがあった。
小学校に上がる前の手術の時も、どんなに泣こうがわめこうが、僕たちは5時(?)には、ゆーたを残して病院を後にした。その時の辛さ、寂しさがゆーたの心の中には深く彫りつけられているようだ。

手術をいつ頃行うかを相談して、また、病院に連絡をすることになった。

:.:.:'° 。 .:.*:.'° ° ' .:.*:.. .:.*:.'° 。 .:.*:....*:

小学校に上がってからゆーたは手術をしていない。
外科的な心配よりも精神的な心配が大きくなっていて、「手術」の時のつらい思いでは、遠くの方に行ってしまった。いや、自然と忘れ去ろうとしていたのかもしれない。
待合室でただ待つだけの時間.....。
泣いているゆーたをただ見ていることしかできない僕たち.....。

そうした記憶がまざまざと蘇ってきた。

都会 -2000/03/06(月) Vol.178-

昨日、東京へ行って来た。
朝、8:00の新幹線に乗ると9:30には東京駅に降り立っている。
駅に着いた途端、色々な音が飛び込んできた。
そして中央線で新宿まで。

アチコチから飛び込んでくる音にはうるささを通り越し、身体全体で拒否している自分を感じていた。

音は不意打ちのように襲いかかってくる。

ドキッとしてそちらを振り向いたところで、そこには影も形もなく、次にはまた、別の所からの音が僕を襲う。

アナウンス、軋む音、クラクション、自動ドアの開閉……。

全部が全部、人工的な音なのだ。疲れるなあ、と。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

一週間前、杉の里ロードレースの時に聞こえてきた音とは全く違う。

木々を揺する風の音、川のせせらぎ、人の足音、息づかい……。それらは皆「いのちの鼓動」を持ち合わせていた。

都会には住めないと改めて思った。

恐らく、都会に住めばそうした「音」とのつきあいにも慣れてしまうだろうが、慣れてしまうこと自体が、イヤだなあ、とも。

自然を感じながら暮らしたいなあ……。と。

BMIの基準による、肥満度チェックのCGIを作りました。一度チェックしてみても如何ですか？

<http://www.osamu.net/i/cgi/check.html> 標準体重も出ます。(爆)

じゃがいも 10kg -2000/03/07(火) Vol.179-

「オークションどうなった？」

流して食器を洗いながら、女房にそんな言葉をかける。

「見てみるか！」

と、おもむろにパソコンに向かう女房。もちろん、「コーヒーが飲みたい」と付け加えることを忘れない。

こここのところ、何件かオークションに申し込んでいる。

「テレビ」「有機野菜」「自転車」……。

落札できる価格ではないだろう、と思いつつも二人で楽しんでいる。

今日、女房が申し込んだのは、「じゃがいも 10kg」。

「これ、安いよ～！ 落札できるよ、これ！」

……とっても無邪気！ 見ていて楽しい。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

「ファンランに出よっかな？」

一昨日の日曜日、「静岡駿府マラソン」のダイジェスト放送をやっていたとのこと。色々な格好をして走ったり、マラソンを楽しんでいる人達の姿もたくさん映されたようだ。

「シリアスランナー」に憧れはない、と言えは少し嘘っぽいけど、今はとにかく走るのが楽しいから走っている。

東京から帰ってきた僕に、女房は
「今度の小笠、やっぱり、私とゆーたも行くわ。ファンランにゆーたと出てみようかな？ ってテレビ見てて
思ったの」と。

やったあ！ 一人で行くよりはそれは楽しいに決まってる！
でも、こういうのって結構、ぬか喜びになることが多いということも、僕はよくわかっている……。

「いつかは42.195！」配信開始
まぐまぐで登録処理が終了！ iモード対応のメールマガジンだから、250
文字以内でまとめる必要がある。これはこれで難しいなあ、と思う。

何なんだ！ -2000/03/08(水) Vol.180-

とある中小企業の役員さん達3人にインターネットを教えた。
当初10時半からの1時間半の予定だったが、昨日「9時45分からはしてほしい」と連絡があり、9時
過ぎには事務所に着いた。
ところが時間になってもやってこない。
階段を上がる足音が聞こえ、顔を揃えたのは10時を回っていた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

一応、エクセルなどは使っているために、キーボードやマウス操作、漢字入力等はできるが、インター
ネットはわからないということで、簡単な説明をした後、とにかくIEの操作、「Yahoo!」や「Goo」を使っ
ての検索などを行った。

インターネットそのものは、驚きながらも興味深く操作をしていた。
しかし、問題はそこではなかった。

教えている最中に携帯電話がなり話を始めたり、途中で連絡が入り、席を立ったり……。そのため説明が
中断したが、タバコを吸い出したり。
事務員が、パソコンの向こうから、声をかけてきたり、側のコピー機の所でコピーを取りながら大きな声
で話をしていたり……。

途中で、「もうやめましょ！」と言いたくなった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .*:・'° 。.:*:...*:

11時過ぎ、ある程度わかったつもりになったのか、全体的に落ち着きがなくなってきたので、他にもや
ろうとしていたことがあったが、終わりにした。

明日、もう一回、今度はe-mailの使い方を説明する。
時間は今日と同じ9時45分からだそうだ。
……ホントに始まるのかい？

今までにも「教える」ということはたくさんやってきた。
教員だった頃、授業がうまくいかなかったり、反発されたりしたとき、授業に行くのがとても気が重いと

きもあった。しかし、今日ほど「教えたくない」と思ったことは記憶にない。

傲慢なんだな。結局は.....。

二度と彼らに教えることはないだろう.....。

勉強 -2000/03/09(木) Vol.181-

毎週木曜日に行っている、メンタルクリニック。

先週から、カウンセラーのお姉さん(?)とゆーたはジグソーパズルを始めた。他の部屋にあったジグソーパズルを見て、やってみたいなんてことをゆーたが言ったのだろうか? カウンセラーの方が、ゆーたの好きな「猫」(僕は嫌いだ...)のパズルを用意しておいてくれた。

先週は二人で1時間以上やっていた。ゆーたは例によって横から口をだすだけみたいだったが.....。今日は、僕の予定もあり早く終わって欲しいと言ってあったので、今日は40分ほどだった。

ゆーたと交代してカウンセラー室へ。

今日は、前回よりも随分と自分でパズルをやったとのことだ。

このパズルが完成したら、新しいパズルを家でも買いに行こう、ということになった。パズルは勿論、ゆーたの好きな「猫ちゃん」だ。(笑)

:*:~!° 。.:*:~!° ° '~*:~. .:~!° 。.:~!~*:~

行き帰りの車の中では、ちょっとした話を二人でしていく。

「消費税がまた、あがるみたいだよ、パパ!困ったもんだねえ~」

「そうだねえ。ゆーたももっと社会の仕組みを勉強して、消費税あがらないようにしとくれよ」

.....そこから話は「勉強」へ。

「パパが言う、『勉強』ってのは、学校でやるプリントとかそんなんじゃないぞ。テレビや本を見たりして、ゆーたが興味や関心を持ったことを、自分の目で確かめたり、体験することだぞ。それがホントの勉強だぞ」

「ゆーたがホントにイギリスのミステリーサークルを見てみたい、ってことなら、ママと相談して、三人で旅行に行ったらいいと思ってるぞ」

.....

「でも、借金があるんでしょ? ウチは?」

「まあなあ、確かに..... (^^ゞ」

落札!! -2000/03/12(日) Vol.182-

先だっの楽天市場の「ジャガイモ10kg」の落札結果がわかった。

見事「落札」できたのだが、結局の所

落札価格(¥1,500)+ 送料 + 手数料 = ¥3,000超

ということだったようだ。

「う~ん、良かったねえ~。落札できて.....」

僕はもう、笑い転げてしまった。(^^)

今日も、生協に行って来た後、

「ねえねえ、やっぱ、新ジャガは高いのよ!」

等と一生懸命に話しかけてくる姿は、何とも可笑しく、可愛いモンだ。

ま、これも経験、勉強。こうやって賢くなっていくのだ！ 等とほくそ笑むのだった。

.*:.*'° 。 .*:.*'° ° '.*:.*。 .*:.*'° 。 .*:.*:.*:

昨日、今日と沼津の実家に行ってきた。

が、あいにくの雨で船も出せず、カゴもおろせず、おまけに僕の方が、何やら寒気がしたりして、結局、ゆーたがおじいちゃんにお小遣いをもらって女房とゆーたが義妹の赤ちゃんを見に行き、沼津港で魚を買って帰ってきた、という何とも間の抜けた二日間になってしまった。

僕はといえば、昨日は久しぶりに布団で(おい！) しかも9時過ぎには寝てしまった。そのせいか、きょうになったら寒気もとれ、元気回復、というところ。

我ながら丈夫な体を持ったもんだと感心する。

今日こそは、布団で寝よう！

どんぶり勘定 -2000/03/13(月) Vol.183-

NHKの日本人の質問でやっていた。

「『どんぶり勘定』の『どんぶり』とは何から来ているのか？」と。

これは大工さんなどの腹掛けのポケットを「どんぶり」と言って、ここからおおざっぱにお金を出したりする所から来ているそうだ。

で、我が家の家計だがまさしくこの「どんぶり勘定」。

大体、女房は1000円、2000円と言った単位までは、高い安い、を口にするがケタが4ケタになると、もう訳が分からなくなるらしい。

「あそこのスーパーでは、100円安かった」

「こっちは、少し高い！」etcetc.....

勿論、家計簿何ぞというものはない。

僕はこうした数字をコチョコチョやるのは嫌いではないが、長続きはしない。直に飽きてしまう。女房は女房で、家計簿をつけるなどという気持ちなど、はなから持ち合わせていない。

.*:.*'° 。 .*:.*'° ° '.*:.*。 .*:.*'° 。 .*:.*:.*:

「オイ、お金頂戴よう！ この間、メンタルクリニックとか、ストアーとか結構、お金出してるじゃん！」

「いくら？」

「そうだなあ、5000円くらいかなあ？」

「そおおっ？」

「そうだよっ！」

女房がどんぶりなら、僕もどんぶり。

.*:.*'° 。 .*:.*'° ° '.*:.*。 .*:.*'° 。 .*:.*:.*:

でも、僕がパソコンを教えたりして手にした小遣いも結構、生活費に消えていることが多い。勿論、タバコ代もバカにならない金額だが.....。

僕はいつも財布の中に、後いくら残っているか、ということに気がしながら毎日を送っている。だから何か欲しいものがあったって、なかなか買うことができないでいる。

それに対して女房は、欲しいものがあると、どんどん買ってくる。

「いつかは42.195」……「単位が書いてないね」という指摘が(爆)
確かに!

旗振り当番表 -2000/03/16(木) Vol.185-

これを書いているのは、17日の朝の4時半。
小学校の来年度の「旗振り当番表」を作成していて、ようやく後、少しのところまできた。いい加減イヤになっちゃった。面倒くさい!

手順は……

- 1) 住宅地図で自宅の場所を確認する。
 - 2) 6カ所の旗振り場所に割り振る。
 - 3) 隣近所で行えるように順番を考える。
 - 4) 各場所の回数のバランスを確認する。
 - 5) 一覧表に書き写す。
- と、ここまでは、校外指導部(なんちゅう名称!)の部員さん達全員で行う。
で、ここからが僕の夜なべ仕事になる。

- 1) 学校からもらった名簿と住所、保護者等の確認。
 - 2) あわせて、漏れがないかのチェック。
 - 3) 兄弟姉妹がいるところは1回にまとめる。
 - 4) 順番を書いた当番表一覧を作成
 - 5) 学校行事予定表に旗振り当番を転記(各場所毎)
- ようやくプリントアウトが終わって、一息。(@_@)

:*:~!° 。.:*:~!° ° !*:~!° .:~!° 。.:~!~!~!:

「旗振り当番」は今まで突然やってきた。

前日になって、前の当番の人が「明日、お願いします」と持ってくる。仕事を持っている人などは大変だ。
「こんなん、学校行事に名前を入れればいいじゃん!」
ずっと思っていたから、来年度への土産として、きちんと作っておかないと思う。
でも、今までの資料は全く使えなかったのには、閉口する。
学校の名簿も、きちんとしていないから、それを整理するだけで一苦労。

エクセル様々、だ。

ふう~っ。

後は、父母への「来年度の旗振り当番について」という文書を書けば、お終い!

明日は、もとい今日は、小学校の卒業式。
僕は、式の間、職員室で電話番を頼まれている。
その間に、印刷してホッチキスで綴じて……。
副部長さんが仕事を休んで一緒にやってくれるのが、ありがたい。

雨もあがったようだ。

卒業式 -2000/03/17(金) Vol.186-

5年生と教職員がつくった校門までの道を、卒業生と親が一緒になって歩いていく。電話番を頼まれた僕は、事務室からその光景を眺めていた。勿論その5年生達の中にゆーたはいない。

卒業生達のにこやかな顔と、その横にいるお母さん達のちょっぴり照れくさそうな、そのくせ何とも言えない安堵感をのぞかせた顔……。中には、とうにお母さんの背よりもはるかに大きくなった6年生。

卒業式。

一つの区切りなんだなあ、と改めて思う。

そんな光景をボーッと眺めながら、かつて僕が送り出した卒業生達のことを思い出していた。「今頃、何をしているのだろうか」と。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:.。.:*:~'° 。.:*~:~*:

僕には小学校、中学校の卒業式の記憶が全くない。
何も覚えていないのだ。自分がいつ卒業したのかもわからない。
また、高校の卒業式は、丁度大学の受験のため出られなかった。
卒業証書は、僕の代わりにお袋がもらいに行った。

卒業式の記憶は送り出した記憶しか残っていない。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:.。.:*:~'° 。.:*~:~*:

来年の今日、ゆーたはどうしているだろうか？

形の上では「卒業」するのだろうが、ゆーたの心の中に、何かしらの区切りが生まれているのだろうか？
「学校を卒業すること」にこだわっているのではなく、ゆーたの中で、今までの自分から、新しい自分へと巣立っていく、そんな区切りができるのは、いつのことだろうか？ ゆーたが思いっきり笑顔を見せられる日は、いつなんだろうか……？

卒業生達の笑顔を見ながら、そんなことを思っていた。

春になると、何となく感傷的になってしまいます。

不安定 -2000/03/19(日) Vol.187-

今月始め、子ども病院で次の手術の話が出てから、ゆーたはとっても不安定になってきたような感じがする。

おばあちゃんの姿が見えなくなると、やたら「どこに行った！」を繰り返したり、すぐにしなしな~っとなってしまうたり、小さなことで怒り出したり……。

先週、女房の飲み会があったときもそうだった。

なかなか帰ってこない女房。さらに眠さも加わって、もう、八チャメチャ。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '.:*:.。.:*:~'° 。.:*~:~*:

とにかく不安が募っているんだろう、と。
カウンセラーのSさんも同じように感じたようだった。
「しばらく『赤ちゃんがえり』みたいになるかもしれませんね」と。

入院して女房と離れて寝ないといけない。
一人になることへの恐怖。不安。

しかし、ゆーたはこの不安に一人で折り合いをつけていかなければならないのだ。
僕たち親としては、どうすることもできないのだ。

こうしたゆーたのイライラのはけ口は、おばあちゃんに向かっていく。おばあちゃんは、はっきり「ダメなものダメ」と言わずにきたから、あまりに手を焼くと「パパ、チョット来て！」と助けを求めるしかない。

ゆーたにしてみれば、「どうしてパパに言いつけるんだ！」ということになり、ますます怒りのボルテージがあがっていく。

しかし、ゆーたもどうすることもできない自分が、イヤになったりしているようだ。それもわかる。
「不憫」という言葉で片づけられるものではないのだが.....

プレステ2とK2のキックボード買った!

シブタク -2000/03/20(月) Vol.188-

「渋谷の卓球ブーム」.....。略して「渋谷卓」というそうだ。

少し前から、テレビなどで「卓球がブームに.....」というニュースを目にすることが多くなってきた。

「卓球なんて、簡単にできるもんね」
「卓球なんて、授業の時間つぶしにやるわよ」
「卓球なんて.....」

体育の先生の口からついて出てくる、これらの「卓球なんて...」という言葉に今までの「卓球」の置かれていた立場が如実に表されている。

もっとも「卓球なんて」って言ったら失礼になるけれどね」と、口にした後、「あ、しまった」という顔をして女房は言うが。(--;)

僕は、中学、高校と卓球部だったのだ。(^^ゞ

:*:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:.. .:*.:'° 。.:*...*:

まあ、確かに「卓球=暗い」というイメージがあるのだと思う。

他のスポーツに比べ、マイナーなイメージも拭い去れない。

「部活は何をやってたんですか？」

「あ、卓球です」

そう答えるたびに、質問した人の反応を見てきてよくわかる。

温泉宿に、必ずと言っていいほど置いてある「卓球台」。

気軽にできて、そこそこラリーも続けば、みんなで楽しめる。
一時間で一台600円という安さも受けているそうだ。

テレビで放映される卓球を楽しむ姿を見ていると、何とも言えない違和感を感じてしまう。フォームも何もあったものではないけれど、それでも楽しそうに卓球をしている若者達……。厚底靴と卓球台が妙にマッチしているようにも思えてしまったり。

楽しくスポーツに接すること、これはとっても良いことなんだなあ、と思う。マラソンを始めてレースに参加し始めた僕の姿と同じなんだ、と。

イチゴ狩りにいってきました。今年高校に入る、姪っ子と一緒に。春の味でした。でも、しばらくイチゴはいりません。

ホットカーペット -2000/03/21(火) Vol.189-

「ねえ、ママあ！ 今日パパの布団敷くのぉ？ 敷かなくていいらあ？」
「そうねえ、夕べも布団で寝なかったからねえ。」
そんなやりとりが寝室から聞こえてくる。

布団を敷くのはゆーたと女房。布団を上げるのが僕。
これが我が家のパターン。

冬場、ファンヒーターをつけ、ホットカーペットの上に横たわりそのまま朝まで、というパターンが随分と多くなった。

しかも、キャンプ用のシュラフがいつもそばにあるから、寒さはどうってことない。

一段落したとき、ゴロンと横になり、ゲームボーイカラーの電源を入れる。
そのうち、ぼかぼかしてきて、とぉっても幸せな気分になる。
ハッと気がつくと、明け方だったりと……。

まずい！ とおもむろにコンタクトを外し、寝室に行きゴソゴソと布団に入る。しかし、布団が敷いてないときは、そのままシュラフを引っかけて寝てしまうか、ゆーた達が起きてくるまで、パソコンに向かっているか、だ。

：*：*！° 。：*：*！° °！*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

布団敷きは、女房とゆーたの2人が交代交代でやっているようだが、ゆーたにしてみれば、少しでも楽をしたいから、僕の布団はできることなら敷かないですませたい。
だから、すぐに「今日、パパの布団はいいら？」となるのだった。

布団は敷かなければ寝ることはできない。
ところが、布団を上げなくても、まあ部屋の汚さを我慢すれば、どうってことはないのだ。また、そこに寝ればいいのだから。

結局、この話は僕には随分と分の悪い話。
布団に入ってぐっすり寝ることが疲れをとることだとは、思っているのだが、ついつい、「ゴロン」となってしまう。

これから暖かくなってきて、ホットカーペットもファンヒーターもいらなくなれば、床の上にゴロン、がますます多くなりそうだ。(^^ゞ

あと4日！あと4日！毎日カウントダウンしてます。(^^ゞ
「トルネコの大冒険」プレステのソフトで一番やってみたいヤツです。やった方、おられますでしょうか？

送迎 -2000/03/22(水) Vol.190-

大体高校という所は、飲み会が多いのだ。
教科、学年、分掌（進路とか教務とか...）、そして学校全体。

年度末にきて、女房の飲み会がここ二日ほど続いた。
我が家から町まで、往復で50分近くかかる。
送り迎えとなると、結構時間が細切れになってしまってイヤだ。
しかも迎えの時間は決まっておらず、出先からほろ酔い気分の声で
「終わったよ～。迎え来て～」
と携帯に電話が入る。

「バスで帰ってくればいいじゃないかっ！」と言っても
「ヤダ」の一言。

この間なども、迎えに行く途中に、家の側を通るバスとすれ違ったりして。
ったく.....(--;)

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*.:'° 。.:*...*:

ゆーたは毎晩、9時過ぎには布団にはいるのが習慣になっている。その時間になったら布団にいかないと気が済まないのだ。しかも、寝るときは女房と一緒に。
毎日の決まったパターンが崩れると、非常に不安定になる。
ここら辺りが、小さい頃から自閉症「的」と言われてきたところだろう。

だから、9時を回る頃になると、眠さも手伝って、機嫌が悪くなり、おじいちゃんやおばあちゃんに当たったり、更には僕にまでそのとばっちりが来る。

「良いねえ、いつも迎えに来てもらって！」と同僚に言われるみたいだ。
そうだろ、そうだろ？
もっと感謝しなくてはいけないんだ！

「飲み会ばかりだなあ」
「パパだって今度PTAの飲み会があるんでしょ？ いいジャン！」
確かに、今年度役員になって、少しは飲み会に行くようにはなった。でも、やはり回数としては、女房の比ではない。
しかも、僕は一度も迎えに来てもらったことはない！
僕が帰る頃には、女房はゆーたとしっかり夢の中にいる。

ま、その方が僕も気楽だが.....。(笑)

後、二日！今日、「発送しました」メールが届いた。佐川急便で来るんだ！
<http://k2k.sagawa-exp.co.jp/cgi-bin/SagawaWeb.pcgi>
荷物の配送状況がわかるんだ！ 感激！

プリケー -2000/03/23(木) Vol.191-

携帯電話をJ-phoneとドコモの二機種持っている。

ホントは、ドコモに切り替えたいのだが、ショップで「0円」の携帯を女房用に買ったのが、5ヶ月前。後、一ヶ月は使う契約だ。

で、来月にはJ-phoneをやめてドコモに変える予定。
そうすると、もう一台を何にするかということが浮上してくる。

新機種のiモード用を手に入れて、今使ってるのを女房に使わせる。

もっとも、女房はiモードだろうが、何だろうが、ボタン操作はダメだからあくまでも、チェック用に僕が使うことが多くなるだろう。

普通のドコモの携帯にする。
でも、これだと僕が面白くない！(^_^)

実際に女房が携帯を使うのは、飲み会の時の送り迎えと雪遊びに行ったりした時で、機能についても、電話がかけられて、受けられればそれで良いのだから、最新機種なんてのは、豚に真珠.....。

ということでプリペイド方式の携帯が選択肢に入ってきた。

.....

プリペイド方式の携帯電話を思いついたとき、何と良いところに気がついた、我ながら偉い！ なぁんてほくそ笑みながら、サークルKに出かけていった。

勇んで行ったはいいけれど、やっぱ、そんな甘いもんじゃないんだなぁ。

結局カードの有効期限が、30日間と設定されているから、ドコモの場合は、¥3,000/月ということで、普通の携帯とどっちもどっち、ってことになるのだった。

ついでに、
ツーカー...3,000円で30日間。5,000円で50日間
J-phone ...3,000円で90日間。

通話料金で見ると、
ドコモ ...10円/6秒
ツーカー...50円/30秒
J-phone ...90円/分

う~む、こうしてみるとJ-phoneに軍配があがりそうだ。料金が割高になるけれど。
でも、機種購入で5,6千円かかるしなぁ.....。

携帯なんて持たなければ良い！ と言ってしまうには、この便利さに僕は慣れすぎてしまった。今更、携

帯がない生活は考えられない(笑)

僕はドコモ、女房はP J、って線に落ち着きそうだなけれど.....。

いよいよ明日！(しつこいって?)
昨日はついに、「ザ・プレイステーション」なる週刊誌まで買ってしまった。受け入れ態勢はばっちりだぜい！ (^)v

コロ付き自転車 -2000/03/26(日) Vol.192-

「自転車に乗りたい」

キックボードを買って、外でガラガラやるようになってから、ゆーたの口とついて、何度か出てきた言葉。

「おじいちゃんがコロをとっちゃったから」

その度に、そういうものだから、おじいちゃんは面白くない。

カウンセラーのSさんは、

「ゆーた君が、自転車に乗りたい、って言い出したのは凄いことですよ」そう言った。

僕もそう思う。

「いつまでもコロをつけて乗っているわけにはいかないだろ？」そう聞くと

「そりゃそうだけれど、少しずつ、少しずつ、コロをとっていくんだよ」

「みんなにバカにされたくないもん、ゆーたは！」

そんな答えが返ってきた。

.:*.° 。.:*.° °'.*:.. .:*.° 。.:*...*:

「恥ずかしい」という気持ちをはっきりと見定めないといけないんだな。

自分が恥ずかしいのではないのか.....？

恥ずかしい気持ちを押しつけてるだけじゃないのか.....？

ゆーたにとって、どうなのか、ということなんだな。

今日、我が家にコロ付き自転車がやってきた！

プレステ2がやってきた。

でも、我が家のテレビ、今、赤い色が飛んでいる。スーパーマリオの帽子も「黒」く映る。「テレビ買い換えよう~」って言ったら、女房に「バカ」と言われた。(;_;

安心感 -2000/03/27(月) Vol.193-

今日は早速ゆーたと自転車に乗って遊んだ。

最初の内は久しぶりの自転車と言うこともあり、ぎこちないところもあったが、そのうちコロをガラガラ言わせながら、家の前の道路を行ったり来たりしていた。

僕はといえば、

「ホラ、そこブレーキかけなくっちゃ！」

「左だよ、左のブレーキを主に使うんだってばあ~」

などと言いながらゆーたの横を一緒に走っていた。

走りながら、いっこうに息切れすることもない自分に驚きいていた。

しばらくすると、安心してみていられるようになったので、キックボードを引っ張り出し、一緒に行ったり来たりした。

見ていて思った。

コロがなくてもヤツは乗れるんだなあ、と。でも、コロが付いているという安心感が、何よりもゆーたには必要なんだと。

今年一年、僕はゆーたの心の中のコロを早く外しすぎたのかもしれない。今は、ゆーたが安心できるように、ゆっくりゆっくり休ませてあげたい、そう思った。

おばあちゃんが、だいぶゆーたの「わがまま」に参っているようだ。
う～ん、困ったなあ……。

ジグゾーパズル -2000/03/28(火) Vol.194-

大体色弱の僕は、未だかつてジグゾーパズルなんぞには、手を出したことはなかった。あの中間色がグワッと押し寄せてくるようなものは、絶対に相容れない。色弱検査の表を思い出させてくれる。

どうしてあの絵が数字に見えるのだろう？

あの色弱検査で、数字がわからない僕に、みんなは「なんだコイツは？

こんなのがわからんのか？」と言った目をするのだった。

ゆーたは4週間かけてメンタルクリニックで、カウンセラーのSさんと2人で200ピースのジグゾーパズルを作った。

作ったと言っても、ほとんどSさんがやり、ゆーたは横からあーでもない、こうでもないと言っているだけのようなだったが。それでも、ゆーたはジグゾーパズルができあがっていくのを、とても楽しみにしていた。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

晴れてジグゾーパズルは完成した。

「完成したら、今度はウチでつくるか？」

「ふみゆ！」 < ゆーたが機嫌のいいときにする返事 (^^ゞ

かくして、今度は300ピースのジグゾーパズルを買って、作り始めた。

ま、予想通り、いや予想以上にゆーたは「力」にはならなかった。

横にいて「早く作れ」だの「今日中に完成させる」だのとうるさいったらありゃしない。確かに難しいこととは難しいが、それ以上にじっくり考えないといけないというのは、ゆーたにとってはとっても大変なことなのだ。

結局、色のよくわからない僕が悪戦苦闘する羽目になるのだ。

これはわかりきっていたことだが、やはりしんどかった。 (--;)

でも、作っている間、ゆーたは側にいて彼奴なりに考えてはいるようだった。

「オイ、これに繋がる色を探してくれえ～」

「ホラ、上と横が出っ張ってるヤツだよな、ここは……」

な～んて声をかけながら、少しでもゆーたがピースを入れられるようにしたりする時間は、また、楽しいものだった。

ゆーたなりに完成したことが嬉しく、早速、のりをつけて乾かしている。

「オイ、また、パズル買うのか？」

「あたりまえじゃん！」

だって……。(;_;))

ここ3日ほど、パズルの見すぎで目がショボショボしてる。(--)

我慢のできない子 -2000/03/29(水) Vol.195-

「このままじゃ、あの子は我慢ができないどうしようもない子になってしまう」

おばあちゃんがそう言った。

「違うんだよ。ゆーたには、今、ゆっくりさせてあげることが必要なんだ。本当に心が疲れ切ってしまっているんだよ。だから、Y(姪)やT(甥)と同じように考えないで！ ウダウダしたいときは、ウダウダさせてあげて！」

「じゃあ、何でもかんでもやりたいようにさせろ、ってわけかね？」

おばあちゃんとの会話はいつもこんな風に終わる。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .*:・'° 。.:*:...*::

おばあちゃんのゆーたへの接し方を見ていると、僕が中高校生の頃一番嫌った「僕の母親」の姿が重なってくる。だから、おばあちゃんに何か言う時の僕の言葉の中には、必ず自分自身の過去の記憶がフィルターとしてかかってしまう。これじゃいけないと思っても、どうすることもできずにきた。

結局のところ、僕の母親は絶えず誰かの世話をすることによって、自分を確かめてきたのだ。それが相手にとってどうであるかという前に、自分がそうすることにより、心の平衡を保ってきたのだった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:.. .*:・'° 。.:*:...*::

体も大きくなり力も強くなったゆーた。相手の矛盾をしっかりとついても覚えてきた。時には、おばあちゃんの襟首をつかんだりすることもある。

そんなゆーたに、ほとんど参ってしまっているのだろう。

しかし、ゆーたにしてみれば、今まで何でも「いーわ、いーわ」で来たおばあちゃんが、突然自分への接し方を変えてきた、というよにしか思えないのだろう。

僕の心の中から、「母親」の姿を消し去らなければいけないんだ、あくまでも「ゆーたのおばあちゃん」として接していかないといけないんだ、そう思う。

おばあちゃんに変わることを要求するのではなく、おばあちゃんに対する僕の接し方を変えないといけないのだ。

でも、これがホント難しいんだなっ……。(;_;))

「不登校の息子とPTA会長の父親の話」というメールマガジンを一年間の限定で発行することにしました。ホント、来年はどうなるんだろう？

不安がつきまといます。

2000年4月

買い物 -2000/04/02(日) Vol.197-

「もう、これじゃあどうしようもないね」

目に見えて色が悪くなっていくテレビを前にして、ついに女房がそう言った。「テレビ買おうか」という一声に、僕とゆーたは大喜び。

早速2人で、Jhoshinへテレビを見に行き、その場で買ってきてしまった。
勿論、「夏のボーナス一括払い」で.....。

:.:.:'° 。.:.:.'° ° '.:*:.。.:*:.:'° 。.:.:...'°:

「3階(おもちゃ売り場)に行っていていいよ」

配達の確認などをしている時、待ちきれなくなったゆーたにそう声をかけた。

.....しばらくして僕も3階に行ったが、ゆーたはビニール袋を手に提げていた。

ヤツはJhoshinに出かける前に、お小遣いを持って来ていたのだった。

そして、何も相談することなく、自分でさっさと買っていたのだった。

「ほほお～」

小さなことだけれど、自分で決めて自分で動く、そんな姿が嬉しかった。

:.:.:'° 。.:.:.'° ° '.:*:.。.:*:.:'° 。.:.:...'°:

ジグゾーパズルの第二弾を買ってやった。今度は「爆ボンバーマン」これは線や色がはっきりしていて、非常に見やすい!

早速家に帰って2人で始めたが、ゆーたには丁度良いようだ。

でも、僕にしてみるといささか物足りない.....。

まずいなあ、こうしてジグゾーパズルにはまっていくんだろうか?

:.:.:'° 。.:.:.'° ° '.:*:.。.:*:.:'° 。.:.:...'°:

おじいちゃんが自転車を買ってきた。

「ゆーたと一緒に行かれるように」ということだ。

先週のメンタルクリニックに行った時の、カウンセラーのSさんが言った言葉を思い出した。

「ゆーた君は、ホントにみんなに愛されて育ってきていると思います。今、心はとても傷ついているかもしれませんが、これを乗り越えられたら、傷つかないでスーって来るよりも、ゆーた君の成長にとってプラスになると思います」

ホントその通りだと思う。ゆーたの周りには、優しい人がたくさんいる。

:.:.:'° 。.:.:.'° ° '.:*:.。.:*:.:'° 。.:.:...'°:

携帯をドコモに変えた。

J-phoneの携帯電話を解約しにショップに行ったら、カラー液晶の携帯が「0円」だった。

「e-パック」(月額1400円)というがあり、ついつい衝動的に申し込んでしまった。J-phoneのスカイメー

ルは、仕事の連絡などにも使っていたので、ま、いっか〜と。

こうして僕も携帯電話会社の戦略に、しっかりと乗せられているのだった。
やっぱ、「新しもの好き」なんだと思う。(笑)
女房は新しい携帯電話の存在に気が付いていない。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

春って何かとモゾモゾと動き出したくなる季節なんだなあ。
だから色々を買いたくなる、って?????(爆)

久しぶりに外を走ってきました。いよいよ二週間後には10 kmのレース。
間に合うだろうか.....?

2人で外へ... -2000/04/03(月) Vol.198-

今日は朝からおじいちゃん、おばあちゃんはお出かけにいった。
女房は新学期の準備のために学校へ。
さて、久々の時間。何しようか、と。

10時半から始まる「名探偵コナン」は絶対に見たい。
天気予報は午後から雨。
ってなことで10時前から40分ほど外へお出かけにいった。
ゆーたはこる付き自転車、僕はランニングで。

いつもは自転車も家の側だけしか乗っていなかったのが、ゆーたにしてみれば「遠出」になる。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

いつもはMP3のプレーヤーを持って音楽を聞きながら走るのだが、今日はそれもなし。僕もゆーたも相手のペースに合わせるができない。(笑)

「そこの道を左だよ〜！」
「センターラインに寄りすぎ、寄りすぎ！もっと左！」
「あそこは『止まれ』だよ〜」

走りながら声を出すのは、やっぱりしんどい！
でも、ゆーたはとっても楽しそう。風が気持ちいいみたいだ。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

やっぱりゆーたは右足首が固くて、どうしてもペダルから外れてしまい、うまく力が伝わっていかないみたいだ。足が外れるたびに、ゆーたは自転車を止め、ペダルにかけ直す。

「自転車を止めるときは、コロの力を借りるんじゃなくて、どちらかの足で支えるようにしてやんなよ！」
そうってはみたものの、どうしてもコロで自転車を支えてしまう。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*.:'° 。.:*:.'° .:*

10時25分頃、「コナン」に間に合うように家に戻ってきた。
ゆーたの自転車、まだまだ危なっかしい。
でも、それ以上に楽しそうなゆーたの顔が嬉しかった。

そうなんだな。

確かにコロがなくてもゆーたは自転車に乗れるだろう。だが、コロのあるなしではなく、ゆーたにとって楽しいことは何なのか、ということなんだなあ.....。

いつコロをとるか、ということなどはさして問題ではないのだ。

ゆーたは今までよりも、ずっと遠くへ、しかも自分の力で動く術を手に入れたのだから。これから先、もっと色々なところへ行って、自分の体で感じていけばいいんだ。

僕も気持ちのいい汗をかくことができた。

なんか嬉しくなって、お昼はゆーたの好きなロッテリアでハンバーグを食べに行った。(^^)

いよいよ新学期が近づいてきています。そう、僕のPTA会長も.....。

ってなわけで「ああ、PTA」というPTA活動の情報交換に特化したメーリングリストを開設することにしました。詳細はまた。

無洗米 -2000/04/05(水) Vol.199-

初めてこの「無洗米」を女房が買ってきたときは、去年の暮れの頃。

冬の寒い時、夜中になってお米を洗うのを忘れてしまったことに気が付き、慌ててお米をとぐ。夜中なので、既にボイラーのスイッチは切られていて、下に降りていってスイッチを入れるのも、面倒くさいし寒い！

だから冬場のお米の研ぎ忘れは、ちょっとした心の葛藤が必要になるものだった。(笑)

で、この「無洗米」の登場に僕は狂喜乱舞した！（オーバーな！）

いやあ、ホント楽になったもんだ！

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*.:'° 。.:*:.'° .:*

最近、このご飯のセットの仕事は、ゆーたの手に移っていった。

もっとも、「タダ」ではなく「30円」の労働報酬つきだが。

決まった小遣いをあげていない我が家では、ゆーたのできる仕事に対して5円、とか10円とかその都度あげている。

「肩たたきは5分20円」

「朝の新聞とり10円」

「ゴミ出し1袋5円」

.....ゆーたも「買ってもらう」よりも「自分で欲しいものを自分で買う」ことを考えるようになり、お金に対する執着はうるさいほどだ。

時には、必要以上にお金を要求したり、それが聞き入れられないと、おばあちゃんのお財布から小銭を抜き出したりすることもある。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*.:'° 。.:*:.'° .:*

新しい労働の価格交渉も、また楽しい。
出してやってもいいなあ、と思う額より少な目に言う。
当然、ゆーたはたくさん(とてつもなく)要求する。

「ん～ん。しょうがない！ 後10円値上げしてあげよう！ どうだ！」

「よっし、おけ！」

……てな感じで。まだまだこちらの方が一枚上手なのだ。

ご飯の準備は、ゆーたの毎日の収入源としては大きなもの。

だから、夜になると「お米やるよ～！ 明日は何合！」と必ず聞いてくる。

もっとも、まだまだ手つきは危なっかしくて、そこら中にお米をばらまいたりすることの方が多いけれど……。(笑)

テレビが来ました！「きれいだ！」「やった！」「感動的だね！」

ホントきれいです。色弱の僕でもよくわかります。同時にプレステ2のグラフィックの美しさに、改めて驚きました！

モスバーガー -2000/04/06(木) Vol.200-

毎週木曜日はメンタルクリニックの日。

必ず夕食は「ロッセリアに行こう！」言い出す。

僕もロッセリアにしる、モスバーガーにしる、コンビニにしる、あまり嫌いな方じゃない。しかし、ゆーたと出かけるたびに外食となると、これは経済的に非常に厳しいものがある。女房に言っても、「家で食べればいいじゃないの！」という具合で経済的保証はない。(;_;))

月曜日の昼にも買い物ついでに、ゆーたとロッセリアに行ったばかりだ。

ゆーたは今日も「寄っていこう」と言い出した。

「パパはお金がないんだよ、ホントに。ゆーた少しは出してくれる？」

「ええーっ！ ヤダよお～！」

「じゃあ、今日はやめようか？」

「……………」

何とも言えない表情のゆーた。

結局、モスバーガーに寄ってあげることにした。しかし、やはり財布の中身は非常に寂しい。で、ゆーただけ食事をして、僕はコーヒーだけにした。

:*:~!° 。.:*:~!° ° !~*:~.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

テレビドラマなんかでは、親が何も食べずに子どもだけが食事をしている時などは決まって「とーちゃん！ とーちゃんは食べないの？」と子どもがふと手を止めて、訪ねるのが相場だが(ホントか?) ゆーたときたら、こっちのことなどおかまいなしに、わき目もふらずに焼き肉ライスバーガーと格闘していた。

僕はコーヒーを飲みながら、ゆーたのポテトをくすねて食べてやった。

それでも気が済まない僕は、車を運転しながら、

「ああ、お腹減った！」

と何度となく口にしていたのだ。 (; _ ;)

今日は始業式。夜、新しい担任の先生から電話があった。「明日、寄らせてください！」とのこと。

ドキドキ！

新しい担任 -2000/04/07(金) Vol.201-

4時過ぎ、学年主任の先生と新しい担任のY先生がやってきた。

上がってもらってゆっくり話をするつもりだったが、新年度の会合がまだ終わらず、急いで戻らないといけないとのこと。玄関先での立ち話となった。

「Yです。ゆーた君、よろしくな！」

にっこり笑って、ゆーたに手を差し出した。ゆーたはとても恥ずかしそうに出された手を握りしめた。

良い先生だ、と直感的に思った。

目が優しい。恐らく僕のこの感覚は間違えはないと思う。

隣のクラスの担任には、4年生の時の担任だったM先生がいる。

M先生の時も、クラスの雰囲気は良かった。みんながゆーたを支えてくれた。

クラスの名簿を見たら、ゆーたへの配慮を感じた。ありがたいことだと思う。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

「学校に行っていないことを、一番気にしてるのは、ゆーたです。だから、本人が『よし、行ってみようかな』と思うまで、ゆっくり待ってあげて下さい」それだけを伝えた。

「学校の帰りに、寄っていてもいいかなあ？」とY先生は言った。

ゆーたは嬉しそうに

「金曜日は、テレビがあるしい……。月曜日から水曜日だといいなあ！」等と注文を付けたりして。(^^ゞ

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*:

学校に行っていない生徒を「戻すためだけ」に、クラスに働きかけるのはやめて欲しいと思う。

クラスの人々にとって、ゆーたが学校に行くことがプラスになるのだったら、色々な事を考えるきっかけとしてゆーたのことを語って行って欲しい。

それが結果的に、ゆーたにとってもプラスになるのだと。

逆に上辺だけの対応では、ゆーたもそしてクラスの人々も傷つけてしまうことになるから、中途半端な対応しかできないのなら、対応しない方がましだと思うのだった。

Y先生は、そんな思いを受け止めてくれそうだ……。

もう一つ嬉しかったこと。

学級通信に「坂本龍馬が好き」と書いてあった。(^^ゞ

僕も話が合いそうだ。(笑)

いつのまにやら、この「ぼちぼち…」も200号を超えました。講読してくださっている方も500名を超えている。こんなメールマガジンに……、という思いでいっぱい。

心から感謝します。

「ちゃわん」という学級通信には、「詩をひとつ」と題して飯田寛夫さんの「ぼくは川」という詩が紹介されていた。

新しいクラスを前にして、子ども達に何を伝えようかとアチコチ詩を探している担任の先生を思い浮かべた。同時に「青年教師」だった頃の自分の姿も……。(^_^)

ゆーたは静かに聞いていた。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*..'° 。.:*...*:

新しい学年だよりを再び壁に貼った。

「日まで給食ないんだね」

「あ、今日は身体測定だ！」

学年便りの行事日程を見ながら、僕に話しかけるゆーた。

こんなところにも、「学校に行けない自分」を気にしているんだゆーたがわかる……。

いよいよ…… -2000/04/14(金) Vol.204-

いよいよ明日は、PTAの委員総会(PTA総会の前段階)ってのがあって話をしないといけない。総会の予行演習みたいなヤツだが。

ああ、始まってしまうんだあ……、って思わずため息が出てくる。

この間、新しい運営委員の連絡網を作ったり、ジャブみたいな作業が色々あって落ち着かない。まあ、こんな感じで一年間過ぎていくんだろうか？

運営委員の15人中、e-mailアドレスを持っている人、持つ予定の人が8人。

早速日常的なコミュニケーションに使い始めている。

「明日の委員総会は、ネクタイですか？」

「いや、僕はジーパンですが…」

ってな感じで。

これ使って面白いことができるかな？ 退屈しないだろうな！

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*..'° 。.:*...*:

いよいよ明後日16日は、小笠掛川マラソン。

10kmのレースへ参加。

当初、女房とゆーたも一緒に行く予定だったが、結局というか案の定、僕一人で行くことになった。女房は薫製づくり、ゆーたはテレビが見たい、ということだった。

膝の裏を痛めてから、あまり走れてないので、ひじょーに不安。

先週あたりから、ようやく走れるようになったと思いきや、今度は「まめ」ができて、痛くて走れない日があったり…。

途中で歩いたり、棄権したりはしたくないなあ、という思いが強い。

ゆっくりゆっくり走ってこよう、って。

「今日は、晩ご飯の片づけやらなくていいからね」

これが10 kmを無事走り終えた僕への女房の最大の贈り物だった。(笑)

：*：*：* 。 。*：*：* 。 。*：*：* 。*：*：* 。*：*：*：*：

静岡県の西部地方、掛川につま恋というヤマハのレジャー施設。

ここに今日は、全国から1万人近いランナーが集まったのだ。

掛川インターを出てからの渋滞がひどく、会場に着いたのは9時半。丁度フルマラソンがスタートした時だった。受付をすませて荷物を置いて着替え終わったのは、スタート10分前。アップもろくにできない状態で慌ててスタート地点に。

10 kmの参加者は約1000人。

記録を狙う人は前の方に位置している。

僕などは後ろの方。スタートの合図があっても、なかなか前に進まない。

「コースは園内を2周」と聞いたときから、「しんどいなあ」と思っていた。

この「つま恋」には何度か遊びに来ているが、色々な屋外施設があり、坂の上り下りがきついのだ！とにかく1周目はゆっくりいこう、たとえどれだけ抜かされても、調子がよくなっても、そう呟きながら走り始めた。

「どうしてあんなにスピード出せるの？」と思うくらいに、下り坂でみんなスピードをあげていく。僕は「我慢、我慢！」と意地になって(笑)より一層スピードを落とす。

二周目に入ったときの時間は、27分30秒。5分30秒/1kmのペース。

ちょっと早すぎるぞ、このままだと膝が痛くなるぞ、という心配が頭をよぎった。

一方、僕と同じくらいの所を走っていた人達のペースがガタンと遅くなってきた。でも僕は呼吸も乱れてなかった、どこも痛みない。

「よっしゃ！」

と悪い虫が頭をもたげた。

スピードを上げた。特に上り坂でヒョイヒョイ他の人を抜いていくのは、何とも言えず爽快だった。

(^^ゞ

..... 7 kmあたりかな？ 長い下り坂。急に右膝が痛み始めた。

ありゃ、これはまずい！

このまま走れなくなるのか！

そんな不安がよぎり、極端にスピードを落とした。今度は、周りの人達にどんどん抜かれていった。(;-;)

残り1 kmちょっとの辺り。膝の痛みは消えた。

えーい、行っちゃえ！ と再度スピードをアップ。

途中少し痛みがぶり返したけれど、「行け！行け！」でそのまま走り続けた。最後の坂を登り切った頃、痛みの感覚はなく、体も軽く感じた。

Finish 地点が目に入った。

芝生の感触が何とも言えず気持ちが良い。

ゴール地点には僕の行っているスポーツクラブのトレーナーの人達も応援に来ていた。
「鈴木さ～ん！」
その声に思わず、両手を振って応えた。

ゴール地点を通過。
思わず、小さくガッツポーズを取っていた。(^^)

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*.:'° 。.:*...*:

前回のレースの時と異なり、今回は膝の故障からの走り込み不足が、不安材料として絶えず頭の隅にあった。だから「とにかく楽しい」という感覚にはほど遠かった。

むしろ途中で走れなくなったらどうしよう、そんなことばかり考えていた。だからこそ最後まで走り切れたことが、たまらなく嬉しかったんだと思う。

「楽しみ」の中身がより深いものになっているのだろうか？
自分への課題がより大きなものになっているのだろうか？

会場を後にするとき、続々とフルマラソンに参加した人達が帰ってきた。
最後の坂道で歩き出す人、歯を食いしばって走る人、何とも言えない笑顔を見せている人……。
一方、途中でリタイヤして「収容車」に乗せられて返ってきた人達ともすれ違った。

「いつかは」と思って走り始めたマラソンだけれど、「いつか」が次第に僕の心の中にしっかりと形作られていった。

教材販売 -2000/04/17(月) Vol.206-

「もしもし、私 の××と申しますが、ゆーた君のお母様いらっしゃいますでしょうか？」
昼寝中に(おい!)電話で起こされ、すごぶる機嫌の悪い声で僕は、受話器から流れる声を聞いていた。
「いませんけれど？」
「お仕事でいらっしゃいますか？」
「はい」
「それでは後ほどご連絡したいと思います」
「チョット待ってください。どんなご用件ですか？」
「ゆーた君の教材について、ご連絡した次第ですが...」
「あの、そういうのは結構ですから、電話しないでください」
「わかりました。失礼いたします」

.....こんなのはまだ良い方だ。

用件を聞いても、「いえ」とか「ちょっと」としか言わない輩も多い。そんなときは決まって「我が家はナンバーディスプレイですから、お宅の番号わかります。しつこくかけてくるなら、こちらとしてもきちんと対応しますから」

どう「きちんと対応する」のかは全然考えてないが(笑) そう答えることにしている。そこからは二度とかかってくることはない。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:~!。.:*:~!° 。.:*:~!~!~!:

教材の売り込みが6年生になって、ホントに多くなってきた。
ダイレクトメールも勿論そうだ。

ゆーたに言うと

「やるわけないじゃん！」と相手にしない。

ヤツはとにかく「勉強」とか「教科書」とかには頭っから受け付けない。

もっとも僕も「学校の勉強なんて、どーってこたあないぜ！」とは言っているが。

それでもやらないよりもやってみようって方が嬉しいなあ、という本音もチラリと顔をのぞかせる。

ま、いっか！

「今からでは遅すぎる」とか「まだ間に合う」とか「高校受験に向けて」とか言った言葉に踊らされて、「学ぶ」ことが嫌いになるよりも、自分のペースで学び続けるようになることの方が、どれだけ大切なことか！

ゆーたは6年生の教科書に、名前すら書こうとしない。(^^)

ゆーたの机の上には、300ピースのジグソーパズルの第三弾が、広げられたままだ。

足のみめが痛い！痛い！痛い！痛い~っ！
42.195なんて「夢のまた夢」……？

留守番契約 -2000/04/18(火) Vol.207-

ペットボトルにタッチおじさんの携帯ストラップ。

それがゆーたの小銭入れだ。何か家の手伝いをするたびに、ジャラジャラ言わせながら、「ホイ、円ね！」とくる。

お金につられどうかはわからないが(少なくとも効果はかなりある！)言われなくても、朝起きたら新聞を取りに行ったり、放置された洗濯物のカゴを見つけると洗濯機に持っていったり、寝る前になると「明日は何合たくの？」と、フットワークがかなり軽くなってきた。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!:~!。.:*:~!° 。.:*:~!~!~!:

昨日からおばあちゃんは、天理市に出かけた。

僕が出かけようとするときに、車で送っていったおじいちゃんは、まだ帰ってこなかった。その時の僕とゆーたの会話。

「おい、一人で留守番してくれたらきちんと留守番料出すぞ！」

「おお、いいねえ~」

……以下、価格交渉が続く……。

「じゃあ、100円 / 1時間、ってことで決まりね！」

ということになった。

ゆーたは多少不安みたいだが、おじいちゃん、おばあちゃんの自由も生まれるし、本人のためにもなる。また、ゆーたの小遣いも増える。

一石三鳥、といったところだ。

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*..'° 。.:*...*:

玄関のチャイムが鳴った。そのとき、ゆーたは下において一人で遊んでいた。
「チャイムが鳴ってもカギを開けちゃダメだよ」と言っておいたにも関わらずドアをあける音と、誰かの声がして慌てて下に行った。

玄関には「恵まれない人のために花を買ってくませんか?」と、女性が立っていた。このところ、僕の町内でもアチコチ回っているグループがある、という話を聞いたことがある。
「申し訳ありません。ウチはそういうのはお断りしています」
そう言って帰ってもらった。

「ゆーたあ、カギを開ける前に『どちら様ですか?何のご用ですか?』と聞かないとダメだよ」と言っておいたが、何とも言えない複雑な思いがした。

ゆーたはホントに大人たちの愛情を一杯に受けて育ってきている。
今までゆーたの接してきた大人たちは、皆善良な人達ばかりだ。
大人に対する不信任、というものをゆーたは知らないのではないかとすら思ってしまう。色々ひどい事件を起こしたりするのは、ブラウン管の中や、新聞・雑誌の世界での出来事と思っているのかもしれない。

「大人社会は危ないことがいっぱいあるんだぞ」
事実、その通りだが、そう教えなければならぬこと自体が、何とも言えず悲しかった。

明日は水曜日。「帰りがけ寄っても良いですか?」担任の先生がまた、寄ってくれるそうだ。

筍 -2000/04/23(日) Vol.208-

筍が我が家の中を飛び交っている。
と言っても、筍のキャッチボールとかでは無論ないが.....
金、土、日と立て続けに我が家に筍がやってきた。

我が家の周りには農家が多い。
女房が作った薫製を持っていくと、
「これ持って行って!」と色々な野菜が手に入る。

キャベツ、人参、セロリ、エシャレット.....
先だってインターネット通販で買った、「安いジャガイモ」もまだ食べおおせていないし、最近、野菜中心の食卓に様変わりしてきた。ゆーたはこうした食事を「粗食」と呼ぶ。(^^ゞ

.:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .:*..'° 。.:*...*:

昨日、担任の先生が来る予定だった。
月曜日からクラス写真を撮るから、誘ってみたい、ということで我が家に顔を出すということだった。
女房は金曜日にもらった筍を先生にわけようと準備していた。

.....結局先生は来ずに、今日、我が家にやってきた。
手に筍を持って.....。

「これ、ウチの子どもと掘ってきたんです。よかったらどうぞ」

先生の手はまだ、土の色が残っていた。

「しまった！ 先を越された！」

実は我が家にも筍が……、などととても口に出せずありがたく頂戴した。

先生の好意が嬉しかった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

帰りがけ、例によってY先生は

「じゃあな！ ゆーた君」と言ってちよっぴり汚れている手を差し出した。

「少し手がきたないけれどな……」と少々照れながら。

ゆーたはいつもにもまして、手をちょろっと出ただけだった。

「ゆーたあ、こういう土の色がついた手は、ホント素敵なんだぞ」

ま、その言葉に込めた僕の思いは伝わらないだろうと思いつつ、僕はそう言った。でも、いつかゆーたにもわかってくれるときがきたら嬉しいな、と思いながら……。

あらららら、「授業参観」「PTA総会」「肩書き」「大河内清輝君」……たくさん書きたいことがあったんですが、考えている内に時間はどんどん過ぎちゃいました。思いついたら書かないと消えちゃいますね。

観客二人 -2000/04/24(月) Vol.209-

クレヨンしんちゃん「嵐を呼ぶジャングル」を観てきた。勿論、ゆーたと二人で……。書きながら思った。いい歳した大人が一人で、真っ昼間、しんちゃんを観てたら、と……(--;)

午後1時10分開始。「きっと観客少ないと思うよ」などと話ながら1時頃、劇場に到着。館内にはお客さんは……4人いた。(爆)

しかしその4人も僕たちと入れ替わりで出ていった。

473席(あまりにも寂しかったから数えた!)ある劇場が僕たち二人の専用映画館になっていた。いつもは大声で笑うゆーたを時々たしなめながら観ていたが、今日は、周りを気にすることなく、ゆーたもせいせいと笑っていた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

クレヨンしんちゃん、下品とか(確かに!)下ネタが多いとか(ウム!)子ども達が真似をして良くないとか色々と言われることもあるけれど、僕は面白いと思う。好きだなあ。

女房はとても一緒には行かれない、と言うが、僕の方は結構楽しみにしていたりもする。

ゆーたはしんちゃんのどこが良いんだろうか?

今日も、アクション仮面がパラダイスキングにやられているとき、しんちゃん達が一生懸命応援するシーンがあった。ふと横を見ると、ゆーたも顔つきを変えて、真剣に画面を見入っていた。

「あの時、ゆーたは感激したの？」

「う～ん、そうゆーわけじゃあないんだけどお」

変なところを見られてしまった、というような顔をした。

.:*. '° 。 .:*. '° ° ' .:*. .:*. '° 。 .:*. .:*. :

今まで観に行った映画は全部パンフレットを買っている。どんなものでも何かのついでに思い返すこともあるだろうから、と。

今までは、僕の方でお金を出していたが、今日は、日頃貯めているお小遣いで、ゆーたはパンフレットを買った。出かけるときに、「そうだ、パンフレット買わなくっちゃ！」と。

自分で自由に使える小遣いを持つことは、やっぱり良いもんだと。

でも、これからまた、「お金がない、お金がない」が続くんだろうなあ。

.:*. '° 。 .:*. '° ° ' .:*. .:*. '° 。 .:*. .:*. :

帰りの車の中、「とおべとおべ、もおちよっとお～！」なんて二人して歌ってた。丁度、一旦停止の所だった。

停止線を少し越えた所で止まったら、なんとおまわりさんがいた！

「ちょっとそっちに入って！」と。

一瞬ドキとした。

最初は絶対に一旦停止違反で、切符を切るつもりだったと思う。

おまわりさんは、隣のゆーたをチラッとみた後、雰囲気が変わった。

「もう少し手前できちんと止まってよ！」と言ってお終いにしてくれた。

よかったあ～。

ゆーたが手にしていたしんちゃんのパンフレットの御利益だろうか？（笑）

小林さちこがエンディングテーマを歌ってました。
なかなか良い曲でした。

たかがゲーム -2000/04/26(水) Vol.210-

「ゆーた、とっても変な顔してたよ！」

ゆーたが下に行った後、あきらかに僕を非難する目で女房は言った。僕にもわかっていた。

僕もゲームは好きだ。やっているうちに次第に熱くなっていく。

また、ゆーたと僕とのコミュニケーションの中で、ゲームは重要な位置を占めている。進め方などを色々聞いてくるゆーたに対して、こちらのゆとりがある時は良いのだが、同じことを何度も聞いてきたり、「こうしたらいいよ」ということを聞かず、自分の好きなようにやって最後には泣きついてくる時などは、どうしてもイライラしたり、言葉がきつくなってしまうのだ。

そして、ついつい先回りして、「あーしろ、こーしろ」となってしまう。

「たかがゲームのことで」という気持ちが女房にはある。

でも、それが毎度のことで、全部が全部こちらにとぼっちりがやってくるのはたまったものではない。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

プレステーションの「デジモンワールド」という育成ゲームがある。

ひと頃、デジタルモンスターには、ゆーたと二人で随分遊んだものだった。ゆーたはやたらと先に進めたがって、とにかく「育てる」こともせずに、敵に戦いを挑んでいく。当然のことながら「やられる」
「もっと育ててあげないとだめなんだよ」

何度言っても、同じことの繰り返し。うまくいかない「パパ、やってよ」とくる。

ゆーたが育てた(?)弱々しいデジモンでは、勝てるわけがない。

「こんなので勝てるわけがないよ」とブツブツ言いながら、バトルに挑む。何とか勝てることもあるが、とても時間もかかるししんどい!

「だから、最初っからパパの言うとおりにやっておけば良かったでしょ?」となる。

一度や二度のことではなく、ゲームの度に毎度のことになれば、こちらもイヤになってしまう。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

でも、どうしてだろう?

学校のことや他のことでは、それなりにゆーたに合わせられるようになってきたと思うのだけれど、ゲームのこととなるとムキになってしまうんだらう.....?

単に僕もゲームが好きで熱くなりやすいから、というだけではなんか、スッキリしない。

「いちいち、口にするまい!」そう思って黙っているときに限って、ゆーたは「パパやってよ」となる.....。

メモリーカードなるものを買いました。これでゲームのデータがセーブできるようになりました。
これで僕もゲームが進められる!(--;))

やっぱりゲーム -2000/04/27(木) Vol.211-

昨日から、「ゲームのこととなるとムキになってしまうんだらう.....?」ということがずっと頭から離れなかった。何かしらふっとした時間の隙間に、その思いが顔をもたげてくるのだった。

こんなときはしょうがない、考えるのが面倒くさくなるまでつきあうしかない。そう思って一日過ごしていた。

で、思った。

「ゲーム」をしている時、ゆーたの欠けている能力とをイヤと言うほど見せつけられるからだろう、と。これでもか、というくらいに僕の目の前に突きつけられるゆーたの課題。その課題の多さ、壁の高さに僕はイライラするのだから、と。

物事を筋道たてて考える...。

右とか左とかいった認識能力...。

人の思いを受け付けず、自分の考えに固執する...。

.....。

こうやって言葉にしまえば、簡単だしゆっくり時間をかけないとダメだよ。他のことと一緒にでしょ? となる。

でも、どうして「ゲーム」の時なの? という思いは消えなかった。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

木曜日はメンタルクリニックの日。

ゆーたのカウンセリングが終わった後、カウンセラーのSさんにその話をした。

「.....自転車や、勉強のことなんかは、『ま、できなくても良いや』って思いうけれど、『ゲームはなんとかしたい』という強いこだわりがゆーた君の中にあるからだと思いますよ。これは何とかしたい、って思いが強いからでしょうね」と。

なるほど、そうか！

「こだわりの強さ」故に、ゆーたもイライラして、こちらにもぶつけてくるのか！ と。他のもののようにてきとーな距離を置けないんだ。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*.:'° 。.:*:.'*:

「もっと簡単なことにこだわりを持ってくれば、楽なんだろうがねえ。ゲームって難しいですモンね」
「お父さんしかつきあえないですからね。こればかりは.....」

結局の所、

「ゲームが悪いのではない！ ゆーたが悪いのも勿論ない。悪いのは僕なんだ！」

ということだろう。(笑)

なんでもかんでも自分で背負い込むのではないけれど、モヤモヤが晴れたことで、随分と気持ちはスッキリした。

昼間、本屋へ行って「攻略本」を買ってしまった。ゲームをやるには「予習」が必要なのだ！ (^^)

2000年5月

やっぱり又メモン(;_;) -2000/05/01(月) Vol.212-

「どうやっても、ゆーたはやっぱり又メモンなんだ.....」

泣きそうになるのをこらえて、ゆーたが言った。

「又メモン」というのは、今、ゆーたが夢中になっているゲーム「デジタルモンスター」のキャラクタ。

このゲームは、卵から、モンスターを育てていく育成ゲーム。

幼年期、成長期、成熟期、完全体.....と育てていく。

その際、ご飯をあげたり、トイレに連れて行ったり、バトルをしたり、トレーニングをしたり、時にはほめ、時には叱り、そうやって育てていくのだ。

モンスターはその育て方によって色々進化していく。

で、この「又メモン」というのは、「ウンチ」をモデルにしたナメクジのようなキャラクタ。育成に失敗(ご飯をあげ損ねたり、トイレに行かせなかったり.....)すると、この「又メモン」になってしまうのだ。

実際にやってみると、結構難しく、僕も結構「又メモン」になってしまう。

ゆーたの育成方法には、それこそゆーたそのものが表れている。

丁寧さがなく、「育成ミス」ばかりしている。

で、結果、今度こそは、と思っても「又メモン」になってしまうのだ。

「どうせゆーたは.....」という言葉にはドキっとした。

う言いながら、下におりてコタツで寝てしまった。その後、お昼のご飯も食べずにゴロゴロしていた。

しばらくしたら、女房が帰ってきた。

女房とのやりとりの中で少しは気持ちがほぐれてきたみたいだ。

しかし、何かことある毎に僕を非難するような口調で、突っかかってくる。

「もお、やだ！」

一言発して、僕は外へ出かけた。

：*：*’° 。 ..*：*’° ° ’*：*’.. ..*：*’° 。 ..*：*’*’*’

小さな、そして静かな喫茶店。

ゆっくりコーヒーを飲みながら新聞を読んだり、持っていったC G Iプログラムのソースをチェックしたり.....。しばらくゆーたのことは考えないようにした。

居座ること一時間。

ふうっとため息をついて喫茶店を出た。

5月です。走っていて「緑」の美しさを改めて感じます。

いつかは... -2000/05/04(木) Vol.214-

17歳の少年のバスジャック事件のニュースが、朝からテレビでひっきりなしに流されていた。

そんなニュースに

「可哀想ねえ」「人が死んだら、ホントに取り返しがつかなくなるよな」と女房と僕は話をしてた。

その時、ゆーたが

「これで地球の人口が一人減ったんだよね」

と言った。

ゆーたは時々、こういうことを言う。

その度に僕たちはドキっとしてしまう。

：*：*’° 。 ..*：*’° ° ’*：*’.. ..*：*’° 。 ..*：*’*’*’

女房は言う。

「そうじゃないでしょ～」

ゆーたは「しまった」という思うと、決まって「だって～」と自分を守り始める。自分のまずいことを自覚している時であればあるほど、自分を正当化する理由が欲しくなり、「悪魔」が出てきたり「魔女会」が出てきたりする。こちらのゆとりがなく、イライラしているとますます手に負えなくなってしまう。

一呼吸必要になる。

「ゆーたあ、ママやおばあちゃんやおじいちゃんやパパが死んだら、そんな時でも、『人口が減った～』なんて思わないらあ？」

.....名前を出す順番も一瞬考えてしまった。やっぱ、僕は最後だろう(笑)

「そりゃあ、そうだよお！」

「ウン、そうだよね。さっきの亡くなった人にも家族がいたんだよね」

「だってえ、わからなかったんだもん」

「そだな、いつかは自分のことと、周りのことが結びつけられるようになると良いね。今はできなくてもね」

.....それでなんとなく収まった。

:*:・!° 。.:*:・!° ° '・*:・!° .:*.・!° 。.:*:.....*:

ゆーたがわかったどうかは別にして、「いつかは」という言葉を僕自身が口にできなくなったらどうなるんだらう.....?

「いつかは...」と思い続けていれば、その日が来る。そのために少しずつでも思っている。

17歳の少年達が立て続けに起こした事件は、僕の心の中に「いつか」が信じられなくなる時の事を思い起こさせてしまった。

「親は...」 -2000/05/07(日) Vol.215-

親は考える...自分の娘の性格は誰に似たのか、と

親は考える...自分の娘は非行になんかはしないだろうか、と

親は思う...もう少し、勉強してくれないものか、と

親は思う...もう少し、家の手伝いをしてくれないくれないものか、と

親は願う...人を大切にできる人間になって欲しい、と

親は願う...曲がった生き方だけはしてほしくない、と

親は小言を言う...たとえ娘にどんなにウルサイと思われても

親は小言を言い続ける...たとえ娘にどれほど反抗されても

親は自分の娘に何かあったなら

どこにでもとんでくる

どんなに忙しくてもとんでくる

どんなに遅くてもとんでくる

何もかも、ほっぽりだして

親は考える...、親は思う...、親は願う...、親は言い続ける.....

親は、

自分の娘だから..... 自分の娘だから.....

(1981/6/6 14HR学級通信 No.48)

:*:・!° 。.:*:・!° ° '・*:・!° .:*.・!° 。.:*:.....*:

この間、何故かしら昔の日記何ゾを引っ張り出して見たくなるが多かった。

もう、20年前の学級通信。

上の詩は、初めてクラス担任を持ち、初めての退学者を出したときだった。

まだ、教師に成り立てだがむしゃらに毎日を過ごしていた。「退学」ということもショックではあったが、

同時にその生徒に対する両親の姿が忘れられず、上のような詩を書いたんだと思う。

「私達には説得できません」

バスジャック事件の時の母親の言葉が心に残る。

上の詩に登場した彼女も二児の母親。
彼女の高校生活はわずか数ヶ月で終わったが、毎年送られてくる年賀状の子ども達の写真、そっくりだと笑っている。

不安定 -2000/05/09(日) Vol.216-

ゆーたというよりも、僕の方だろうか？

先日のバスジャック事件の母親が言った

「私達には説得できません」

という言葉が、いつまでもこびりついてはなれない。

日曜日などは、テレビのどのチャンネルをつけても、「17歳の少年の犯罪」一色。どこの番組のコメントーターか忘れたが、「親がそんなこと言われたら、私達はどうすることもできない」などと言っていた。

僕などは、その母親の気持ちがなんとなくわかるようなきがした。

ゆーたがもっと大きくなって、力もつき知恵もつき、精神だけが今のようなアンバランスのまままで育っていったら、今回のような事件を起こす可能性は決してないとは言いきれない。

今、ゆーたがどうしてもなくパニック状態になってしまう時、正論を言っても、勿論聞かない。ますます興奮させるだけだ。

大体の事は、聞き流すか放っておくかですますが、あまりにも目に余るときは、力づくで2階に連れてきたりするのだが、いつまでも通用するものではない.....。

:*:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:. .*:.'° 。.:*:.:*.:

このGW中、どうしてだろう？ ゆーたはイライラしている。

何がゆーたの気持ちを不安がらせているのか、よくわからない。

一方、PTAの仕事、特に「会長」ということで回ってくる色々な役。

それに伴う会合が、次々と入ってくる。

.....地域の体育振興会、公民館の運営委員、放課後児童会の委員、健全育成会の理事(?)etcetc.....。

自分の中の心がバラバラになっていくような感じがしてたまらない.....。

今日は、小学校の第一回目の運営委員会でした。会議は2時間で終了。

この会合は、僕の中でも大事にしたいなあ、と。なかなか良い雰囲気で行うことができました。
良かった、良かった！

伊豆高原 -2000/05/14(日) Vol.218-

女房が伊東での尾木直樹(字、わからん!)の講演会を聞きたいということで昼前沼津の実家を出て、伊東へ向かった。例によって例のごとく、講演会の時間はあまりはっきり調べてない。

「伊東までだったら、1時間もかからないぞ」と僕。

「そんなことないら～？」と方向音痴の女房は言う。

.....何度、この女房の方向感覚のなさに泣かされたことか！ (--;)

案の定、伊東には45分ほど、10時過ぎにはで到着。講演会は午後の2時から。

さて、どうやって時間を潰そうということで、まずは伊東のおもちゃ屋へ直行！ おじいちゃんからもらったお小遣いで何か買わないと気が済まないゆーたの要望に応えるためと、あわせて講演会の時の時間つぶし用に必要という双方の利害が一致したためだ。

：*：*！° 。 .：*：*！° ° '！*：*：.。 .：*：*！° 。 .：*：*：*：

その後、伊東の少し南、伊豆高原へ出かけた。

結婚当初、熱海に1年間ほど住んでいたため、よく伊豆高原には二人で出かけた。もっとも女房はあまり覚えてないらしいが.....

車を走らせながら、「あ、ここ、覚えてる？」と聞く僕に、あまりにもはっきりと「えっ？ 覚えてないよぉ～」と答える女房。もしかしたら一緒に行ったのは女房じゃなかったかなあ、等という思いも.....
(^^ゞ

伊豆高原も随分と様変わりした。

かつてはペンションくらいしか目立ったのはなかったが、ここ数年で色々な博物館だとか、小さなこだわりのショップや、様々な体験工房などができてきた。

で、時間もないこともあり、ゆーたの好きな「ねこ博物館」に行った。

大人一人1300円。確かに色々面白いモノはできてはいるが、全体的に入館料などが高いのが何とも言えない。

：*：*！° 。 .：*：*！° ° '！*：*：.。 .：*：*！° 。 .：*：*：*：

「先生におみやげ買って行ってあげたら？」

「ポミュがお金出すの？」

「そうだよ」

「.....(--;)」

「パパが半分出してあげるから。値段とか中身じゃなくて気持ちだからね」

「うん、わかった！ じゃ、ママも出して一人3分の1ずつにしよう！ それで、割り切れない分は、ママが出す、と言うことで！」

.....う～む、ここらあたりの知恵はよくまわるヤツだ！

350円のおみやげ。一人110円の出費となった。

：*：*！° 。 .：*：*！° ° '！*：*：.。 .：*：*！° 。 .：*：*：*：

講演会も終わり、途中のローソンで飲み物やおやつを買った。

車に戻るなり女房が、

「ゆーたったら、ひどいよ～！」

「？」

「これ、気がつかないウチに入れてあるのよ！」

見るとデジモンのカード。

値段は150円だった。しっかりヤツは元を取っていた。

「講演会面白かった～」と女房は言っていました。「ホントにママは我が儘なんだから～」と言うと、「今日は良いでしょ？ 母の日なんだから！」と。そうなんです。母の日でした。

エビフライ -2000/05/16(火) Vol.219-

「食事の時のおかずなどで、自分の好きなものを一番最後までとっておく人は貧乏だったんだ」と何かの時に言われた。逆に裕福な人は、最初においしいもの、自分の好きなものから食べていくのだ、と。

僕は、いつもおいしいものは最後の最後までとっておく。(^^)

:.:.'° 。 .:.'° ° ' .:.'° .:.'° '° 。 .:.'°:

伊豆高原でのこと。

食事は豪勢にいこう！ ということで「地魚」という言葉に惹かれて落ち着いた感じの和食のお店に入った。ゆーたは、あじの刺身定食。女房はヒレステーキ定食。そして僕はミックスフライ定食を頼んだ。

.....う～む、どこが「和食」なんだろうか。(笑)

僕のミックスフライ定食が運ばれたのは、一番最後だった。

大きなエビフライがあった。

例によって例のごとく、僕は一番最後にとっておき、一口パクついた。

食事を終えた女房が言った。

「パパのエビフライおいしそうね。ちょっと頂戴！」

半分ほど残った。

「おいしいねえ、ゆーたも一口もらおう？」

「どうしようかなあ。フライは太るからなあ.....」

「やめとけ、やめとけ！」とは僕。

「う～ん、でも一口だけ」等と言いながらも、結局、僕の所にはエビの尻尾だけが戻ってきた。(;_;

悲しみを感じつつも、何とも言えず可笑しかった。

連日の会合.....でも、PTAの委員さん達との話ができるのは、とても良いことだと。大変だけれど、楽しい会合が二日続きました。でも、明後日からは.....?????

ハードディスク -2000/05/22(月) Vol.220-

いやあ、忙しかった！

連日のようにどこかで会合があって、ほんとにまあ、ってな感じ。少し前からハードディスクから異音が出ていた。こりゃ危ない！ と、危機感を募らせていた。丁度、油の切れたような、「ギーギーッ」という音が、回転音と一緒にしていたのだ。たった。

う～ん、去年の二の舞を踏むまい、と今度は準備万端、バックアップをとってハードディスク交換に踏み切った！

何もこんな忙しいときにやらないでもいいものを、と思いつつ、この先、時間的に余裕が生まれる保証はない。ノートパソコン、e-one、MOを駆使して、久しぶりにパソコンを引っ張り出した。

で、再セットアップしたはいいいけれど、どうも今ひとつ不安定。

なかなか元の環境には戻らなかった。(今も、まだUSBの関係がどうもよくなかったり)実際、よくも

こんなにインストールしてるモンだ、とあきれたり感心したり.....。(^^ゞ

：*：*！° 。..*：*！° ° '！*：*..。..*：*！° 。..*：*...*：

大事なデータとして特に気をつけたのが、やはり一連のメールマガジンのバックナンバーとHPのファイル。そして色々作ってきた、ワードや一太郎やエクセル、住所録ファイル。これらはこの世に二つとないものだからなあ。

日記の代わりに、パソコンを使うようになってから、特にこの「ぼちぼち」は、今までの自分を振り返るために大きな意味を持っている。このデータをなくしたら、一番、ショックを受けるだろうなあ。

.....あ、でも、誰か保存してある人がいるかな？（爆）

：*：*！° 。..*：*！° ° '！*：*..。..*：*！° 。..*：*...*：

完璧を期したつもりのバックアップ。
でも、しっかり抜けていたものがあった。
辞書ファイル。 < 単語登録辞書があ.....。(；_；)
HPのお気に入り。 < あれだけ集めるのは、大変だったのに...(；_；)

ま、いっか！

一時は、ほんとにパソコンを買い換えないとだめなんかなあ、と冷や汗ものだったから。やっぱり、自分で作ったパソコンはかわいいモンだ、と。夜中一人でニンマリしていた。（病気か？）

今週も明日から、連日のようにPTAの会合です。う～ん、素敵！（..）

元教員 -2000/05/24(水) Vol.222-

夜、保体部の会合が終わった後、副部長をやっているお母さんが、
「ゆーた君、どう？」と声をかけてきてくれた。
去年同じクラスの女の子のお母さん。
教室に行ったら、「ゆーた通信」があったから手紙を入れてきた、と子どもが言っていた、と。

：*：*！° 。..*：*！° ° '！*：*..。..*：*！° 。..*：*...*：

ゆーたの親という立場を離れて、昔に立ち返り、もし自分がゆーたの担任だったらどうするだろうか、と考えたりもした。

学年の担任団で話し合い、「ゆーたのことを学年全体の中で、どうとらえるか」ということを確認する。そこがぶれていたら話にならない。クラスにとってどう位置づけられるのか、学校の中でどう位置づけられるのか、ということがポイントになるだろう。

総論的、一般論的に「学校に来られない不登校の子どもはかわいそう」ということならば、何もしない方が良い。

子ども達への問いかけ。

実際、ゆーたはクラスのみならず、不愉快な思いをさせたこともたくさんあった。そうしたことも含めて、学校に来られない「友達」というものをどう考えるのか、ということ投げかけたい。

学校に来ていないときに思うことと、いざ学校に行った時、色々なことに直面した時に思うことでは、全く違うのだから…。

親たちに対して

きちんと話をする場所が作られれば良いなあ。

単に「ゆーた」という個人の問題ではなく、一人一人の問題として、人を思いやるとか、他人を大事にするとはどういうことなのか、といったことを考える絶好の機会として位置づけられるのか、ということ。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:*.:

教員時代、生徒が問題を起こした時に僕は必ず、「この問題をきちんとクラスみんなに投げかけたい」

そう親にも本人にも言ってきた。

そして学級通信にも個人名を出して、問いかけてきた。

最初は嫌がる親もいた。

でも、「トラブルは次の段階に進む一番の良いきっかけ」だと一貫して思ってきた。トラブルに真正面から立ち向かう力量が、他でもない僕自身につきつけられ、また、それが僕自身を成長させてくれたと思っている。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:*.:

僕だったら……。

そう思うことはたくさんある。

しかし、それは「教師経験者」としての「僕」であって、「親」としては担任や学校が考えることだと思っている。

でも、正直、その二つの人格がうまく使い分けられない自分があるなあ、そう思う。

パソコンの再セットアップの時に、ICQのコンタクトリストのバックアップ、忘れてました。すみませ～ん。一度ICQでメッセージお願いします。

友達 -2000/05/23(火) Vol.221-

先週あたりから、友達が我が家に遊びに来るようになった。

担任の先生が毎週やってきて「ゆーた通信」に対するクラスの友達の手紙を持ってくる。ゆーたもまた、その度に思いついた「さもないこと」を書いて先生に渡す。

先生は学校の一角に「ゆーた通信」を貼っておく。その横には、「ゆーた君へのお便り」という箱が設けられている。

先生はクラスの子ども達に、「書いてほしい」ということは言わずに、我が家に来る前に、その箱に入っている手紙を持ってくる。

:.:.:'° 。 .:*.:'° ° ' .:*.:. .:*.:'° 。 .:*.:.:*.:

「信用できないんだなあ……」

そんなことをゆーたが口にした。

つまりこういうことだろう。

先生への信頼感なり、安心感なりはそれなりに生まれてきてはいる。心の中で気にしている「学校」が少しは近づきつつあるのかもしれないが、その思いが強くなればなるほど、「本当に大丈夫なんだろうか」という気持ちも強くなっているのではないだろうか？

それが「信用できないなあ」という言葉になっているのかな、と思う。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

先週の水曜日、先生が来るより一足先に、クラスの友達が3人遊びにきた。そのうち二人は、去年も同じクラスだった子だ。久しぶりに我が家に子ども達の声に戻ってきた。

あるお母さんに言われました。クラスの子も達にも親たちにも、きちんと話をしてほしい。しっかりと理解してあげたい、と。これについてはまた.....。

2000年6月

背中を押す -2000/06/01(木) Vol.222-

毎週水曜日には、担任の先生が必ず我が家に来てくれる。

その度に「ゆーた通信」に寄せられたみんなの声を届けてくれ、ゆーたはまた、新しい「通信」を書いて先生に渡す。

昨日先生はとっても忙しいらしく(そうだなあ、運動会前だもんなあ...) 玄関先で顔を見せただけで帰っていった。ただ、「明日は、クラス写真をとる最終日だから、先生はゆーた君に是非、来てもらって、全員で写真を撮りたいと思っている」

そう言った。

クラスのみんなからも

「ゆーた君と一緒に写真を撮りたい」という声が多く寄せられていた。

「う～ん、どうしよう.....」

「明日の朝、時間がわかったら電話するから」

先生は帰っていった。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

夜中、僕は最近ゆーたと一緒にやっている、「デジモンワールド」のラストボスの直前までゲームを進めておいた。ゆーたが朝起きたときに、必ずやるだろうと思って.....。

朝、夢見心地の僕の耳に、ゆーたの「あ、ムゲンドラモンだあ！」という声が聞こえてきた。

.....見事(笑) 敵をやっつけてゆーたはエンディングを迎えることができた。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

2,3日前から寝込んでいるおじいちゃんから、地域の4つのゴミ集積所からアルミ缶を集めてきてほしい、と頼まれていた。

「おい、ゆーた！一緒に手伝ってくれたらアルバイト料払うぞ！」

「そうだねえ、怒れちゃうねえ～」

まるで小さな子どもに言うような口調で女房が言った。
その言葉がとってもストレートに僕の心の中に入ってきた。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

昨日は小学校の運動会。

昨年まではなんだかんだと言いながらも、運動場にゆーたの姿があったのだが、今年はPTA会長として僕だけがグラウンドにいた。

一日中、子ども達の姿を目で追っていた。
一生懸命にがんばっている子ども達...
そんな子ども達を精一杯励ます先生達。そして親たち...

中でも、同じ6年生の子ども達を見て、「こんなにもしっかりしてきたのか」と何度も驚いた。

君、随分と背が伸びたなあ...。
××さん、随分と表情が大人びてきたなあ...。
しっかりしているなあ.....。

やはりゆーたの姿のない運動会は、なんとも寂しいものだった。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

最近、ゆーたは「疲れた」とか「どうせダメなんだ」とよく口にするようになった。おじいちゃんがちょっと寝込んだりしてることもあるのだろうが、「ゆーたは病気だから」と言った具合に.....。

今日も一日ゆーたと顔をつきあわせながら、いつもは受け流すゆーたのそうした言葉に、過剰なほど反応している自分がいた。

「ダメ、ダメ、ってそう言い続けることが一番ダメなんだ」

「最初っからあきらめてしまったら話にならんだろ！」

.....。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

忙しいのもあるんだろうなあ。

今日の夕方地域での体育振興会の会長さんの所に出かけるという約束をすっかり忘れてしまった。昨日、話をしたばかりなのに.....。

時間がホント細切れになってしまっている。

一つ一つのことに関連性がなく、次から次へと頭を切り換えていかなければならない。いつも時間を気にしている。

でも、やはり一番は、昨日の運動会なんだろうな。

ゆーたによって色々なことを教えてもらったという感謝の気持ちはありつつも、ゆーたと周りの子ども達

のギャップをまざまざと見せつけられたという気持ちの方が、今は僕の心の中では大きなものになっている。

思いっきりへこんでしまっている。

2000年8月

発熱 -2000/08/08(火) Vol.224-

昨日ゆーたが突然、39度の熱を出した。
こんな熱を出すのは、あまり記憶にない。

この二ヶ月というもの、毎日のようにゆーたの感情の起伏に振り回され続けてきた。
ちょっとしたことで怒り出す。

特におばあちゃんに当たることが多い。

ちょっとしたことでゆーたが怒ったりすると、それを真正面から説き伏せようとするのだ。ますますゆーたの気持ちは抑えられなくなる。

「もっとさあーっとかわしてあげればいいのになあ」

と思いながらも、ゆーたとおばあちゃん、おじいちゃんのやりとりを聞く。

そのうちどうにも手がつけられなくなって、

「パパあ、ちょっと来て！ ゆーたがしょうもないから！」と呼ばれる。

僕はますます気持ちが重くなっていく。

もちろん、ゆーたの怒りはますます激しくなる。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*..'° 。.:*...*:

ゆーたの感情がコロコロ変わるのにあわせて、僕の思考もコロコロと一日のうちに何度も変化を見せる。
朝のうちは、とっつても前向きに物事を考えていた僕が、ゆーたが、「どーせゆーたなんか！」と叫んだりしているのを聞くと、途端に気持ちが暗く沈んでいく。

そう、一日のうちに何度も何度も、そんな浮き沈みを繰り返す。

パソコンの前に向かう時間がないわけではない。

色々との揺れや、ゆーたのことを書き残そう、そんな思いでパソコンに向かっているけど、思考が中断させられたり、気持ちが萎えたり。そんな毎が続いた。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.'° .:*..'° 。.:*...*:

「自分の感情を思いっきり出せるようになったことは、良いことですよ。大事なことです」メンタルクリニックの先生はそう言うのだが、毎日、ゆーたの感情をぶつけられている僕たち大人にとっては、「本当にそうなの？」という気持ちが心の奥底にある。

そんな毎日の中でのゆーたの発熱。

痙攣止めを朝晩飲ませているおかげで、ゆーたは生まれてからこのかた、痙攣を起こしたことはない。ただ、医者には、高熱を出したときには気をつけるように、と言われてきた。いわゆる「熱性痙攣」というやつだ。

ゆーたが熱を出すたびに、この「熱性痙攣」を起こさないようにと、僕たちはオロオロする。こんなオロオロした気持ちも実に久しぶりだった。

一方、この二日間というもの、ゆーたはとっても穏やかだった。
そうだろう。家族みんながゆーたの病気を気にして、とにかく優しく接していたから。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

ふと思った。

ゆーたが熱を出してふーふー言っている時と同じように、普段もゆーたに接してあげなければいけないのではないかと。

身体の病気と同じように、普段もゆーたは心の中で、高熱と戦っているのだらうなあ、と。憎まれ口ばかり叩くゆーたを見ていると、ゆーたが抱える心の重さを、僕たちは忘れていたのではないだろうか？

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

この2ヶ月の間に、ゆーたは12歳になり、僕もまた一つ歳をとった。
そして、今日は女房の誕生日だった。
もっともっと、ゆーたを包んであげなければ、と思った。

実に久しぶりの「ぼちぼちいこっ！」です。
心の揺れが大きい分だけ、書きたいこともあったけれど、どうしようもありませんでした。

ドラクエ7 -2000/08/28(月) Vol.225-

先のファイナルファンタジーに続き、ドラゴンクエスト7が発売された。
テレビでは発売当日の様子が放映され、その買ったばかりのゲームを奪い取る事件も……。200万本が販売されたドラクエ。そのうちの一本が我が家にある。

買ったのはゆーたではなく、僕。(^^ゞ

インターネットで発売がアナウンスされた直後に注文した。
発売日当日は、前日からPTAの全国大会に参加しており、山梨に出かけていた。26日に自宅に届いているのだが、一刻も早く家に帰りたかった。夕方、自宅に戻った時には、ゆーたが既にパッケージを開けていた。

食後、早速、遊び始めた途端、
「ゆーたもやりたい！」
と、ゆーたにとられてしまった！

.....それは、パパのだぞ！（..）
そう思いつつも、ゆーたが寝た後の9時過ぎまでの我慢だ！

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..：*：*！° 。：*：*...*：

攻略本もないために、どうしても詰まってしまうと、インターネットにアクセスして情報を仕入れる。う～ん、面白い！ ついつい、夢中になってしまう。

昨日の日曜日、午前中は子ども会の資源回収。昼前まで、段ボール箱の整理に追われていた。夜は夜で、P T Aの三役会議。

自宅に戻ったのは、9時半過ぎ。疲れはたまり眠かったのだが、僕の手はコントローラーを握りしめていた。

時計はいつしか12時を回っていた。

こりゃいかん、と一度ゲームを終えた。

「うん、もう少しだけ！」

朦朧とした頭で初期画面で、ゲームスタート...、したつもりだった。

「ぼうけんの書を消去しました！」

このメッセージに、一度に目が覚めた！

やめればよかったのだ！ おとなしく寝ていれば.....。

主人公のレベルは9まであがっていた。

プレイ時間、約10時間。

.....二日間、ゆーたの合間をぬって進めてきた僕のドラクエ7は、跡形もなく消えていた。

誰が悪いわけでもない。

自分が悪いのだから、仕方がない。

仕方がないと思いつつも、力がドドドッと抜けてしまった。

ただ、ただ、涙.....。

ホント、アホだわ.....。

夏休みのキャンプ、磯遊び、色々楽しいこともありました。それらはまた、どっかで.....。

2000年10月

修学旅行 -2000/10/05(木) Vol.226-

に、行く予定だった。

しかし、昨晚、寝る前に荷物を整理し始めた頃から、「腰が痛くなってきた」だの、「朝のズームインが見られない」などと言い出した。結局、無理していくことないよ、ということになった。

僕は先ほど、修学旅行に行かれなくなったことを伝えるために、見送りがてら浜松駅まで行って来た。

:*:.'° 。.:*:.'° ° .'*:.. .*:.'° 。.:*...*:

毎週水曜日にかかさずやってきてくれる担任の先生。

2学期に入り、修学旅行の話を持ち出した。

「NHKのスタジオパークの見学」「ディズニーランド」「お小遣いは1万円以内」.....。そうした魅力に惹かれて、「行きたい」とゆーたは言い出した。

しかし、不安は大きく、僕も一緒に。しかもホテルの部屋は、一部屋用意してもらうことに。さらに、母親と離れて眠ることに異常なくらい恐怖感(?)を抱いているために、可能ならば、夜には合流する、ということにした。

しかし、女房が、雨で体育大会が延期になったため、宿泊はできないということになった。それも影響したのだろう、結局、不参加となり、僕は久々のメールマガジンを書いている。

∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴∴∴

浜松駅のホームで新幹線を待っているとき、クラスの子も達の何人かが僕の所に来て、

「ゆーた君、やっぱり無理だったの？」

「一緒に行かれると思ってたんだけどねえ…」

等々と声をかけてきてくれた。

昨日の帰りの会で、担任の先生が「明日の修学旅行にはゆーた君も参加できそうだと伝えたとこ、拍手をしてくれた子ども達がいたと聞いた。動き出す新幹線の席から、いつまでも僕に向かって手を振り続けてくれた子ども達。

「今晚からでも、明日からでもいいですから、来られるようだったら連絡下さい。対応しますから」そう言ってくれた先生。

ゆーたの心に彫りつけられたものは、確かに大きいかもしれないけれど、本当におまえの事を気にしてくれている友達や先生がいるんだぞ！

駅の喧噪の中、ホームを歩きながら、こうした人たちの優しい心に接することができないものだろうか、そう思うと涙が出そうになってしまった……。

久しぶりです。「明日、日帰りで一緒にディズニーランドで合流しようか？」

ドラクエと一緒にやりながら、そんな風に、声をかけました。

「うん、それは良いねえ」とゆーたは言ってましたが……。（^^ゞ

不安 -2000/10/06(金) Vol.227-

「ねえ、ママあ！ パパったらね、明日ディズニーランドに行こうって言うんだよあ～」帰ってきた女房に向かって、開口一番ゆーたはそう言った。

やはり気にしているんだなあ、と。

昼間、ゆーたに「もし、行く気があるなら日帰りで行こうか？」と僕が聞いたときには「う～ん、それもいいねえ！」などと言ってはいたのだが……。

クラスの友達や先生達のやさしさに触れて欲しい、その思いからだったが、やはりゆーたにはプレッシャーだったようだ。

∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴∴∴∴

ゆーたは「不安なんだなあ」と口にする。

「疲れちゃうんじゃないかと思う」「おなかが痛くなるかもしれない」等と言うのだが、結局の所、大きな集団が不安なんだろなあと思う。また、みんなは自分の所に手紙を書いてきてくれたりもするが、本当に、自分を受け入れてもらえるのだろうか、というところなんだろう。

確かにそうだろうと思う。

今まで学校の中で、さんざん「足手まとい」的な存在として、みんなにからかわれてきたりしたのだから……。

昨日も「5年生の時、トイレに入っていると友達がのぞいたりした」と、僕と二人でトイレの話をしていたときに、突然ゆーたは言った。勿論、笑いながら話はしていたが、その時の様子は何となく目に浮かぶ。周りの子ども達にとっては、自分たちの日常レベルのからかいかもしれないが、何かにつけて色々と言われていたゆーたにとっては、決して「許容範囲」ではなかったのだろう。

学校生活のアチコチにゆーたの心を切り刻むことがあったのだろう。だから、6年生になってみんなが成長したとはいえ、ゆーたには「学校においでよ」「待ってるよ」という言葉を受け入れられないのだと思う。

ゆーたの学校生活は、去年の10月で止まってしまっているのだ。

:.:.・'° 。 .:.:・'° ° ' .:.:.. .:.:・'° 。 .:.:....*:

「こっちにおいで」ではなく、ゆーたの側にきてあげてくれたなら、そう思った。

久々のメールマガジンでした。
「心配してました」「気にしてました」「お久しぶりです」「発行されてないから削除されたかと思ってました」等々.....
ありがとうございます。

行きたかった -2000/10/07(土) Vol.228-

そうなんだと思う。
でも、「行けなかった自分」がいる。
やっぱり自分はダメな人間なんだ.....。そうゆーたは考える。

:.:.・'° 。 .:.:・'° ° ' .:.:.. .:.:・'° 。 .:.:....*:

一昨日、修学旅行に行かないことにした時、おじいちゃんとおばあちゃんに「修学旅行の事は、とても気にしているから、絶対話題にしないでよ」「行けばよかったのに、なんて言わないでやってよ」そう念押しした。昨日ゆーたはとてもイライラしていた。ゲームをやっている、いつも「パパあ、やるよお！」なんてことも言わずに、ブツブツ言いながら一人でやっていた。そして、やりながら、おばあちゃんはどうした、おじいちゃんはどうしたと、思い出したかのように文句を言い始めた。

毎度のことながら、適当にあしらってはみてもそのうち、こっちもたまらなくなる。ゆーたのイライラはわからないではないが、だからといって、人に当たり散らして良い、ってわけでもない。こっちにも忍耐の限度がある。最後には、「そんなに人に当たるな！」と僕も怒った。ゆーたは下に行って、今度はおばあちゃん達にイライラをぶつけ始めた。

:.:.・'° 。 .:.:・'° ° ' .:.:.. .:.:・'° 。 .:.:....*:

担任の先生や、クラスの子どもの気持ちも少しはゆーたの心に届いているのだなあ、と思った。一方、行きたくても行けない自分がある。そんな自分を、「ダメな人間」と思いこむことによって気持ちの整理をつけようとしている。

「自分を責めちゃダメだよ。行こうかな、って考えたりしたことだけで、十分なんだよ」

そう言ってあげようかとも思ったが、なかなかその機会が見つからないまま一日が終わっていった。

冬から春にかけて走っていた、佐鳴湖を久しぶりに走りました。

でも、一週6.5kmがまともに走れなくなっていました。

走っていても、全然楽しくありませんでした……。

フレッツ I S D N -2000/10/11(水) Vol.229-

おじいちゃん、おばあちゃんとゆーたがギャンギャンやるようになってからというもの、昼間外に出ることが少なくなった。今までだったら、時間を見つけては、スポーツジムに出かけたり、パソコンショップに行ったり、僕が関わっているパソコンのメンテナンスをやったり、と。

出かけようかな、と思っていると下からゆーたの怒った声が聞こえてくる。

そうすると、途端に何かしようという気持ちが萎えてしまい、「仕方なく」パソコンに向かってみたりする。

かといって、HPを更新したり、メールマガジンをじっくり書こう、というアクティブな気持ちではないから、インターネットであちこちのHPを見るとはなく見ている、そんな状態。

自ずと電話代もかさんでくる。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

そんなわけで、この間、インターネットの新しい接続サービスも色々調べてみた。フレッツ I S D N、A D S L、CATV、無線……。で結局、フレッツ I S D Nに申し込むことにした。

費用は、月4500円がNTT。

で、プロバイダだが、今入っているD T Iは、まだこの地域にはサービスが開始されていない。じゃ、プロバイダを乗り換えるか？ でも、D T Iは気に入っている。

ってなことで、450円/月のASAHIネットに入ることにした。

勿論、安かろう、悪かろう、ということで、ま、速度の低下はやむを得ないかな、と覚悟はしているが、とりあえずD T Iがサービスを開始するまでのつなぎとして。

:*:~'° 。.:*:~'° ° '°*:~.。.:*:~'° 。.:*:~:~*:

女房やゆーたは自分が気が向いた時にインターネットに繋いでいる。

彼らには、電話代がいくらかかっているか等というのは念頭にない。

勿論、テレホーダイの時間は、ぐっすり眠っている。

今週の土曜日から、あこがれの「常時接続」になる。

先ほどNTTから電話があって、新しい電話番号を教えてくれた。

なんとなく、ウキウキしてしまう。(笑)

INSの通信料は、毎月5000円以上。
だったら、電話代を気にせずに繋がれるほうが良いじゃん！という所。
それと、新しいものに首を突っ込んでみたい、という気持ちも...(^^ゞ
今週の日曜日は、ランニングサークルのチームで、駅伝に出ます。
42.195を最高11人で走ろう！ というヤツ。
僕は5kmを走るようになった。いやぁ、どーしょー！！！！(冷汗)

立ち話 -2000/10/12(木) Vol.230-

今週の土日には町内の秋祭りが行われる。
今日は、子ども達の太鼓・笛の練習に子ども会の役員としてつきあった。
勿論、ゆーたは参加しない。

僕たちの町内では、6年生の全家庭が子ども会の「役員」となる。
その中から、公平にくじ引きで、三役4名を選出する。
同じ6年生の家庭だから、ゆーたのこともよく知っている。
そんなわけで、今年一月の役員のくじびきを僕は免除してもらった。
(その後、PTAの会長を引き受けてしまったのだが.....)

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

子ども達の指導をしてくれる地域のおじさん達や子ども達にお茶を出したり、休憩中や最初と最後、子ども達が道路に飛び出したりしないかを見守るのが当番の仕事。

当然、練習中は暇になる。

外でタバコを吸いながら、ぼんやりしていたら、一緒に当番にあっていたA君のお母さんが話しかけてきた。

「ゆーた君、どう？ 元気？ 修学旅行は、行けなかったの？」

:.:.:'° 。 .:.:.:'° ° ' .:.:'. .:.:.:'° 。 .:.:'.:.:':

A君のお母さんは、自分の子どもの事を話し始めた。

4年生の後半から、食べる事ができなくなったこと。

食べられるようになって、直ぐにもどしてしまうこと。

2年以上にわたって、そんな毎が続いているということ。

最近になって、ようやく少しずつではあるが、食べられるようになってきたということ。

その後、担任の先生の話、去年の学級崩壊の話、立ち話は練習の終わり頃まで続いた。

「でも、ホント子育てって、子どもよりも私たち親が、教えられるのよね。ゆーた君も、大丈夫よ！ だって、お父さんがこんなにゆったりと構えてくれているんだもん、ね。」

そう言ってくれた。

僕自身の外面と内面の違いは別にしても、ゆーたのことを気遣ってくれる気持ちが、とっても嬉しかった.....

学校、地域のつきあいは、僕の担当。

たまに女房に子ども会の会合や、地域の活動などに出てくれよ、と言っても答えはいつも「ヤダ！」

来週の木曜日、女房が試験前の「指定休」というヤツでお休み。三人でどこかに遊びに行こう、ということになりました。

親父の入院 -2000/10/28(土) Vol.231-

親父、大正15年生まれ。73歳。

本当に器用な人だと思う。

<http://osamu.net/family/garakuta.htm>

に「じいちゃんのおもちゃ箱」というページをつくってあるが、今は、リサイクルに凝って(?)いる。アルミ缶を回収して、地域の老人ホームに車椅子を送ったり、ペットボトルやトレイやトイレトーパーの芯を使って、色々を作ったり.....。

最近では、市内の公民館や小学校から、「講師」として呼ばれたり。

忙しい人だ。

元国鉄の職員で、電気関係の設計をやっていた(ようだ)。

S Lの写真から、短歌、鉄道模型.....。手先の器用な人で、何をやらせてもそのできればえには驚くものばかりだ。鉄道模型などは、鉄道模型ファン(?)とか言う雑誌に、写真が掲載されたり、JR浜松駅の構内に飾らせて欲しいと言われたり。短歌では、「国鉄歌人会」だから、第一回の大賞をとったりと。

机に向かっていたり、何かを作っている姿が、僕にとっての親父の姿だ。それは今、一緒に暮らしながら、対象となるものは変わっていても、本質的には、何も変わっていない。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!.~*:.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

一昨日の木曜日、親父が入院した。

持病のメニエール氏病が再発したのだった。

こうなると1週間ほど、寝込んでしまう。とにかく横になって、じっとしているしかないという。しかし、今回、往診に来てくれた近所の先生が、「血圧が高い」ということで、非常に心配した。病院に行っても、血圧は高くなるばかりで、親父は何度ももどしたりした。

結局、救急車で大きな病院に入院することになった。

:*:~!° 。.:*:~!° ° '!.~*:.。.:*:~!° 。.:*:~!~*:

最近、手足がブルブルと震えるようになった、とはお袋の話。

確かに、ベッドに横たわりながら、親父の両足、左手はひっきりなしに、震えている。

「この際だから、頭の方などもきちんと調べてください」

そうお願いした。

CT、MRIの結果、別にどこも異常は見られず、「脳梗塞などの心配はありません」と。

ホッと一安心。

でも、親父やお袋の歳を、改めて直視してしまい、とても戸惑っている自分がそこにいた。

毎日が過ぎるのが早いです。もう、10月も終わろうとしています。

今年も.....なんていう季節が近づいてきたんですね。今年一年の僕は.....?

親父の病名がわかった。
今日、病院で主治医から、僕と親父の二人で話を聞いた。

詳しくは書かないが、難病指定されている病気。
お袋には、「検査結果は明日出るみたいだから」とお茶を濁しておいた。
もう少し、きちんとした知識を得てから話をしたかったからだ。

自宅に戻った後、インターネットでアチコチのHPを見て回った。
医学部が出しているHP。
介護体験者のHP。

一番わかったことは、これからずっと、親父や僕たち家族は、その病気と仲良くつきあっていかなければ
ならないということ。
親父が死ぬまで、ずっと.....

.....

ゆーたもこれから先、色々な事が待ち受けているだろう。
そして、今回のことで明快になった「介護」「老い」という問題。
いずれにせよ、一人の力では太刀打ちできるものではなく、家族が支え合っていかなければ、ならないだ
ろうなあ、と。

.....

介護の問題については、「いずれは」とは思っていた。
いや、正直言えば、親父やお袋を直視しようとせず、できるだけ目を向けないでいたような気がする。
しかし、もうまっすぐ見ないといけないんだらうな。そういう時が来たんだらうな.....。そう思う。

お袋にどうやって説明したら良いのか、ちょっと頭を悩ませています。
ま、明日にはきちんと話をしないとイケないなあ、と。そして姉貴にも。

2000年11月

後、12時間後にはハーフマラソンがスタートしている。
エントリーはしたものの、親父の入院・退院、小学校の音楽会と立て続けに色々あってまともに走って
いない。制限時間は2時間半。
今までのレースとは違って、どこかが痛み出してリタイアってことも十分あるなあ、って。
やめようかな、とも思った。未だにやめたい気持ちも半分。

距離に対する不安もさることながら、未体験なものに対する不安が大きいのかなあ..... ??? ?
よくわからないや！
まあ、途中でしんどくなったらやめればいいや。

でも、ちょっと恥ずかしいぞ！ (*^_^*)
そんな思いが錯綜している。

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

できるところまででいいんだよ。
がんばれるところまででいいんだよ。
無理をしたってダメだよ。

なんかゆーたに向かって話しているような気分で、自分の心に話しかけている.....。

音楽会が終わりました。
本番よりもリハーサルの方が面白いですね。先生達の素顔が見られて...

2時間02分 -2000/11/20(月) Vol.234-

記録証を持って帰ったとき、女房は家でビデオを見ていた。
「ホラ、これ、これ！」
女房はチラッと横目で見、直ぐにテレビに視線を移した。
ま、予想したとおりの反応とは言え、走り終えてホッとした僕の充実感とのギャップは何とも言えないものだった (..)

僕たち夫婦はこんなものだ。
お互いがやることには、それぞれ干渉しない。どうぞ、ご自由に、といった具合で。
女房は女房でせっせと薫製づくりやケーキ作りに励んでいるし.....。
もっとも、ゆーたのことや家族三人で出かけたり、何かすることは大切にしているが。
一緒にやれることは一緒にやる。
興味のないことに無理矢理つきあわせることはしない。
それでもやっぱり「頑張ったね」くらいは欲しいと思うのは欲張りなのだろうか？ (爆)
僕だって、女房がつくった薫製は、おいしいって言って食べるぞ！

そんなこと言うと、
「私の薫製は、みんなの役に立ってるでしょ？ アンタが走ったって、別になんの足しにもならないでしょ？」って答えが返ってきそうだ。(笑)

:*:・'° 。.:*:・'° ° '・*:..。.:*:・'° 。.:*:...*::

21 kmという距離は、とにかく長かった。でも、楽しかった。
初めてのハーフマラソンということで、ゆっくりとしたペースで走っていたから、足がつるとか、苦しくて苦しくて...という状況ではなかった。それでも、足にはしっかりと大きなまめができて、その痛みだけがつらかった。

給水所が見えてくると、あそこまでと思った。
ボランティアの中学生達の「頑張ってください~」という声が嬉しかった。
沿道のおじいちゃん、おばあちゃんたちが手を振ってくれる。
にっこり笑って応える。

一人で家の周りを黙々と走っているのとはわけが違う。

最初はあれほど遠いと思っていた21km先のゴールが、次第に、そして確実に近づいてきた。この感覚を味わいたくて、多くのランナー達がこうしたレースを楽しむのだろう。

たとえゆっくりでもいい。

歩き続ければ、ゴールは必ず見えてくる。

久しぶりに、実感した。

新たにできた両足の裏の大きなまめ。痛いなの！ 歩くのもしんどい～！

昨日は、我が家でゆーたがまた、おばあちゃんと一緒に悶着あったと。

ハーフの余韻に浸ることも許されず、一気に現実に引き戻されたのであった。(..)

成長速度 -2000/11/21(火) Vol.235-

「ゆーたは、他の子どもよりも、成長するのに2倍の時間がかかるのよ。う～ん、今は6歳くらいかな？だから、ゆーたには子ども時代が人の2倍あって、私たちもたくさん楽しめるのよ」女房がそう言った。

「でも、思春期の反抗期が2倍あったらいやだなあ」

女房は笑いながら、そう付け加えた。

なるほどなあ。

言い得て妙、ってヤツかな？

おいおい、待てよ。そんなこと言ったら、ゆーたが成人するのは、40歳かあ？

後、28年もあるのかあ…… (..)

僕は70越えてるぞ！（爆）

:*:.'° 。.:*:.'° ° '.:*:.. .:*.:'° 。.:*:...*:

確かにゆーたは成長していると思う。

他の子ども達、12歳の年齢という一般的なくくりから言ったら、他人との関わり、社会的能力はかなり劣るものがあるのは事実だ。それでも、ゆーたの成長をそこここで実感する。

僕は二つの目を持ち、その間で揺れ続ける。

ゆーた自身をまっすぐ見つめる目と、一般的な目と。

いつでもまっすぐ見つめてやりたいとは思いますが、そのためには、僕自身が精神的にもっともっと成長しなければ、と思う……。

昨日は遅くまでテレビを見てました。「失望感」かな、やっぱり。

「所詮こんなモンだよ」と言ってしまうばそれまでだけれど……。

2000年12月

親ばか -2000/12/2(土) Vol.236-

「ねえ、パパとママってホント、親ばかだと思うでしょ？」

洗濯物を干しながら、何かの拍子に、女房はゆーたに向かって聞いた。

その時、僕はパソコンに向かっていた。

「うん、そう思うよ」

「ところで、ゆーた、親ばかってどんな意味だか知ってる？」

「うん、馬鹿な親ってことでしょ」

僕も女房は、大笑い。

「そっかぁ、馬鹿な親、ってことだと思ってたんだ！ で、ママやパパの馬鹿な所って、どこ、どこ？」

僕は思わず聞いてしまった。

「だって、ママはよく自分で『バカだなあ』って言うじゃん」

「じゃ、パパは？」

「う～ん、えっとねえ……。ないかなあ？」

僕には気兼ねしたのだろうか、それとも咄嗟に思いつかなかったのだろうか、ともかくゆーたの「馬鹿な親」二人は、顔を見合わせて笑っていた。

∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴ ∴∴∴∴∴

なんだかんだといいながらも、我が家には笑い声は絶えることはない。

一番は、女房のあっけらかんとした性格によるものだろう。

この笑い声が無くなったら、ホント、大変なことだと思う。

「ウチの子が一番、可愛いのよ！」って言い張る親のことを「親ばか」って言うのよ

女房の説明にゆーたは納得したのかしないのか、それは定かではなかったが、そんなひとときに、胸がキュッとなる。

12月になりました。今年も後少しで終わりです。

12月31日、何を思っているでしょうか？

空振り -2000/12/4(月) Vol.237-

疲れた。

知人のパソコン購入の相談を受け、行きつけのショップに朝電話を入れた。

懇意にしている店員さんは12時からの出社とのこと。時間が空いたので、3月に行われるロードレースの申込書を取りに、市の教育委員会出かけた。

主催者に問い合わせたときに、「市の教育委員会にある」と言われ、先だって市役所に行ったら、「教育委員会は移転しました」とあった。

新しい教育委員会に興味もあったので、行ってみた。そしたら「すみません、こちらではなく、市役所の6階のフニャカ課においてあります」だそう。パーキングチケット代金、300円が無駄になった。

市役所の6階に再び出向いた。パンフレットが置いてある。さばくってみたが、見あたらない。「あのお、すみません」と。

「あ、それ、切らしてしまってます。こちらが住所ですので、直接申し込んだ方が早いと思いますが……」

「後、アリーナ（体育館）にも置いてありますが」

丁度、パソコンショップの側だったので、アリーナに寄ってみた。

何となく静かだ。イヤな予感がした。

「今日は、休館日です」

駐車料金200円はしっかりとられた。

まったく、と思いながらショップに着いた。

「は、本日休みになっております」

「えっ？ 朝問い合わせたら、12時について言われたんですが？」

「それが急に……」

「はい、もう、結構です！」

:.:.'° 。.::'° ° '.:'. .:.'° 。.:':.:

ここまでハズレが続くのも珍しいかもしれないが、500円と無駄にした数時間のことを考えたら、無性に腹が立ってきた。

家に帰ると、ゆーたがドラクエの最後のバトルをしていた。

自分でやつつけられたことが嬉しくて、うるさいったらありゃしない！

「ダメ！ 今日、パパは滅茶苦茶機嫌が悪い！ 空振りばかりでいやんなっちゃた！ だから、寝る！」と昼寝をしてしまった。

なんて無意味な一日だったろう！

こんなことなら、ゆーたと一緒にプラモデルを作ったり、遊んでいてあげたら良かったのに……。 (;_;

午前中、学校へ行って校長さんと少し話してきました。

相談を受けている女の子の事が話題でした。難しいですね。学校と家庭が信頼関係を築いていくのは……。

コピー用紙 -2000/12/5(火) Vol.238-

朝食が終わった後、台所で片づけをやっていて、ゆーたがプリンタの所にそぉ〜っと近寄っていった。紙が欲しいのだ。ゆーたはよくコチョコチョコと「書き物」をしている。

作り話や、自分で想像したキャラクターのヒットポイントがどうのと、さもないことを書いている。しかも、ちょこっと書いて後は、そこらにポイ。広告の裏でも良いのに、と思うのだが、ゆーたは真っ白な紙が欲しいらしい。

だからいつも、裏が使える印刷ミスをした用紙を置いておく。

「ホラ、その裏が使えるヤツがあるだろう」と。

以前も、いざ印刷しようとしたら、用紙がなくなっていた、なんてこともあったりした。そんな時は、全く頭に来る。

:.:.'° 。.::'° ° '.:'. .:.'° 。.:':.:

「ゆーた、今日はダメ！ 紙が残り少ないんだから！ パパが仕事で使うんだから！」と今朝はきつい口調で言った。

ゆーたは口をとがらせ、下に降りていった。

大体こういうときは、下に行って、おばあちゃんに当たり散らすのが常だった。

「ああ、また、大きな声を出すのかなあ」と、心中穏やかでなかった。

しばらくすると、ゆーたが戻ってきた。

ん？ 手になにやらたくさん紙を持っているではないか！

「おい、どうしたんだ、それ？」

「おじいちゃんに言って、一緒に紙がないか探してもらったんだ。そしたらこんなたくさんあったんだ」と嬉しそうな顔をしてゆーたは言った。

嬉しかったのはこちらの方だ。

「へえ～、そりゃ良かったなあ！ でも、それ以上に、パパはゆーたがそうやって我慢したり、他の方法を考えたことが、めちゃくちゃ嬉しいぞ！ う～ん、お前もせーちょーしたなあ！ もう、誉めちゃう！」

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

最近、ゆーたが少し変わってきたと思う。

随分と感情を爆発させることが少なくなってきた。

ちょっと注意するだけで、わめいたりしたものだが、とんと少なくなった。

いや、時には、僕が間違えて怒ったりしても、サラッと「違うよ、こうしてたんだよ」と、受け流したりもする。

へえ～、と思うことがしばしばある。

小さいけれど、確かな変化だ。

パソコンショップに行って用紙を買ってきました。その時、ゆーた用にA4の用紙を一つ買ってきてあげました。

昨日、スポーツショップに寄ろうかと思っていきましたが、空振り続きでイヤになって止めました。今日、気持ちを取り直して出かけました。なんと、定休日でした。（；；）

20世紀 -2000/12/31(日) Vol.239-

12月25日のクリスマスの日、「ロバート・キャパ賞展」を親子三人で静岡まで出かけた。「20世紀と人間」と題して、ロバート・キャパ賞を受賞した人たちの写真展だった。

ゆーたは怖かったみたいで、空母の写真を二つほど見ただけで、後は目を伏せてさっさと出て行ってしまった。女房もゆーたと一緒に足早に人混みの中に消えていった。

おかげで僕は一人、ゆっくりゆっくりと見ることができた。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

所狭しと戦争、動乱、テロ、飢えなどがこちらを見つめる展示場は、得も言えぬ雰囲気をかもしだしていた。

インドシナ、ハンガリー、ベトナム、チリ、ニカラグア、イラン、イラク、南アフリカ、サラエボ.....。テレビや新聞報道で驚きもしたが、すぐに日常の中に忘れ去られた様々な出来事を改めて見つめ直すことになった。

そして、それらの切り取られた出来事は、今もまだ、世界の各地で消えることなく爪痕を残し続けているものたちばかりだった。

：*：*！° 。：*：*！° ° '！*：*..。：*：*！° 。：*：*...*：

早々に会場を後にした僕たちは、焼津のさかなセンターに寄っていった。

三人でアチコチ試食しながら、「これが良い、あれ買おう！」などと言いながら。

改めて「平和」を思った。

平々凡々たる日常。

他愛のない会話。

こうした日々が、たまらなく愛おしく思う。

この一年、とっても大きな変化があったわけではないけれど、昨日と何も変わることなく「ああ、一年が終わるね」と言い合える僕は、本当に幸せなんだと思う。

:*:.'° 。.:*:. '° ° ' .*:.. .*:.'° 。.:*:.:.*:

21世紀になろうとしている。

次の世紀、人類はどんな歴史を刻んでいくのだろうか？

ゆーたは何を見つめていくんだろう……？

やっぱり、これからさきも「ぼちぼちいこっ！」です。

皆さんからいただいたたくさんのメール、とても嬉しかったです。

心からお礼を申し上げます。

紅白歌合戦が始まりました。月並みですが「よいお年を！」

